

雲 仙 市
市民満足度調査

《報告書》

平成26年9月

雲 仙 市

《目次》

第1章 調査概要

1. 調査目的	2
2. 実施時期	2
3. 調査対象	2
4. 抽出方法	2
5. 調査方法	2
6. 有効回答数及び回収率	2
7. 設問項目	3
8. 報告書の見方	11

第2章 調査結果からみた今後の課題

1. 『雲仙市で暮らすこと』について	14
2. 『雲仙市での仕事』について	15
3. 『雲仙市の交通』について	16
4. 『雲仙市の市政への関心』について	17
5. 雲仙市の総合的な政策について(重要度・満足度)	17

第3章 調査結果

1. 回答者の属性	20
2. 『雲仙市で暮らすこと』について	22
3. 『雲仙市での仕事』について	50
4. 『雲仙市の交通』について	72
5. 『雲仙市の市政への関心』について	89
6. 雲仙市の総合的な政策について(重要度・満足度)	112

第1章 調査概要

第 1 章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、雲仙市が総合計画等に基づき展開している各種施策及び事業について、市民のニーズや課題を把握し、今後の効果的・効率的な展開のための基礎資料とすることを目的とする。

2. 実施時期

平成 26 年 7 月 14 日（月）～ 8 月 18 日（月）

3. 調査対象

雲仙市内在住の 20 歳以上の男女 3,000 人

4. 抽出方法

無作為抽出法

5. 調査方法

郵送による配布・回収

6. 有効回答数及び回収率

有効回答数：924 件 回収率：30.8%

〔参考〕アンケートの回収票の信頼性について

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が高いと誤差は少なくなります。しかし、統計学的にその関係は一定ではなく、一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなる。

統計学的には、この「一定の数」は、目標誤差：3～5%以内であれば良いとされており、それを下記の計算式で逆算すると概ね 400～1,100 票程度と算出される。つまり、有効回答票の回収数がこの程度あれば住民意向の把握として十分納得できる数字であるといえる。

参考》サンプル数（アンケートの有効回答票数）と誤差との関係式

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団

n：有効回答数

p：結果の比率

k：信頼率による定数

σ：標本誤差

※kは信頼率を決めると自動的に決まる定数で、信頼率に対応する標準正規分布の％点である。信頼率は、統計的な慣習として95%とすることが多く、信頼率95%ならばkは1.96となる。

7. 設問項目

（回答区分の標記）SA：単一回答、MA：複数回答、FA：記述回答

設 問		選択肢	回答区分
問1	あなたの性別をお答えください。	①男 ②女	SA
問2	あなたの年齢をお答えください。	①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥70歳以上	SA
問3	あなたの“主な職業”をお答えください。	①農林業（経営者及び従事者等） ②水産業（経営者及び従事者等） ③商工業（経営者及び従事者等） ④建設業（経営者及び従事者等） ⑤自由業（開業医等） ⑥観光業、サービス業 ⑦会社員・団体職員 ⑧公務員 ⑨パートタイマー ⑩学生 ⑪家事専業 ⑫無職 ⑬その他（具体的に ）	SA
問4	あなたの家族構成についてお答えください。	①ひとり暮らし ②夫婦だけ（一世代） ③親と子（二世代） ④親と子と孫（三世代） ⑤その他	SA
問5	あなたのお住まいの地域をお答えください。	①国見町 ②瑞穂町 ③吾妻町 ④愛野町 ⑤千々石町 ⑥小浜町 ⑦南串山町	SA

設 問		選択肢	回答 区分
問6	通算で何年雲仙市にお住まいかをお答えください。(合併前を含む)	①3年未満 ②3～10年 ③11～20年 ④21年以上	SA
問7	現在のあなたのお住まいの形態についてお答えください	①持家(一世帯) ②持家(二世帯、三世帯住宅) ③民間借家(アパート、マンション) ④公営借家(市営住宅、県営住宅など) ⑤その他 ()	SA
問8	あなたは、これからも現在の場所に住み続けたいと思いますか？	①今の場所に住み続けたい → 問11へ ②可能であれば、今すぐにも別の場所に移りたい → 問9へ ③将来的には、別の場所に移りたい(又は移るかもしれない) → 問9へ	SA
問9	問8で2、3に○をつけた方にお聞きします。移り住みたい場所はどこですか？(1つ選んで○印をつけてください。また、2、3を選んだ人は移りたい地域名にも○をつけてください。)	①雲仙市内の同じ町内 → 問11へ ②雲仙市内の別の町 → 問10へ (国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町・千々石町・小浜町・南串山町) ③雲仙市以外の市や町に移りたい → 問10へ (諫早市・大村市・長崎市・佐世保市・島原市・南島原市・その他) ④県外に移りたい()県 → 問10へ	SA
問10	問9で2、3、4に○をつけた方にお聞きします。移りたい理由は何ですか？ (主なものに5つまで○印をつけてください。)	①通勤が不便だから ②希望する仕事が無いから、少ないから ③幼稚園や保育所、各種支援など子育ての環境が十分ではないから ④教育施設(図書館、公民館などを含む)が十分ではないから ⑤子どもの学校(小・中・高)までの通学が不便だから。子どもの行きたい学校(小・中・高)が無いから ⑥大学、専門学校が無いから ⑦現在の住宅が手狭で広いところに住み替えたいから ⑧家賃が高く安いところに引っ越したいから ⑨駐車場などが確保しにくいから、駐車場が高いから ⑩買い物が不便だから ⑪通院が不便だから ⑫ご自身や親の介護などの面で不安だから	MA

設 問		選択肢	回答 区分
		⑬銀行や郵便局など生活利便施設の利用が不便だから ⑭バスや鉄道などの公共交通が不便だから ⑮娯楽施設や趣味を楽しむ場所が少ない、十分ではないから ⑯自然環境が悪いから	
問11	問11. これからの住 まいの場所を決定す るのに重視することは 何ですか？ それぞれの項目に1 つ○印をつけて、雲 仙市に求める対策な どをお書きください。	〔評価〕 ①重視する ②やや重視する ③さほど重視しない ④重視しない 〔項目〕 ・仕事の多さ(求人などが高いところ) ・職場までの近さ・通勤のしやすさ ・子どもの教育環境(幼稚園・小学校・中学校・高校・大学など) ・子育て支援の環境(保育所・各種助成など) ・介護や福祉の環境 ・住まい(住宅)の環境(広さ、質、自然環境) ・住まいに要する費用(家賃、固定資産税など) ・自然環境や景観など生活環境のよさ ・買い物のしやすさ ・通院のしやすさ ・銀行や郵便局など生活のしやすさ ・公共交通の利用のしやすさ ・趣味や娯楽の楽しみやすさ 〔自由記載〕 各項目の市に求める施策などについて	SA
問12	仮に前問で、重視す るとした項目が、雲仙 市の政策により改善 した場合、将来的にも 住み続けると思いま すか。	①雲仙市に住み続けると思う ②改善されても、市外に移る(または移りたい)と思う。 ③その他()	SA
「雲仙市 定 住 促 進 奨 励 補 助 金」 について	この制度を知ってい ましたか？	①知っている ②知らない	SA
	この制度は定住化に 効果的だと思います か。	①効果的だと思う ②どちらかという効果的だと思う ③どちらかという効果的ではないと思う ④効果的ではないと思う	SA

設 問		選択肢	回答 区分
「雲仙市住宅等リフォーム助成商品券交付事業」について	この制度を知っていましたか？	①知っている ②知らない	SA
福祉医療費の支給対象者の拡大(中学生まで)	この制度は定住化に効果的だと思いますか。	①効果的だと思う ②どちらかという効果的だと思う ③どちらかという効果的ではないと思う ④効果的ではないと思う	SA
問13	上記以外で、雲仙市は今度どのような定住対策に力を入れていくべきだと思いますか。2つまで○印をつけてください。	①住宅取得など、住まいに関する支援 (新築やリフォームに対する助成、賃貸助成など) ②宅地分譲などの基盤整備 ③子育て世帯に対する支援(出産奨励金、保育所等の経済的支援など) ④幼稚園や保育園などの子育て環境の整備 ⑤企業誘致や地場産業支援などによる雇用の場の確保 ⑥医療救急体制の強化 ⑦学校給食支援 ⑧UIターン者への支援 ⑨その他()	MA
問14	現在働いている方(収入のある方)にお聞きします。現在のお仕事について	①今の仕事を続けたい ②待遇面や就業環境次第では、転職したい ③今の仕事を辞めたい	SA
問15	現在、働いていない方(収入のない方)にお聞きします(前問で2、3に○をつけた方も)今後のことについて	①できればフルタイムで働きたいと思う ②できればパート、アルバイトで働きたいと思う ③今後も働く予定はない ④わからない	SA
問16	今の職場や雲仙市の雇用の状況について	①働きたいが、仕事が見つからない ②勤めたい職種・職場がない	MA

設 問		選択肢	回答 区分
	て、どのような問題や不安があると思いますか。(該当するもの全てに○印をつけてください。)	③リストラの不安がある ④給料・売上げが少ない(農林水産品の売上げが少ないを含みます) ⑤事業の拡大ができない(農林水産品の加工品等を含みます) ⑥正社員になれない ⑦育児休暇・病気休暇などの休暇がとりにくい ⑧労働時間が長い ⑨寮や住居手当など福利厚生が整ってない ⑩特に不安、不満なことはない ⑪その他()	
問17	雲仙市では様々な雇用対策に取り組んでいます。今度、特に強化するべきと思われる対象は誰ですか。2つまで○印をつけてください。	①高校や大学、専門学校を卒業する新卒者 ②倒産や解雇などで離職した人 ③子育てを終えて就職を希望する人 ④高齢者や障害者、母子家庭の母などの就職困難者 ⑤UIターン、移住者 ⑥フリーターやニート(若年無業者) ⑦その他()	MA
問18	雲仙市内での雇用対策として、今後、どのような取り組みが必要だと思いますか。2つまで○印をつけてください。	①求職相談体制の強化 ②求人情報の提供 ③職業訓練や能力・技術向上の場の提供 ④職場体験などの実施 ⑤魅力ある企業の誘致 ⑥市内企業・事業所の雇用の維持(拡大)や、事業拡大のための企業・事業所への助成 ⑦農林水産業の活性化 ⑧その他()	MA
問19	今後雲仙市で技術や資格を身につける講習会を実施するとした場合どのような分野を希望しますか。3つまで○印をつけてください。	①ヘルパーなどの介護や医療、福祉に関する分野 ②環境計量士や樹木医などの環境に関する分野 ③栽培技術や漁法などの農林水産業に関する分野 ④土木、建築、溶接、電気、機械などのものづくりに関する分野 ⑤運転や操縦、自動車整備などの運輸に関する分野 ⑥システムエンジニアなどのIT、情報処理に関する分野 ⑦観光ガイドなどの観光、交流に関する分野 ⑧パソコンの操作方法や検定などの事務処理に関する分野 ⑨簿記検定などの会計、経理に関する分野 ⑩販売員などの接客やコミュニケーションに関する分野	MA

設 問		選択肢	回答 区分
		⑪その他()	
問20	現在、国では女性の就業環境の向上に向けた取り組みが進められています。雲仙市で今後力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。3つまで○印をつけてください。	①短時間勤務やフレックスタイム制度の導入 ②育児・介護休暇制度の導入 ③事業所内託児所等の設置 ④各種休暇制度の普及啓発 ⑤職場復帰しやすい研修制度 ⑥在宅勤務の導入 ⑦女性のための相談窓口や情報提供 ⑧資格や能力向上のための研修制度 ⑨その他()	MA
問21	雲仙市では企業誘致を進めていますが、どのような企業が誘致できれば、よいと思いますか。ご自身が働きたい分野も含め、3つまで○印をつけてください。	①介護や医療、福祉などの分野(高齢者、子育て) ②コールセンターなどの分野 ③ホテルや旅館などの宿泊分野 ④服飾関連の分野 ⑤環境、地球温暖化防止などの分野 ⑥太陽光発電などの新エネルギーの分野 ⑦農林水産業の分野 ⑧食品製造などの分野 ⑨土木、建築の分野 ⑩造船、自動車、電気製品などの製造業の分野 ⑪コンピューター関連などのIT、通信の分野 ⑫ブランド商品の開発などの商業、物産の分野 ⑬観光ガイドなどの観光、交流の分野 ⑭その他()	MA
問22	あなたの日常生活での移動手段について、最も高いものは何ですか？	①自らが運転する自家用車で移動する ②家族の送迎 ③路線バス ④鉄道 ⑤タクシー ⑥徒歩 ⑦自転車・バイク ⑧その他()	SA
問23	あなたはこの1年間に路線バスをどの程度利用しましたか？	①ほぼ毎日 ②週に2～3日程度 ③週に1日程度 ④月に数回程度 ⑤年に数回程度 ⑥この1年間使っていない	SA
問24	あなたの日常生活の移動について、どのあたりに不便を感じますか？	〔評価〕 ①困っていない②どちらかといえば困っていない ③やや不便 ④不便 〔項目(市内での移動・市外での移動別)〕 ・通院	SA

設 問		選択肢	回答 区分
		・食品や日用品の買物 ・洋服や電化製品など買いまわり品の買物 ・学校への通学 ・通勤	
問25	現在雲仙市が取り組んでいる公共交通や移動に関する各種支援策に下記のものがあります。「知っていた」、「知らなかった」に○印をつけてください。	〔評価〕 ①知っていた ②知らない 〔項目〕 ・路線バスの赤字路線の運行補助 ・乗り合いタクシー ・福祉タクシー券	SA
問26	今後、人口減少や少子高齢化により、路線バスの経営はさらに厳しさを増すものと予想されます。今後、雲仙市はどのような取り組みが必要だと思いますか。	①高齢者や子ども達の貴重な交通手段。赤字額が今より増えても市が現状の便数や路線を維持すべきである ②貴重な交通手段ではあるが、赤字がこれ以上増えないように、路線や便数の効率化を進めながら、維持が必要である ③費用対効果次第では、「乗り合いタクシー」などへの転換も検討すべきである ④費用対効果次第では、福祉タクシー券等の拡充を検討すべきである ⑤その他、新しい交通システムへ転換すべきである	SA
問27	愛野町の乗り継ぐバス停の位置は分散しています。そのことについてどう思いますか。	①不便だと感じる ②少し不便だと感じる ③あまり不便だと感じない ④どちらでもない	SA
問28	あなたは、市の行政にどの程度関心をお持ちですか。	①関心がある → 問29へ ②やや関心がある → 問29へ ③あまり関心がない → 問30へ ④関心がない → 問30へ ⑤わからない ⑥その他	SA
問29	市政のどのような分野に関心がありますか。最大3つまで選んで○をつけてください	①住宅・道路・公園などの生活基盤の整備 ②防災対策 ③保健・医療・福祉の充実 ④防犯対策 ⑤観光振興、内外の交流促進 ⑥環境保全対策 ⑦産業振興・雇用対策	MA

設 問		選択肢	回答 区分
	い。	⑧教育・歴史・文化・スポーツの振興 ⑨子育て支援 ⑩人権尊重・男女共同参画の推進 ⑪その他()	
問30	市政に関心がない主な理由は何ですか。	①情報発信が不十分だから ②内容が難しいから ③意見や要望を述べる場や機会が少ないから ④どうせ変わらないと思うから ⑤時間がないから ⑥その他()	SA
問31	あなたは、市からのお知らせなどの市政に関する情報を何によって知ることが高いですか？ 情報を得るものの全てに○印をつけてください。	①1. 雲仙市ホームページ ②広報「うんぜん」 ③. 議会だより ④新聞 ⑤音声広報(防災行政無線) ⑥市メールサービス(ほっとあつとうんぜん) ⑦テレビ・ケーブルテレビ ⑧ラジオ ⑨パンフレットやチラシ ⑩自治会回覧 ⑪電光掲示板 ⑫その他()	MA
問32	市役所からのお知らせとして「広報うんぜん」を毎月発行しています。あなたはこの広報紙をどのくらい読んでいますか？	①どの記事も読む ②必要・関心あるものだけを読む ③写真や見出しを見る程度 ④ほとんど読まない ⑤全く読まない	SA
問33	広報紙やお知らせはわかりやすいと思いますか	①とても思う → 問35へ ②ある程度は思う → 問35へ ③あまり思わない → 問34へ ④思わない → 問34へ	SA
問34	その理由は何ですか。該当するもの全てに○印をつけてください。	①見づらい ②情報量が多すぎる ③表現がむずかしい ④内容がむずかしい ⑤その他()	MA
問35	窓口や電話等での市職員の対応・接し方はいかがですか？	①とても満足している ②ある程度は満足している ③あまり満足していない ④満足していない	SA

設 問		選択肢	回答 区分
問36	問35で満足している または満足していない理由は何ですか 該当するもの全てに ○印をつけてください。	①電話での対応 ②窓口での対応 ③説明方法 ④言葉遣い ⑤身だしなみ ⑥あいさつ ⑦対応能力 ⑧対応する(した)時間 ⑨その他()	MA
問37	合併して来年で10年 を迎えます。合併前に 比べ業務が広域化 し、多様化しておりま すが、市役所職員に 対してどのような印象 をお持ちですか。	①1. よく努力している ②まあまあ努力している ③ふつう ④あまり努力していない ⑤全く努力していない	SA
問38	現在の市役所に対す る意見等		FA
総合的な政策の満足度・重要度		[満足度] ①満足 ②やや満足 ③分からない ④やや不満 ⑤不満 [重要度] ①重要 ②やや重要 ③分からない ④あまり重要ではない ⑤重要ではない	SA

8. 報告書の見方

回答は、原則として、各質問の調査数を基数（n）とした百分率で表し、小数第1位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

(余白ページ)

第2章 調査結果からみた今後の課題

第2章 調査結果からみた今後の課題

本アンケート調査では、「雲仙市で暮らすこと」、「雲仙市での仕事」、「雲仙市の交通」、「雲仙市の市政への関心」、「総合的な政策（満足度・重要度）」の5項目について調査を行った。ここでは、各項目の結果から見た今後の課題について取りまとめる。

1.『雲仙市で暮らすこと』について

**定住施策のメインターゲットは転居意向が強い20代～30代などの若い世代。
住み換えタイミング等にあわせた効果的な施策展開が効果的**

定住意向は高年代ほど高まる傾向にあるが、20代では63%、30代では40%が転居意向を持っており、その大半は諫早市などの“市外”への転居を希望している。こうした若い世代の転居意識が人口減少を引き起こす要因となっていると考えられる。

本市の定住対策を費用対効果の高いものとして実施していくためにはこの若い世代（ニューファミリー層）にターゲットを絞り込んだ展開が効果的である。特に居住年数10年未満の世代、賃貸に暮らす世代などに対する重点的な施策展開が必要といえる。

若い世代のニーズが高い雇用環境の充実をはじめとした総合的な施策展開が必要

社会問題となっている人口減少を抑制するためには、本市の最重要課題である雇用環境の充実に加え、買物や医療・福祉、公共交通などの生活環境の整備・充実などの総合的な取り組みが必要であるが、特に、人口減少の主因となっている20代、30代などの若い世代の流出抑制のためには企業誘致をはじめとした雇用環境の充実が急務といえる。具体的な展開に向けては、現行の企業立地優遇制度を活用しつつ、本市の地域資源を活用できる業種・業界や介護・医療・福祉など政策課題と関係が深い業種・業界に向けた重点営業、さらには本市出身者等の人脈を活かしたスポット営業など誘致活動を一層強化するなど、成果の見える事業展開を行うことが必要である。

諫早市など近隣都市在住者をターゲットとした移住対策の強化

愛野町など諫早市に近い地域は交通利便性も高く市外通勤者の居住も多くなっている。また、本市は諫早市等に比べ地価も安く宅地面積もゆとりがあるため、市外通勤者で持家取得希望者にとっては好条件が揃っているといえる。こうした環境を活かし、市内在住者だけではなく、諫早市など近隣に暮らすファミリー層等をメインターゲットとした

移住施策を実施することも効果的であると考えられる。具体的には市外居住者向けの住宅情報の発信のほか、現行施策である定住促進奨励制度への更なるインセンティブの付与などが考えられる

定住促進奨励制度などの現行事業の周知強化とニーズを踏まえた事業内容の精査

現行の定住施策である「定住促進奨励補助金」や「リフォーム助成商品券交付事業」、「福祉医療費の支給対象者の拡大」については、有効性は 70%前後と高いものの認知度がいずれも 50%未満（特に定住促進奨励補助金は認知度 17%）と低いのが課題といえる。

今後は、短期的には既存事業の周知に向けた市民や関係事業者への情報発信の強化が急務といえる。また、前述したとおり市外への発信も必要である。なお、中長期的には事業効果の一層の向上を目指し、事業利用者へのモニタリング調査などを実施し現行内容の課題を浮き彫りにしながら制度の改善を図るなど、事業内容の精査を行うことも必要と考えられる。

2.『雲仙市での仕事』について

経営基盤強化に向けた既存事業者向け対策と、 企業誘致やマッチング支援などの就業対策を両輪とした施策展開

本市の雇用環境の主な課題は、給与や売上げが少ないといった労働条件や業績に関する課題と、勤めたい職種や職場がない・仕事が見つからないなどの職業需給面に関する課題が存在しており、双方に対する取り組みが求められている。

このうち、労働条件や業績に関する課題に対しては、売上げ収益増に繋がる販路拡大支援や新商品開発支援に引き続き取り組む必要があるが、事業展開の方向性としては、融資制度の適正運用など業界全体の支援・底上げを目的とした施策とともに、改善意欲が高い事業者向けの個別経営コンサルティングなどによる“成功事例・オピニオンリーダーの育成”など、メリハリのある施策展開も効果的であると考えられる。

また、職業需給面に関する課題については、本市の社会環境にマッチした企業誘致などの供給サイドの増加に向けた取り組みを一層強化するとともに、就業に関する個別マッチング事業の実施など情報発信・マッチング面の対策を強化することが求められる。

新卒者をターゲットとした雇用対策の充実。生活支援との連動も検討

雇用対策は基本的に全ての年代を対象に実施することが求められるが、本市の財政状況や人口減などの社会情勢を考慮した場合、新卒者などの若い世代をターゲットとした施策展開が特に重要であるといえる。具体的な取り組みとしては、新卒者の受入基盤となる企業育成・誘致を基本に、関係機関と連携した新卒者向けの就職セミナーや企業情報の発信の充実などが必要である。また、雇用対策とあわせ、家賃補助など生活支援と一体となった取り組みも効果的であると考えられる。

医療・福祉、事務処理等を中心としたスキルアップニーズへの対応

就職や転職、雇用の継続に向けて仕事に関するスキルアップ（能力向上）に関するニーズは今後一層高まると予想され、こうしたニーズへの対応はひいては企業業績のアップなど全体的な経済活性化に繋がる重要な要素であるといえる。

アンケート調査では、特に今後需要拡大が予想される介護や医療・福祉分野や、パソコン方法等の事務処理に関する分野の講習会等のニーズが高く、こうした市民ニーズを十分に活かした各種講座開催や情報発信などの取り組みを強化していく必要がある。また、実施にあたっては、受入先となる事業者のニーズを把握することも重要であり、事業者と一体となった取り組みも重要である。

子育て中の女性などが働きやすい環境づくりに向けた事業者意識の高揚

子ども子育て新システムへの移行に伴い、女性が働きやすい環境づくりがこれまで以上に求められている。今後は市民ニーズが高い育児・介護休暇制度の導入や短期間勤務・フレックスタイム制度の導入など、多様な働き方を支援する制度の浸透に向けた事業者意識の高揚に向けた取り組みを強化していく必要がある。

3.『雲仙市の交通』について

**路線バスの経営状況・支援策に関する周知の徹底と経営効率化の推進。
新交通システムも含めた市全体としての効率的・効果的な交通体系の構築に向けた検討**

本市の基幹的な公共交通である路線バスの維持に向けた赤字補填の認知度は 36%に止まっており、路線バスの経営状況や維持に向けた行政施策が十分に周知されているとは言えない状況にある。今後、路線バスの維持・活性化に向けた取組の基本として市民が現状を知ることは不可欠であることから、まずは情報発信の強化を図り、同時に効率化と収益増加に向けた取り組みを強化する必要がある。

また、経営効率化については、低需要路線や時間帯における便数効率化やダイヤ調整などを検討するとともに、必要に応じ乗合タクシー等の新交通システム等への転換などもあわせて検討する必要があるといえる。利用拡大に向けては、既存利用者の利用頻度増加は現実的に難しいことから、現在送迎で通学や通院を行っている未利用者向けの新商品の導入検討や、観光客向けの商品など新規需要開拓を主眼においた対策が効果的といえる。また、愛野町における南串山方面への乗り継ぎ利便性の向上などきめ細かな対応も必要である。

本市においては短期的には上記のような対応が必要であるが、今年度施行される「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律」により、全国的に交通体系の再編・活性化が進むことが予想される。本市においても国や県等の関係機関の動向を踏まえつつ、市全体としての交通体系の課題を再整理し中長期的な視点で交通体系の再構築に向けた検討を行う必要があるといえる。

4.『雲仙市の市政への関心』について

「広報うんぜん」を中心としたきめ細かな情報発信と、より分かりやすく・見やすい情報媒体づくりの推進

市民の 8 割以上が市政情報の入手先としている「広報うんぜん」は市政情報媒体として最も重要な媒体のひとつといえる。内容について約 8 割が肯定的に評価しているが、情報量の多さや見やすさの改善など、一層の充実に向けた取り組みが必要である。

人事評価制度と連動した職員の能力向上と、丁寧できめ細かい市民への対応

アンケート調査では約 8 割の市民が職員の対応・接し方を一定評価している状況にあるが、今後、更なる高齢化や多様化する社会情勢を踏まえた場合、より一層、丁寧できめ細かい対応が求められる。今後は法改正により近年導入が予想される人事評価制度などと連動した職員研修などの計画的な開催により、継続的に職員の能力向上に努める必要がある。

5. 雲仙市の総合的な政策について(満足度・重要度)

雇用、交通、農林業振興、効率的な行財政運営等に対する重点的な取組みの推進

本市の多様な政策分野の中で相対的に見て満足度が低く重要度が高い“重点分野”には、雇用対策、交通対策、生活環境、農林業振興、効率的な行財政運営の 5 分野が挙げられる。

本市の行財政運営にあたっては、重点分野だけでなく全体のバランスを考慮した施策展開が必要であるが、特に重点分野に対しては計画的に財源や人材の投入し、費用対効果の高い事業を展開していくことが求められる。事業展開にあたっては、効率的・効果的な行政主体の取り組みにあわせ、優れたノウハウを有する民間活力の導入や市民参加などを取り込むことも重要である。

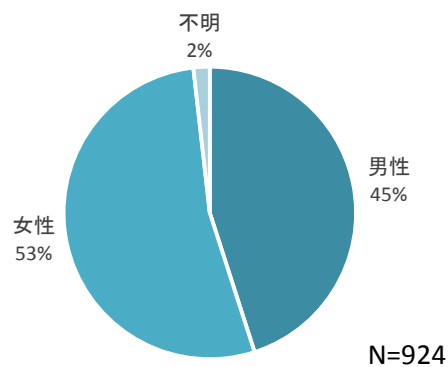
第3章 調査結果

第3章 調査結果

1. 対象者の基本属性

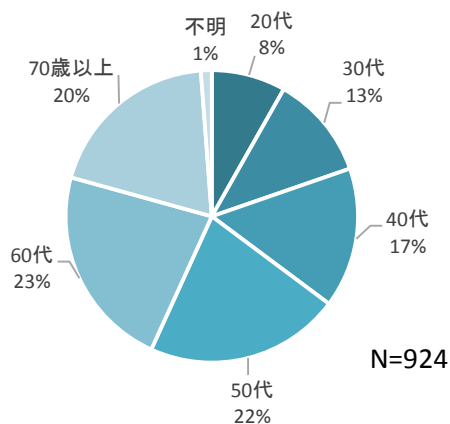
問1（性別）

性別は、男性 45%、女性 53%とやや女性の割合が高い。



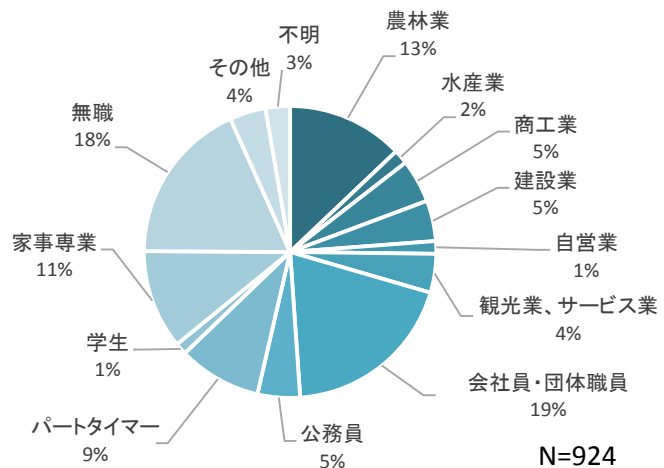
問2（年代）

年齢は、「60代」が 23%と最も高く、「50代」が 22%、「70歳以上」が 20%と続いている。50代以上で半数以上を占める結果となった。



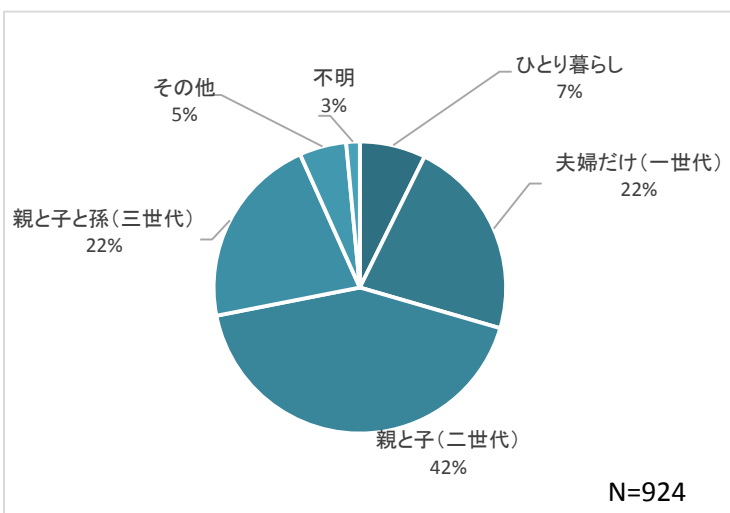
問3（職業）

職業は、「会社員・団体職員」が、19%と最も高く、「無職」が 18%、「農林業」で 13%、「家事専業」が 11%で続いている。



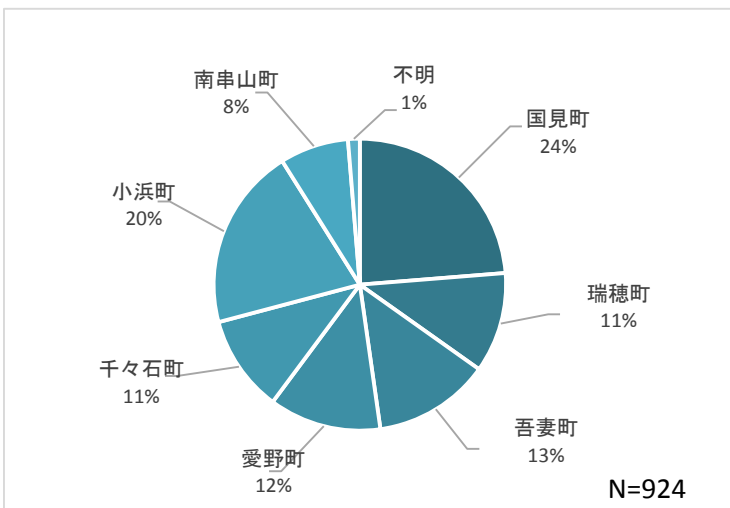
問4（家族構成）

家族構成は、「親と子（二世代）」が42%で最も高く、「夫婦だけ（一世代）」及び「親と子と孫（三世代）」が22%で続いている。



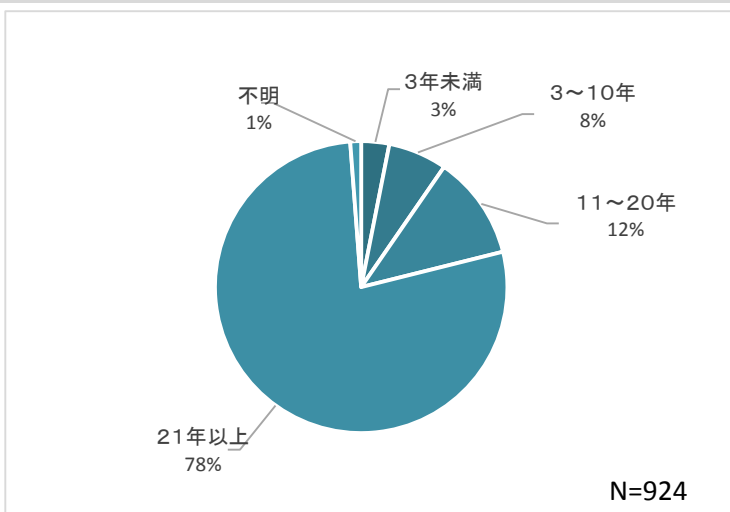
問5（居住地域）

居住地域は、「国見町」が24%で最も高く、「小浜町」が20%、吾妻町が13%で続いている。



問6（居住年数）

居住年数は、「21 年以上」が78%で最も高く、「11～20 年」が12%、「3～10 年」が8%と続いている。



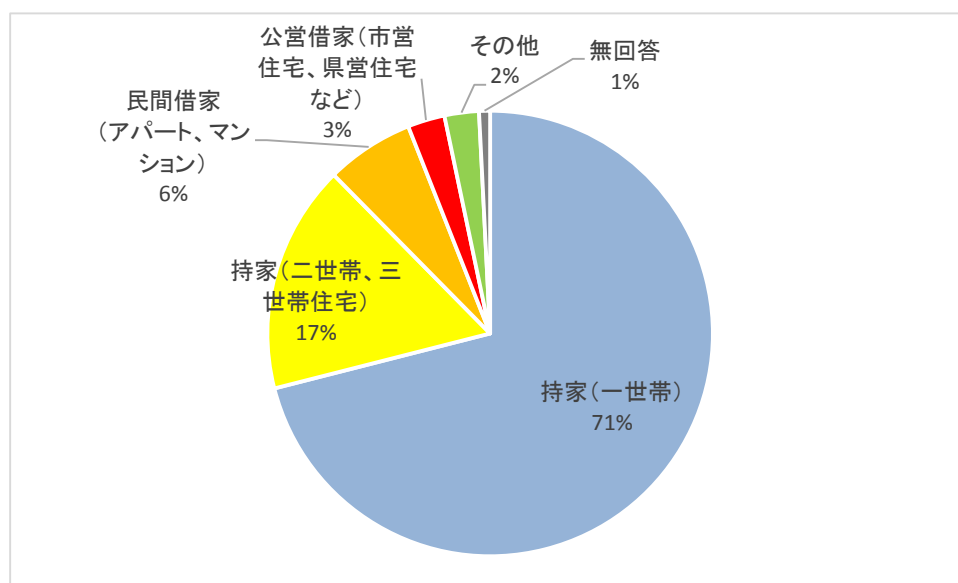
2.『雲仙市で暮らすこと』について

問7（居住形態）現在のあなたのお住まいの形態についてお答えください。

全体の約9割が持家暮らし。居住年数が長くなるにつれ持家率が高くなる傾向

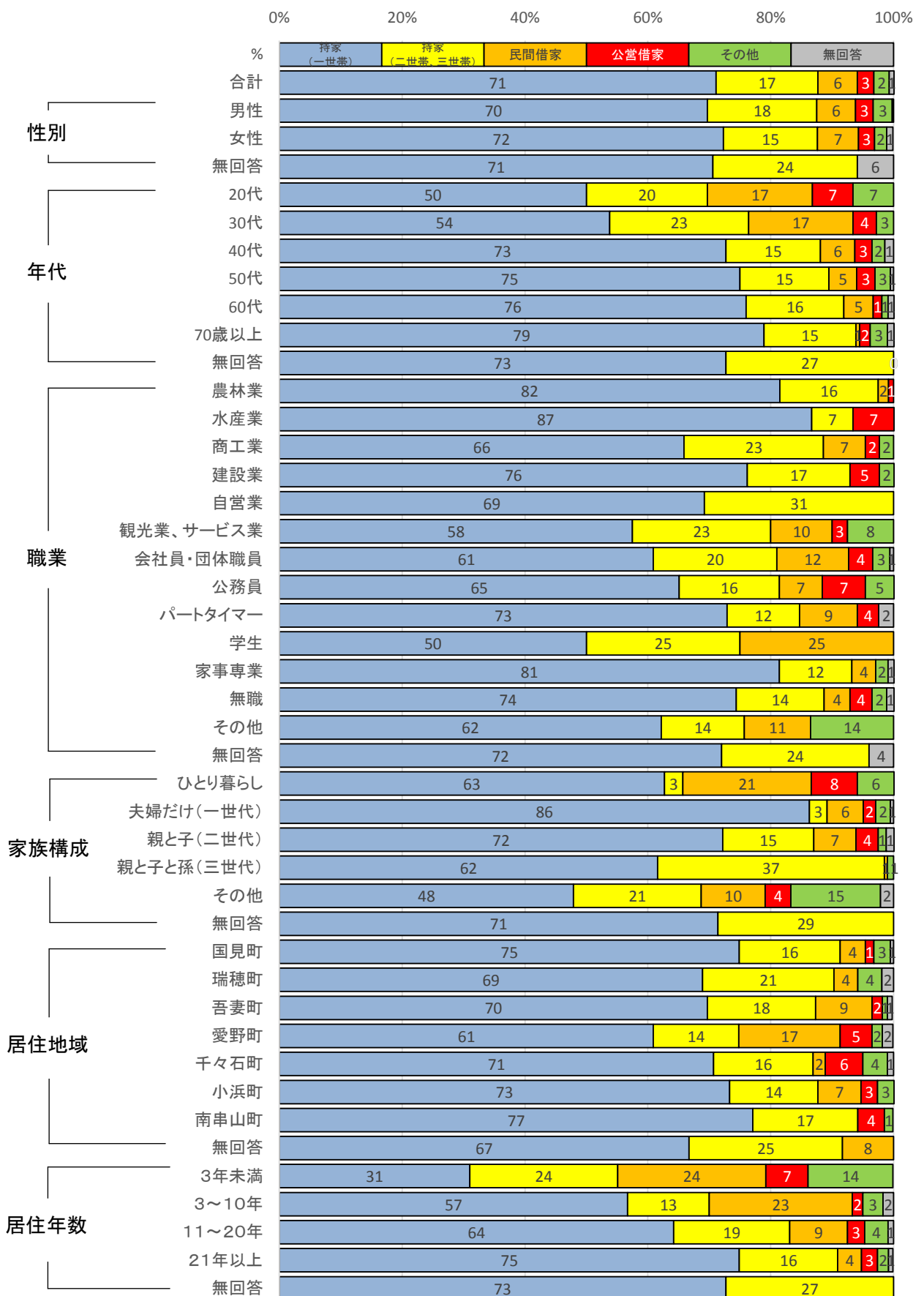
全体傾向		現在の居住形態を訪ねたところ、「持家（一世帯）」が71%で最も高く、次いで「持家（二世帯、三世帯住宅）」が17%となっており、全体の9割弱が持家に居住している。
クロス集計	男女別	男性、女性ともほぼ同率で、男女別での大きな傾向の違いは見られない。
	年代別	持家への居住について年代別に見ると、20代～30代で70%台であるのに対し、40代以上は80%～90%と年齢が高くなるにつれて持家率が高くなる傾向にある。
	職業別	持家（一世帯）の割合は水産業が87%と最も高く、農林業が82%で続いているなど、一次産業での割合が高い傾向にある。
	家族構成別	同居世代が高くなるにつれて、持家（二世帯・三世帯）の割合が高くなる傾向がある。なお、ひとり暮らしの約3割は借家住まいである。
	地域別	持家（一世帯）の割合は、瑞穂町・愛野町以外の町では70%以上となっている。愛野町は借家の割合が20%を超えるなど借家率が高い。
	居住年数別	居住年数が高くなるにつれて持家率が高くなる傾向にある。居住年数3年未満では約3割が借家住まいである。

（全体傾向）



N=924

(基本属性クロス)



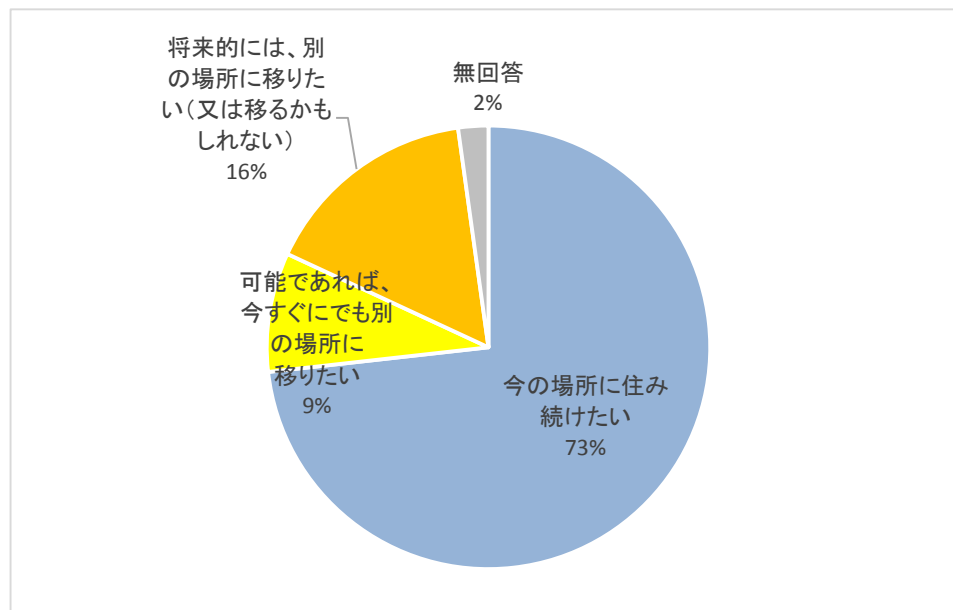
問8(今後の居住意向)

あなたは、これからも現在の場所に住み続けたいと思いますか？（1つに○）

「今の場所に住み続けたい」は 73%。居住年数 10 年未満では約 6 割が転居意向あり

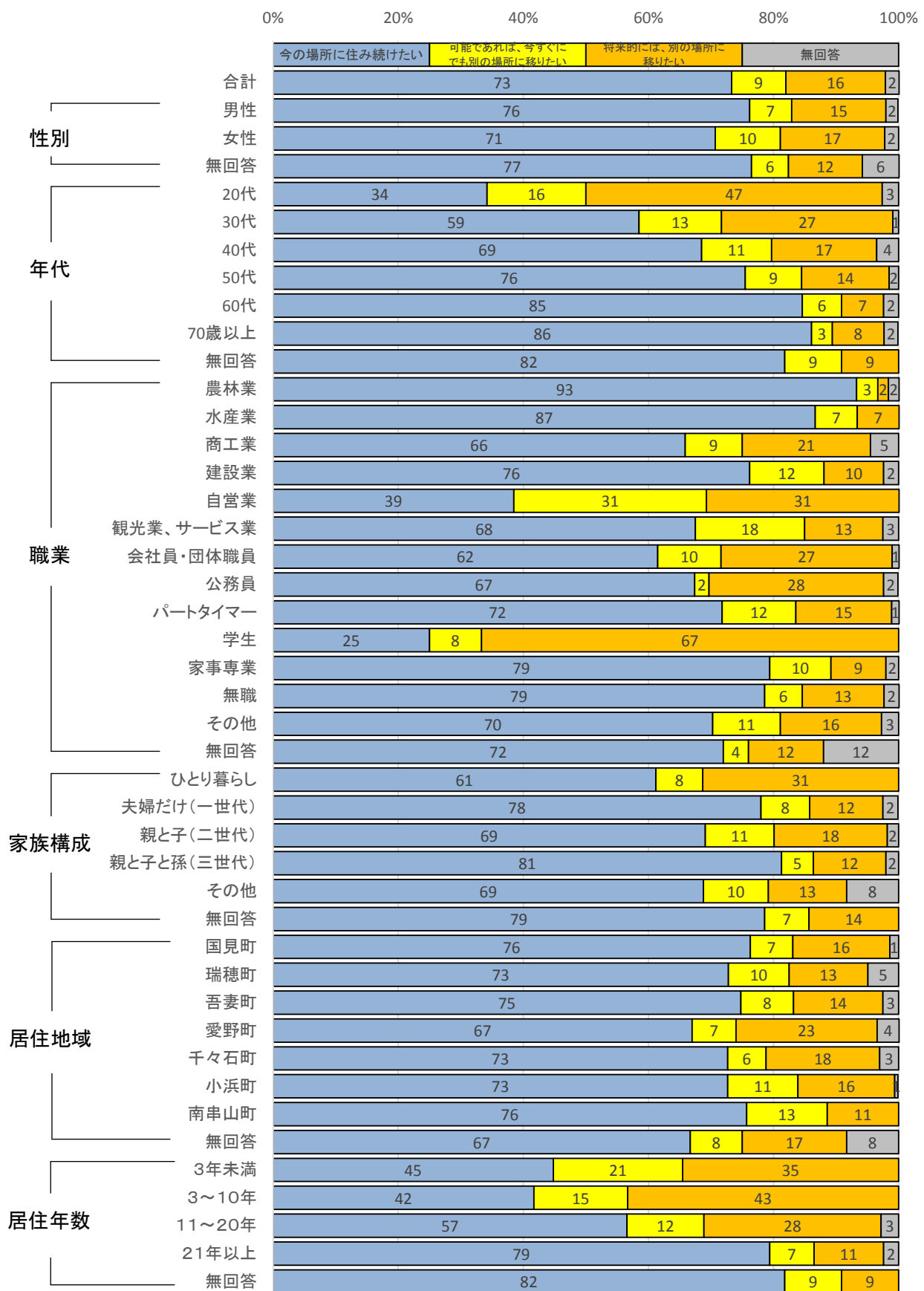
全体傾向		「今の場所に住み続けたい」が 73%で最も高く、移転希望者は 25%である。
クロス集計	男女別	「今の場所に住み続けたい」は男性が 76%、女性が 71%と男性が 5 ポイント高い。
	年代別	年代が高くなるにつれて「今の場所に住み続けたい」の割合が高くなる傾向にあり、60 代以上では 80%以上となる。
	職業別	一次産業従事者は「今の場所に住み続けたい」が 90%前後と高い。一方、自営業では 39%と他の職業に比べ低い特徴がある。
	家族構成別	「今の場所に住み続けたい」は親子と子と孫（三世代）が 81%で最も高く、一方で一人暮らしが 61%と最も低い。
	地域別	「今の場所に住み続けたい」は国見町と南串山町が 76%で最も高く、反対に借家率が高い愛野町では 67%に止まっている。
	居住年数別	居住年数が高くなるにつれて「今の場所に住み続けたい」の割合が高くなる傾向があり、居住年数 10 年未満では約 6 割が転居意向を持っている。

（全体傾向）



N=924

(基本属性クロス)



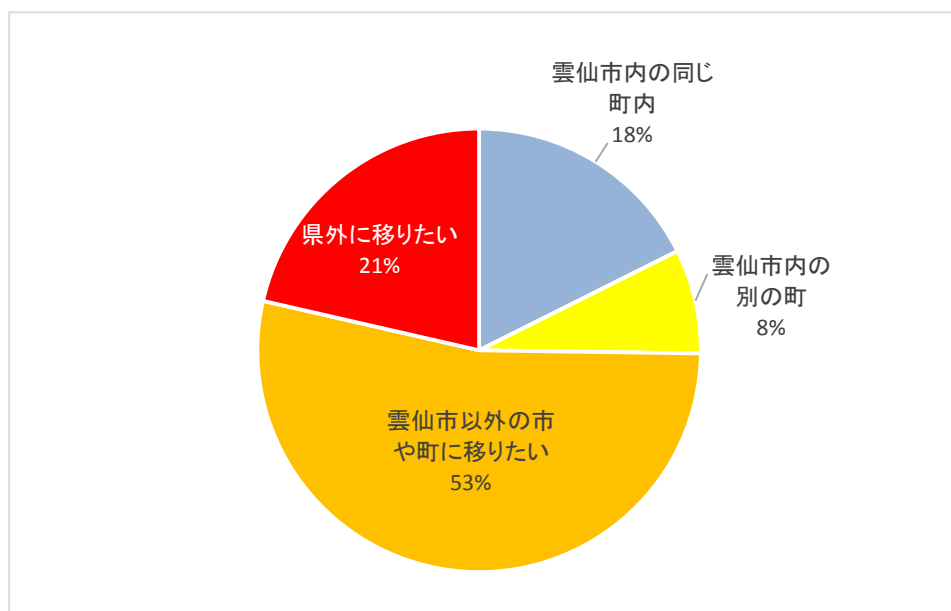
問9(今後の居住希望地域)

問8で2, 3に○をつけた方にお聞きします。移り住みたい場所はどこですか。(1つに○)

転居希望者の7割以上が“市外”への転居を希望

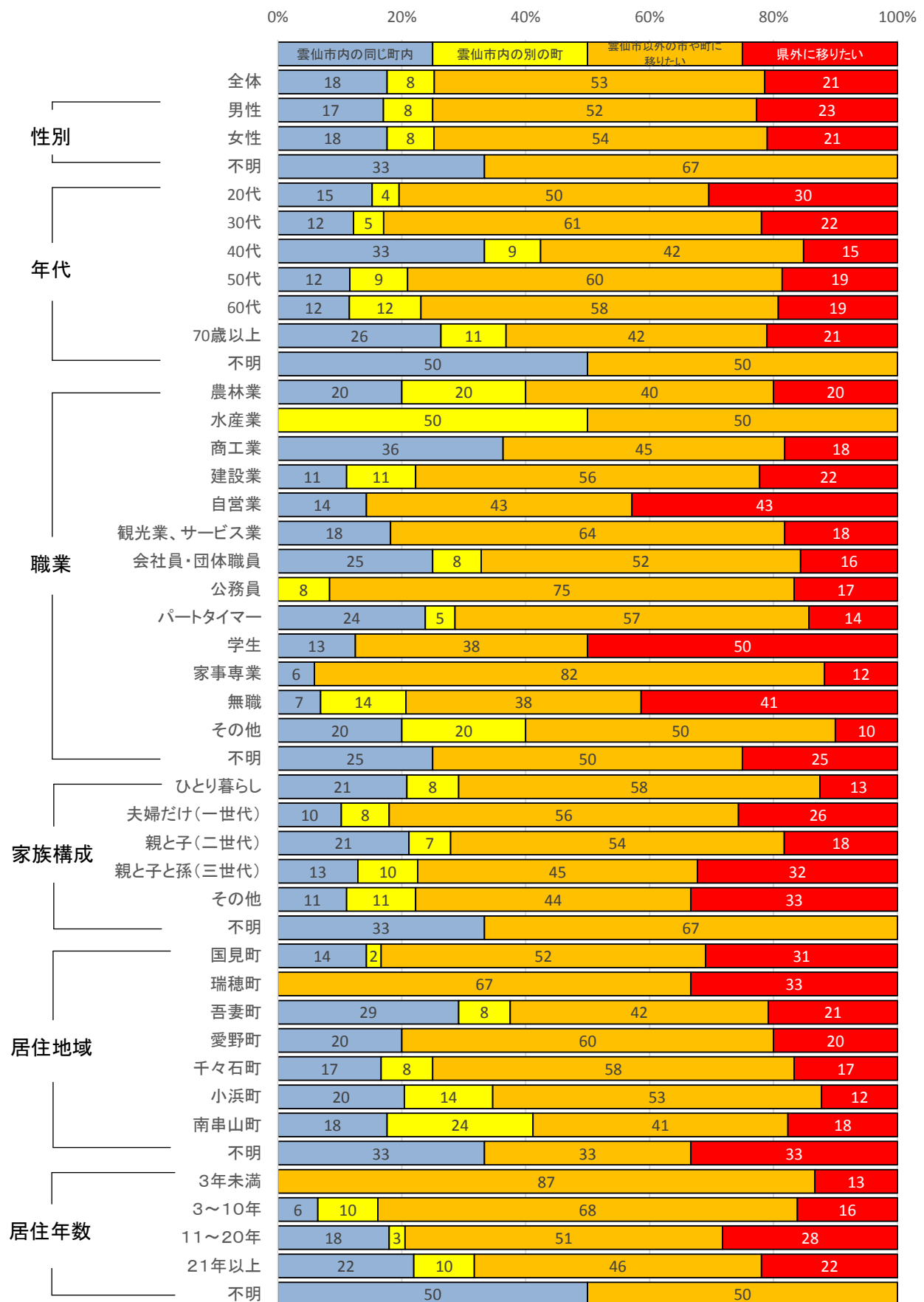
全体傾向		転居希望者のうち雲仙市内での転居希望者は26%。残り74%は市外への転居希望者である。
クロス集計	男女別	男女ともほぼ同率であり、男女別での大きな傾向の違いは見られない。
	年代別	40代と70代以上では市内での転居希望者が41%~50%と高いが、その他の年代では80%前後が市外への転居希望者である。
	職業別	一次産業は市内の転居希望が40%~50%と高い。
	家族構成別	夫婦だけ(一世帯)の8割が市外への転居希望者である。
	地域別	瑞穂町は10割、愛野町は8割が市外への転居希望者である。
	居住年数別	居住年数が高くなるにつれて市内での転居希望者が高い。3年未満の居住者の全員が市外への転居希望者である。

(全体傾向)

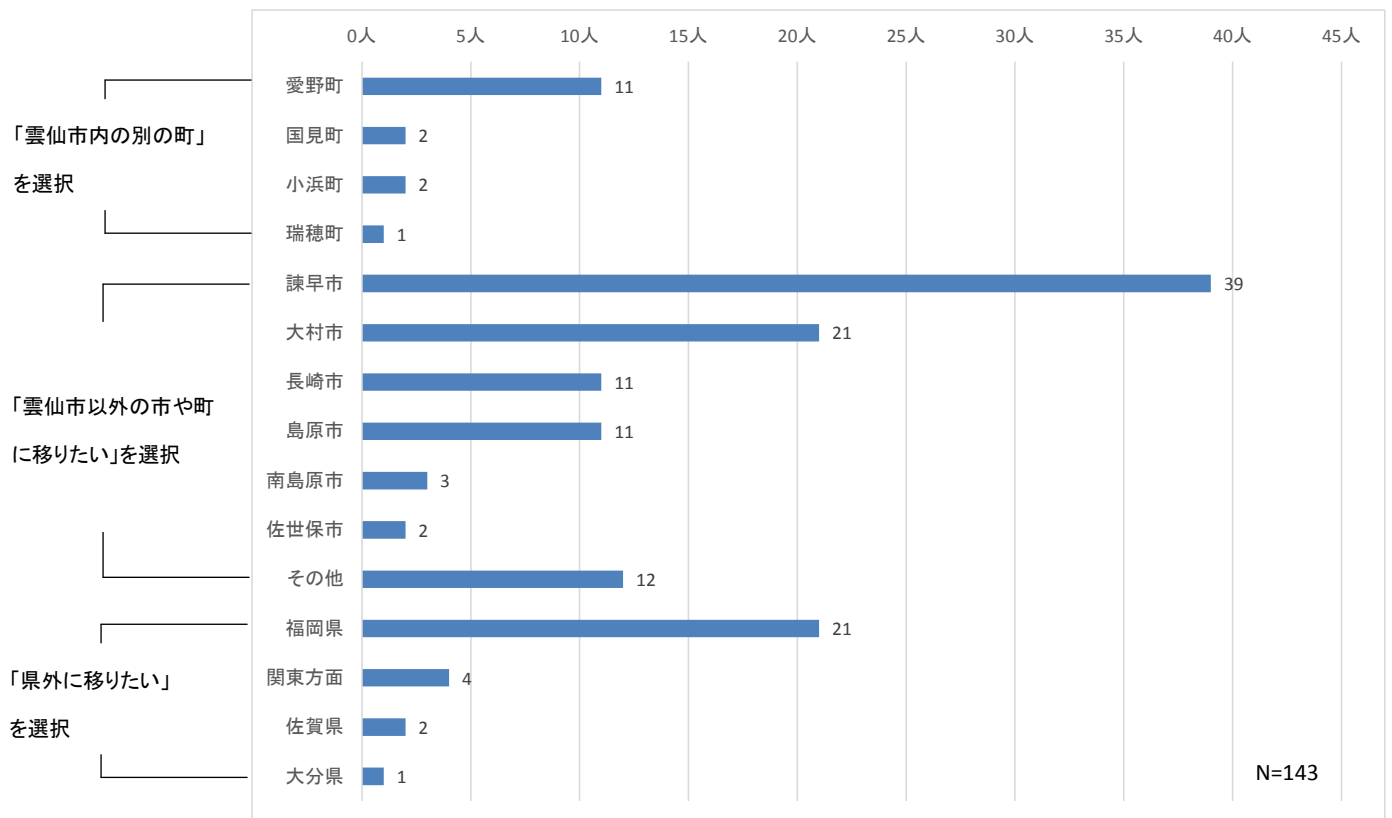


N=227

(基本属性クロス)



(移り住みたい場所) ※問9において、「2」、「3」、「4」を選択した143名の傾向



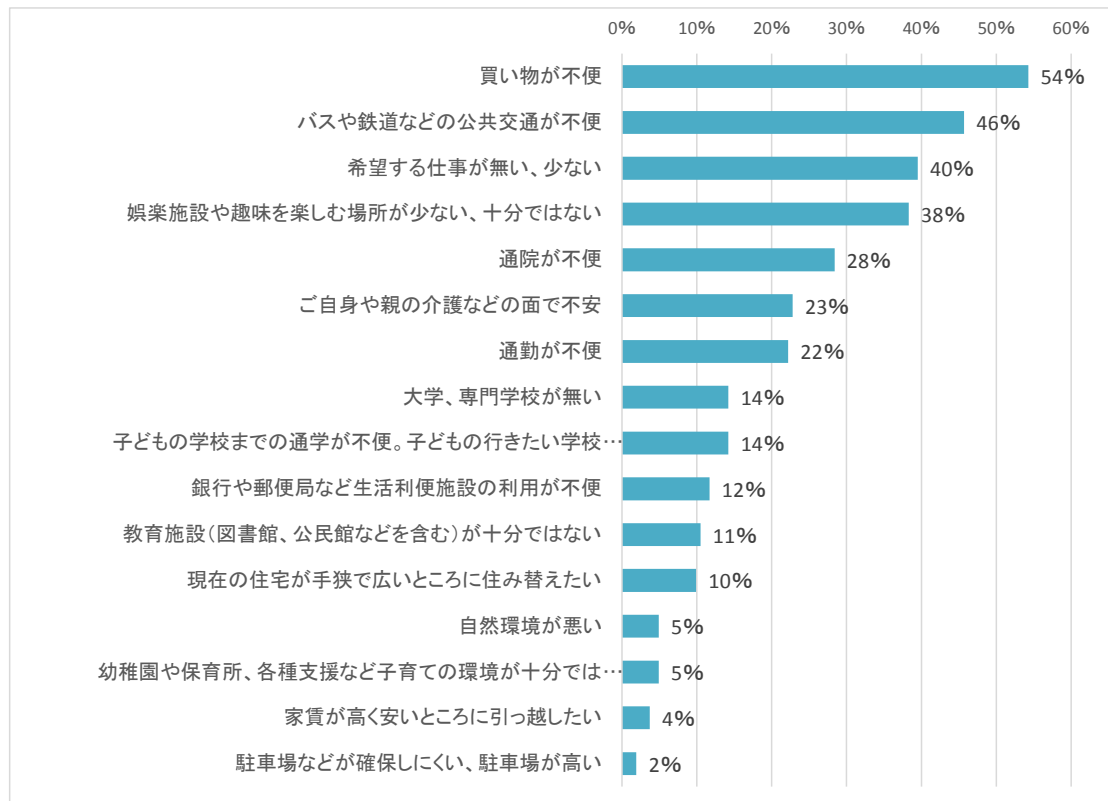
問10(転居したい理由)

問9で2, 3, 4に○をつけた方にお聞きます。移りたい理由は何ですか。(5つまで○)

「買物」と「公共交通」の不便さと「仕事の無さ、少なさ」が転居の大きな要因に

全体傾向		「買物が不便」が54%で最も高く、「公共交通が不便」、「希望する仕事が無い、少ない」、「娯楽施設や趣味を楽しむ場所が少ない、十分ではない」が40%前後で続いている。
クロス集計	年代別	「買物が不便」、「公共交通が不便」の割合は60代以上の高齢層で高い傾向にある。一方、「仕事が無い、少ない」は20代、30代で割合が高い。
	地域別	「買物が不便」は瑞穂町、南串山町、小浜町が平均を上回る一方、愛野町では平均を33ポイント下回るなど地域での傾向の違いが窺える。「公共交通が不便」は瑞穂町の割合が最も高い。「希望する仕事が無い、少ない」は国見町の割合が最も高く平均を19ポイント程度上回っている。

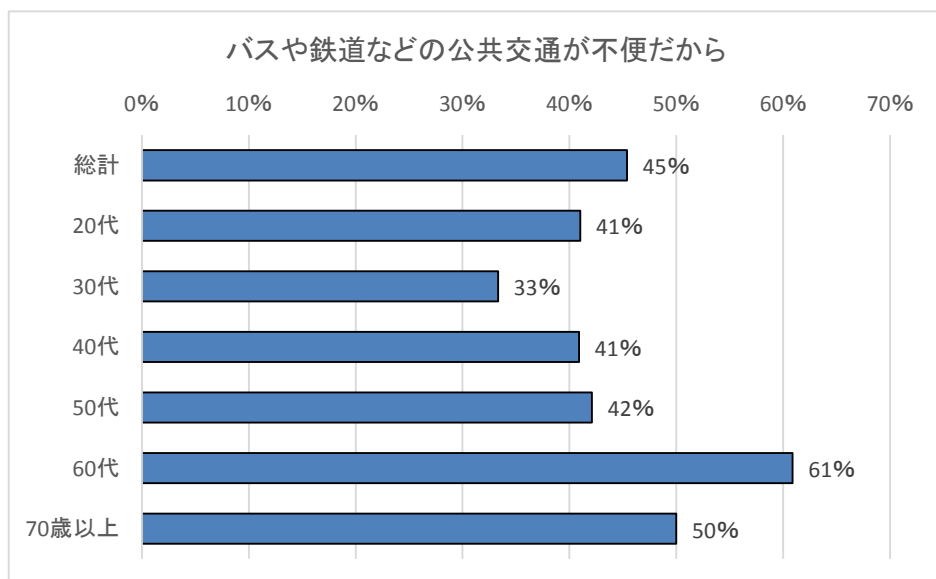
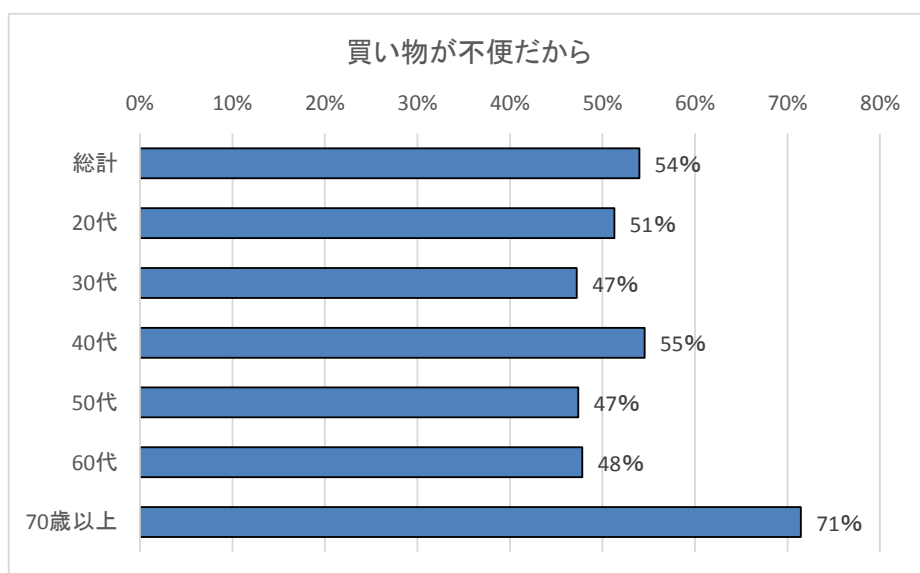
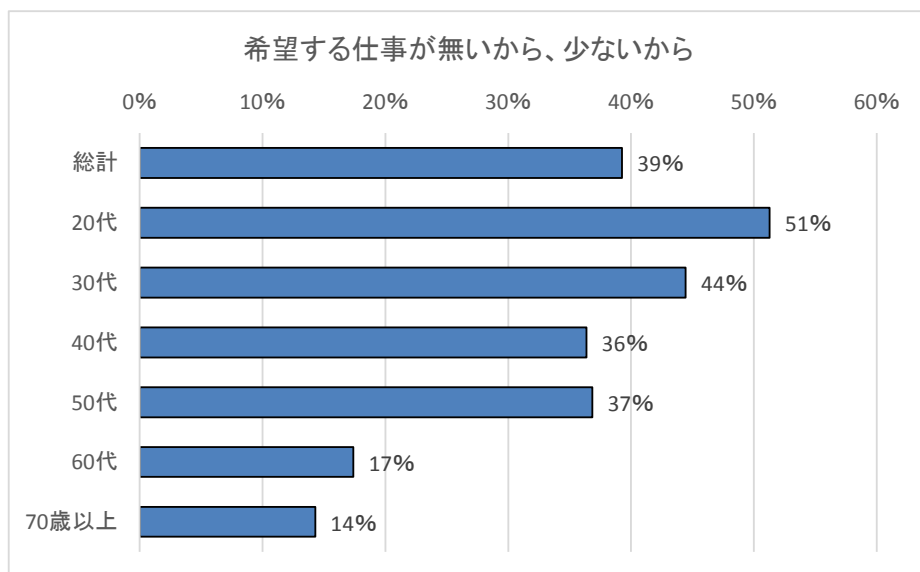
(全体傾向)



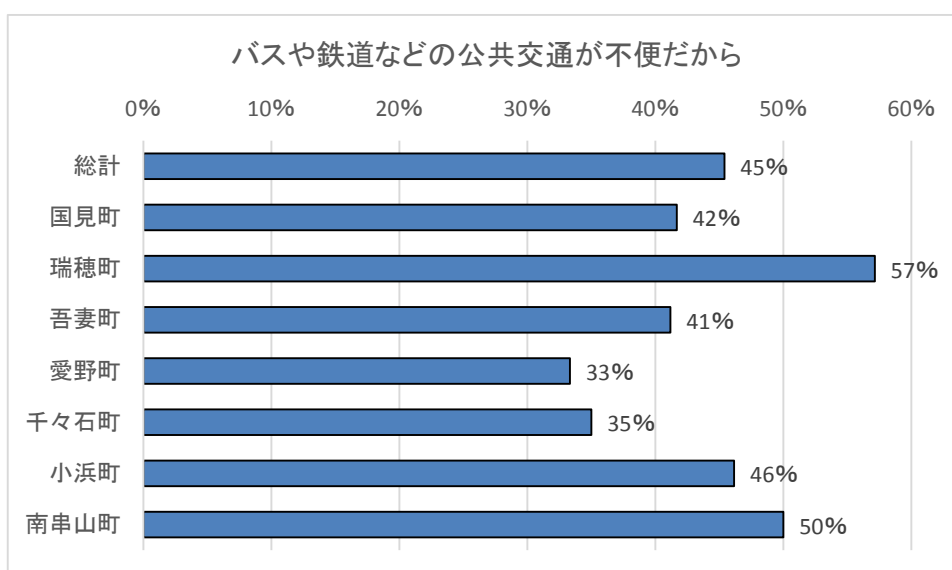
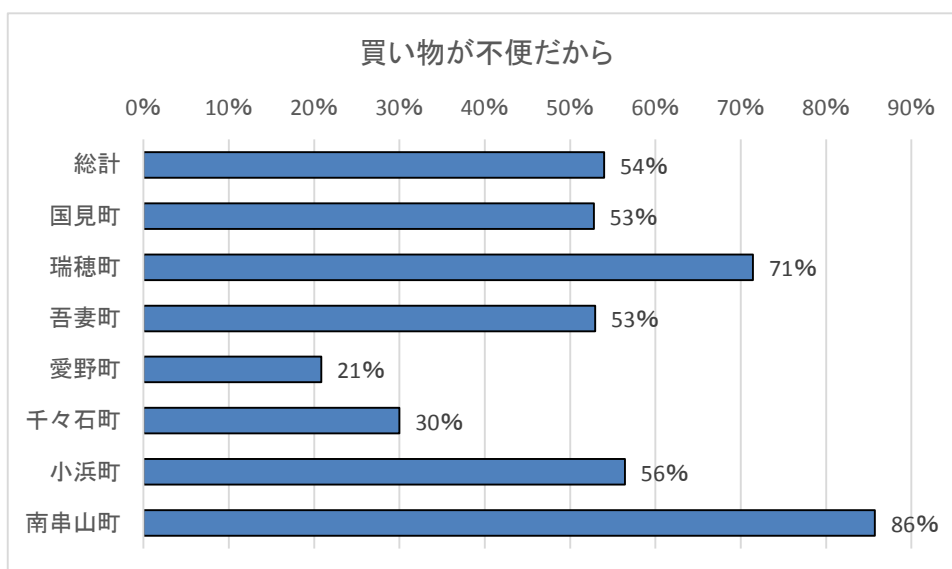
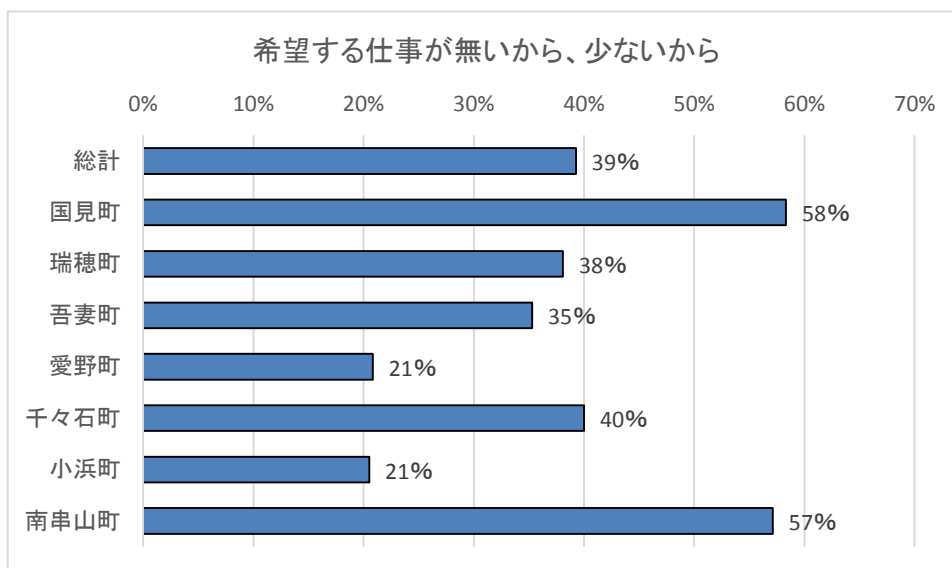
N=162

※上位3項目のクロス集計

(年代別)



(地域別)

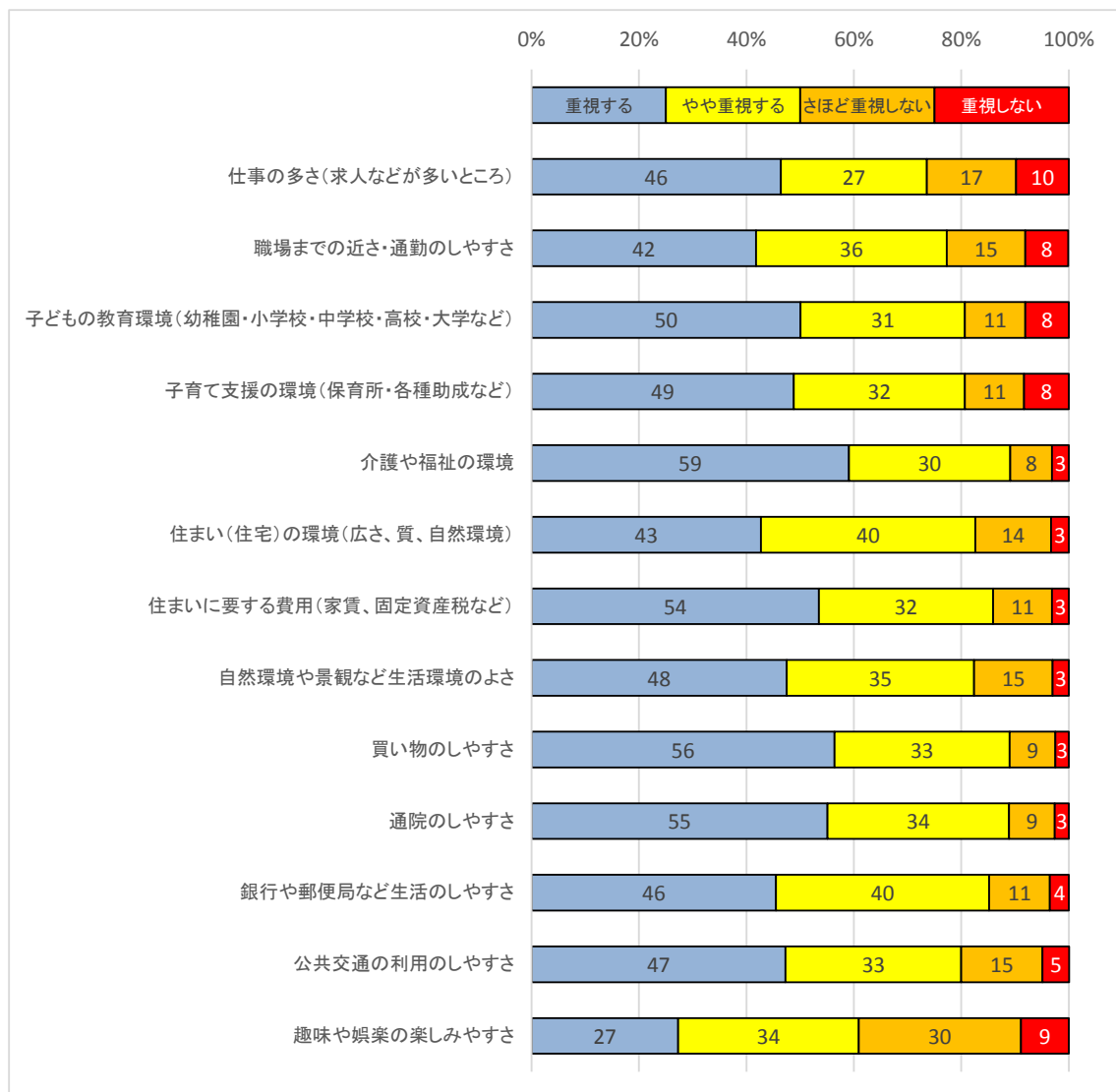


問11(居住地決定の際に重視する条件)

これからの住まいの場所を決定するのに重視することは何ですか。(1つに○)

居住地決定のポイントは「介護や福祉の環境」、「買い物のしやすさ」、「通院のしやすさ」等を重視

全体傾向		“重視する”と“やや重視する”の割合が最も高いのは「介護や福祉の環境」、「買物のしやすさ」、「通院のしやすさ」で合計割合は90%程度になる。
クロス集計	年代別	「介護や福祉の環境」、「通院のしやすさ」については、年代が上がるにつれてより重視される傾向にある。「買い物のしやすさ」については、すべての年代で高いが、特に40代でより重視される傾向にある。
	地域別	「介護や福祉の環境」については、国見町、小浜町でより重視される傾向にある。「買い物のしやすさ」、「通院のしやすさ」については、瑞穂町が他町に比べて重視する傾向が低くなっている。

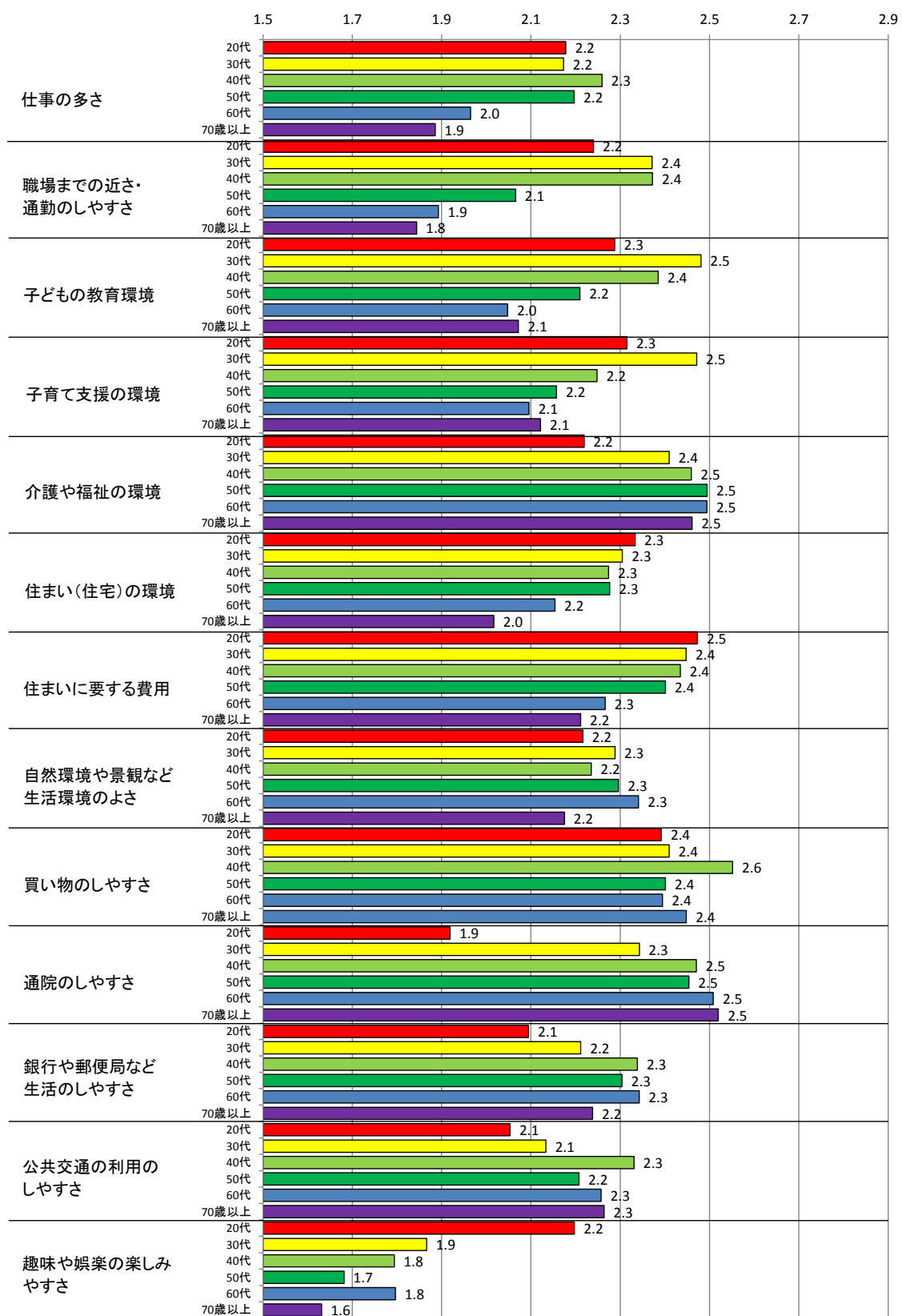


(指数化)

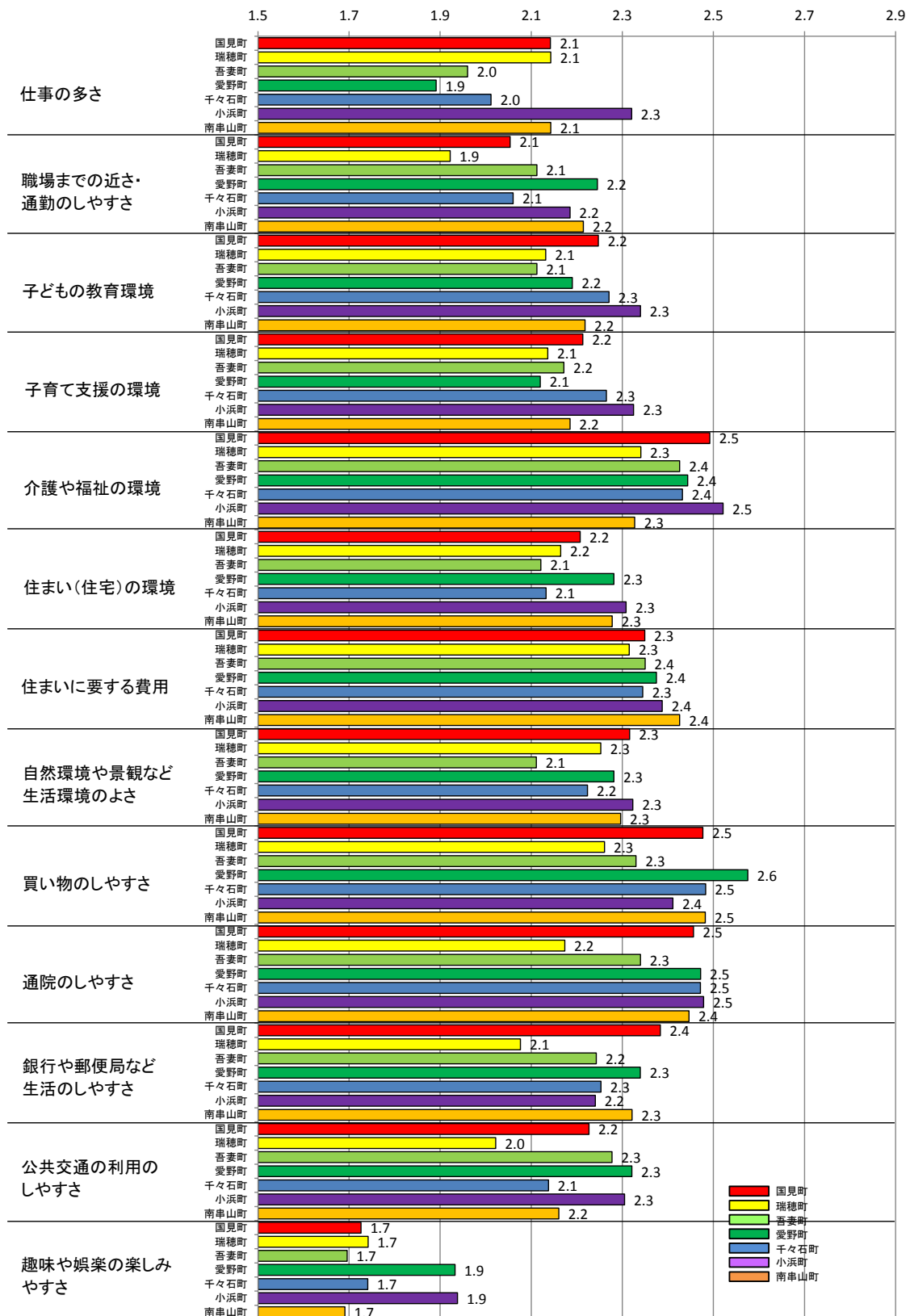
※ (重視する×3 + やや重視する×2 + さほど重視しない×1 + 重視しない×0) / 回答数



(年代別：指数化)



(地域別：指数化)



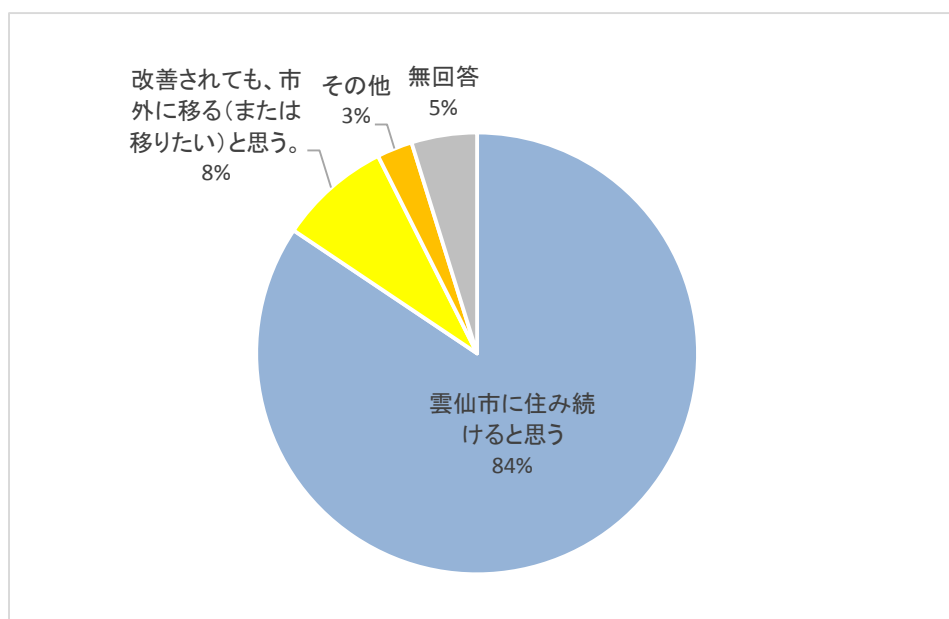
問12(重視する項目が改善された場合の雲仙市への居住意向)

仮に前問で、重視するとした項目が、雲仙市の政策により改善した場合、将来的にも住み続けると思いますか。(1つに○)

重視する項目が改善された場合の雲仙市への居住意向 11 ポイント上昇

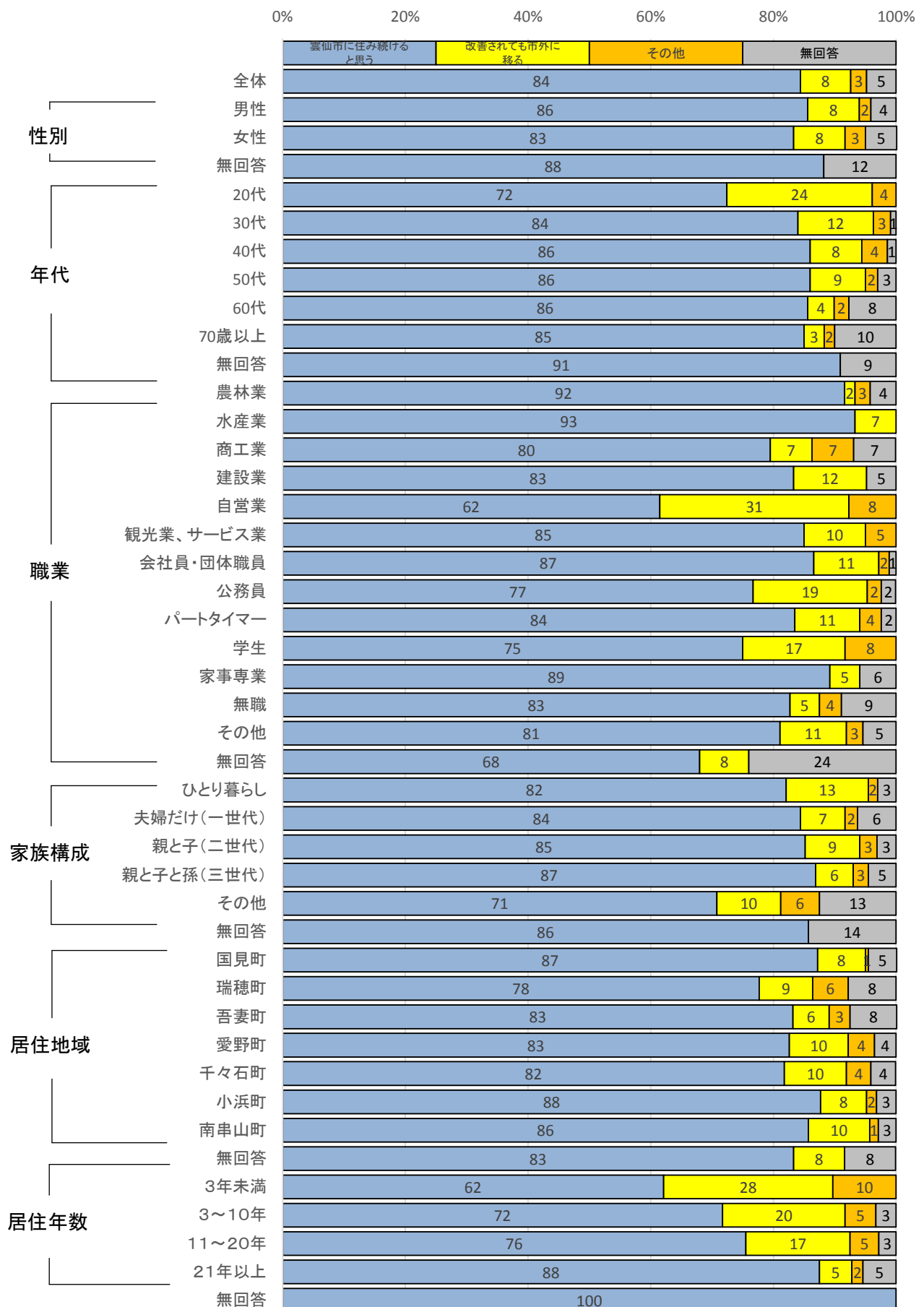
全体傾向		「雲仙市に住み続けたい」が84%と、問8の「今の場所に住み続けたい」の73%に比べ11ポイント上昇するなど改善効果が見られる。
クロス集計	男女別	男女別ではほぼ同様の傾向であり、大きな相違点は見られない。
	年代別	20代では「改善されても市外に移る」が24%と他の年代に比べ高く、改善効果の有効性が相対的に低いといえる。
	職業別	自営業、公務員、学生では、「改善されても市外に移る」が約20%~30%と高く、改善効果の有効性が相対的に低いといえる。
	家族構成別	ほぼ同様の傾向であり、大きな相違点は見られない。
	地域別	大きな傾向の違いはないが、「雲仙市に住み続けたい」は小浜町、国見町、南串山町の順で割合が高い。
	居住年数別	年代が高くなるにつれて「雲仙市に住み続けたい」の割合も高くなる傾向がみられる。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



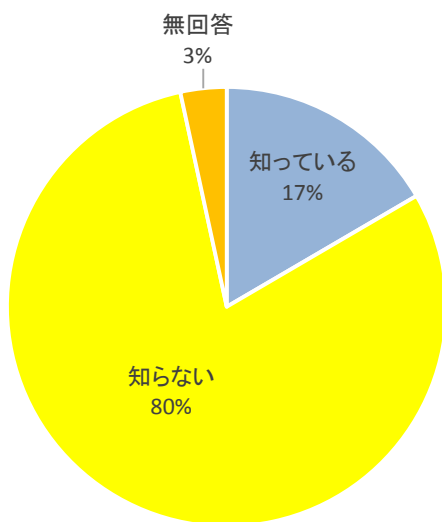
問12-1（「雲仙市定住促進奨励補助金」について）

この制度を知っていましたか？ また、効果があると思いますか（1つに○）

認知度は17%。68%が“効果”を認識

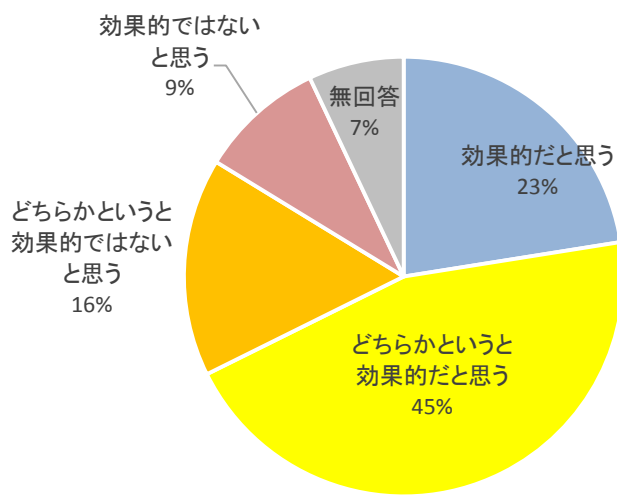
全体傾向		認知度は17%に止まり80%は認知していない。効果は「どちらかといえば有効」が45%で最も高く「効果的」を合わせると68%が有効性を認識している。
クロス集計	男女別	認知度は男性が20%と女性の14%を上回る。効果については男女別での意識の違いはほとんど見られない。
	年代別	認知度は60代が20%で最も高く20代では7%に止まる。効果は30代を中心に年代が高くなるにつれて期待が低くなる傾向にある。
	職業別	認知度は公務員が42%で最も高い。効果は公務員、学生などで高い。
	家族構成別	認知度、効果とも家族構成別での大きな傾向の違いはみられない。
	地域別	認知度は千々石町、国見町、愛野町の順で高く、最下位の瑞穂町と千々石町の差は11ポイントに上る。効果は借家住まいが高い愛野町で最も高い。
	居住年数別	認知度は21年以上が18%で最も高い。効果は借家住まいが高いと想定される3年未満が35%と2位より10ポイント高い。

（認知度について）



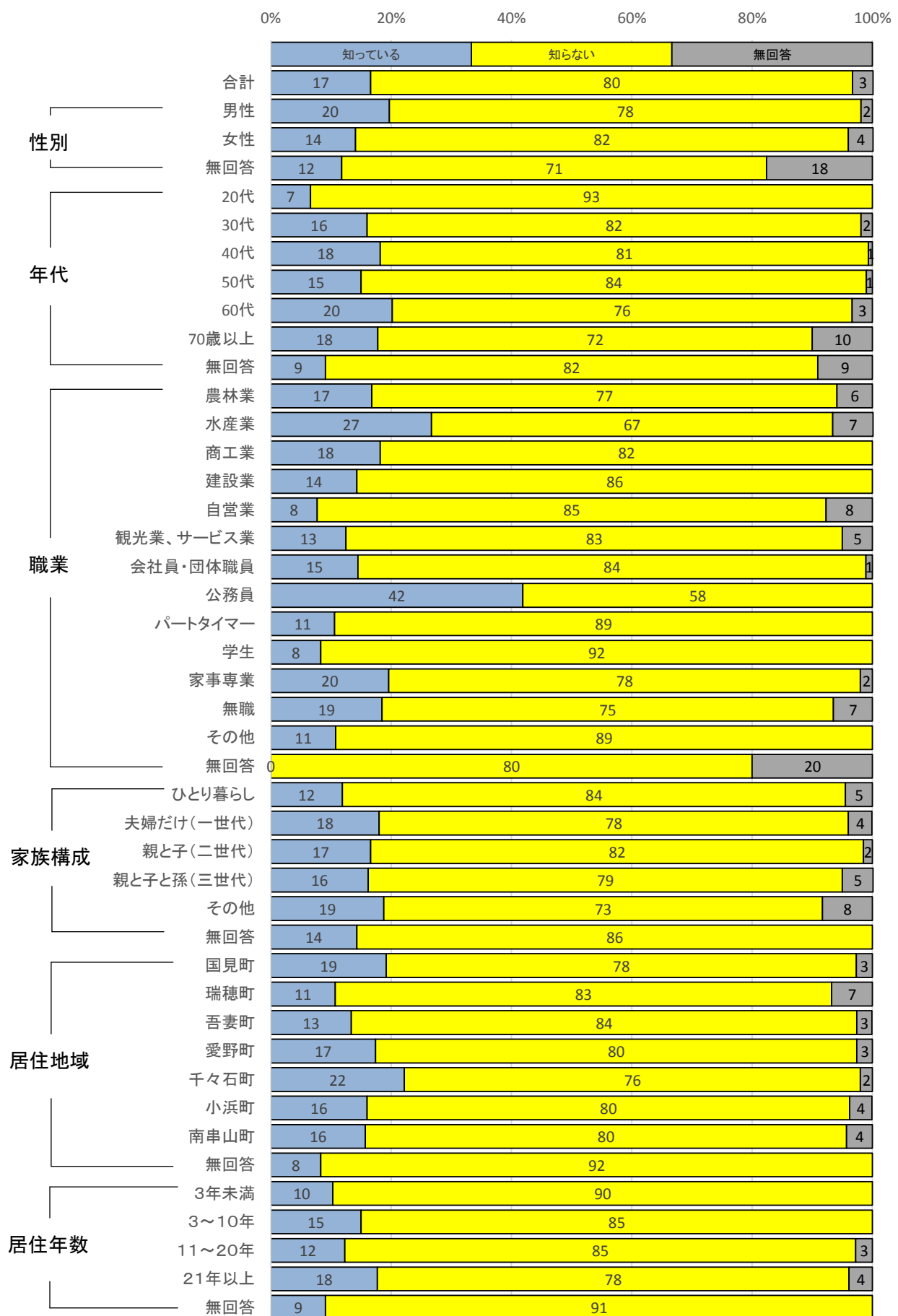
N=924

（効果について）

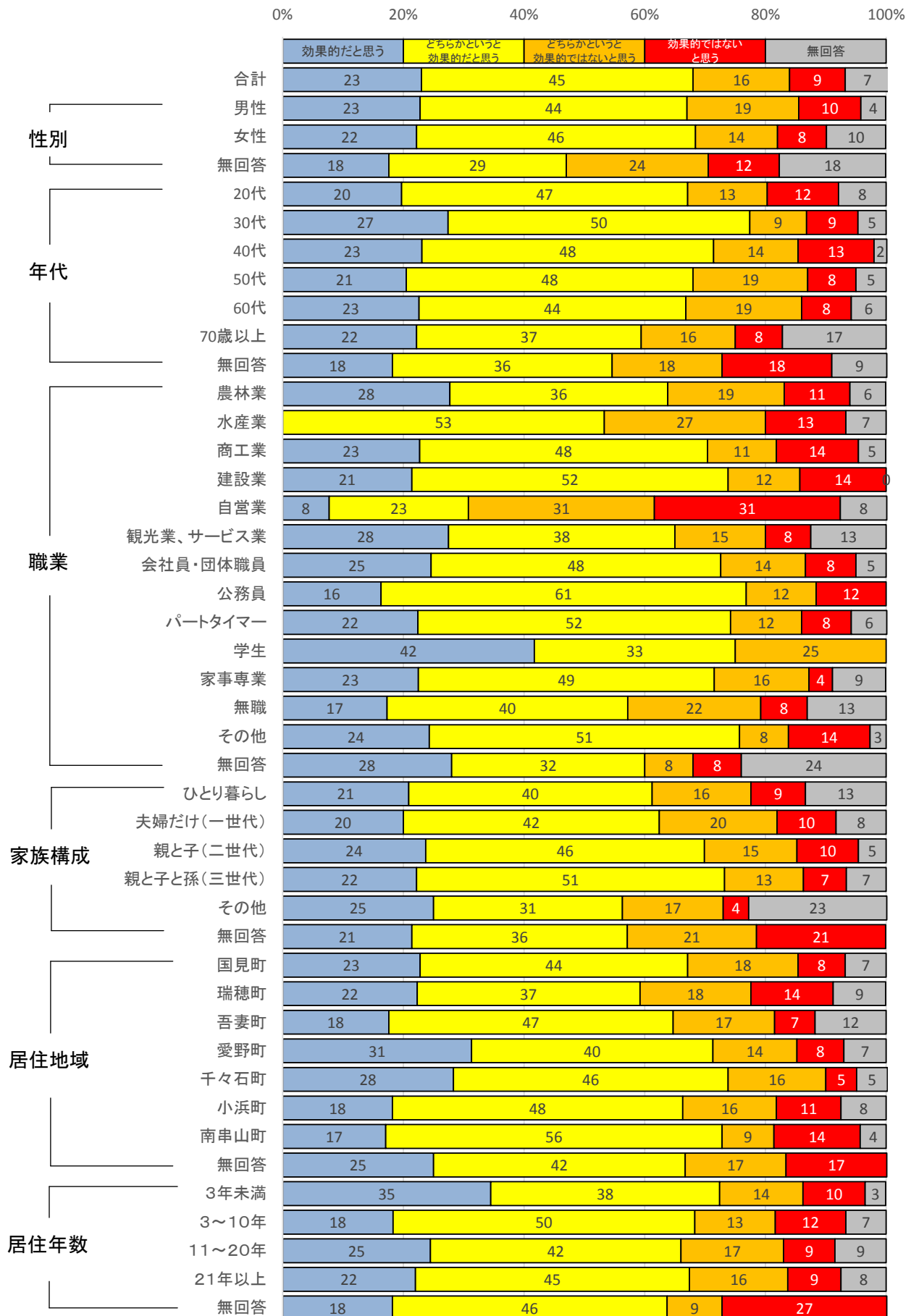


N=924

「認知度」(基本属性クロス)



「効果」(基本属性クロス)



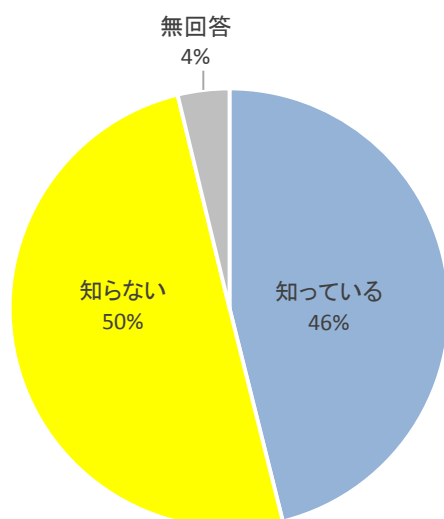
問12-2（「雲仙市住宅等リフォーム助成商品券交付事業」について）

この制度を知っていましたか？ また、効果があると思いますか（1つに○）

認知度は46%。66%が“効果”を認識

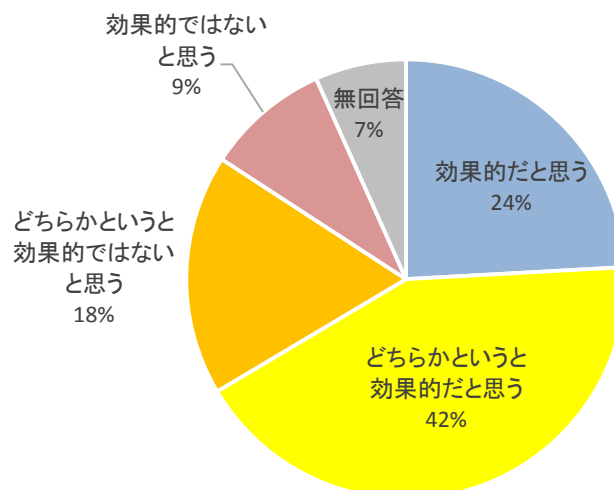
全体傾向		認知度は46%と“知らない”と拮抗。効果は「どちらかというと効果的だと思う」が42%で最も高く「効果的」を合わせると66%が有効性を認識している。
クロス集計	男女別	認知度、効果とも男女別による大きな意識の違いは見られない。
	年代別	40代～60代では50%以上の高い認知度。効果は30代、50代で高い。
	職業別	認知度は「商工業」と「公務員」が60%以上で高い。「学生」は認知度が17%と低い反面、効果は50%が期待している。
	家族構成別	認知度は「夫婦だけ（一世代）」が52%で最も高い。効果については家族構成別の大きな傾向の違いはみられない。
	地域別	認知度は「千々石町」、「瑞穂町」の順で高い。効果は愛野町が最も高い。
	居住年数別	認知度は居住年数が長くなるにつれて高くなる傾向があり、「21年以上」では49%となる。効果は「3年未満」と他より10ポイント以上高い。

（認知度について）



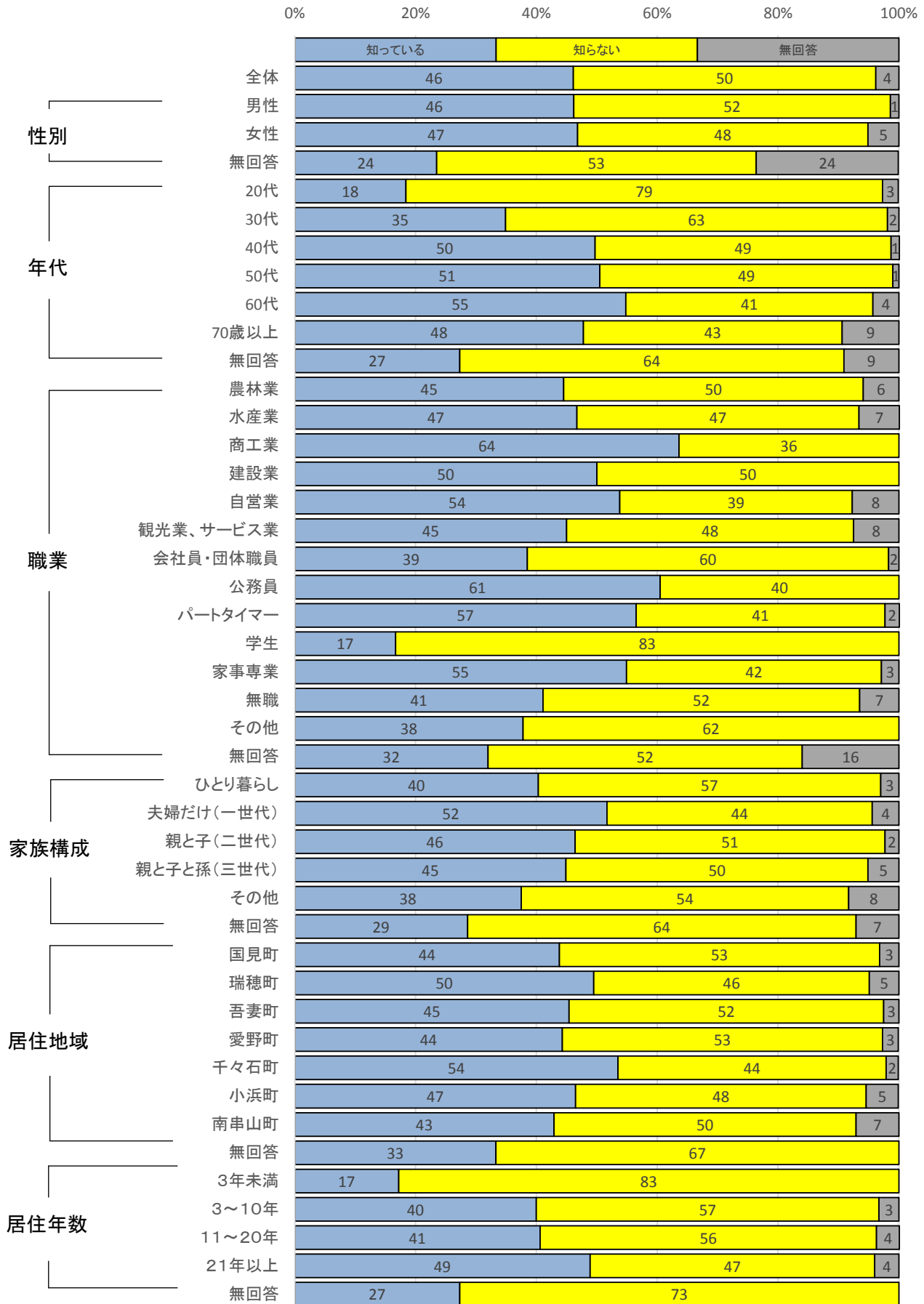
N=924

（効果について）

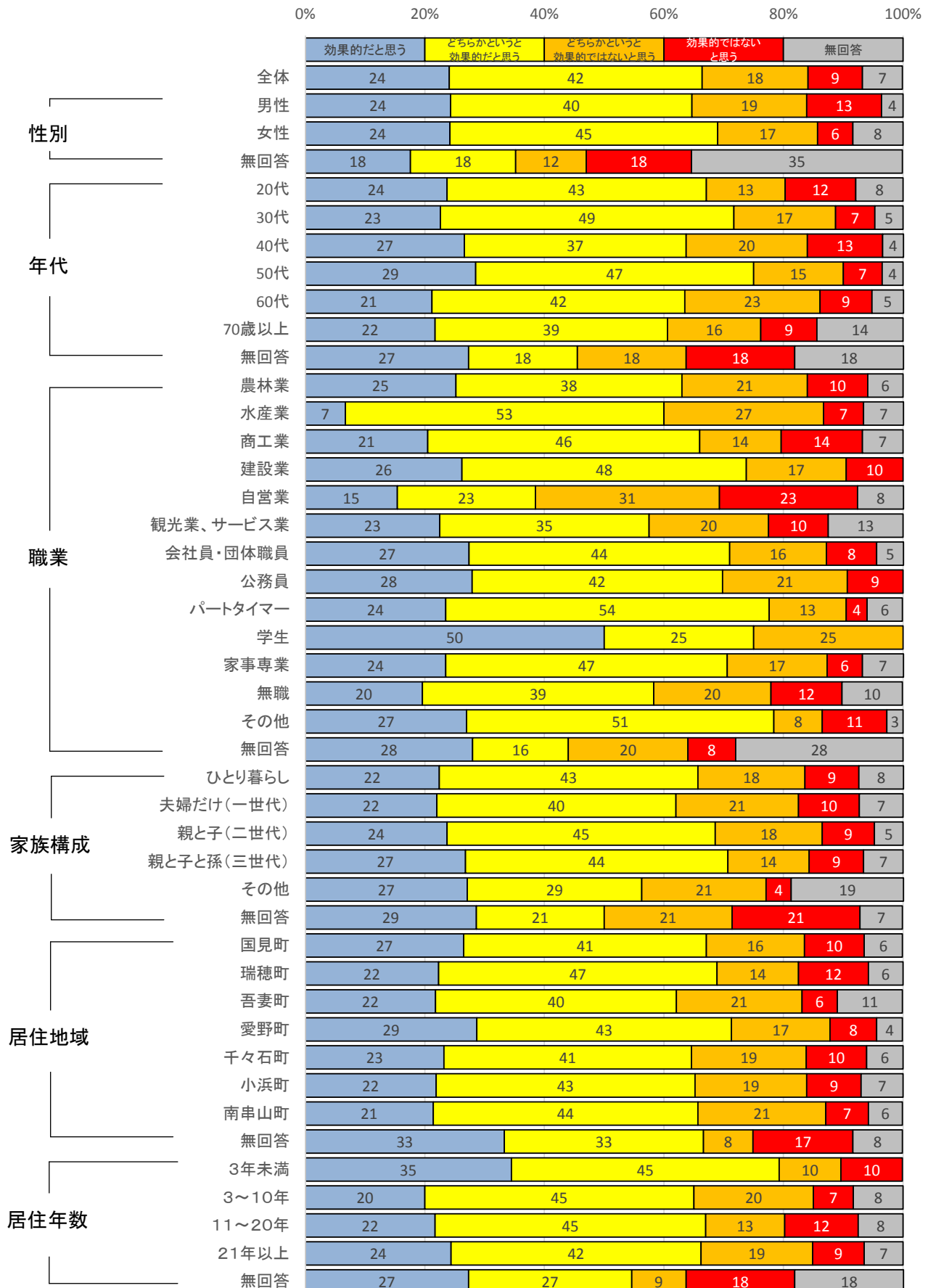


N=924

「認知度」(基本属性クロス)



「効果」(基本属性クロス)



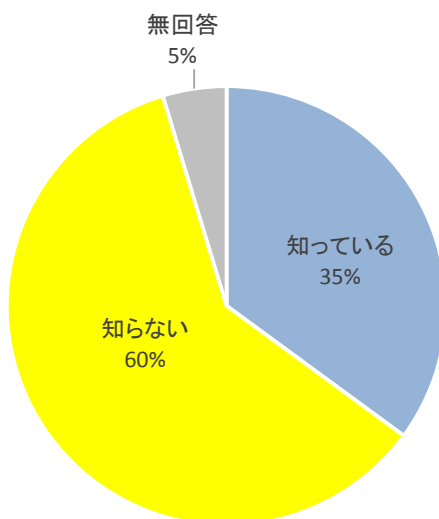
問12-2（「福祉医療費の支給対象者の拡大(中学生まで)」について）

この制度を知っていましたか？ また、効果があると思いますか（1つに○）

認知度は 35%。74%が“効果”を認識

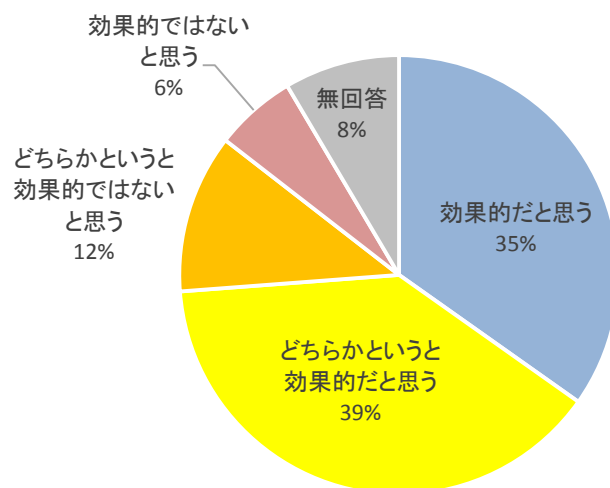
全体傾向		認知度は 35%。効果は「どちらかといえば有効」が 39%、「効果的」が 35%と拮抗。合計すると 74%が効果を認識している。
クロス集計	男女別	認知度は男性 32%に対し女性 39%と女性が 7 ポイント高い。効果についてはほぼ同様の傾向がみられる。
	年代別	認知度は子育て世代の 30 代と 40 代では 60%前後と他の年代に比べ大幅に高い。効果も 20 代～40 代の子育て世代が高い。
	職業別	認知度は「自営業」、「公務員」、「パート」の順で高い。
	家族構成別	認知度は世代が高い家族ほど高い。効果も三世代が最も高い。子や孫の存在が認知度を大きく左右している傾向がみられる。
	地域別	認知度、効果とも「愛野町」が最も高い。
	居住年数別	認知度、有効性とも「11～20 年」が最も高い。

（認知度について）



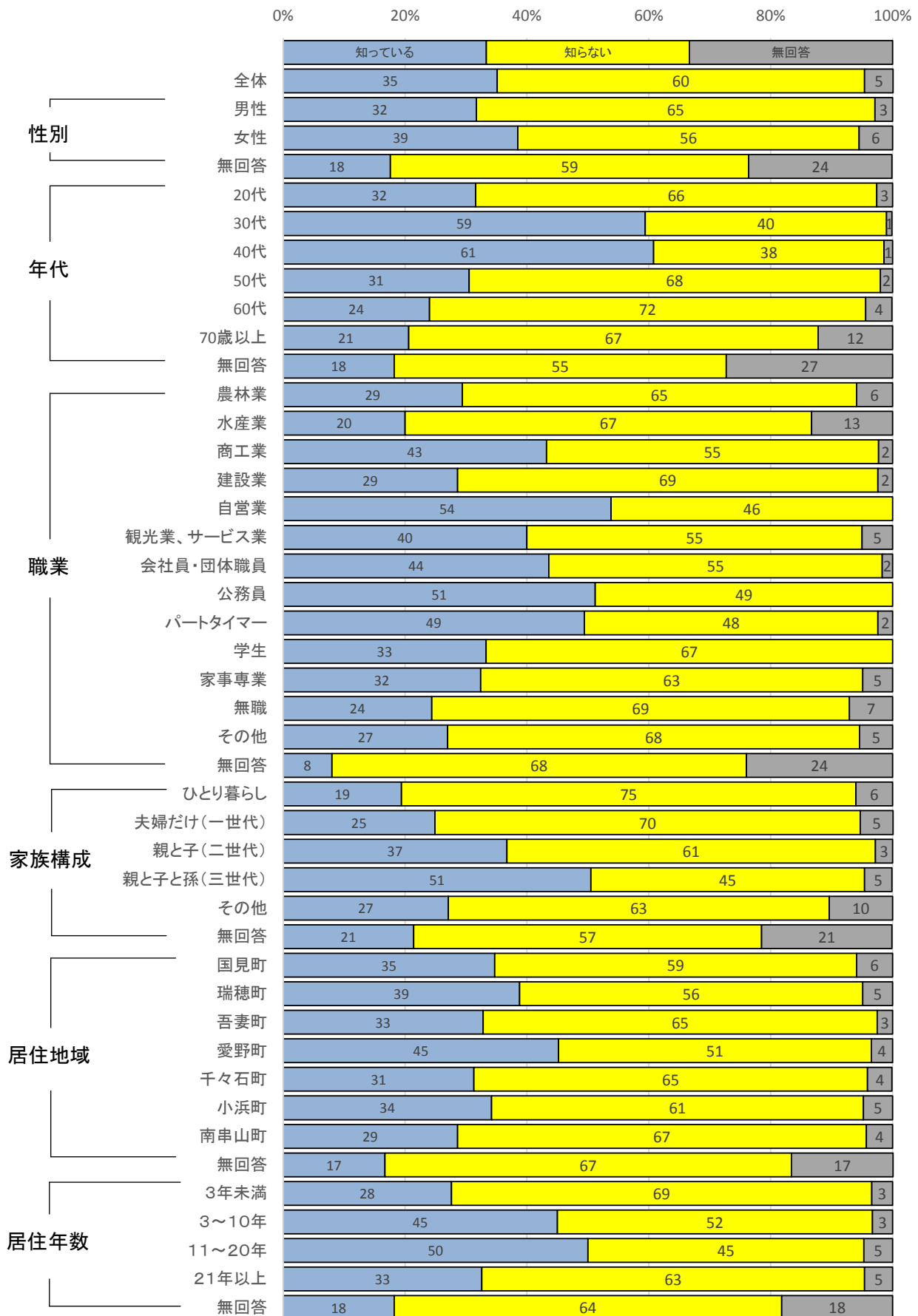
N=924

（効果について）

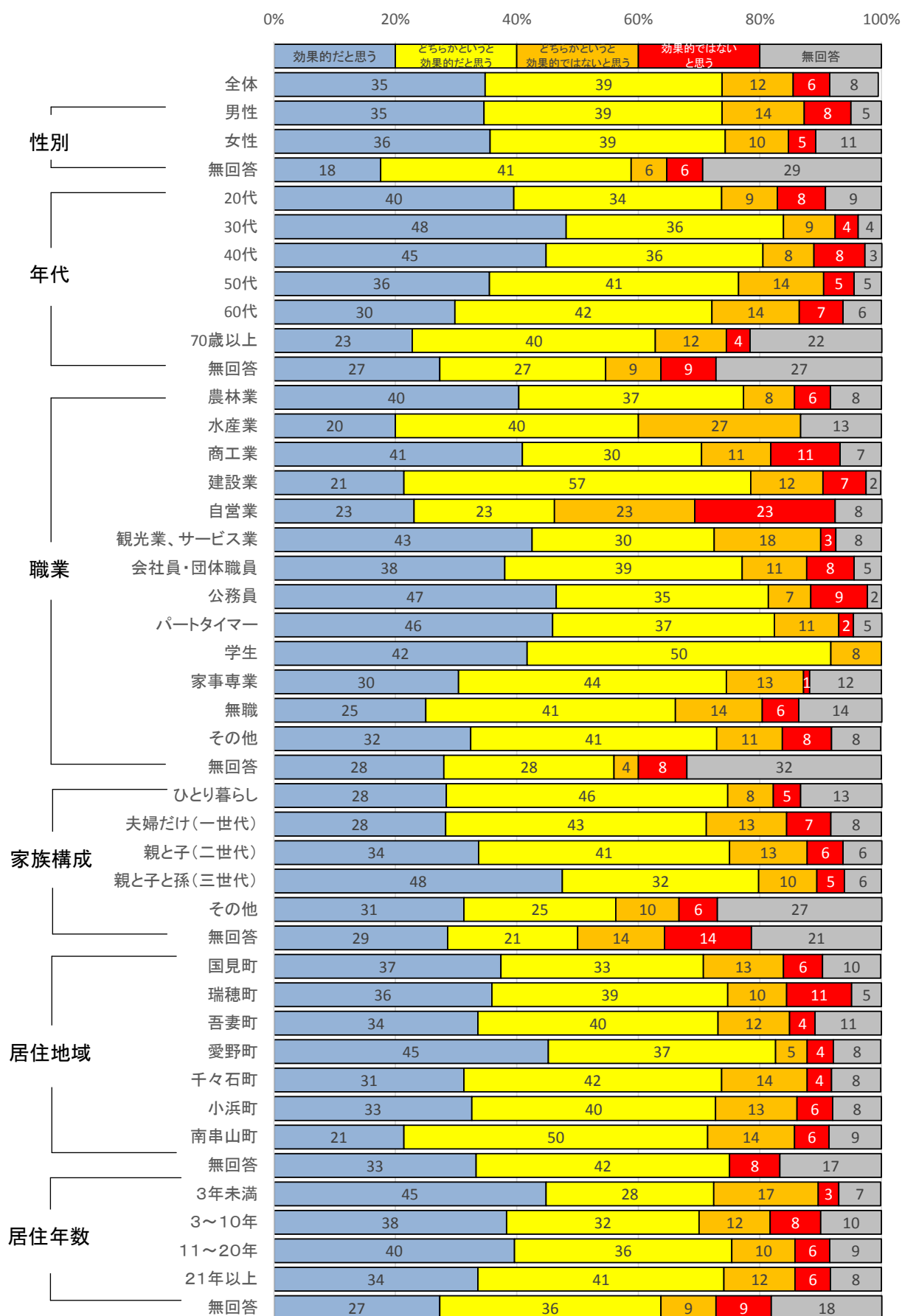


N=924

「認知度」(基本属性クロス)



「効果」(基本属性クロス)



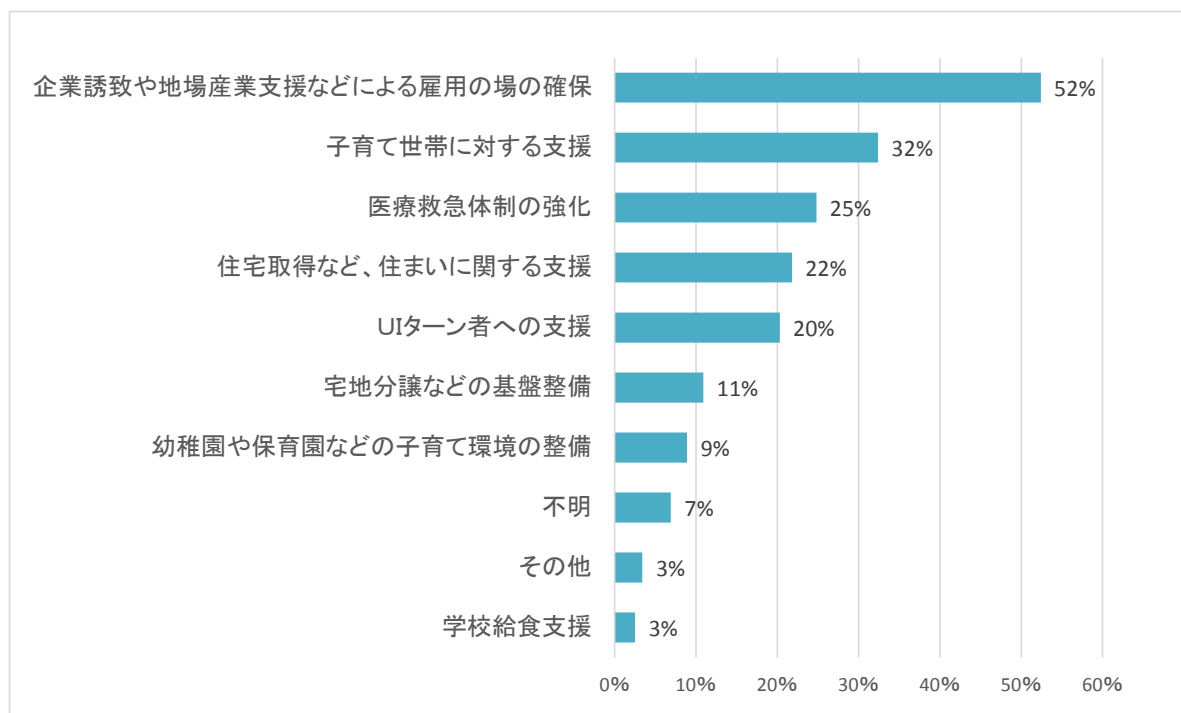
問13(今後力を入れるべき定住対策)

雲仙市では今後どのような定住対策に力を入れていくべきだと思いますか。(2つまで○)

「雇用の場の確保」が52%と他を圧倒。「子育て」、「医療」、「住宅取得」の支援も期待

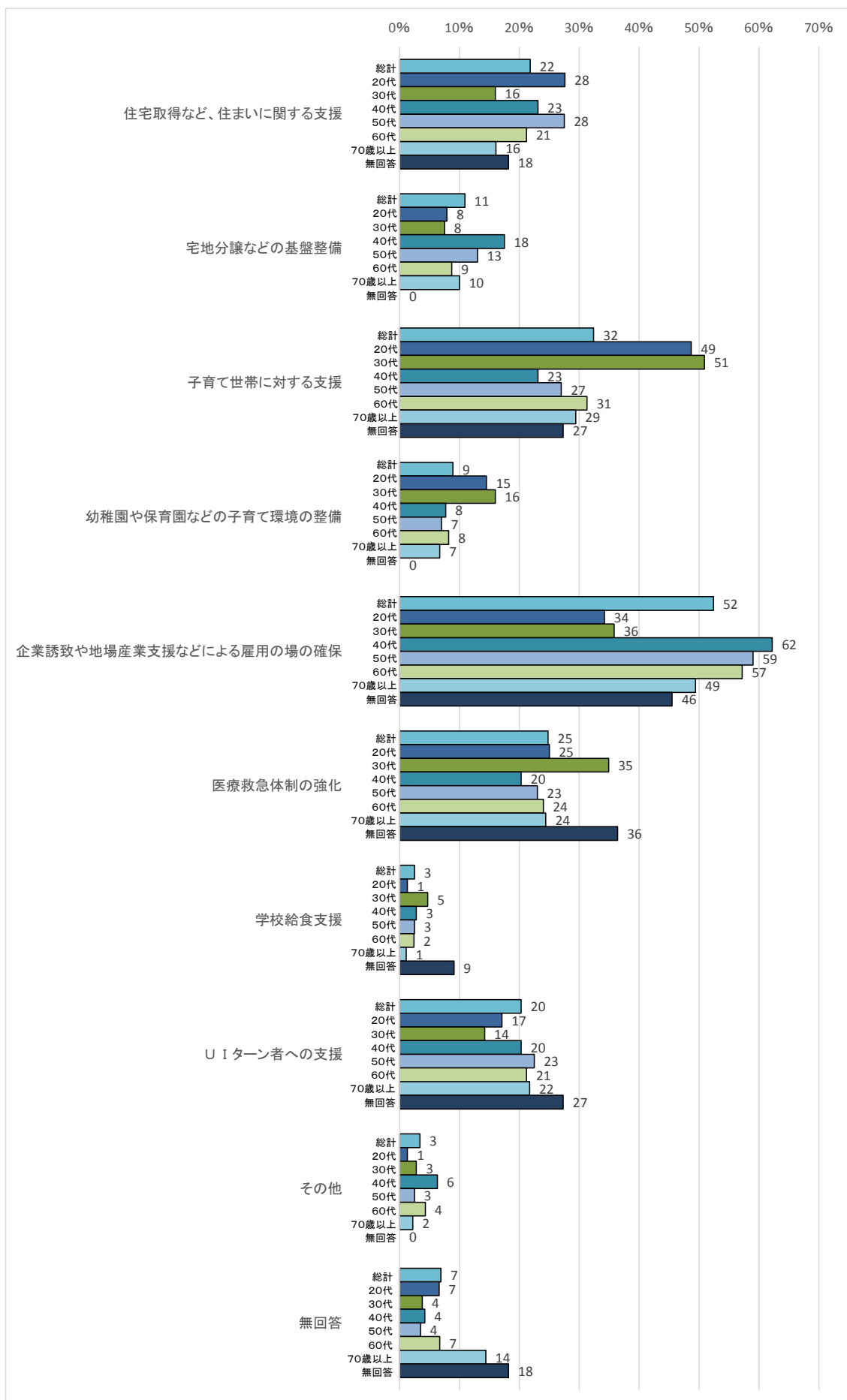
全体傾向		「雇用の場の確保」が52%で最も高く、「子育て世帯に対する支援」が32%、「医療」、「住まい」、「UI ターン者」に対する支援が20%台で続く。
クロス集計	年代別	「雇用の場の確保」は40代をトップに50代、60代で支持が高い。「子育て世帯に対する支援」は子育て世代の20代、30代で支持が高くなっている。「UI ターン者に対する支援」は年代が高くなるにつれて支持が高い。
	地域別	「雇用の場の確保」は「吾妻町」と「愛野町」を除き平均より高く、中でも「南串山町」で最も高い。

(全体傾向)

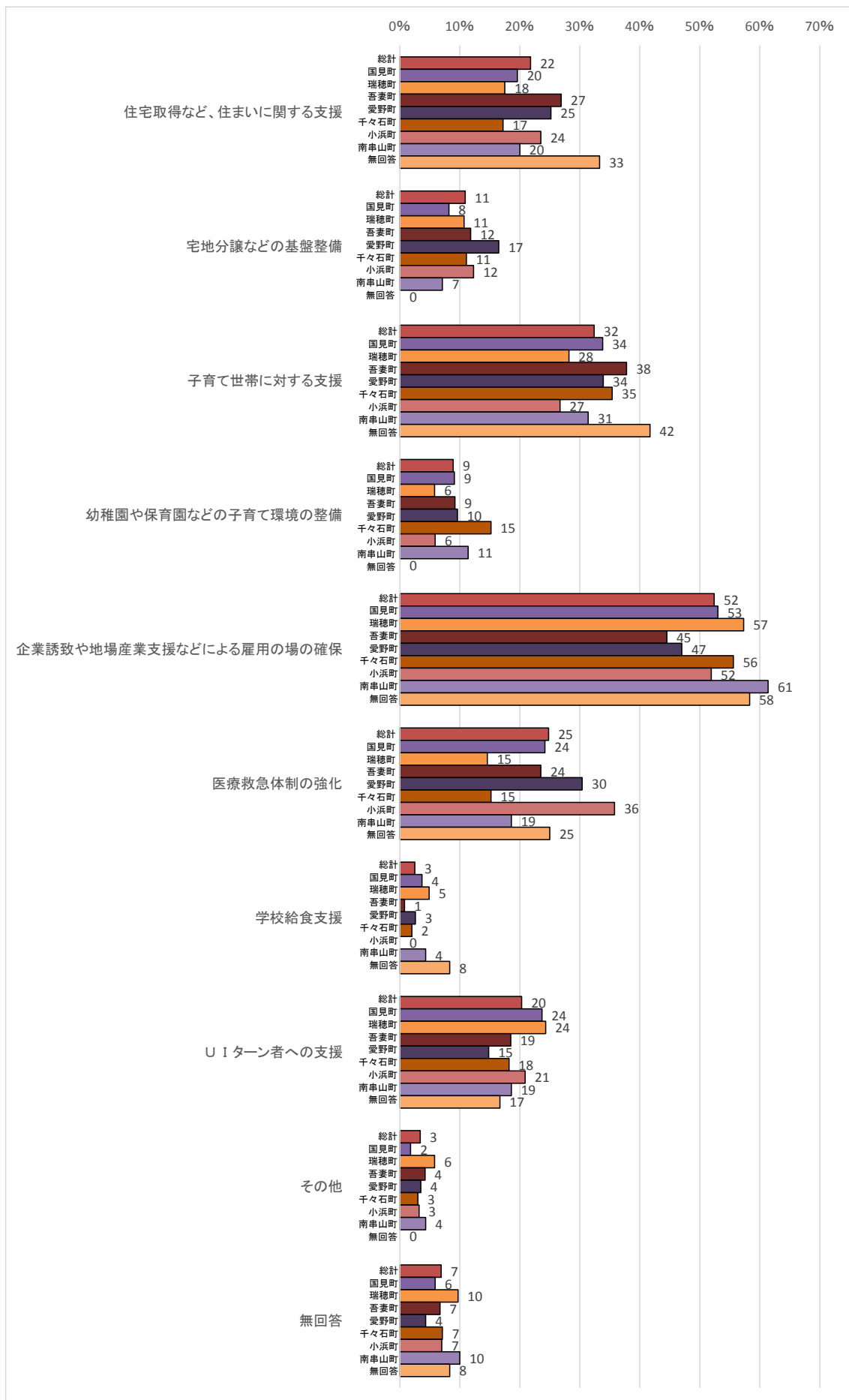


N=924

(年代別クロス)



(地域別クロス)



3.『雲仙市での仕事』について

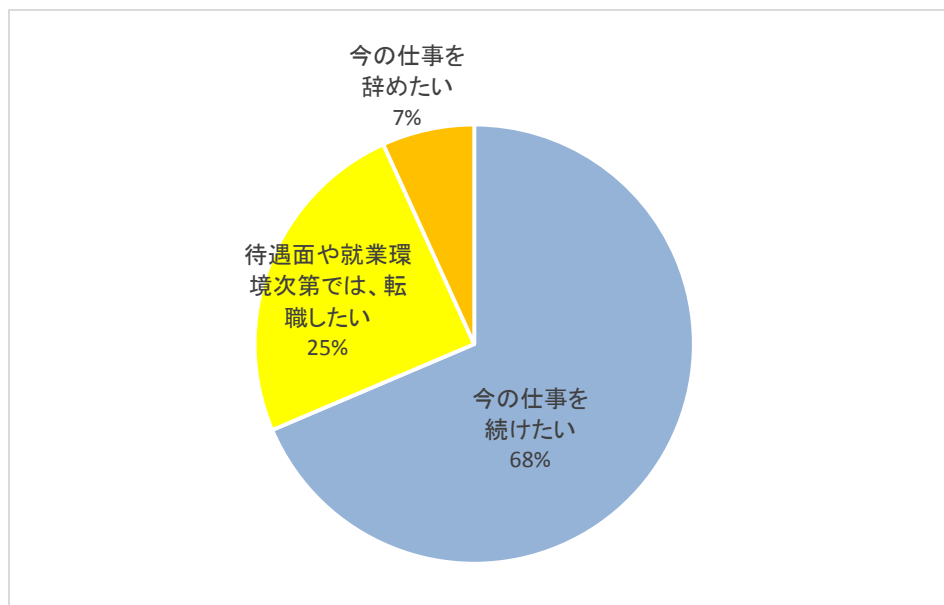
問14(現在働いている方の仕事に対する意向)

現在働いている方(収入のある方)にお聞きます。(農業なども含めて定期的な収入のある方)現在のお仕事について、該当するもの1つに○印をつけてください。

「今の仕事を続けたい」は 68%。職業別では農林、水産、商工業で 80%台

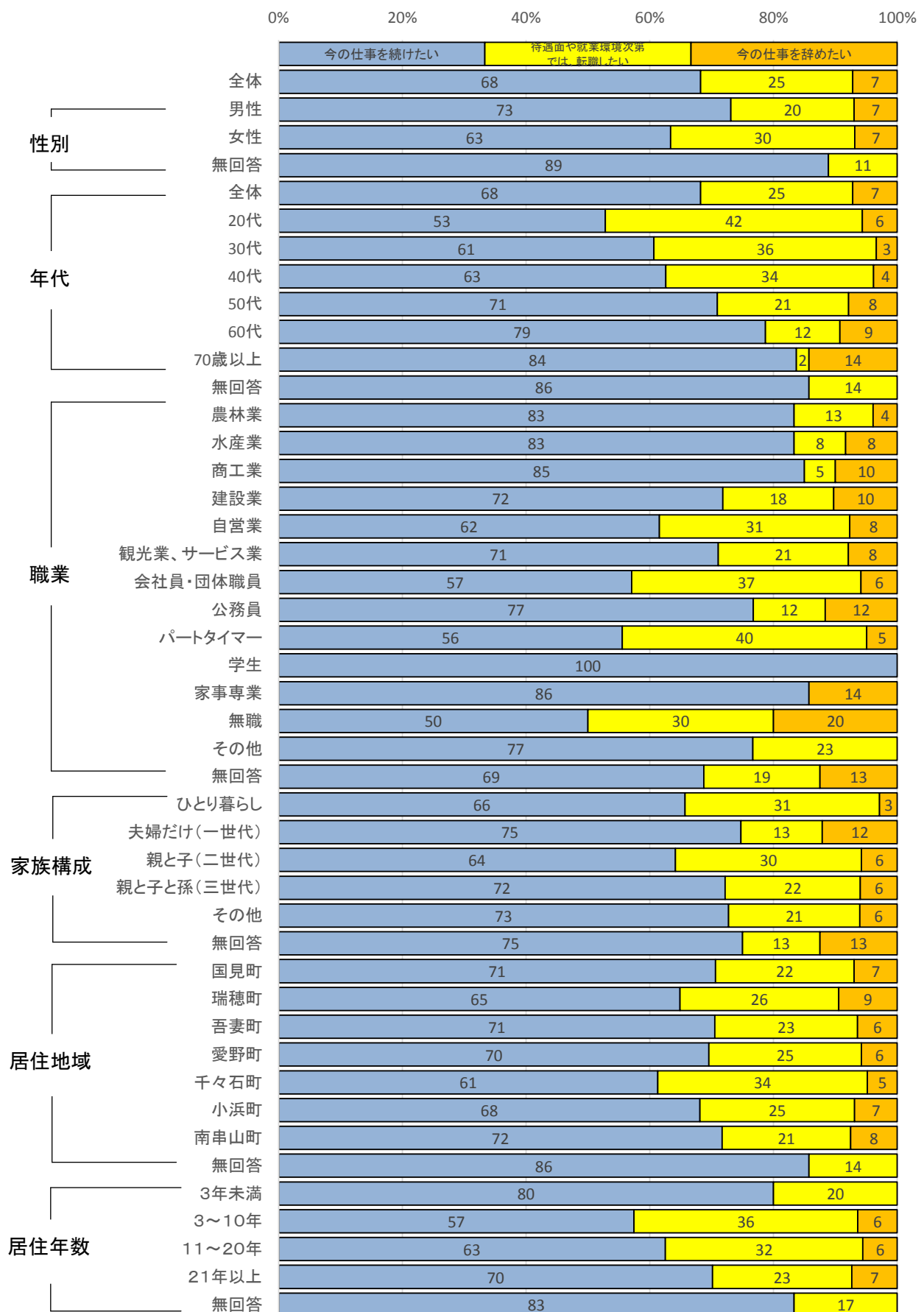
全体傾向		「今の仕事を続けたい」が 68%で最も高く、転職希望者は 25%である。
クロス集計	男女別	転職希望については、男性が 20%、女性が 30%となっており、女性が男性よりも 10 ポイント高い。
	年代別	若年層ほど転職の意向が強い一方、年代が上がるにつれて今の仕事を続けたいとの意向が強くなる傾向にある。
	職業別	農林、水産、商工業において、「今の仕事を続けたい」が他の業種と比べて高い一方、会社・団体職員、パートタイマーでやや転職意向が強くなる。
	家族構成別	家族構成別での大きな傾向の違いは見られない。
	地域別	地域別での大きな傾向の違いは見られない。
	居住年数別	居住年数 3 年未満が 80%と最も高い。

(全体傾向)



N=602

(基本属性クロス)



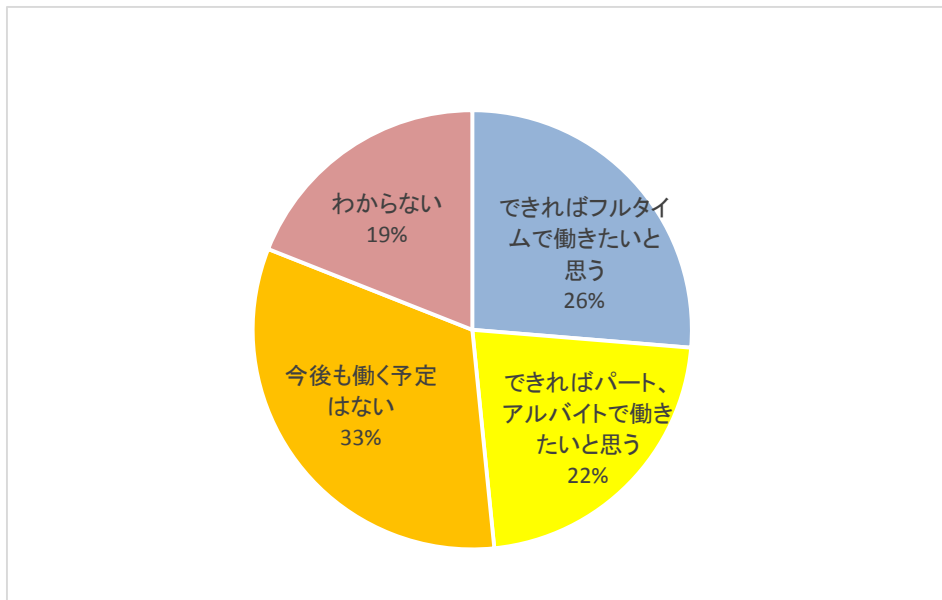
問15(現在働いていない方の今後の就業意向)

現在、働いていない方(収入のない方)にお聞きします。(全問で2、3に○をつけた方もお答えください。)今後のことについて、該当するもの1つに○印を付けてください。

フルタイム希望者は 26%、パートタイムを合わせると 48%が就業意欲あり

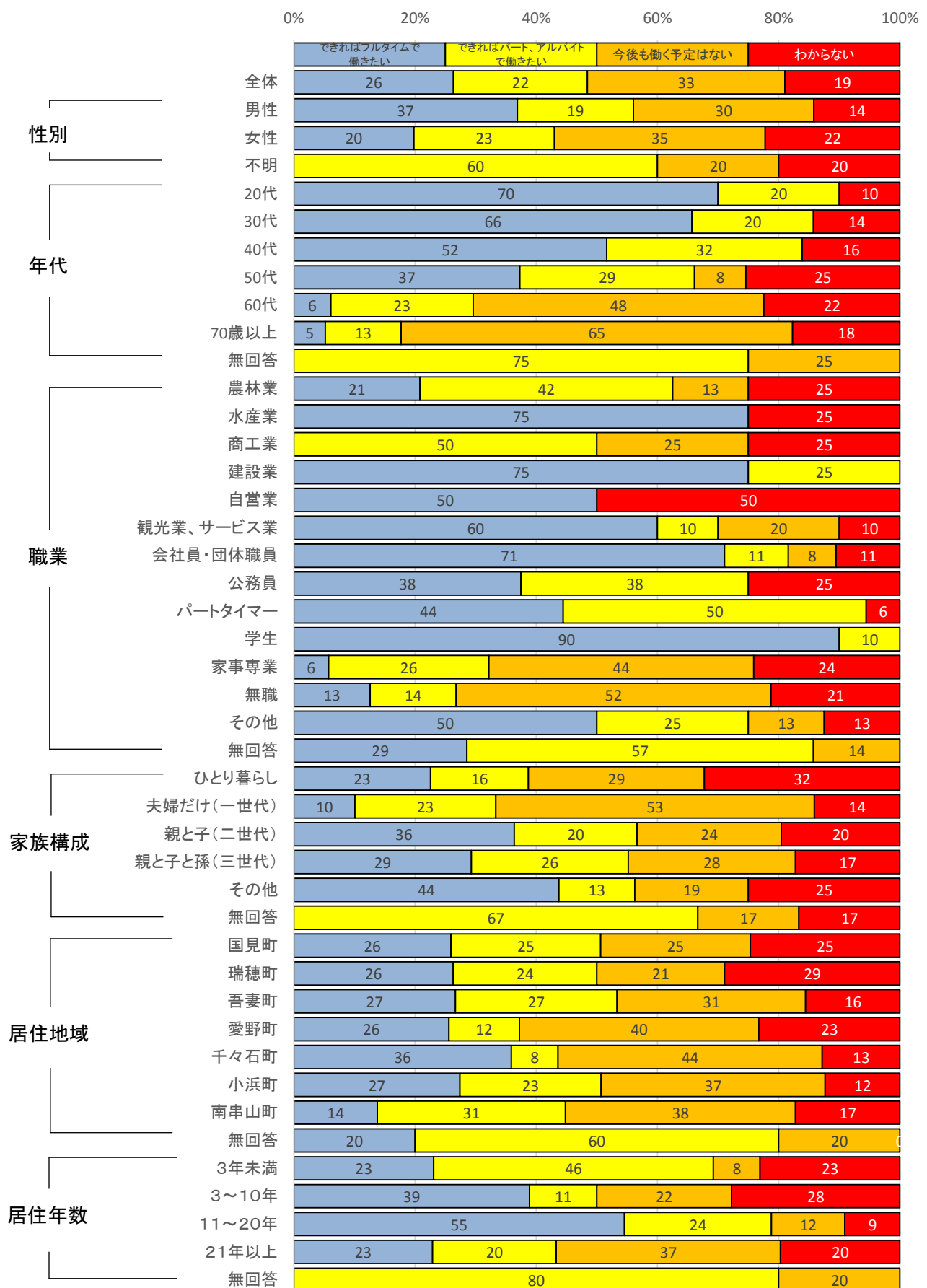
全体傾向		「フルタイムで働きたい」が 26%、「パート、アルバイトで働きたい」が 22%とあわせて 48%に就業意欲がある。
クロス集計	男女別	就業意欲は男性が女性より高い。特に男性は「フルタイム」、女性は「パート、アルバイト」の意向が強い。
	年代別	若い世代ほど就業意欲が高く、特に「フルタイム」の意向が強い。
	職業別	学生の 90%は「フルタイム」の意向。
	家族構成別	親と子(二世帯)、親と子と孫(三世帯)での就業意欲が高く、中でも「フルタイム」が「パート、アルバイト」を上回っている。
	地域別	吾妻町、国見町、瑞穂町、小浜町の順で就業意欲が高い。千々石町は「フルタイム」意向が他町に比べ高い傾向あり。
	居住年数別	居住年数が高く(21 年以上除く)なるにつれて「フルタイム」の意向が強い。

(全体傾向)



N=353

(既存属性クロス)



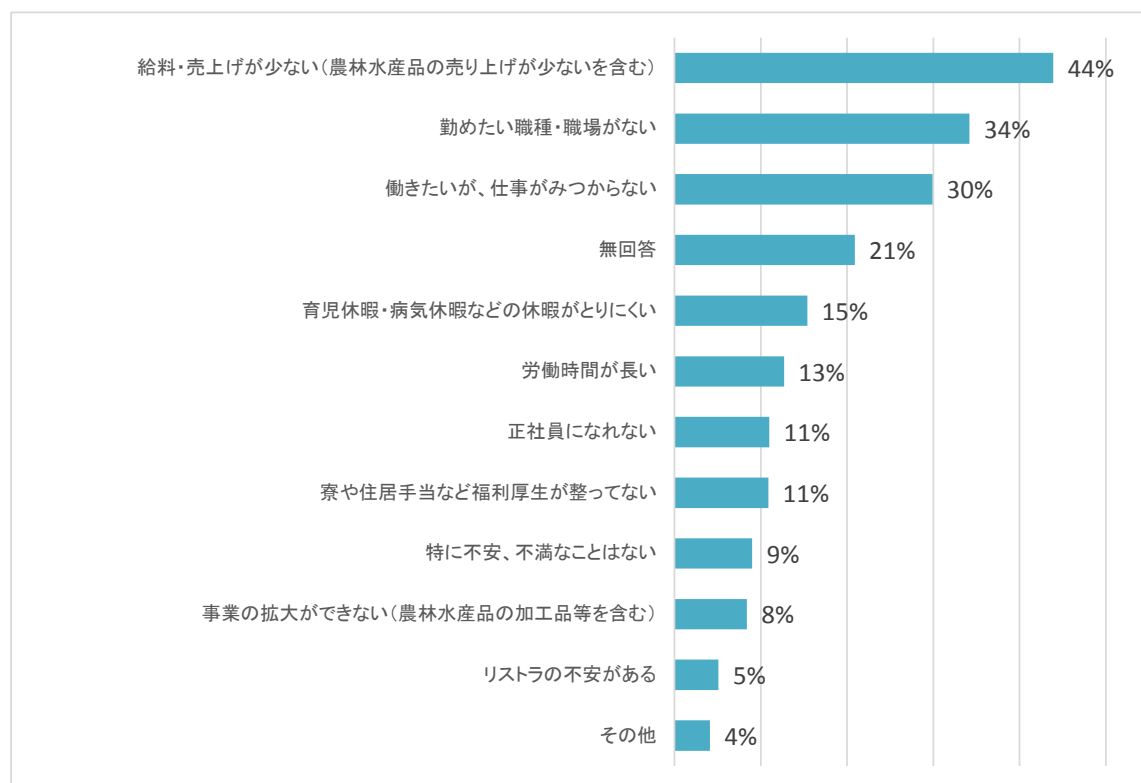
問16(職場や雲仙市の雇用状況についての問題や不安)

今の職場や雲仙市の雇用の状況について、どのような問題や不安があると思いますか。該当するもの全てに○をつけてください。

「給料・売上げが少ない」が44%でトップ。働きたい職場・仕事の少なさも課題に

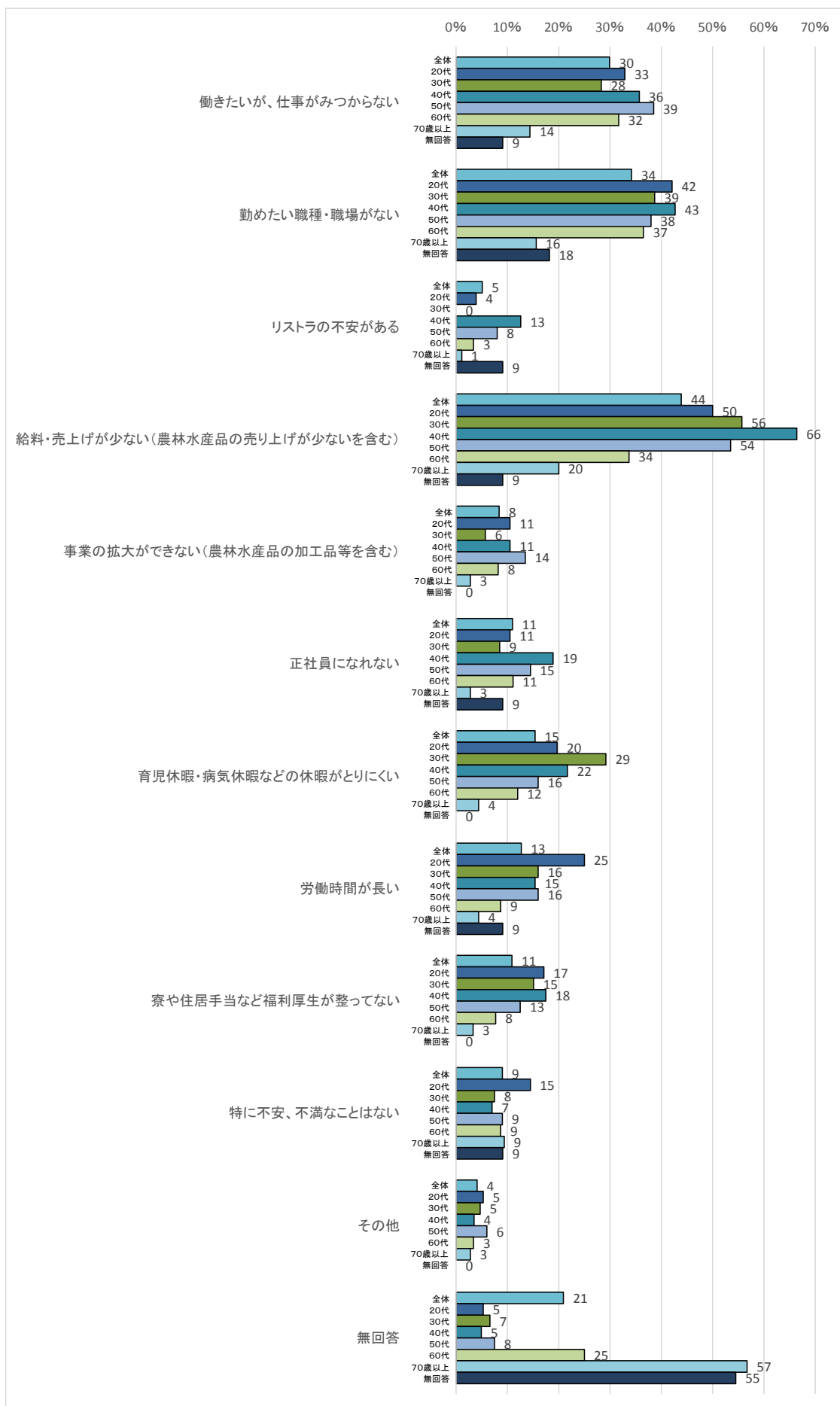
全体傾向		「給料・売上げが少ない」が44%で最も高く、「努めたい職種・職場がない」、「働きたいが仕事が見つからない」などの雇用面の課題が続く。
クロス集計	年代別	「給料・売上げが少ない」は働き盛りの40代で最も高い。「働きたいが仕事が見つからない」は50代、「努めたい職種・職場がない」は40代、20代で高い。
	地域別	「給料・売上げが少ない」は南串山町で最も高く、吾妻町、愛野町で低い傾向にある。

(全体傾向)

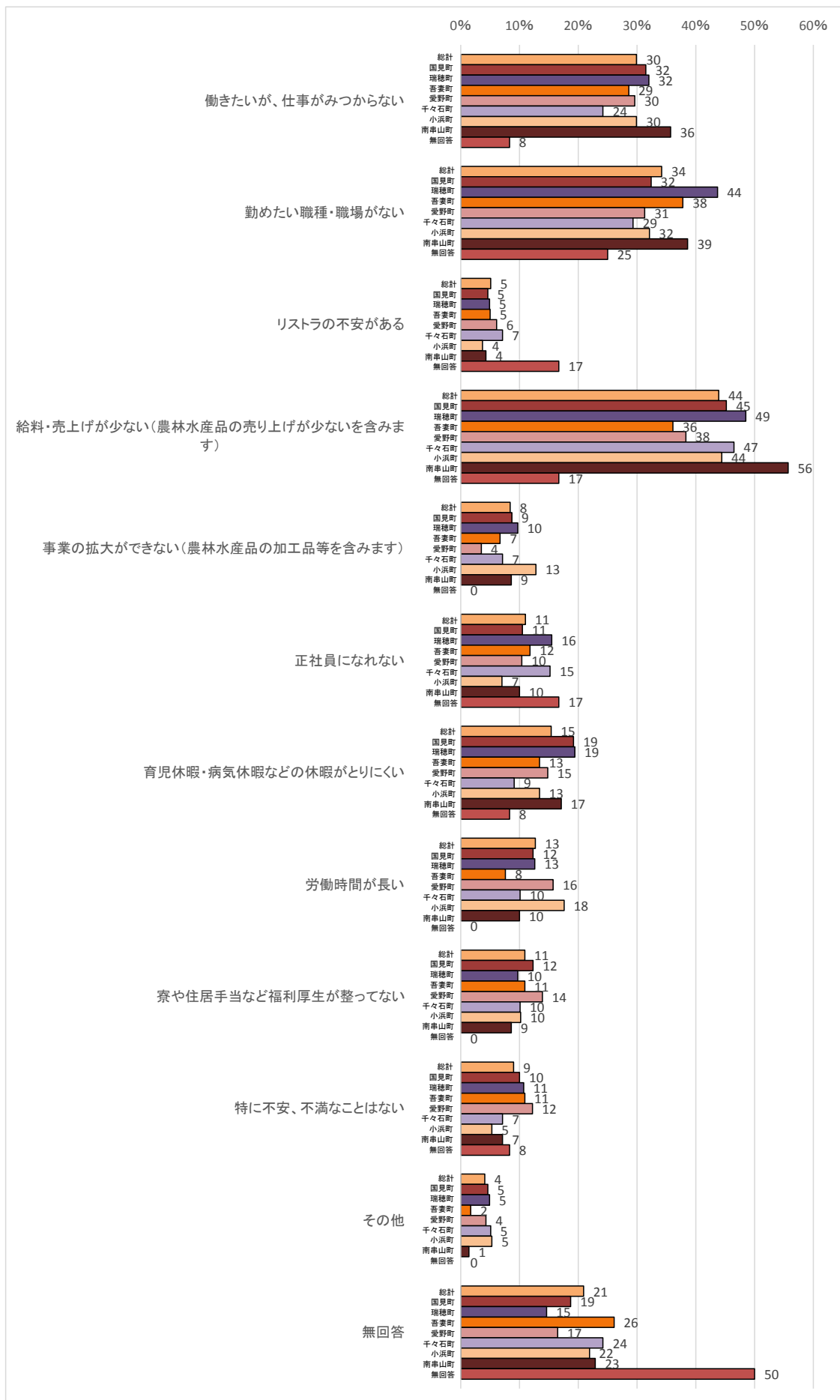


N=924

(年代別クロス)



(地域別クロス)



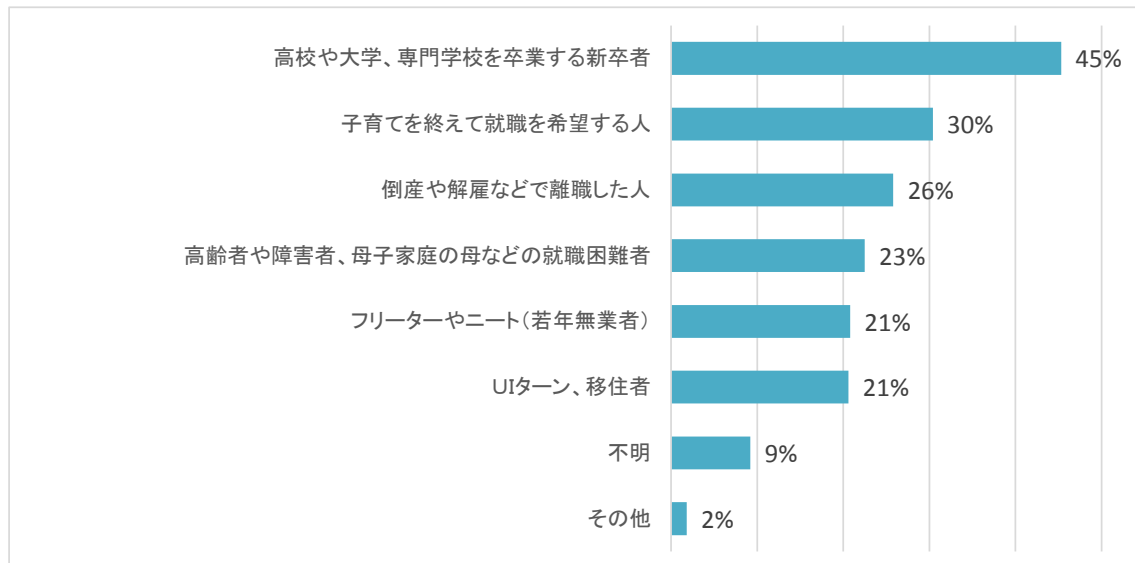
問17(雇用対策を強化すべき方)

雲仙市では様々な雇用対策に取り組んでいますが、今後、特に強化するべきと思われる対象は誰ですか。2つまで○印をつけてください。

「新卒者」が45%で最も高い。子育てを終わった人や離職者などの支援も必要

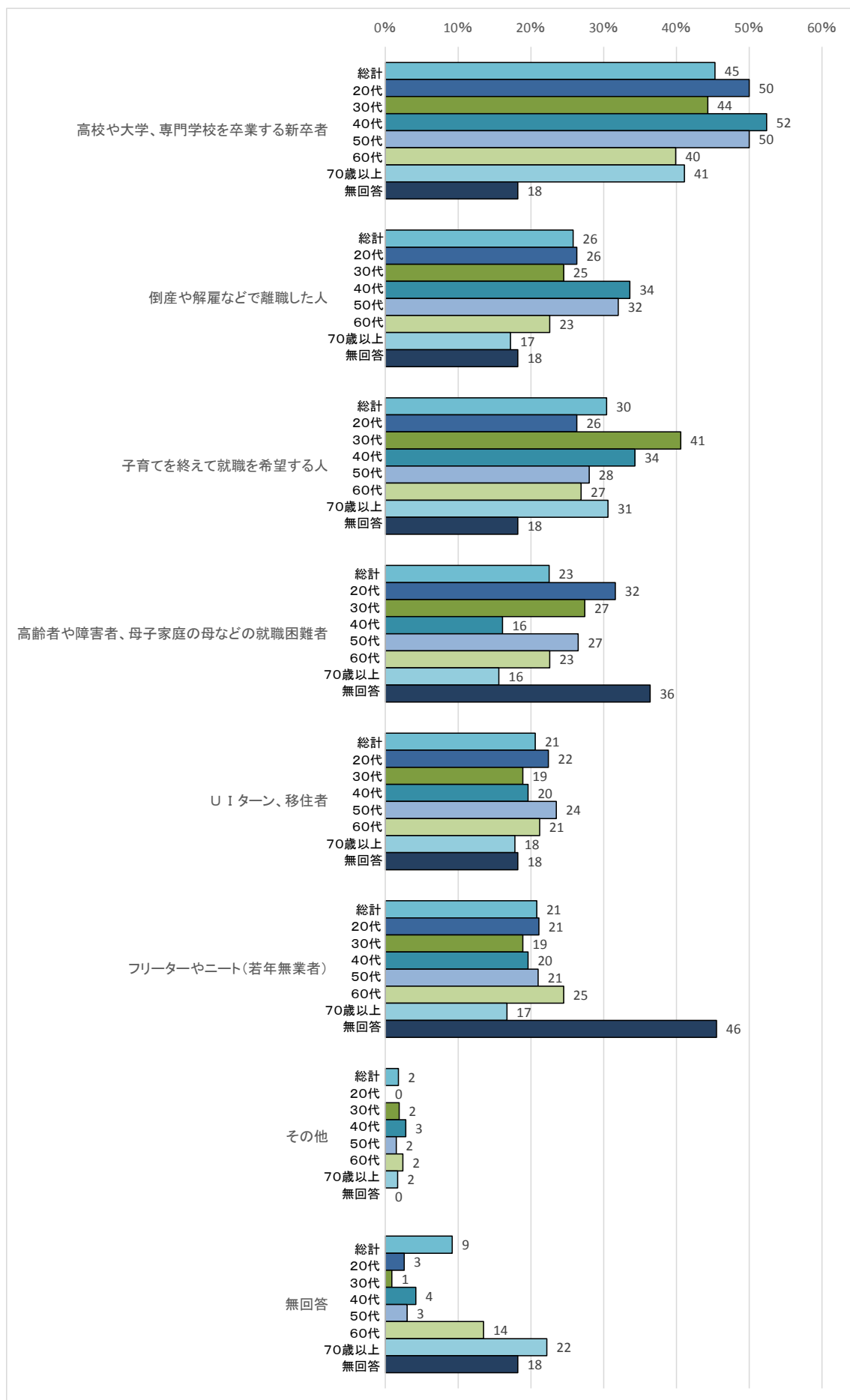
全体傾向		「新卒者」が45%と2番目に多かった「子育てを終えた人」に比べ15ポイント高い。
クロス集計	年代別	「新卒者」は各年代で高いが、40代、50代、20代で特に高い。「子育てを終えた人」は当事者と想定される30代が高い。「倒産や解雇等により離職した人」は40代、50代で高くなっている。
	地域別	「新卒者」は各地域で高いが特に南串山町、瑞穂町で50%以上となっている。「子育てを終えた人」はファミリー層が高い愛野町で最も高い。

(全体傾向)

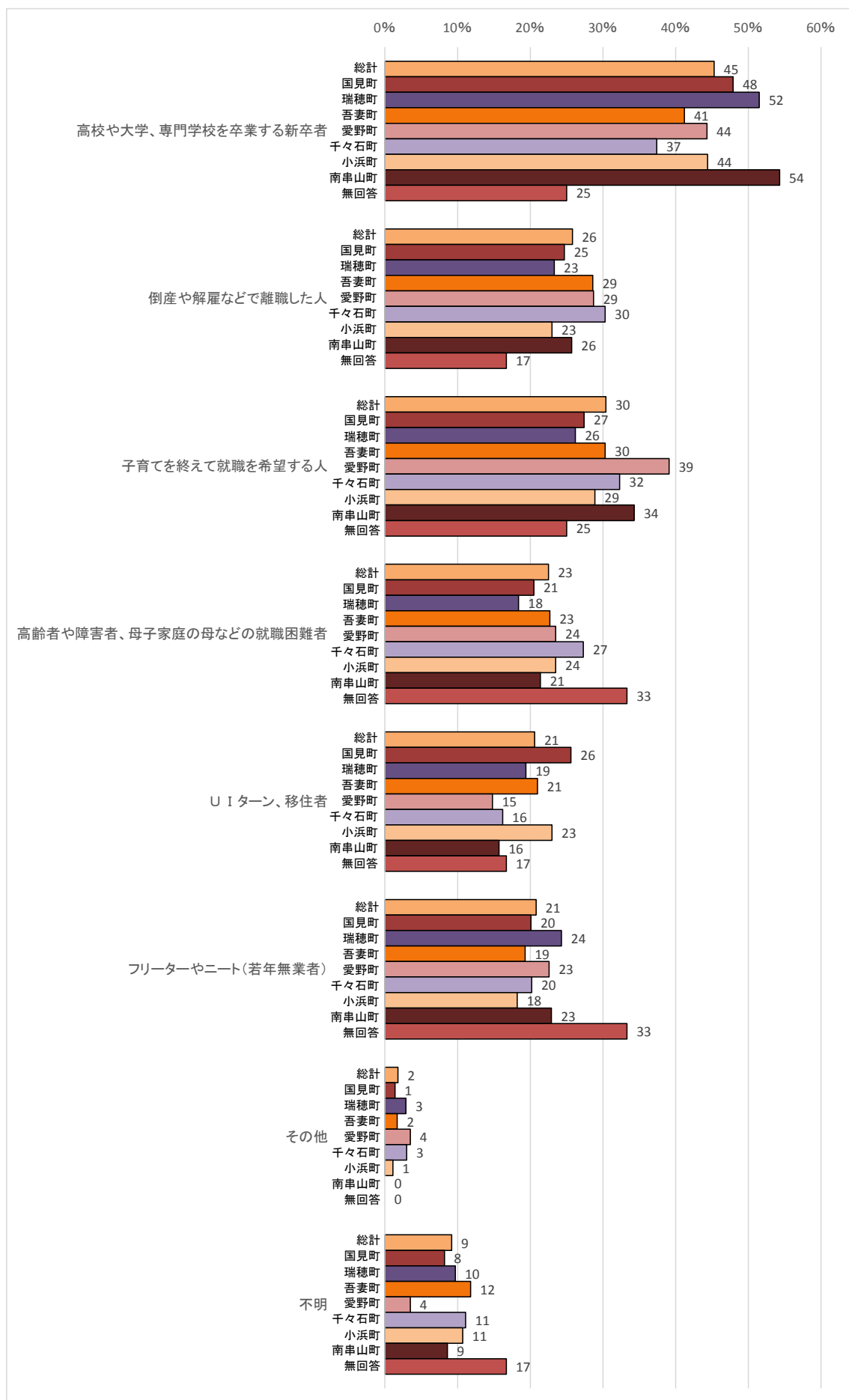


N=924

(年代別クロス)



(地域別クロス)



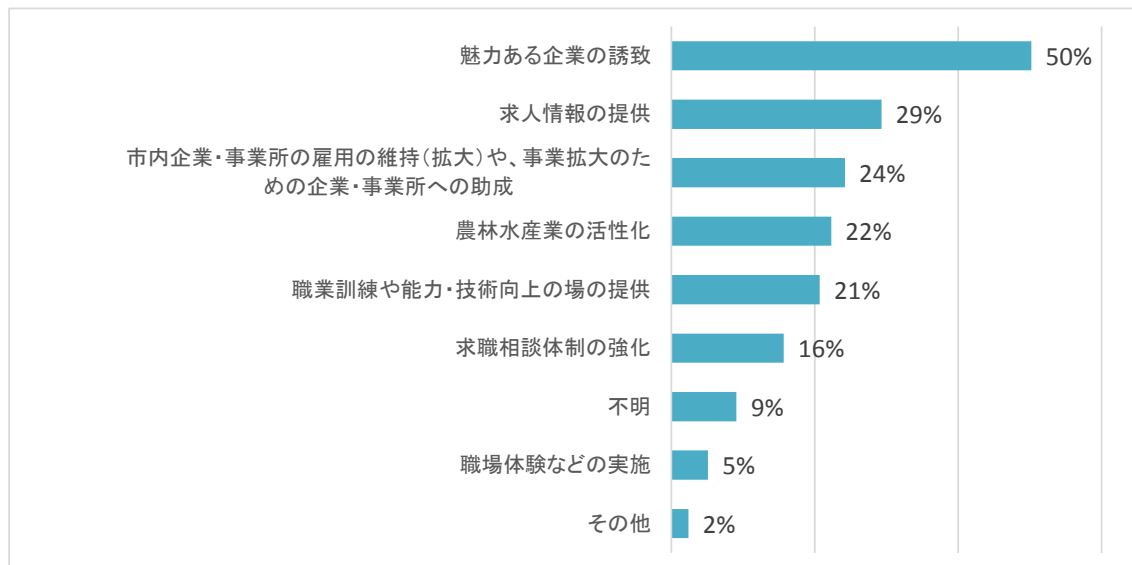
問18(今後必要な雇用対策)

雲仙市内での雇用対策として、今後、どのような取り組みが必要と思いますか。2つまで○印をつけてください。

「魅力ある企業の誘致」が2位以下を大きく引き離しトップ

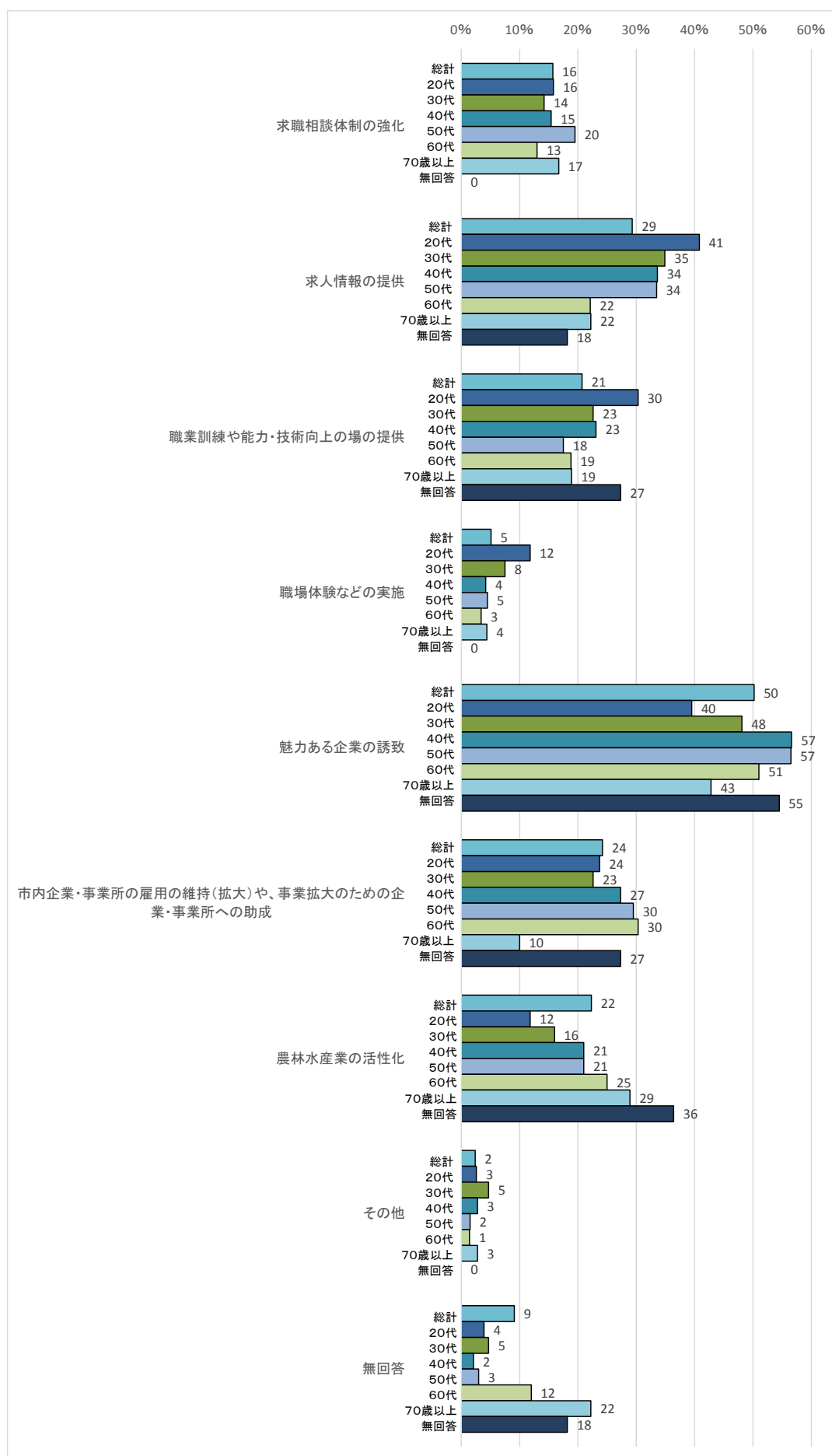
全体傾向		「魅力ある企業の誘致」が50%と2位の「求人情報の提供」を大きく引き離しトップ。「求人情報」、「企業・事業所への助成」、「農林水産業の活性化」、「職業訓練等の場の提供」が20%台で続いている。
クロス集計	年代別	「魅力ある企業の誘致」は40代、50代で最も高い。「求人情報」は若い年代が高く、「農林水産業の活性化」は高年代ほど高い。
	地域別	「魅力ある企業の誘致」は各地域で高く、中でも瑞穂町、愛野町、千々石町で55%を超える。「求人情報」は愛野町が40%と2位に比べ6ポイント高い。

(全体傾向)

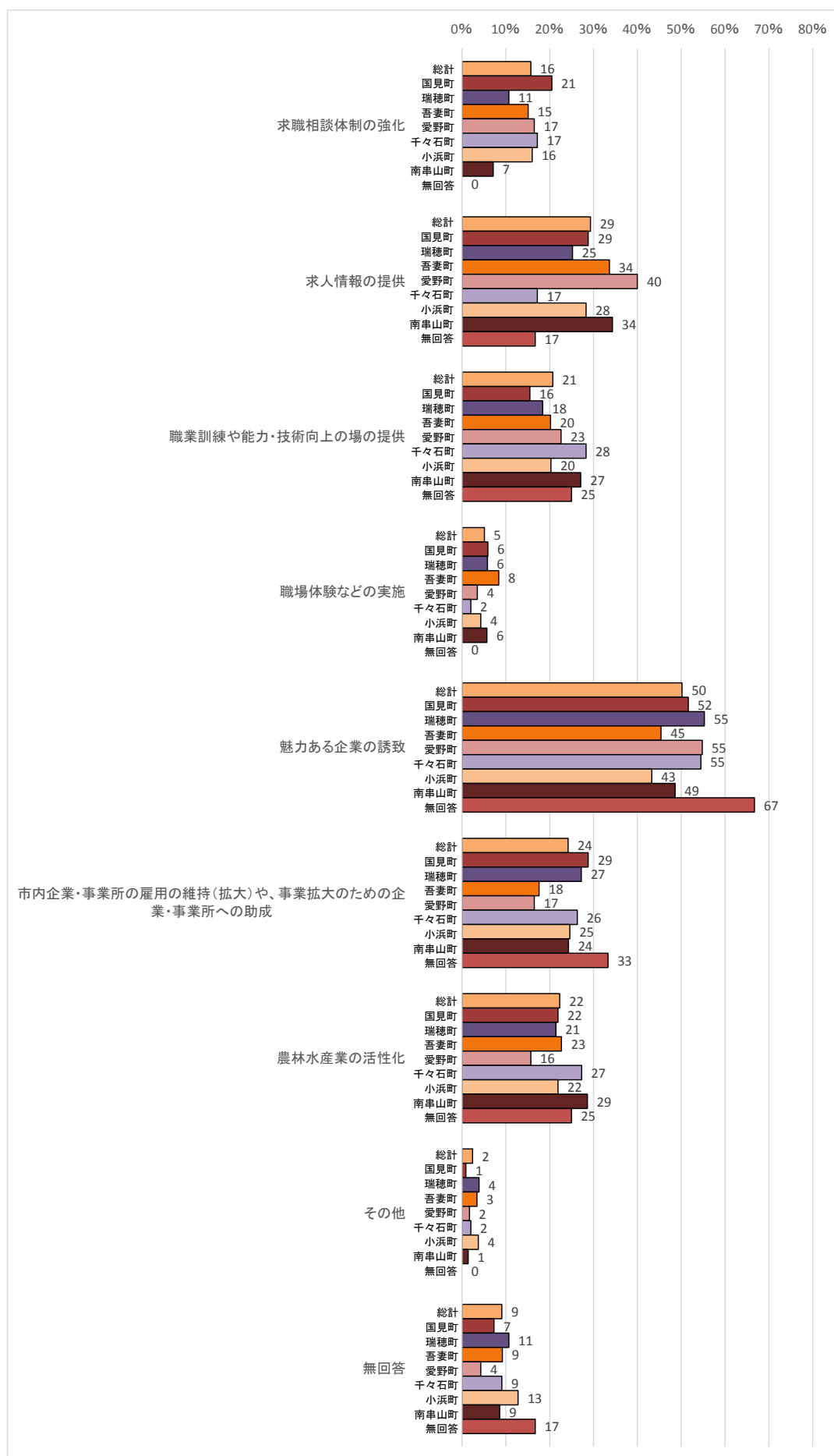


N=924

(年代別クロス)



(地域別クロス)



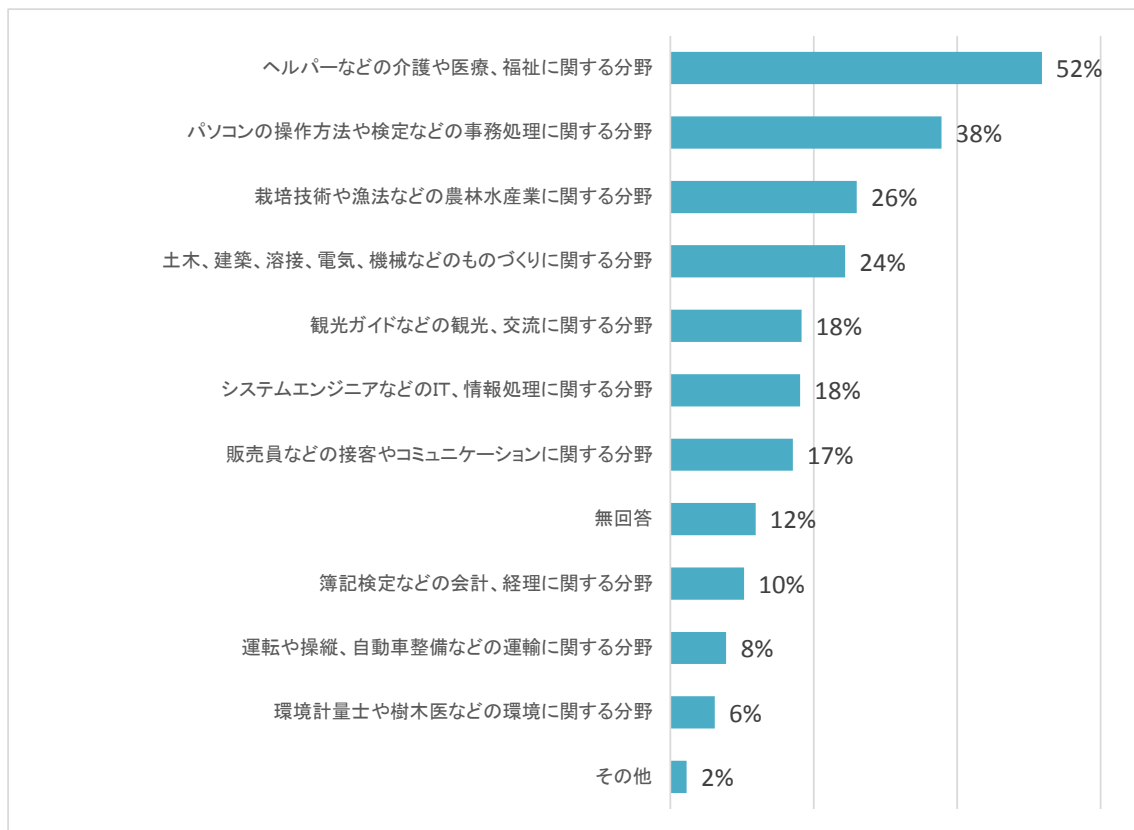
問19(技術や資格を身に付ける講習会の意向)

今後雲仙市で技術や資格を身に付ける講習会を実施するとした場合どのような分野を希望しますか。(3つまで○)

「医療、福祉」、「事務処理」などのニーズが高い

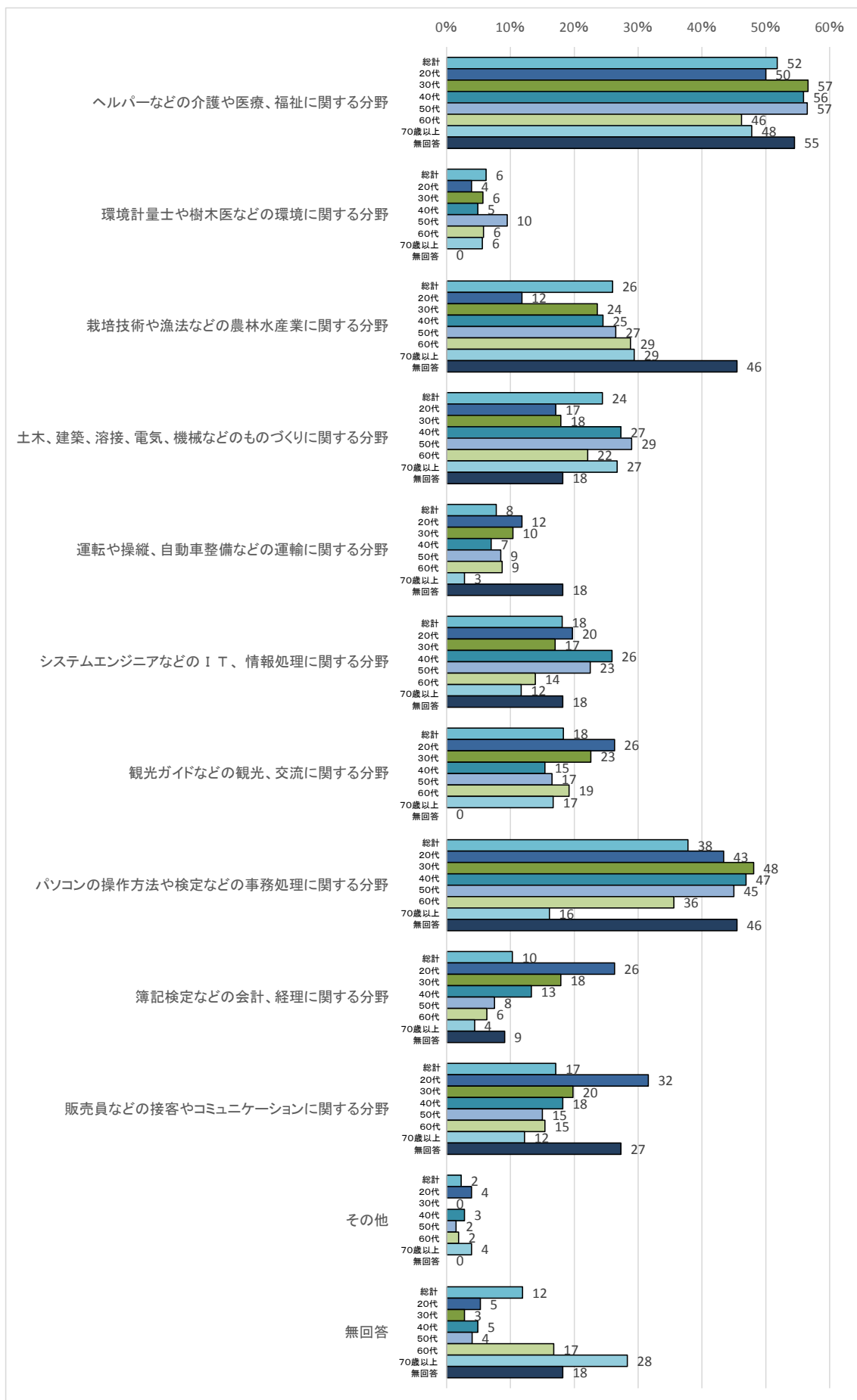
全体傾向		「医療・福祉」に関する分野が 52%で最も高く、「パソコン等の事務処理」に関する分野が 38%で続いている。
クロス集計	年代別	「医療・福祉」、「パソコン等の事務処理」とも 30 代～50 代にかけてニーズが高い。
	地域別	「医療・福祉」は南串山町で最も高く、吾妻町、瑞穂町が続いている。「パソコン等の事務処理」はファミリー層が高い愛野町が最も高い。

(全体傾向)

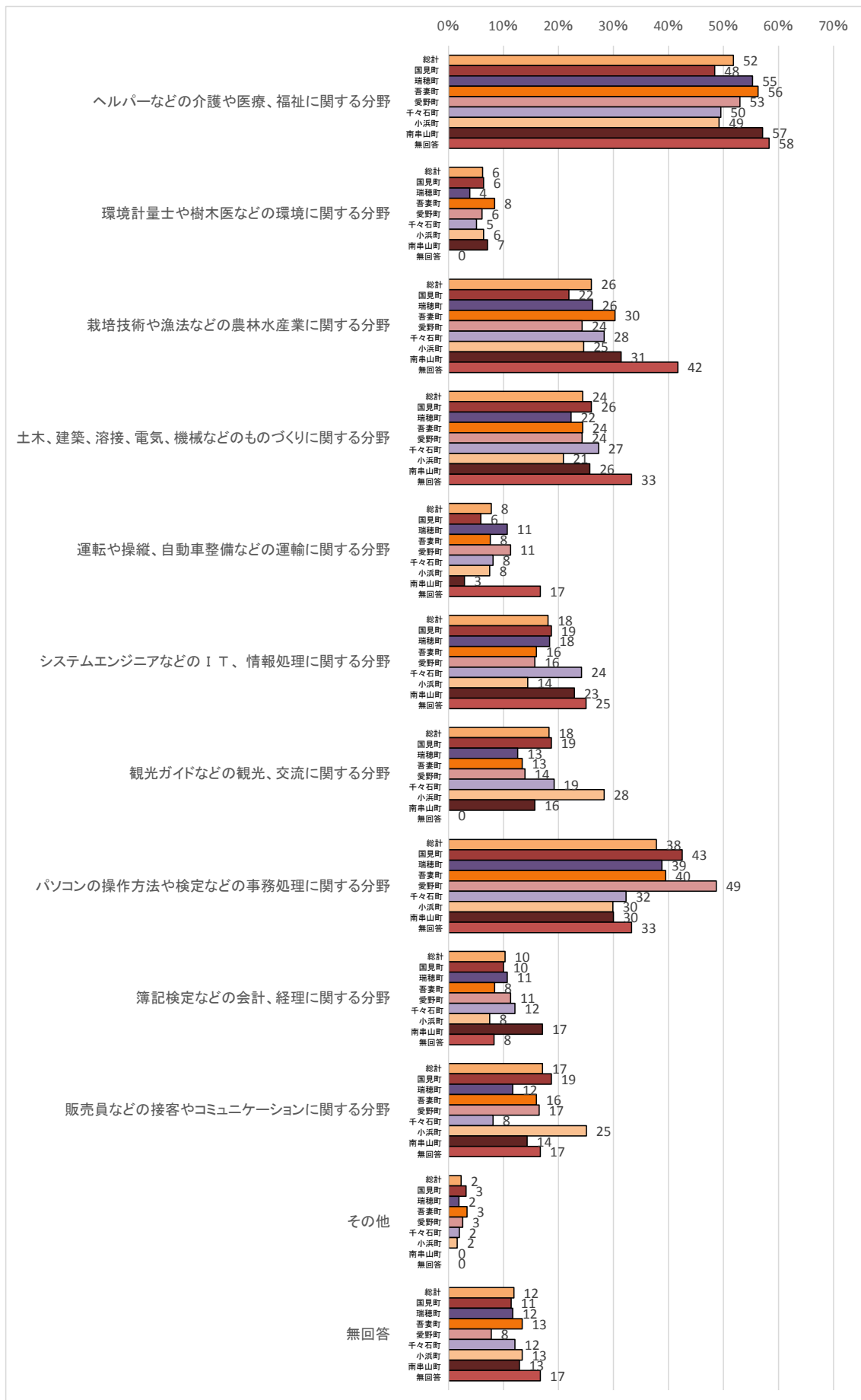


N=924

(年代別クロス)



(地域別クロス)



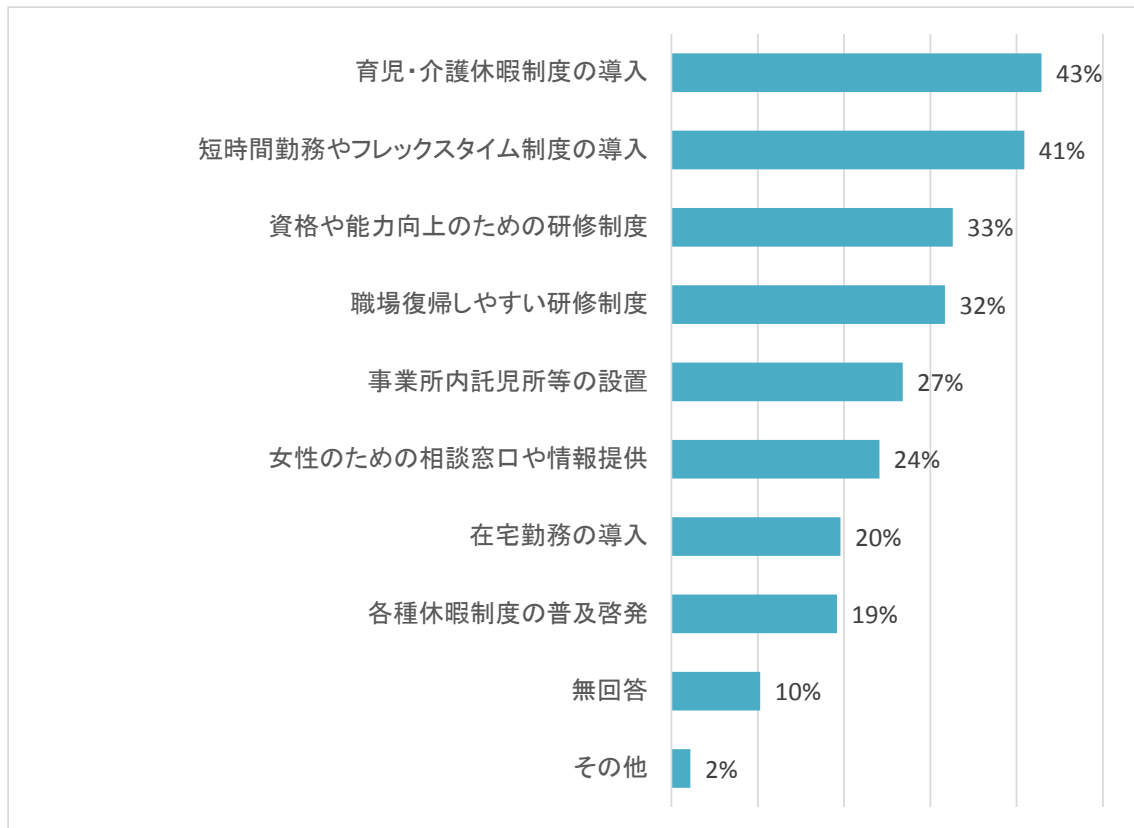
問20(雲仙市が力を入れるべき女性の就業環境の向上対策)

現在、国では女性の就業環境の向上に向けた取り組みが進められています。雲仙市で今後力を入れるべき取り組みは何だと思われますか。(3つまで○)

「育児休暇制度の導入」、「短時間勤務やフレックスタイム制度の導入」のニーズが高い

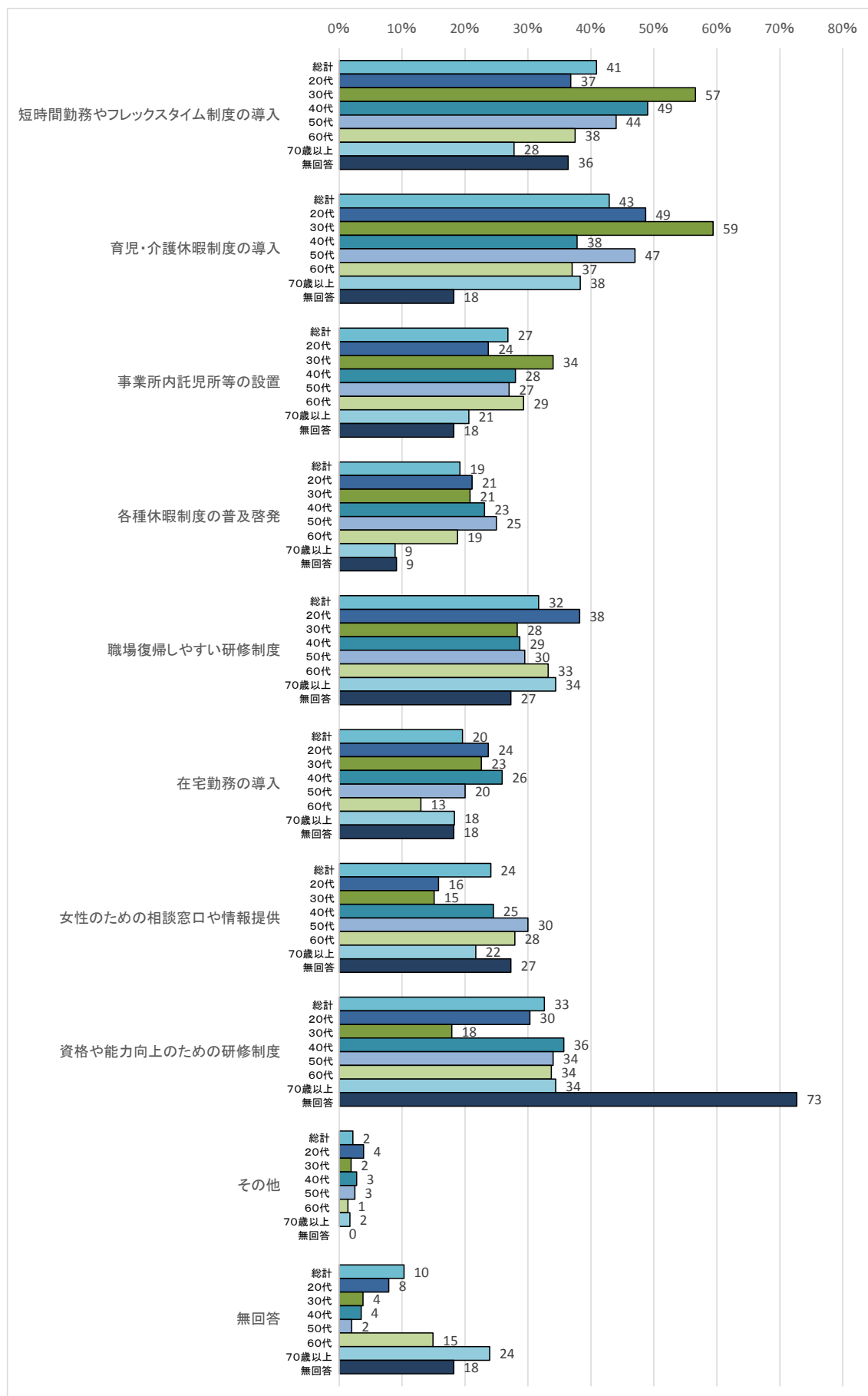
全体傾向		「育児休暇制度の導入」が43%で最も高く、「短時間勤務やフレックスタイム制度の導入」が41%で続いている。
クロス集計	年代別	「育児休暇制度の導入」、「短時間勤務やフレックスタイム制度の導入」とも、当事者である30代のニーズが最も高い。
	地域別	「育児休暇制度の導入」は、吾妻町、愛野町、「短時間勤務やフレックスタイム制度の導入」は瑞穂町、小浜町で高い。

(全体傾向)

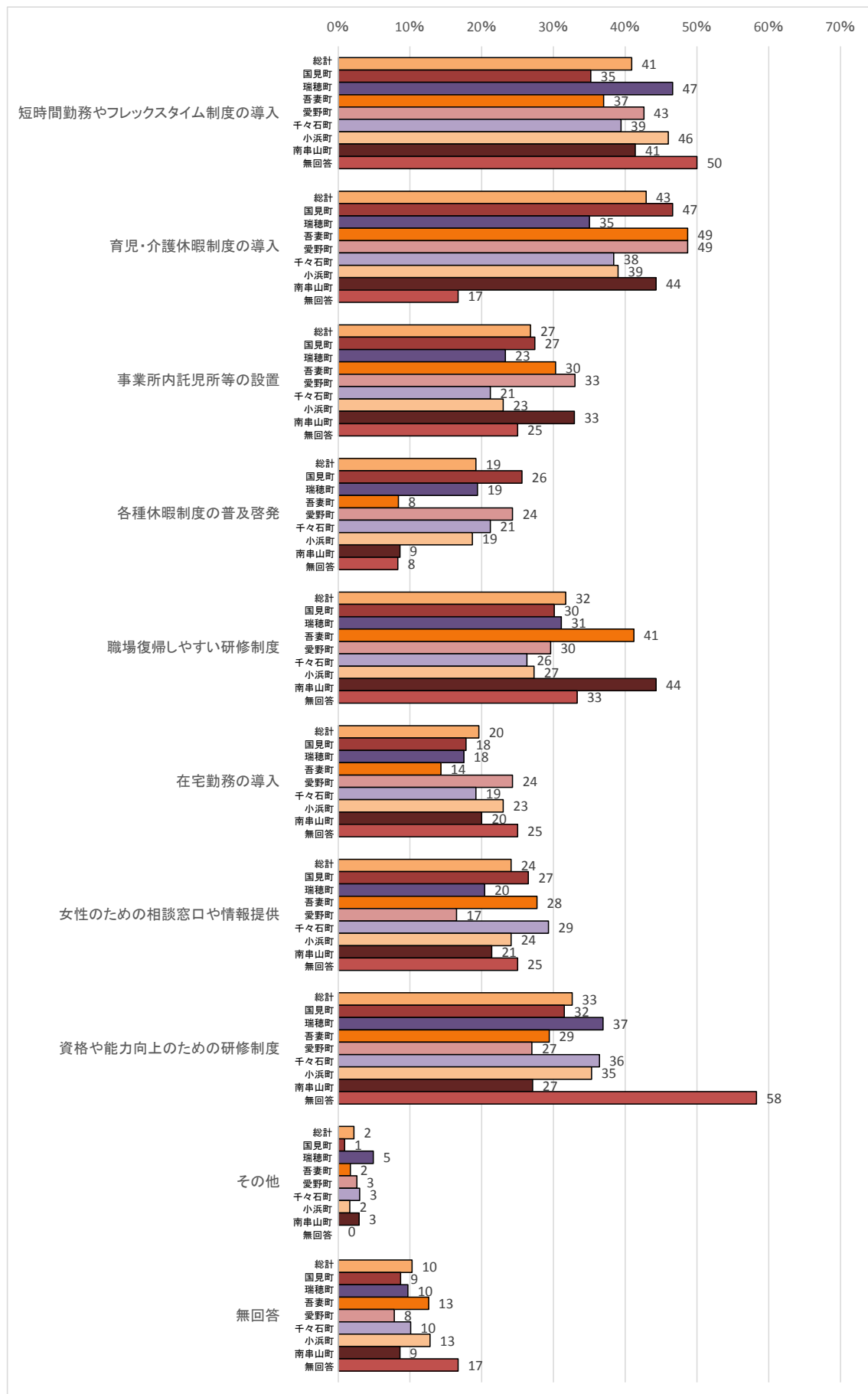


N=924

(年代別クロス)



(域別クロス)



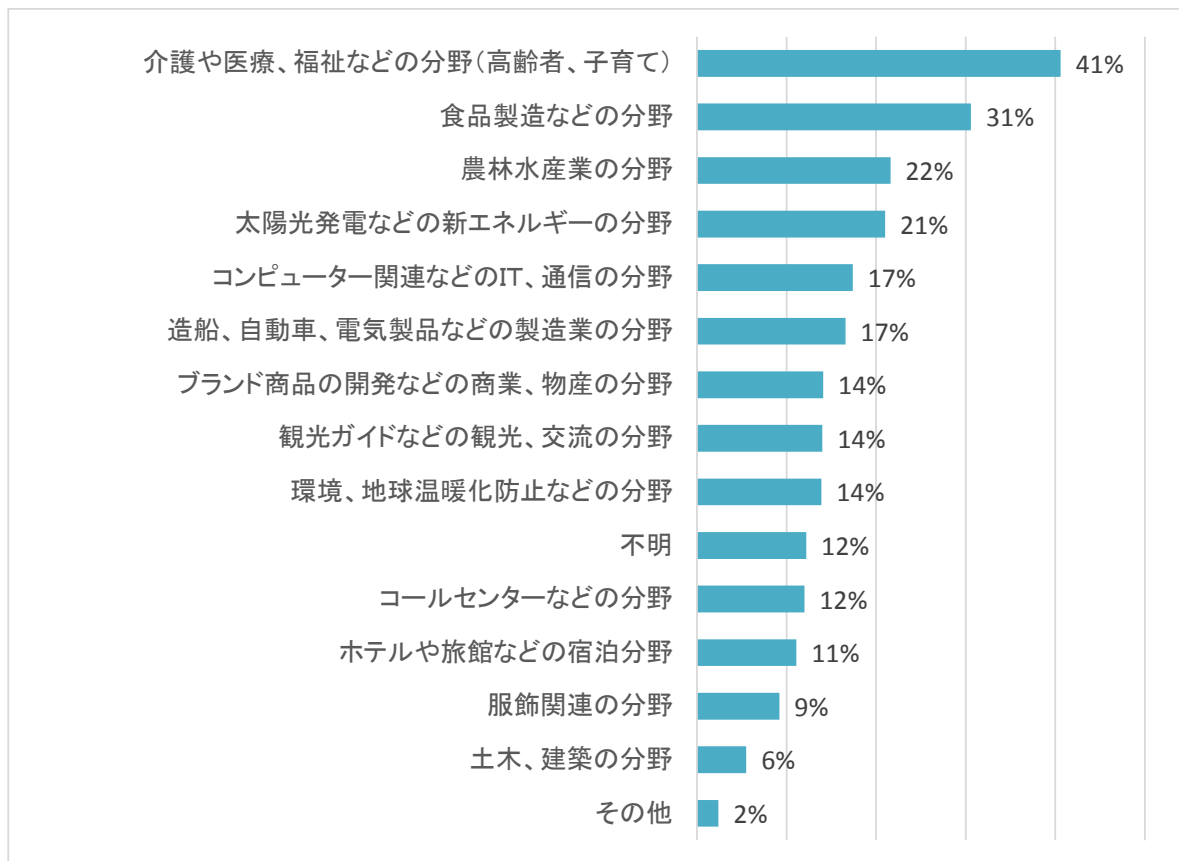
問21(誘致すべき企業)

雲仙市では企業誘致を進めています、どのような企業が誘致できれば、よいと思いますか。
ご自身が働きたい分野も含めて(3つまで○)

「介護、医療、福祉」、「食品製造」、「農林水産業」、「新エネルギー」等のニーズが高い

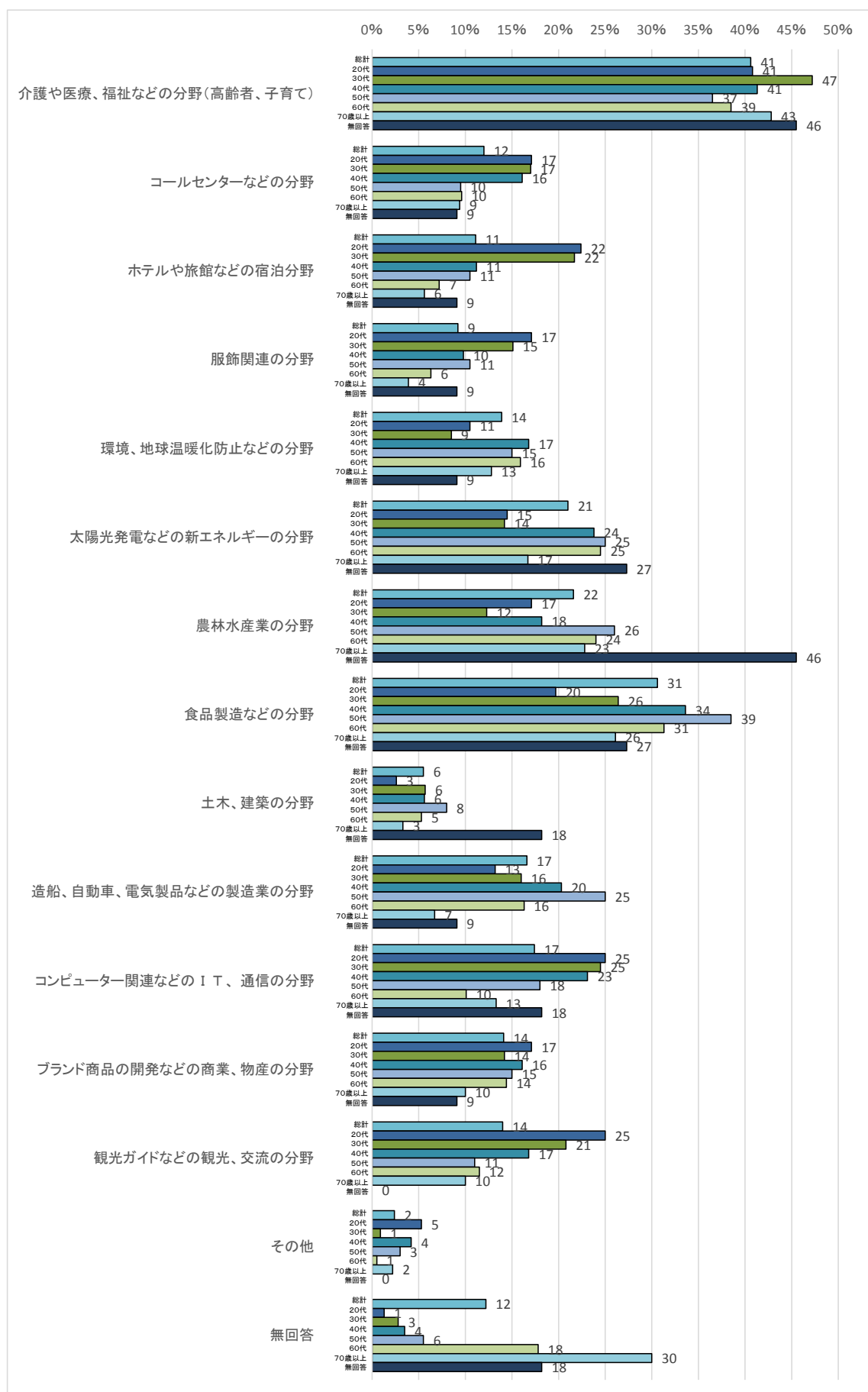
全体傾向		「介護、医療、福祉」が41%で最も高く、以下、「食品製造」、「農林水産業」、「新エネルギー」の順となっている。「コールセンター」は12%と低い。
クロス集計	年代別	「介護、医療、福祉」は30代が最も高い。「食品製造」は50代を中心とし30代～60代でニーズが買い。
	地域別	「介護、医療、福祉」は各地域で高い。「食品製造」は愛野町、「新エネルギー」は南串山町で最も高くなっている。

(全体傾向)

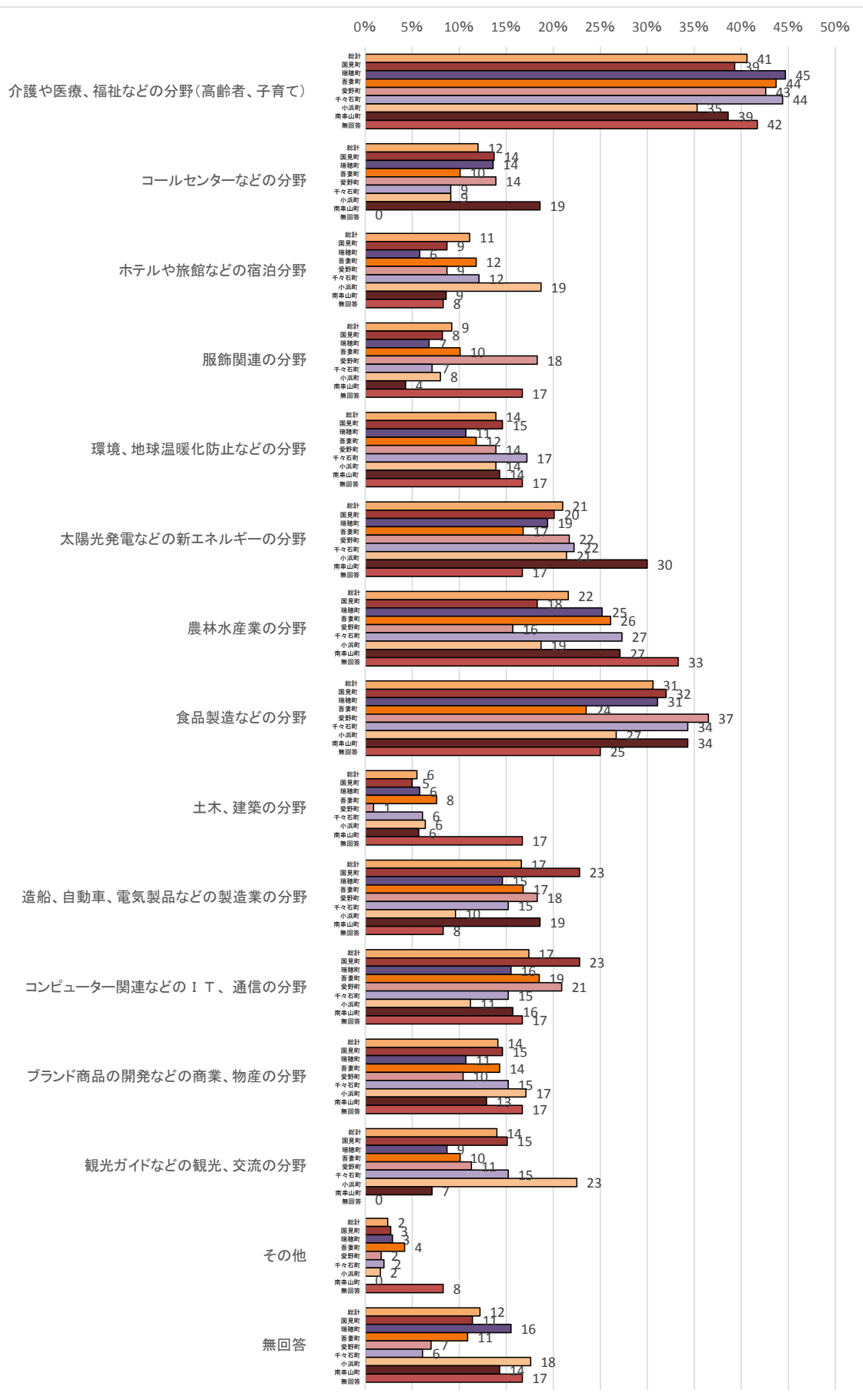


N=924

(年代別クロス)



(地域別クロス)



4.『雲仙市の交通』について

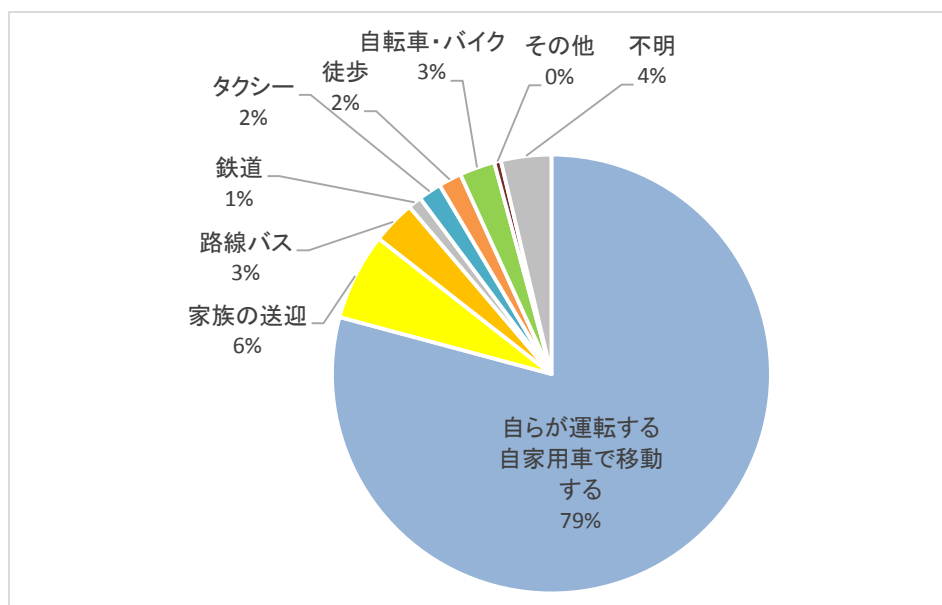
問22(日常の移動手段)

あなたの日常での移動手段について、最も高いものは何ですか？(1つに○)

自家用車(自運転)が 79%。高年代では送迎や路線バスなどの自家用車以外が 50%

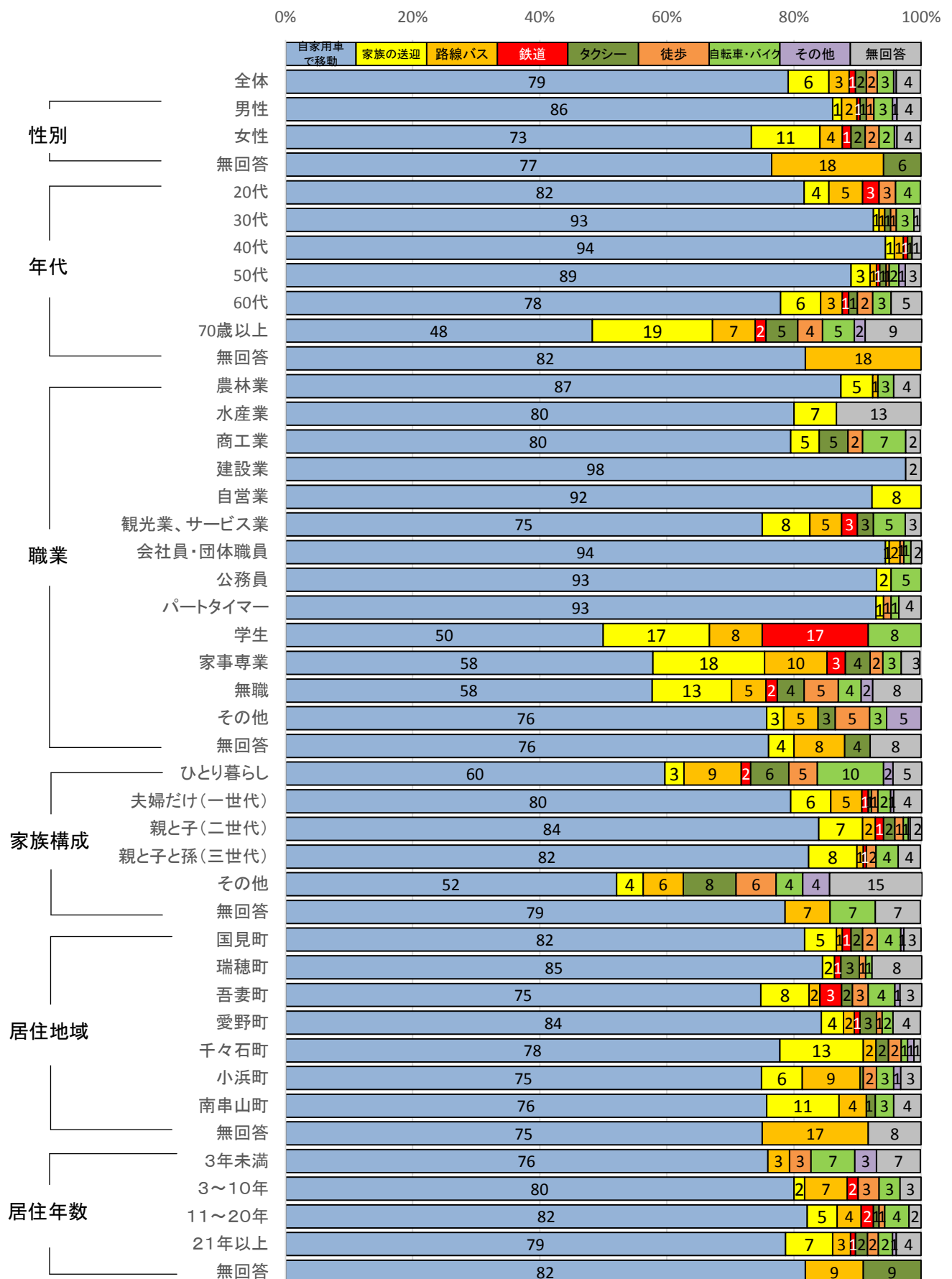
全体傾向		「自家用車（自運転）」が 73%で最も高く、「家族の送迎」が 6%、「路線バス」及び「自転車・バイク」が 3%で続いている。
クロス集計	男女別	男女とも「自家用車（自運転）」の割合が最も高いが、女性 79%に対し男性 86%と男性の自家用車率が高い。女性は「家族の送迎」が 11%と平均より 5 ポイント高い。
	年代別	全ての年代で「自家用車（自運転）」の割合が最も高く、30 代、40 代では 90%を超える。70 歳以上では「家族の送迎」や「路線バス」の割合が高くなる傾向がある。
	職業別	全ての職業で「自家用車（自運転）」の割合が最も高いが、学生、専業主婦、無職ではその割合が 50%台と低い。
	家族構成別	全ての構成で「自家用車（自運転）」の割合が最も高いが、一人暮らしではその割合が 50%台と低い。
	地域別	全ての地域で「自家用車（自運転）」の割合が最も高いが、特に、国見町、瑞穂町、愛野町では 80%を超える高い割合にある。
	居住年数別	全ての年数で「自家用車（自運転）」の割合が最も高く、年数別による大きな傾向の違いは見られない。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



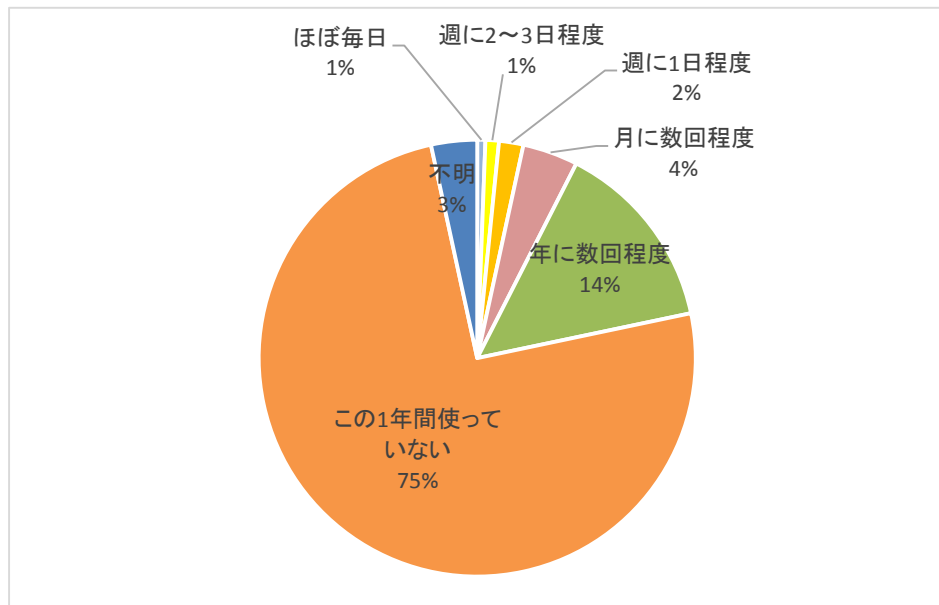
問23(路線バスの利用状況)

あなたはこの1年間に路線バスをどの程度利用しましたか？(1に○)

「1 年間未利用」が 75%で最も高く「年数回」を含めると 9 割がほとんどバスを利用していない

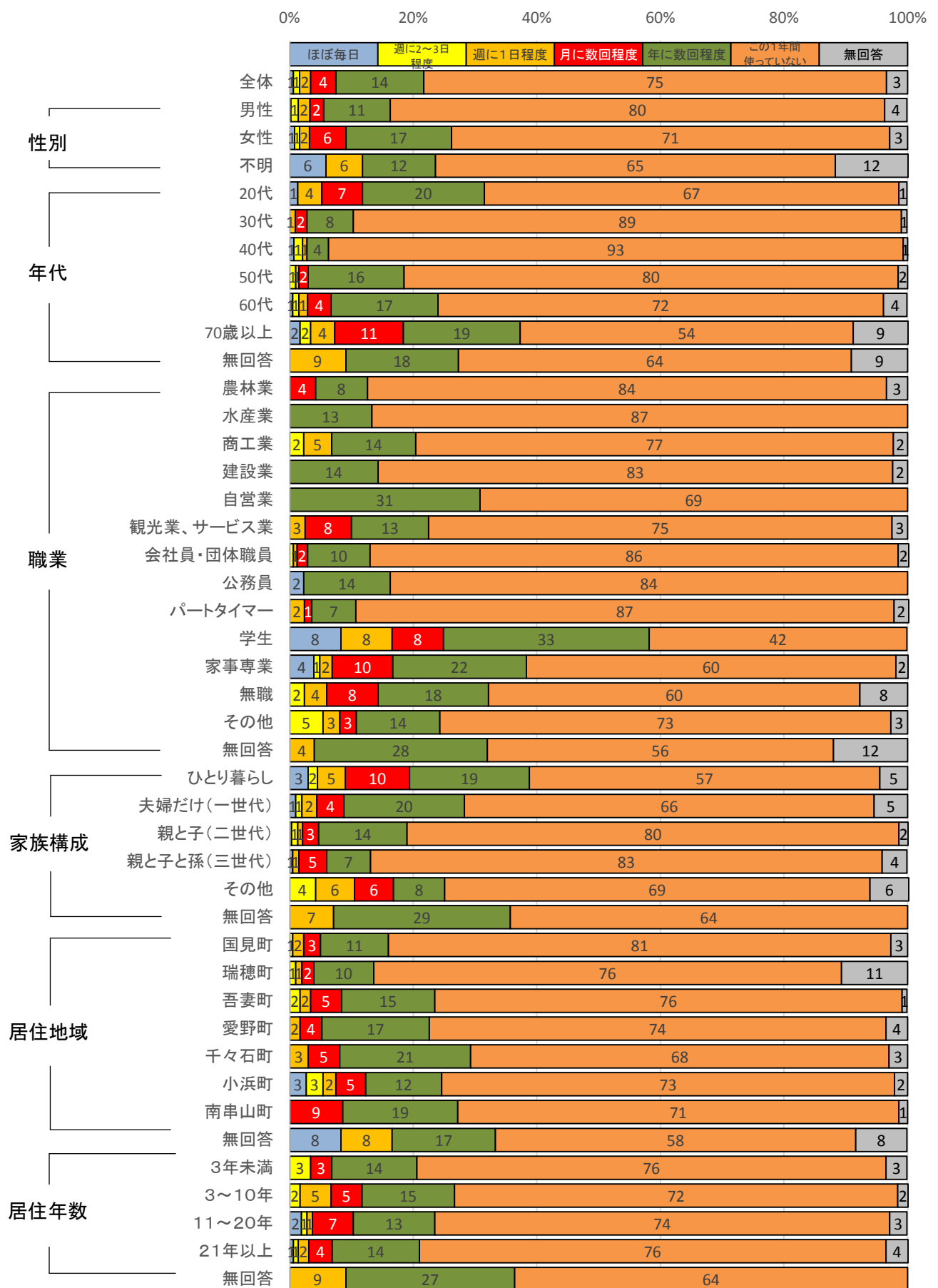
全体傾向		「1 年間未利用」が 75%で最も高く、「年数回程度」を含めると 90%程度がほとんどバスを利用していないことになる。週 1 回以上は 4%に止まる。
クロス集計	男女別	男女とも「1 年間未利用」の割合が最も高いが、その割合は女性に比べ男性が高い。
	年代別	全ての年代で「1 年間未利用」が最も高いが、年代が高くなるにつれてバス利用の割合が高くなり、70 代以上では 37%が年 1 回以上の利用にある。
	職業別	全ての職業で「1 年間未利用」の割合が最も高いが、家事専業と無職ではその割合が 60%と平均より 15 ポイント低い。
	家族構成別	全ての構成で「1 年間未利用」の割合が最も高いが、一人暮らしではその割合が 57%と低い。
	地域別	全ての地域で「1 年間未利用」の割合が最も高いが、特に国見町ではその割合が 81%と平均より 6 ポイント高い。
	居住年数別	全ての年数で「1 年間未利用」の割合が最も高い。年数による大きな傾向の違いは見られない。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



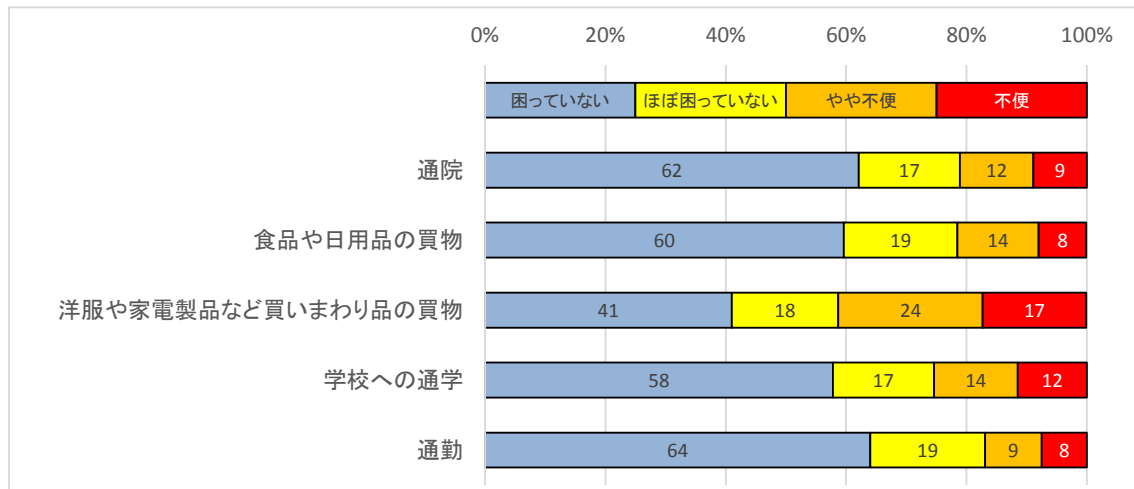
問24(日常生活の移動での不便)

あなたの日常生活の移動について、どのあたりに不便を感じますか？(1つに○)

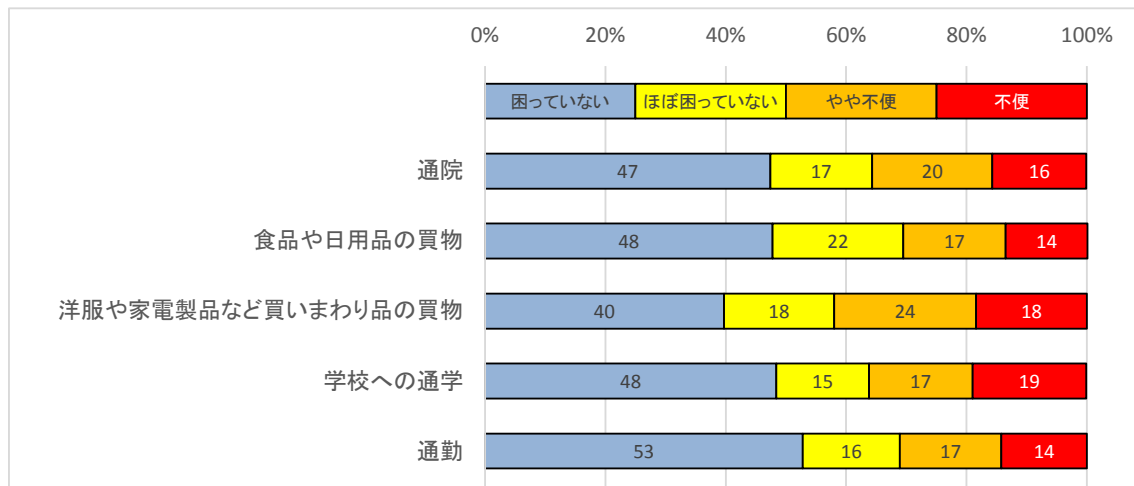
全ての項目で「困っていない」が最も高いが、「買い回り品」の利便度は低い

全体傾向		全ての項目で「困っていない」が最も高いが、「買い回り品」はやや不便と不便の合計が41%と他に比べ高い傾向にある。また、市内移動と市外移動を比較すると相対的に市外移動の利便度が低い。
クロス集計	年代別	全項目について、70歳以上の世代の利便度が他の年団と比べて低い傾向にある。(市内移動、市外移動共)
	地域別	全項目について、小浜町、南串山町の利便度が他町と比べて低い傾向にある。(市内移動、市外移動共)

(市内での移動)

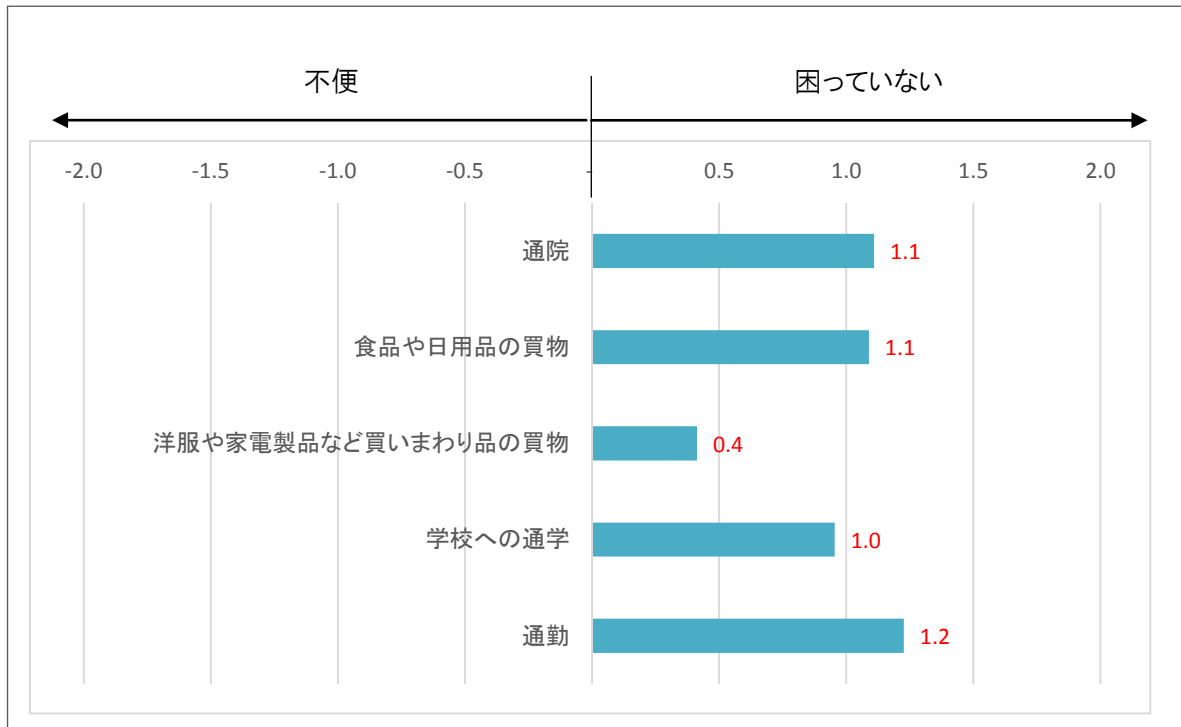


(雲仙市外への移動)

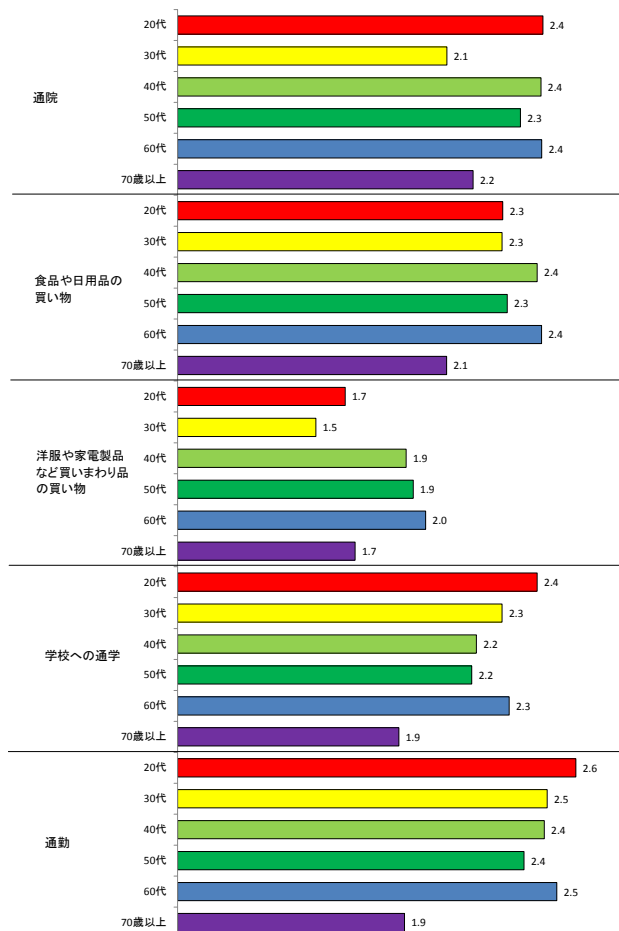


(市内での移動：指数化)

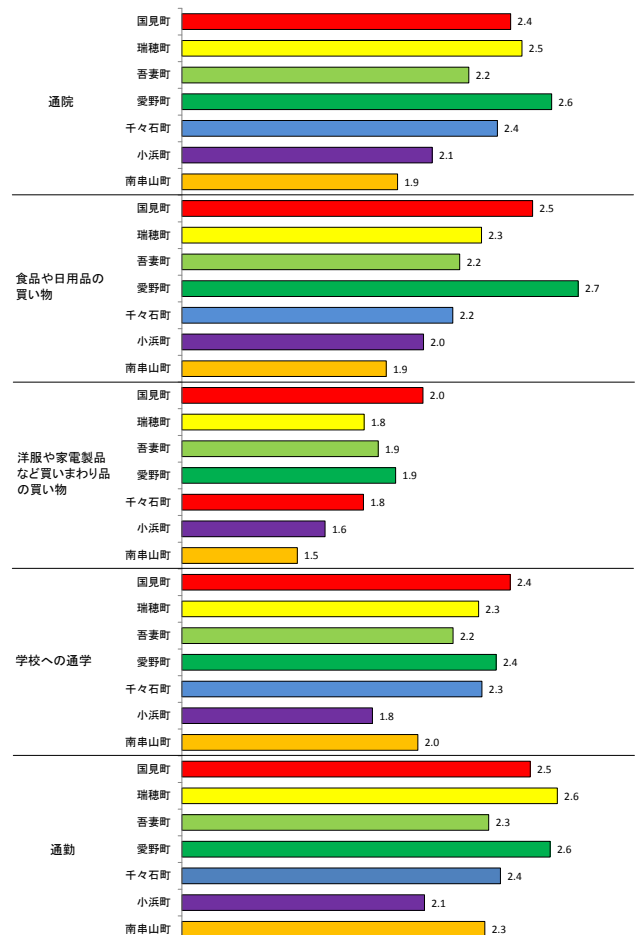
※ (重視する×3 + やや重視する×2 + さほど重視しない×1 + 重視しない×0) / 回答数



(年代別：指数化)

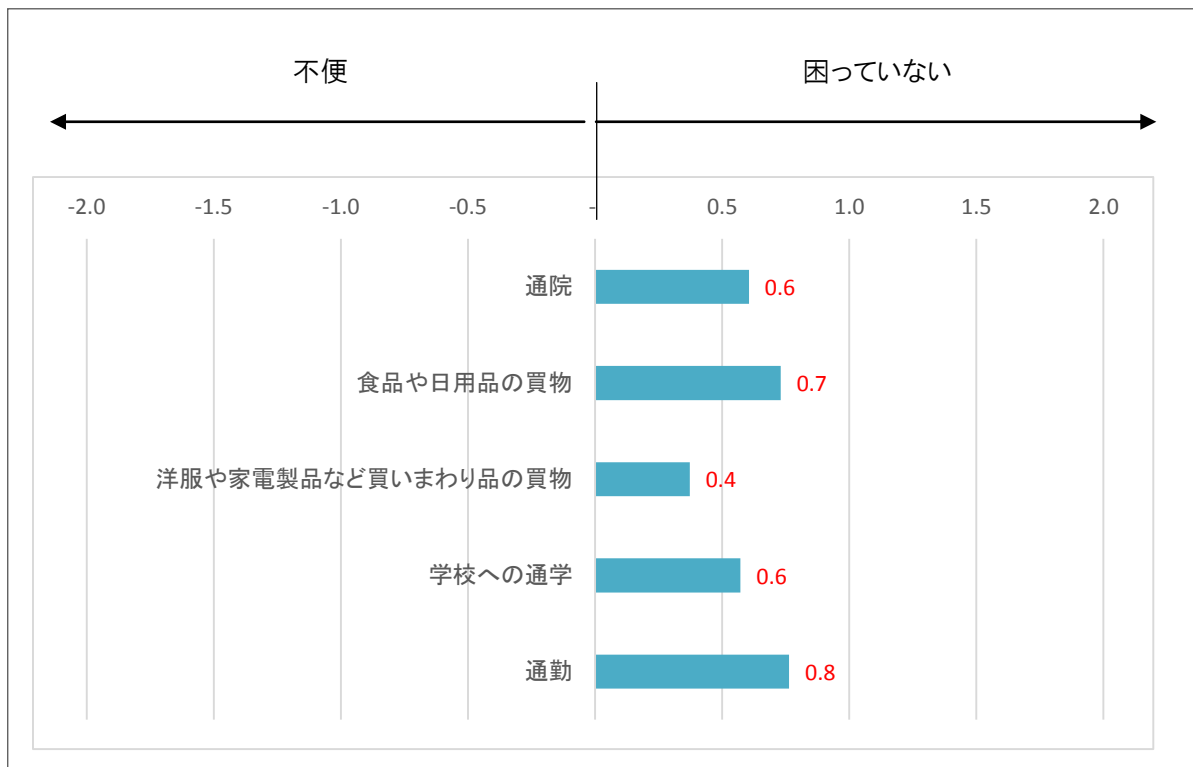


(地域別：指数化)

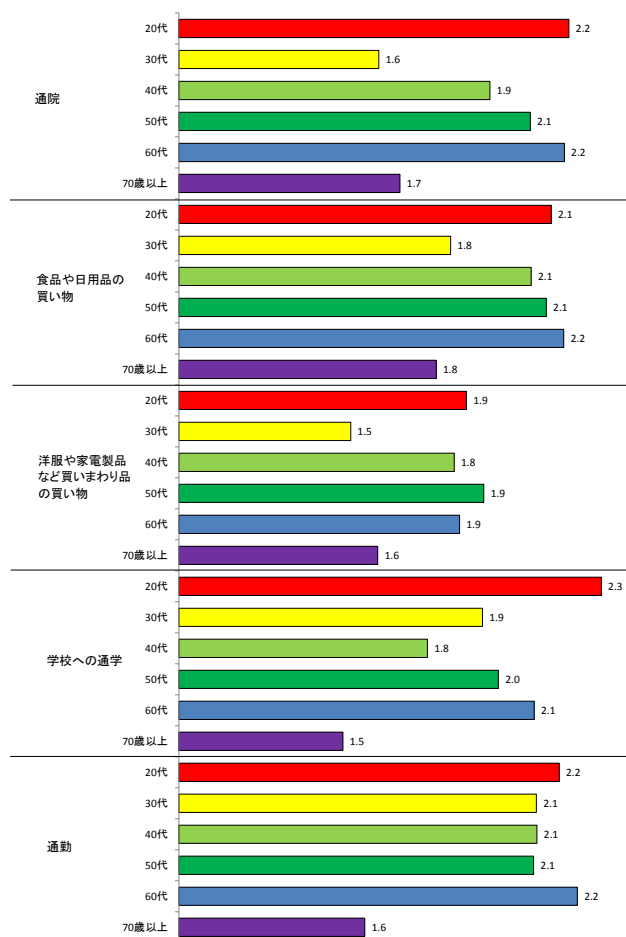


(雲仙市外への移動：指数化)

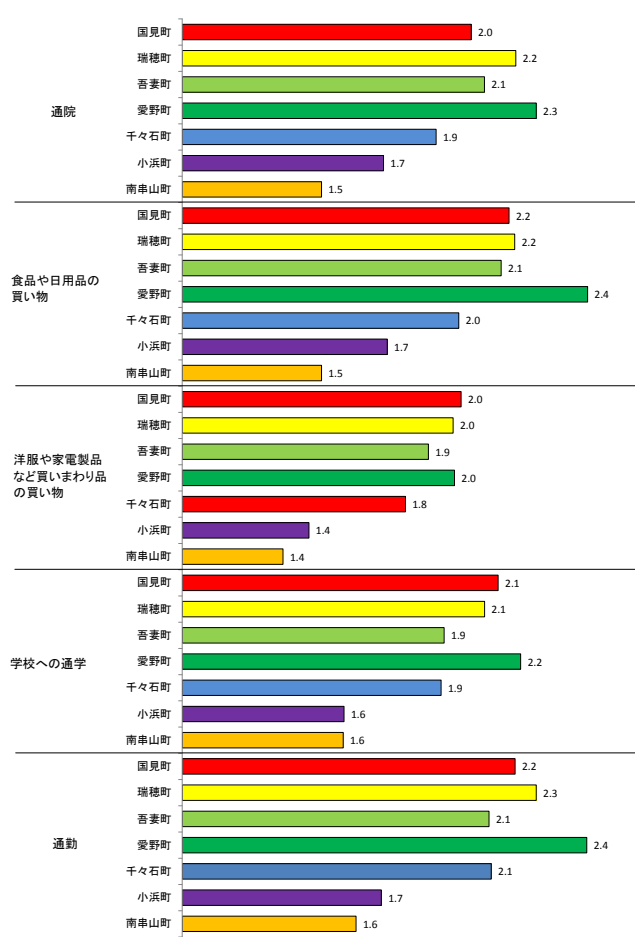
※ (重視する×3 + やや重視する×2 + さほど重視しない×1 + 重視しない×0) / 回答数



(年代別：指数化)



(地域別：指数化)



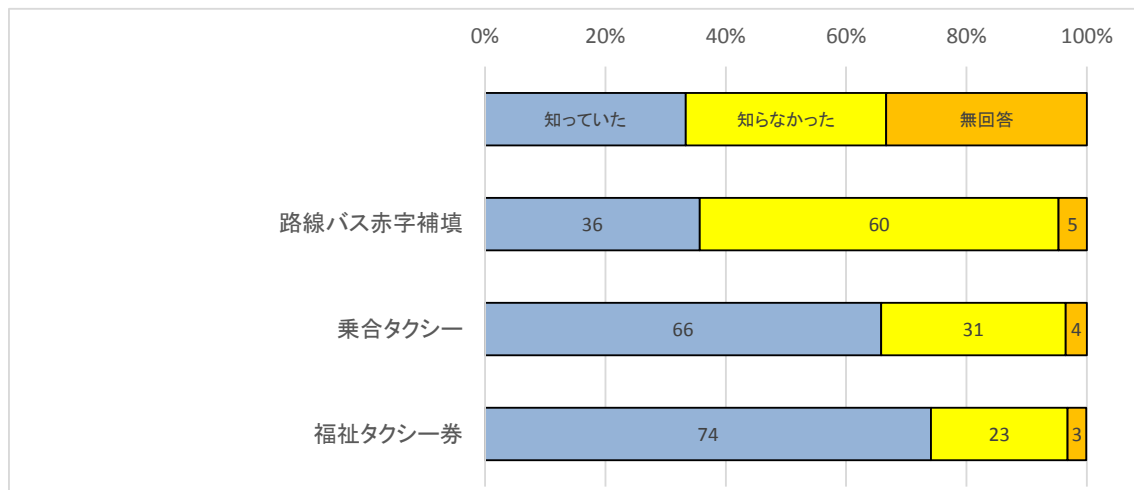
問25(公共交通等の移動に対する支援策の認知度)

現在雲仙市が取り組んでいる公共交通や移動に関する各種支援策に下記のものがあります。
「知っていた」、「知らなかった」に○印をつけてください。

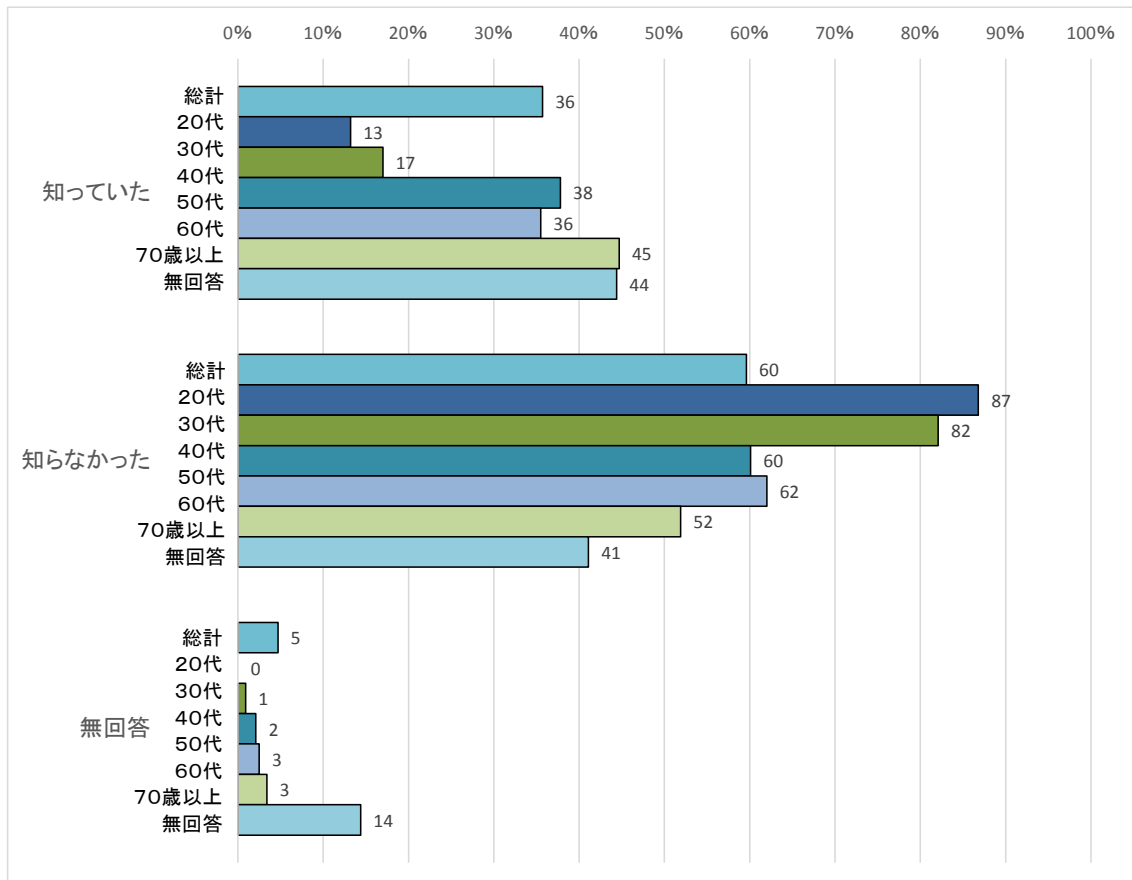
「路線バス赤字補填」の認知度は 36%に止まる

全体傾向		「乗合タクシー」と「福祉タクシー券」の認知度は 70%前後と高いが、「路線バス赤字補填」は 36%に止まる。
クロス集計	年代別	「路線バス赤字補填」については、認知度は 20 代、30 代でそれぞれ 13%、17%と他の年代よりも圧倒的に低い。 「乗合タクシー」、「福祉タクシー券」については、20 代、30 代では、50%前後、40 代以上で 70%前後と同様の傾向にある。
	地域別	「路線バス赤字補填」については、認知度は国見町、吾妻町で 30%前後と最も低い。 「乗合タクシー」、「福祉タクシー券」については、いずれも愛野町での認知度が他の町と比べて低い。

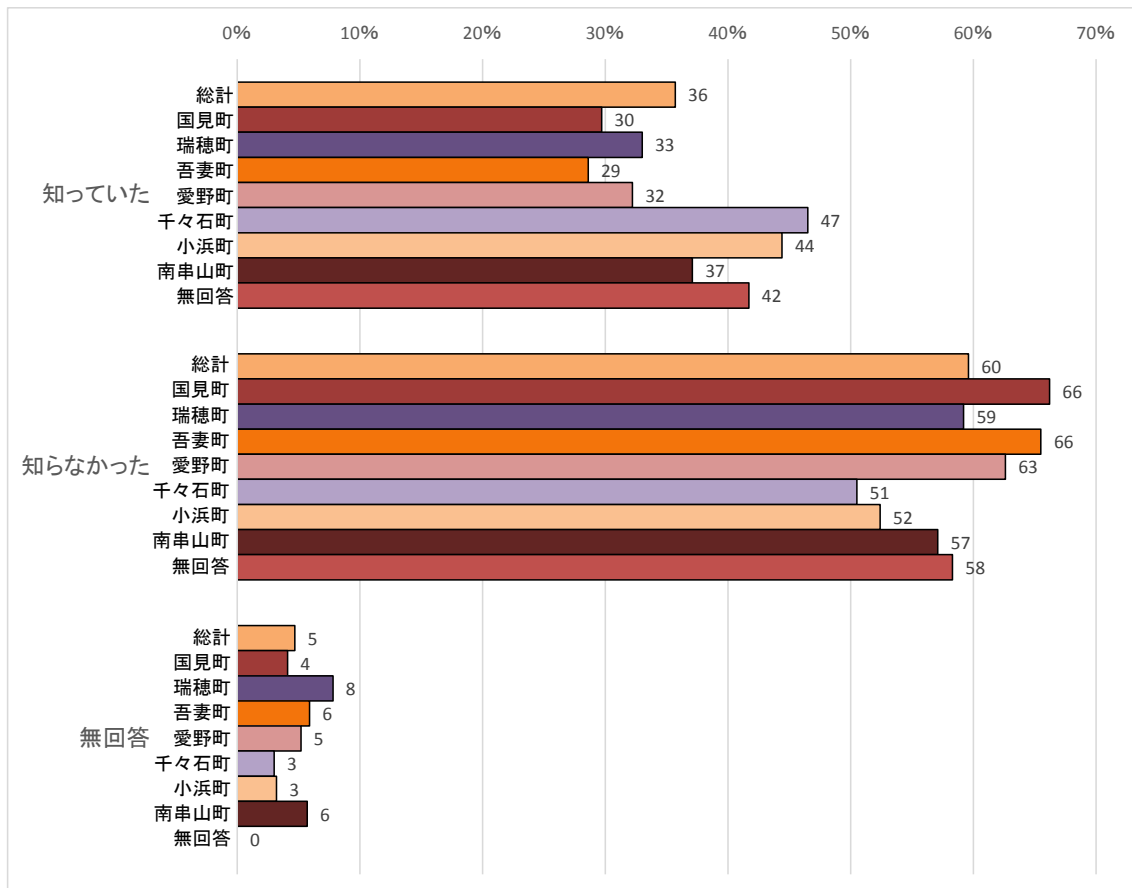
(全体傾向)



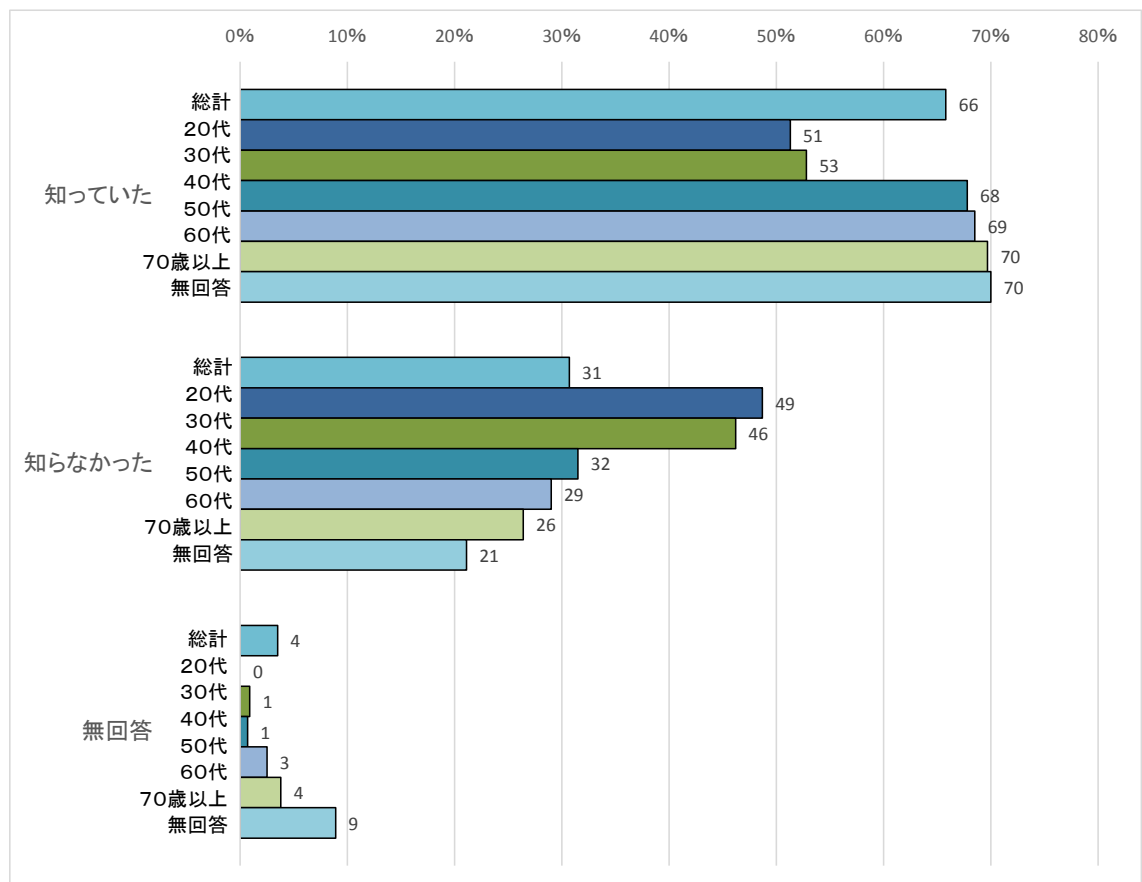
(路線バス赤字補填：年代別クロス)



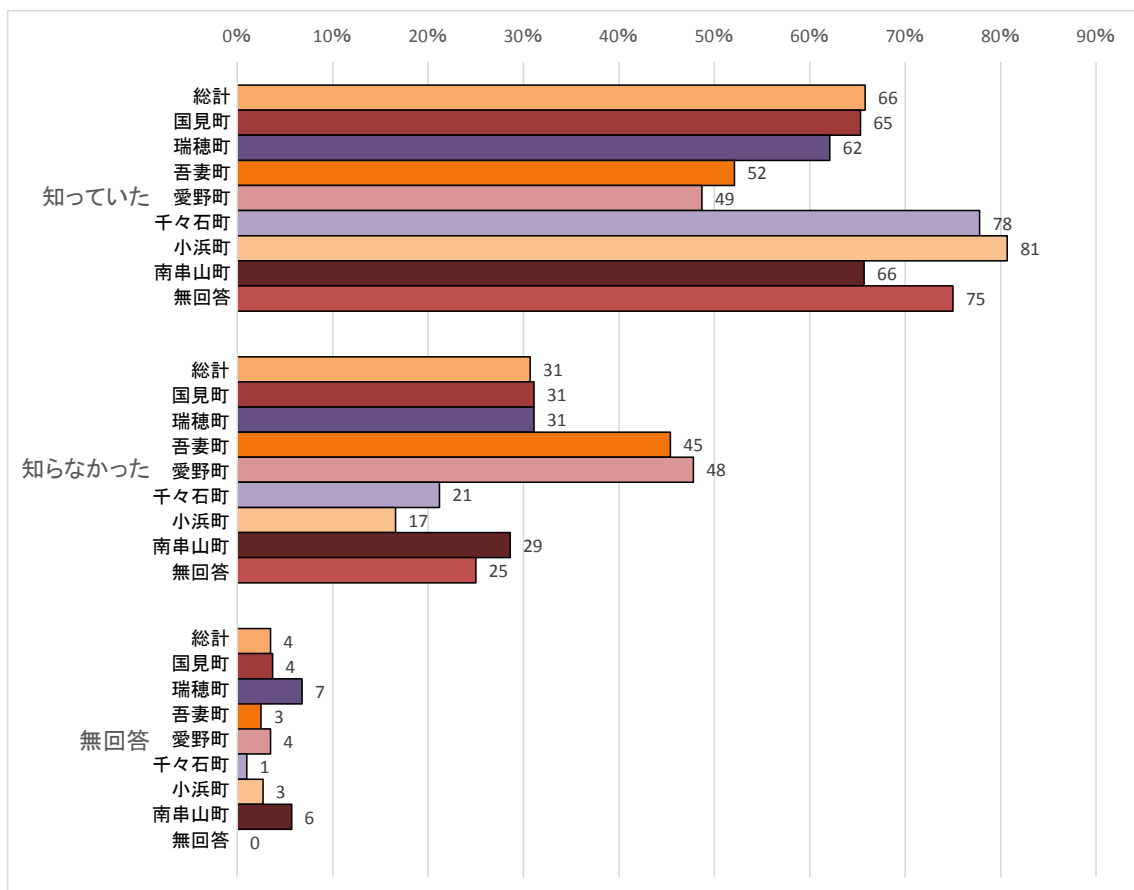
(路線バス赤字補填：地域別クロス)



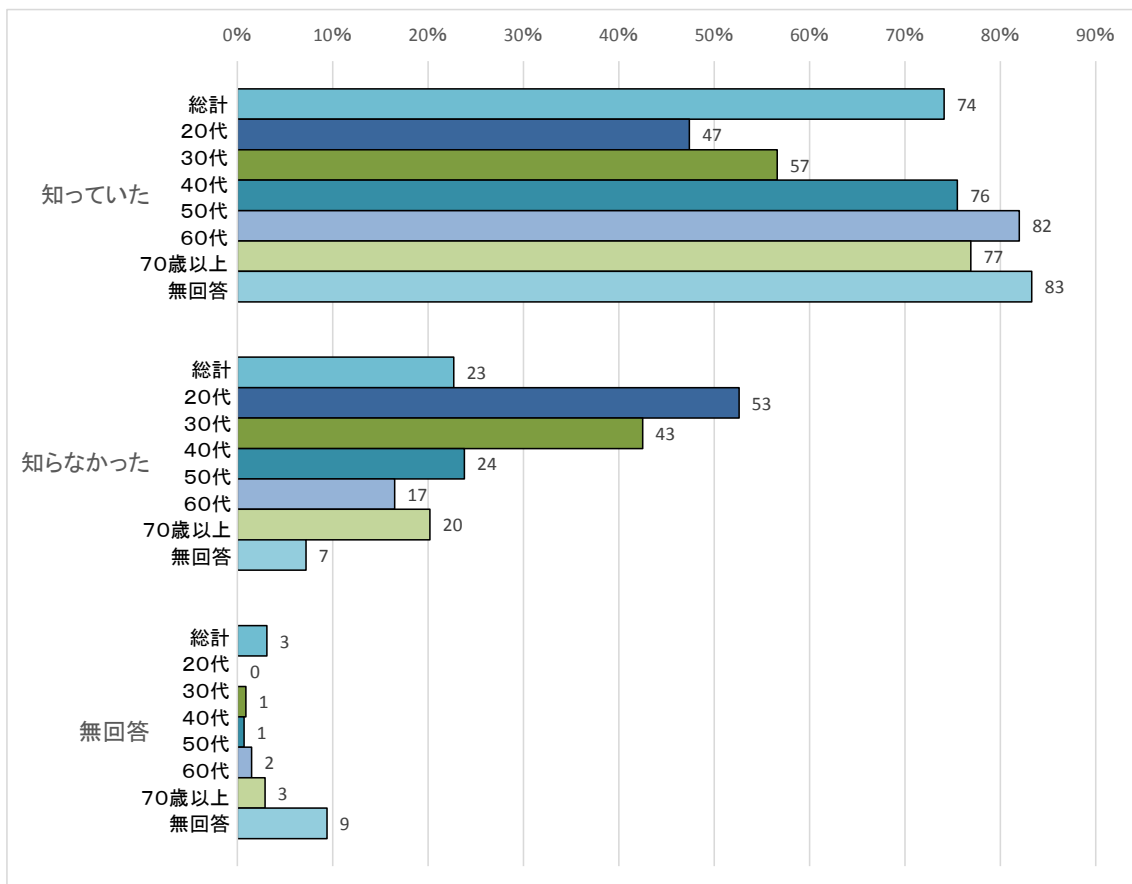
(乗合タクシー：年代別クロス)



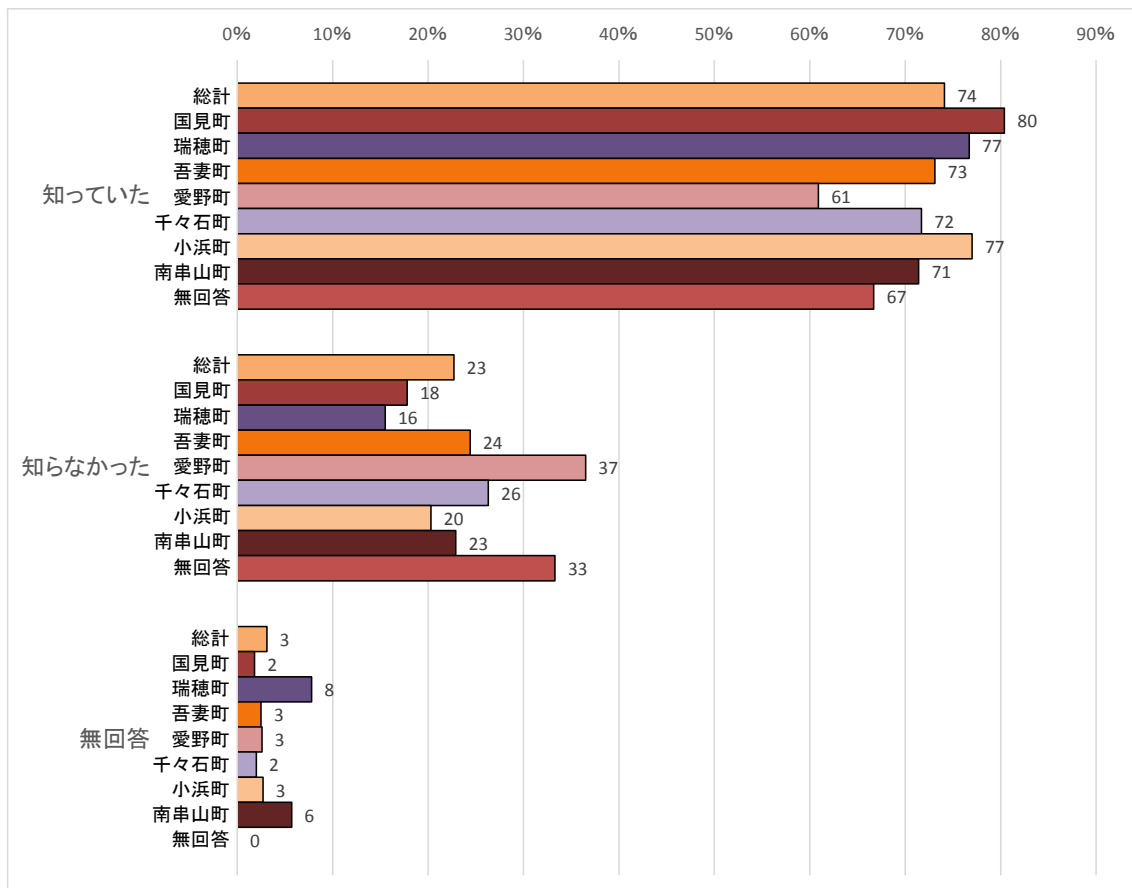
(乗合タクシー：地域別クロス)



(福祉タクシー券：年代別クロス)



(福祉タクシー券：地域別クロス)



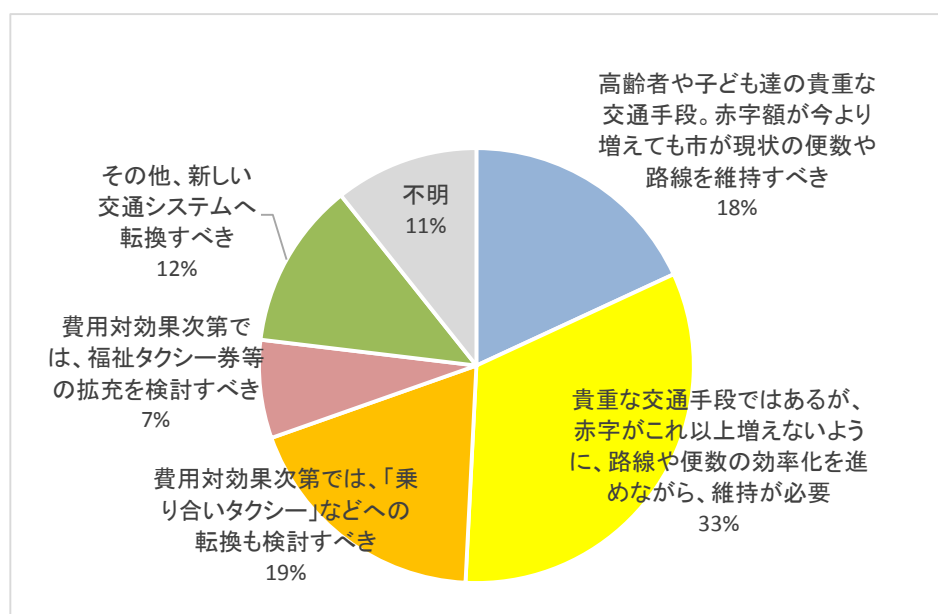
問26(今後の路線バスに対する雲仙市の取り組み)

今後、人口減少や少子高齢化により、路線バスの経営はさらに厳しさを増すものと予想されます。今後、雲仙市はどのような取り組みが必要だと思いますか。(1つに○)

「路線や便数の効率化による維持」が 33%で最多など、改革を求める意見が多い

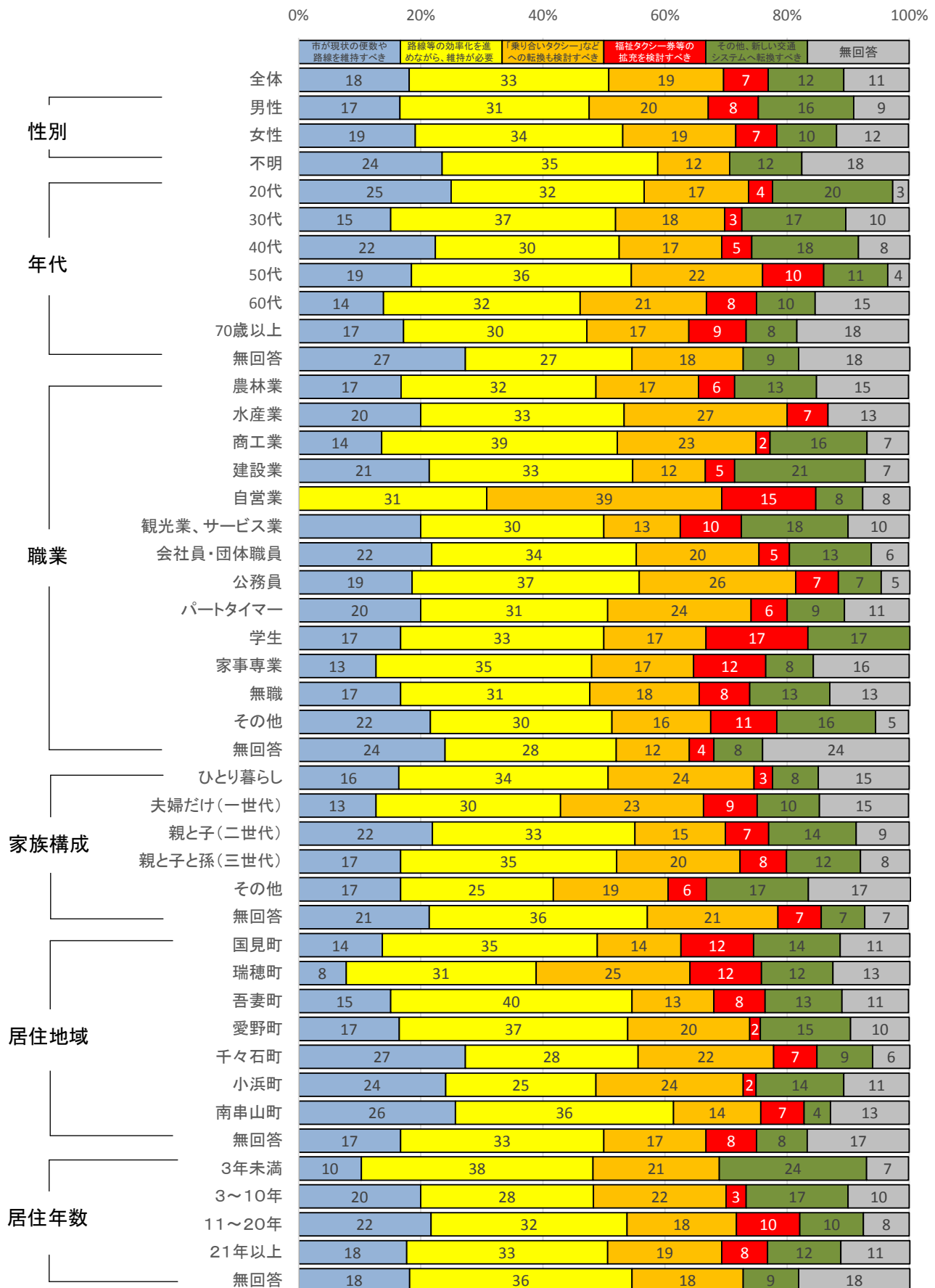
全体傾向		「赤字が増えても現状維持」は 18%に止まり、「路線や便数の効率化による維持」が 33%で最も高い。乗合タクシーなどの新交通への転換は 31%。
クロス集計	男女別	男女とも「線や便数の効率化による維持」の割合が最も高く、性別による大きな傾向の違いは見られない。
	年代別	各年代とも「線や便数の効率化による維持」の割合が最も高く、バス利用が高い高齢層でも同様の傾向が見られた。
	職業別	自営業を除く全ての職業で「線や便数の効率化による維持」の割合が最も高い。
	家族構成別	全ての構成で「線や便数の効率化による維持」の割合が最も高い。
	地域別	全ての地域で「線や便数の効率化による維持」の割合が最も高く、特に吾妻町が 40%で最も高い。「乗合タクシー」の検討は瑞穂町、小浜町が思想的に高い。
	居住年数別	全ての年数で「線や便数の効率化による維持」の割合が最も高い。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



(改善点やアイデア)

	改善点のアイデア
路線バス赤字路線補填	・ 大型バスでは運行せず、人員を考えて運行など。エコカーでの運行。曜日を定めるなど。 ・ 路線バスを全面廃止して、乗り合いタクシー、福祉タクシー券等の利用方法を研究して欲しい。 ・ 路線バス、乗り合いタクシー、福祉タクシー券等、市内全域を平等に網羅できるコミュニティバス等を導入すべきではないか ・ 路線バスを、時間帯、行事等などでバスの大きさを変えて運行する。 ・ 運賃が高額すぎて利用する気になれないのももう少し利用しようと思う料金にして欲しい。 ・ もっと補助に力を入れて欲しい。路線バスは大動脈。存続させるためには中型バスに変え、便数を増加させる。 ・ 運行を止めて乗り合いタクシーの便数を増やしたらいいのではと思う ・ 費用がかさむかもしれないが、バスの小型化。バスを予約制にして（完全ではなく、人数を知る目安）人数にあったバスを運行する。 ・ I Tの通信手段を利用して時間帯、路線の選択等を行い、乗車率の向上を図る。現在の認可路線方式は不適。 ・ 時間帯を決めて区間の定額化や 20 名定員の車種で一定区間だけの運行等のほうが利用者がいるのではと思う。 ・ 電気バスにして燃料のコストをおさえる。 など
乗り合いタクシー	・ 地域が限られているので利用しやすくして欲しい。予約などしなくてはならないのならめんどう。 ・ 乗合タクシーを減らして他のタクシーを増やしてほしい。 ・ ルートの制定。発着時間の徹底。 ・ 身近に見たことはないが、路線バスが減少されていく方向にあるのではないかとこの危惧あり。内陸部では便数がない地区もあるのでもっと運行数を増加する必要がある。 など

福祉タクシー券	・全部使うことはめったにありません。もったいないと思い一年ごとに替えずに使用できたらいいなと思っています。 ・年間一人の助成金を設定し上限の設定をやめる。 ・福祉タクシーの充実。福祉タクシーをもっと利用でき、利用しやすいように配慮する。 ・路線バス、乗り合いタクシー、福祉タクシー券等、市内全域を平等に網羅できるコミュニティーバス等を導入すべきではないか。 ・金券の様な券の発行を望む。タクシー券500円×60枚＝3万円予算で実体は少ないと思う。 ・30枚ぐらいでいいです ・若い頃に車移動が高い人は、年をとっても、車だろう。タクシー利用で生活圏が広がると思う。 ・年齢をもう少し下げてほしい。タクシー券の申し込みをもっと手軽にしてほしい。支所まで行かなくてはならない。 ・一部負担を徴収してはどうか。 ・タクシー券だけでなく「福祉タクシー」の充実。福祉車両に加え、介助、介護ができる運転手、障がい者に理解のある運転手の向上。 ・できればもう少し枚数を増やしてほしい。特に障がい者用の福祉券が必要との声を良く聞く。 ・高齢者であっても車の運転、保有者への配布はしなくて良いと思う。それ以外の方への配布をしたほうがよいのでは（本当に必要な方へ） ・妊婦、産後の支援。 など
---------	---

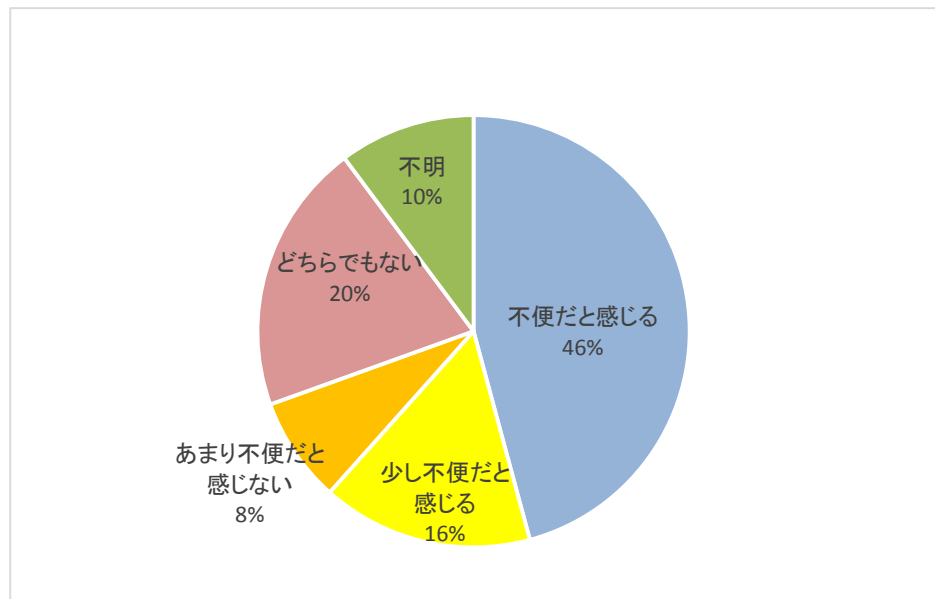
問27(愛野町での路線バスの乗り継ぎ)

現在、市内には、国見方面から南串山方面の間を乗り継ぎなしで移動できる路線バスが運行されていません。乗り継ぎをする場合には愛野町での乗り換えが必要となりますが、愛野町の乗り継ぐバス停の位置は分散しています。そのことについてどう思いますか。(1つに○)

62%が不便と認識。特に千々石町や小浜町では不便の認識が強い

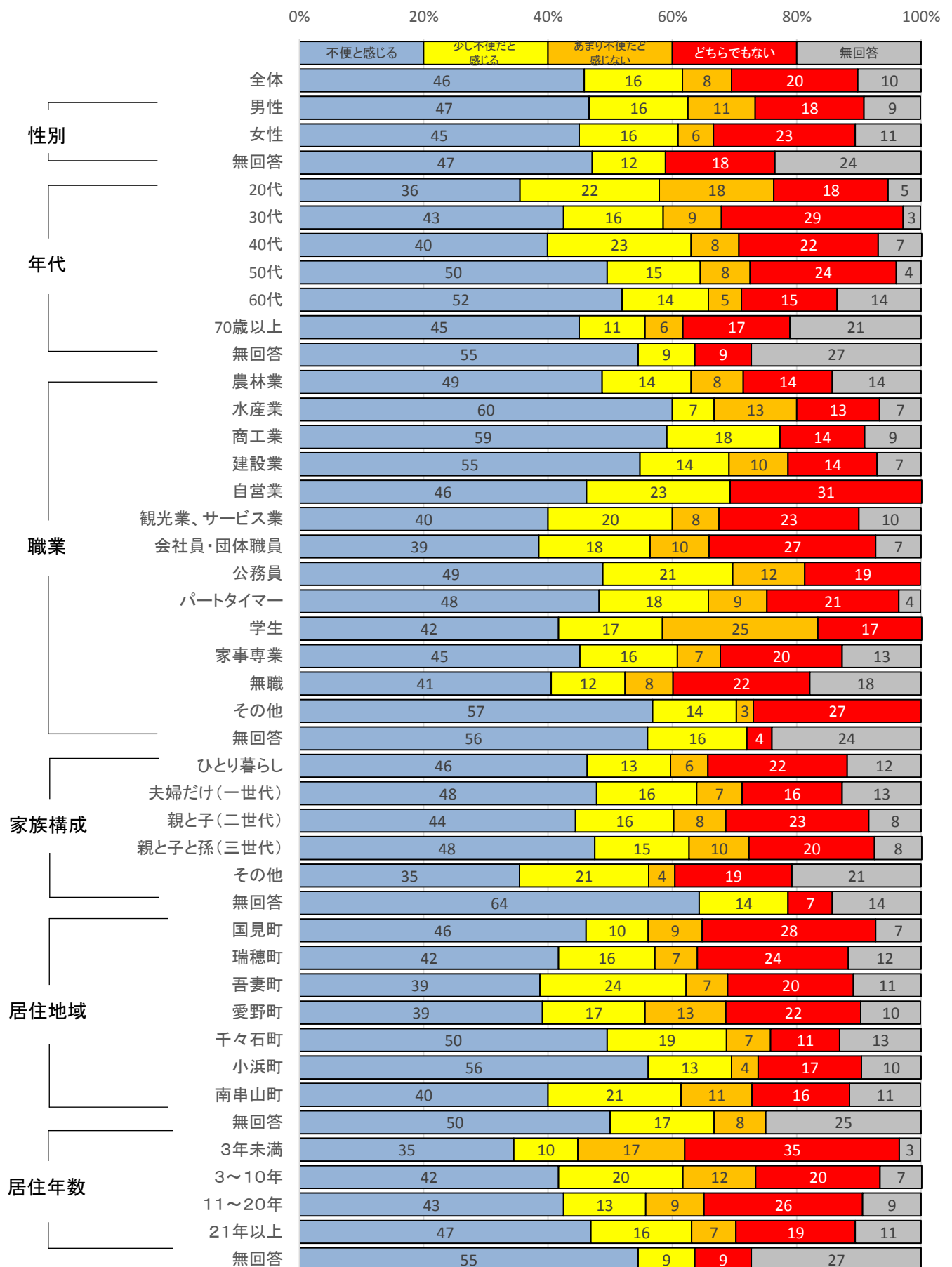
全体傾向		「不便だと感じる」が 46%で最も高く、「多少不便」を含めると 62%が不便さを感じている状況にある。
クロス集計	男女別	男女とも「不便だと感じる」が最も高く、男女による大きな傾向の違いは見られない。
	年代別	全ての年代で「不便だと感じる」が最も高く、高年代ほどその傾向が強い。
	職業別	全ての職業で「不便だと感じる」が最も高く、特に一次産業、二次産業従事者はその傾向が強い。
	家族構成別	全ての構成で「不便だと感じる」が最も高く、構成別で大きな傾向の違いは見られない。
	地域別	全ての地域で「不便だと感じる」が最も高いが、特に小浜町、千々石町では 50%以上と高い。
	居住年数別	全ての年数で「不便だと感じる」が最も高く、年数が長くなるにつれてその傾向が強い。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



5.『雲仙市の市政への関心』について

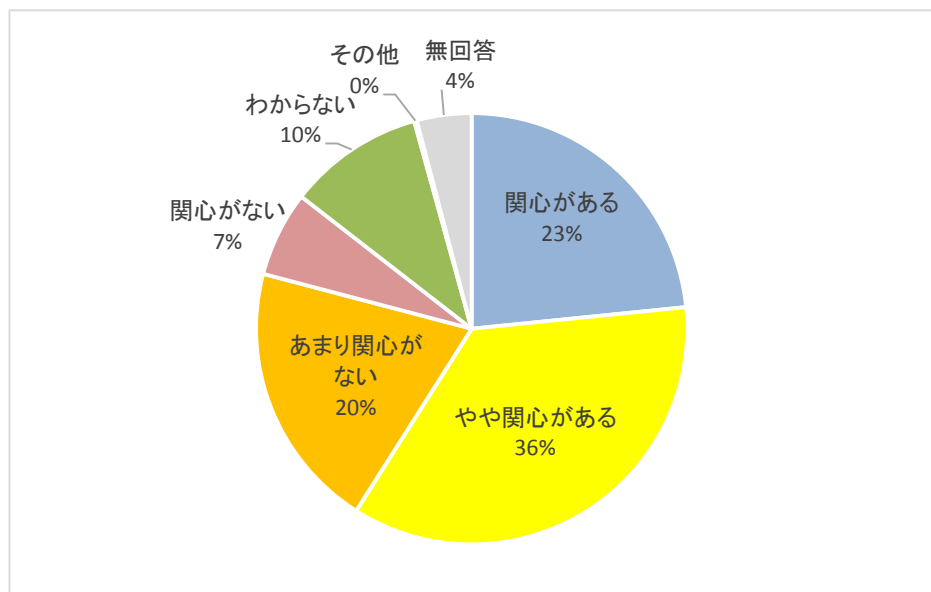
問28(市政への関心)

あなたは、市の行政にどの程度関心をお持ちですか。(1つに○)

約 6 割が市政に関心あり。特に 40 代以上の関心が高い傾向に

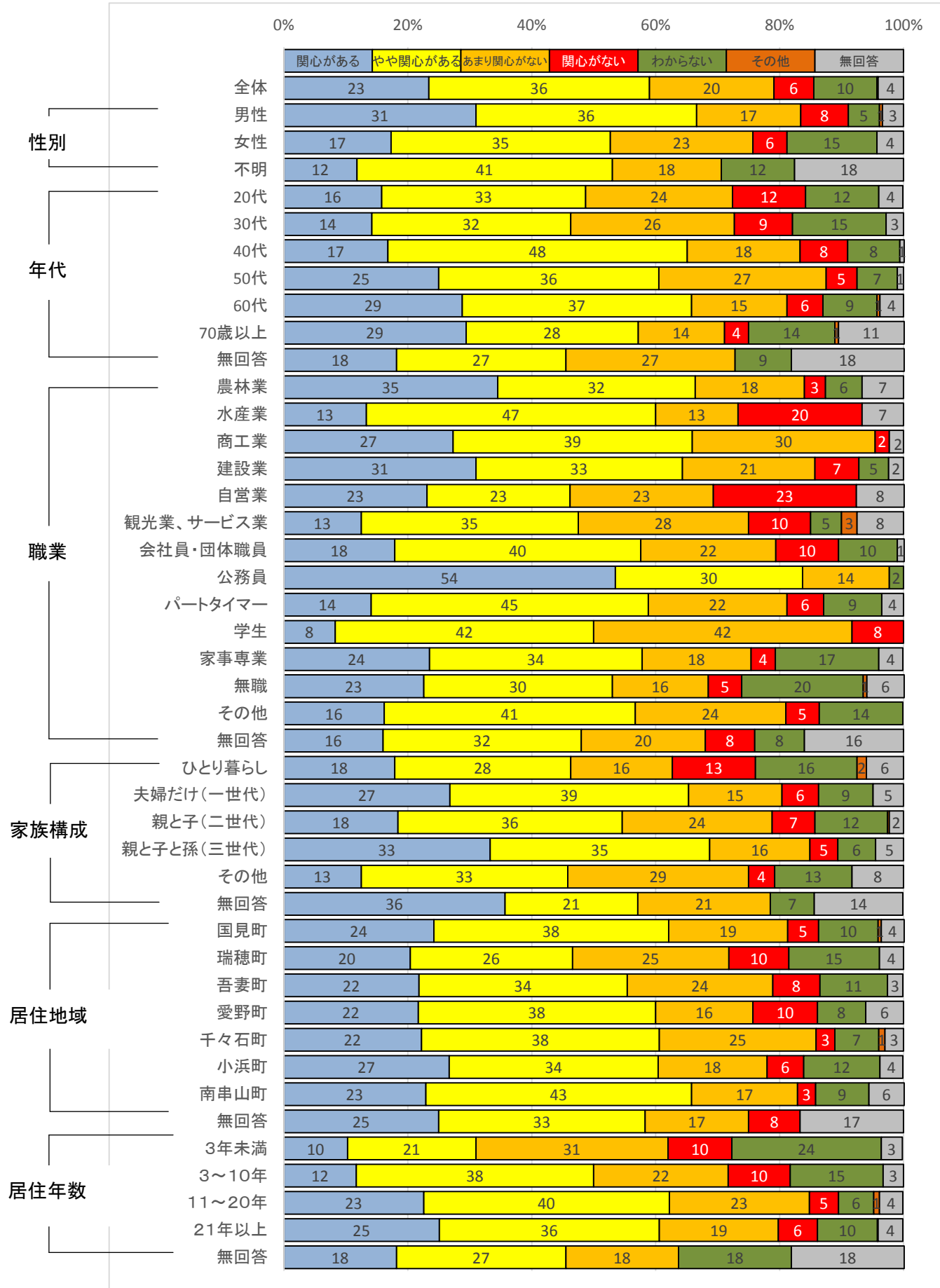
全体傾向		「やや関心がある」が 36%で最も高く、「関心がある」を含めると 59%が市政に関心を持っている。
クロス集計	男女別	男女とも「やや関心がある」の割合が最も高いが、「関心がある」は女性に比べ男性の割合が高い。
	年代別	70 歳以上を除く全ての年代で「やや関心がある」の割合が最も高いが、「関心がある」は年代が高くなるにつれて高くなる傾向がある。
	職業別	農林業、公務員は「関心がある」の割合が最も高い。農林業と同じ一次産業の水産業では「関心がある」が 13%と農林業に比べ大きく下回る。
	家族構成別	全ての構成で「やや関心がある」の割合が最も高く、構成別での大きな傾向の違いは見られない。
	地域別	各地域とも「やや関心がある」の割合が最も高いが、地域別では瑞穂町が 26%と平均を 10 ポイント下回っている。
	居住年数別	3 年未満は「あまり関心がない」が 31%で最も高いなど、他の年代に比べ関心が低い傾向がある。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



問29(市政への関心分野)

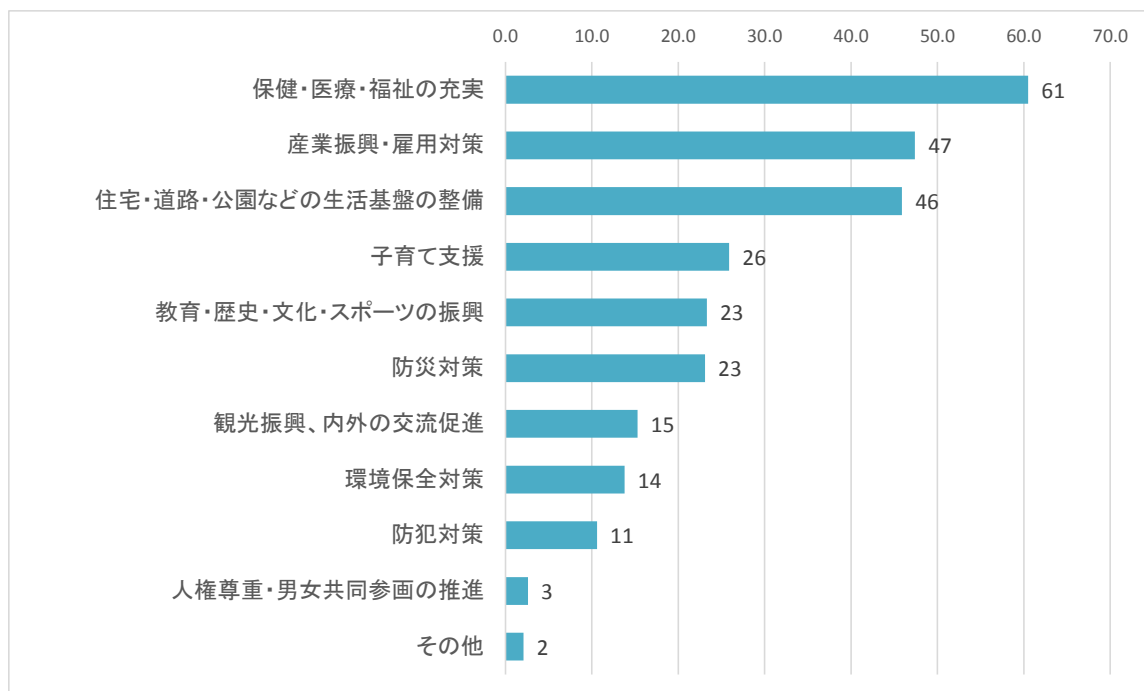
問28で1または2を選んだ方のみお答えください。

市政のどのような分野に関心がありますか。(3つまで○)

市民の一番の関心事は「保健・医療・福祉の充実」。すべての年代で 50%以上

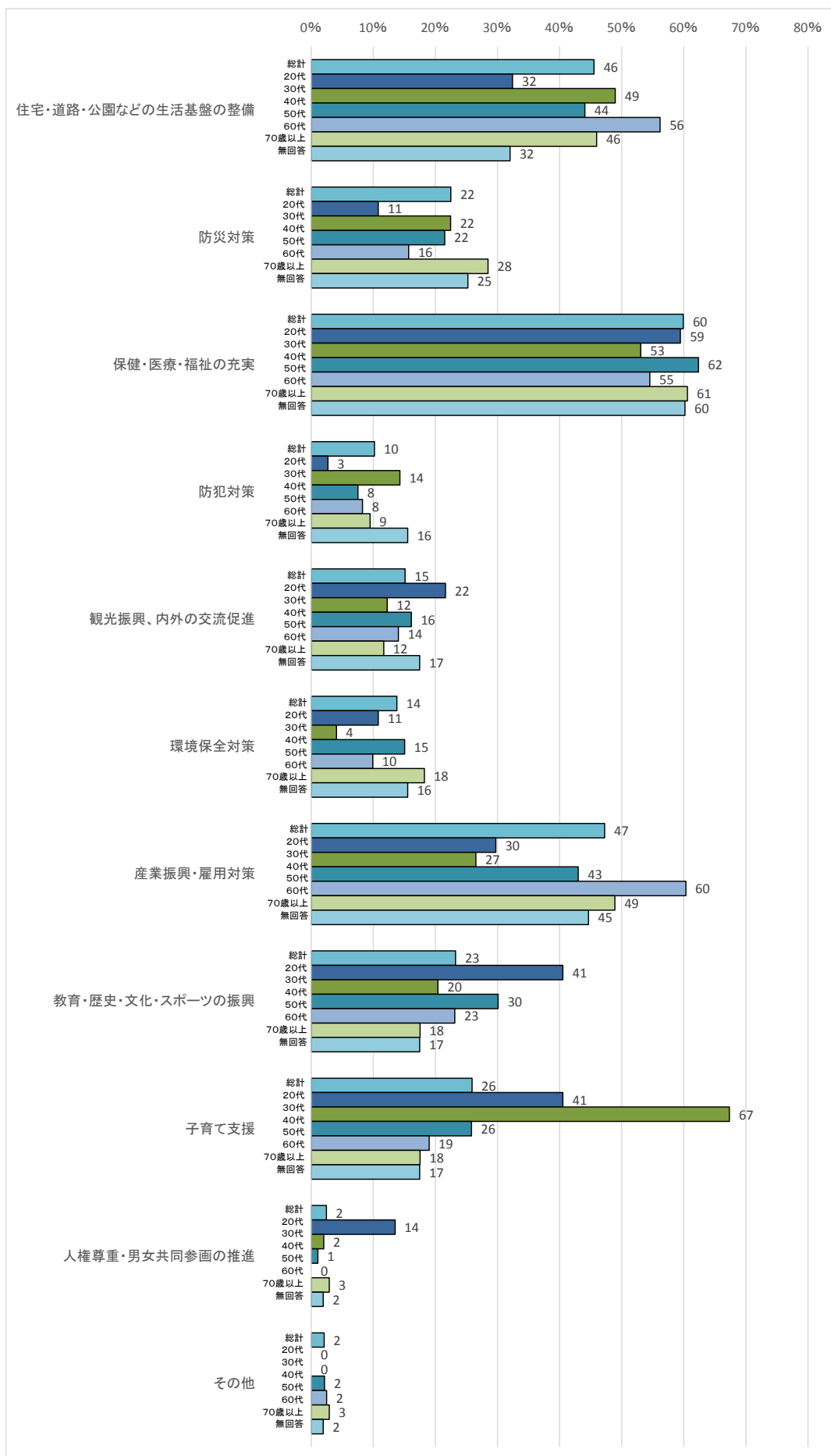
全体傾向		「保健・医療・福祉の充実」が 61%と最も高く、次いで「産業振興・雇用対策」、「住宅・道路・公園などの生活基盤の整備」が 40%以上で 4 位以下を大きく引き離している。
クロス集計	年代別	「保健・医療・福祉の充実」はすべての年代で 50%以上となっている。「産業振興・雇用対策」では、50 代が 60%と親世代の関心が強い。また、「子育て支援」では、子育て世代の 20 代、30 代がそれぞれ 41%、67%と関心が高い。
	地域別	「保健・医療・福祉の充実」は、すべての地域において 50%以上となっている。「産業振興・雇用対策」は、千々石町が 55%と最も高い。「住宅・道路・公園などの生活基盤の整備」は、南串山町で 63%と最も高くなっている。

(全体傾向)

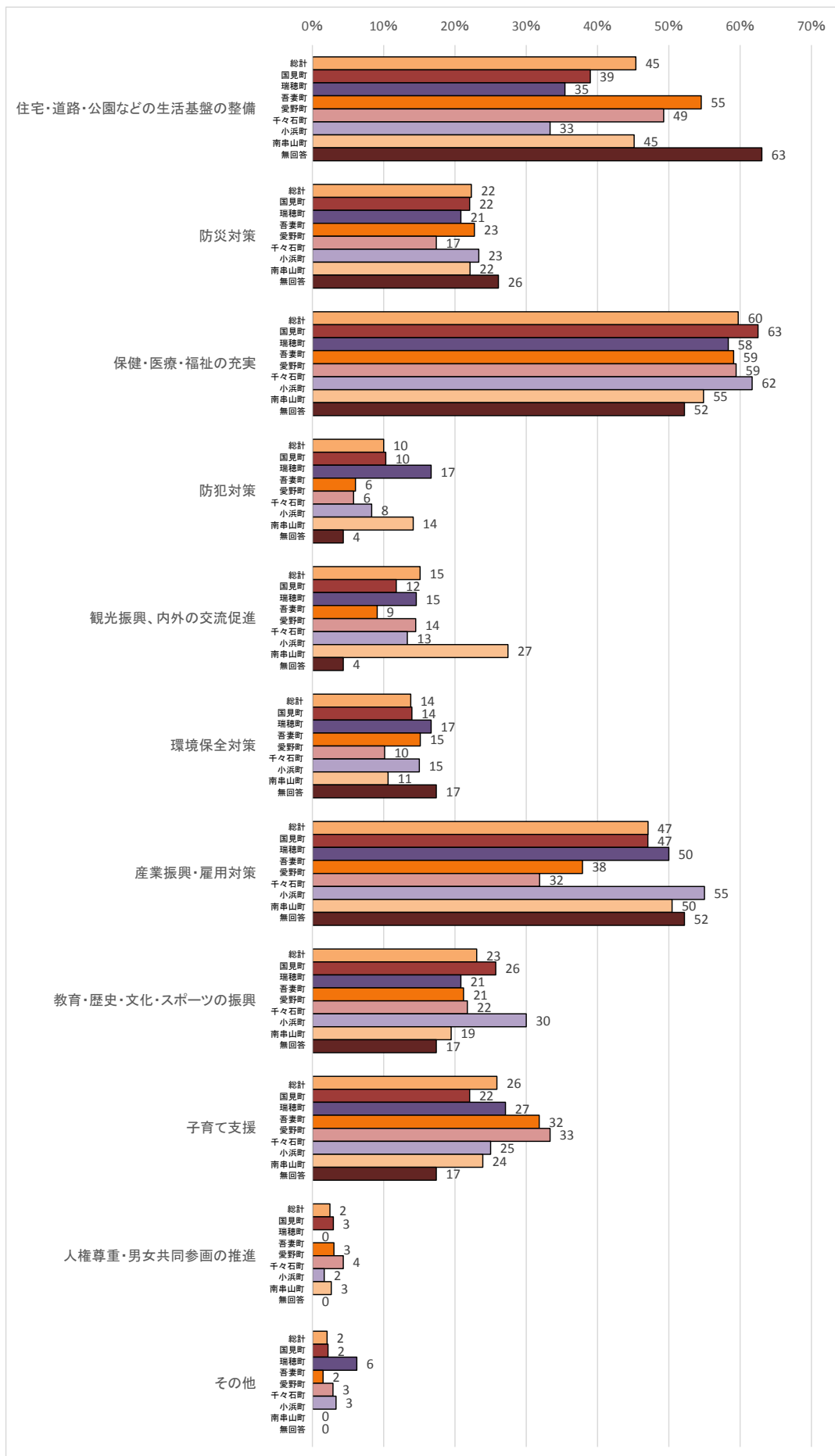


N=529

(年代別クロス)



(地域別クロス)



問30(市政への関心がない理由)

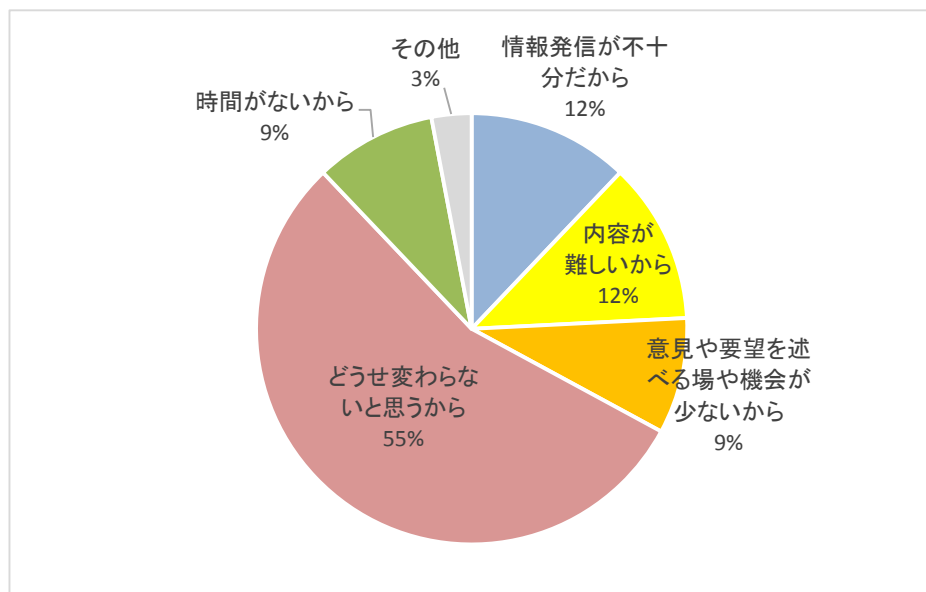
問28で3または4を選んだ方のみお答えください。

市政に関心がない主な理由は何ですか。(1つに○)

「どうせ変わらないと思うから」が 55%と半数以上

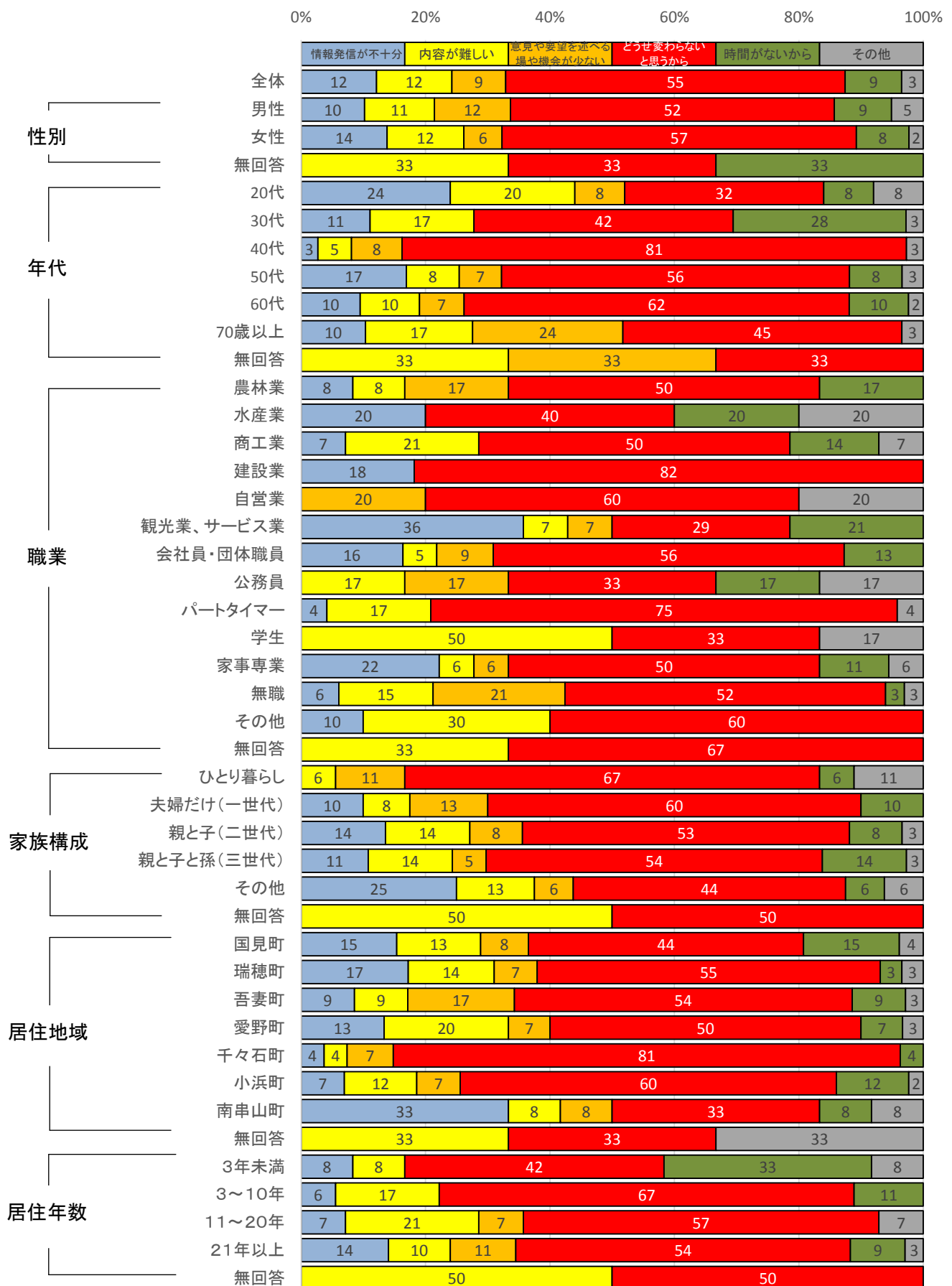
全体傾向		「どうせ変わらないと思うから」が 55%で最も高く、市民の意見の反映に対する不満や「意見や要望を述べる機会が少ないから」が 9%と機会に関する不満が挙げられている。
クロス集計	男女別	性別による大きな傾向の違いは見られない。
	年代別	「どうせ変わらないと思うから」については、40 代の 81%が最も高く、若年層より高齢層で高くなる傾向にある。
	職業別	「どうせ変わらないと思うから」については、自営業で 60%、パートタイマーで 75%、建設業で 82%と高い傾向にある。
	家族構成別	「どうせ変わらないと思うから」については、ひとり暮らしで 67%と最も高く、世帯構成人数が少ないほど高い傾向にある。
	地域別	「どうせ変わらないと思うから」については、千々石町で 81%と最も高く、次いで小浜町が 60%と続いている。
	居住年数別	「どうせ変わらないと思うから」については、3～10 年居住者が 67%と最も高く、以降居住年数が経過するごとに減少している。

(全体傾向)



N=245

(基本属性クロス)



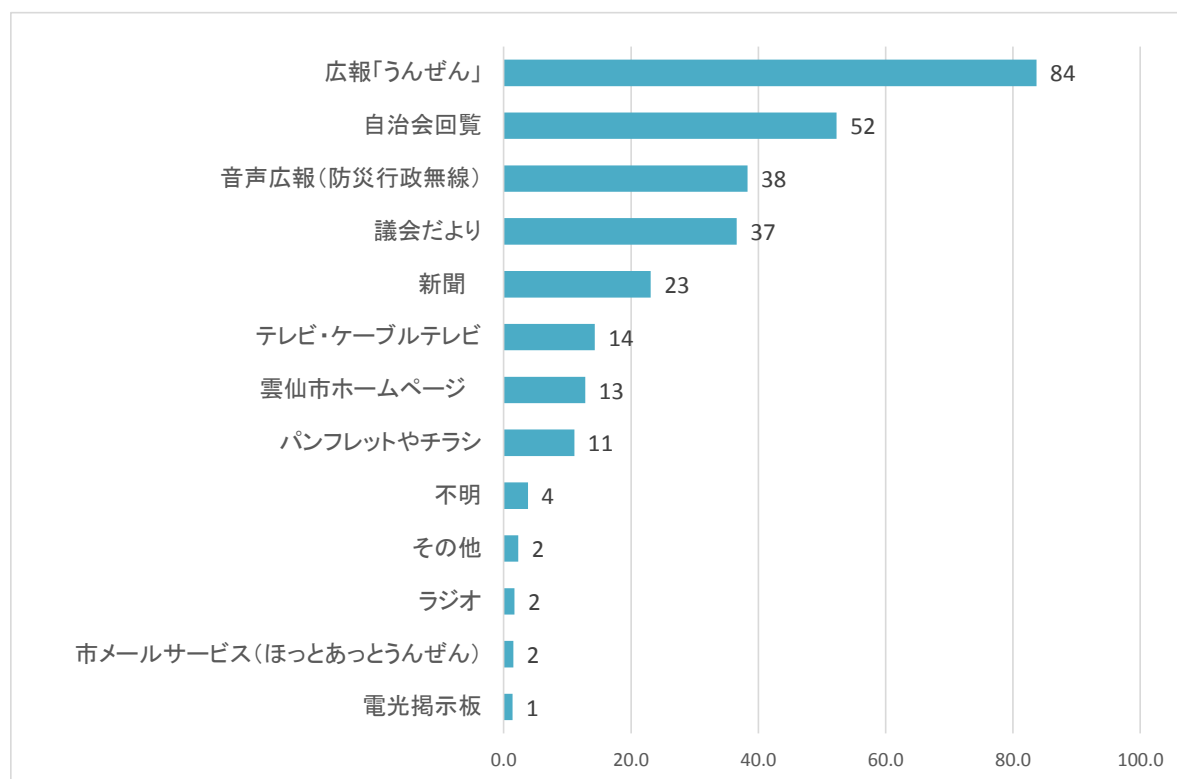
問31(市政の情報収集手段)

あなたは、市からのお知らせなどの市政に関する情報を何によって知ることが高いですか？
(全てに○)

8割の市民は広報「うんぜん」により市政の情報を入手

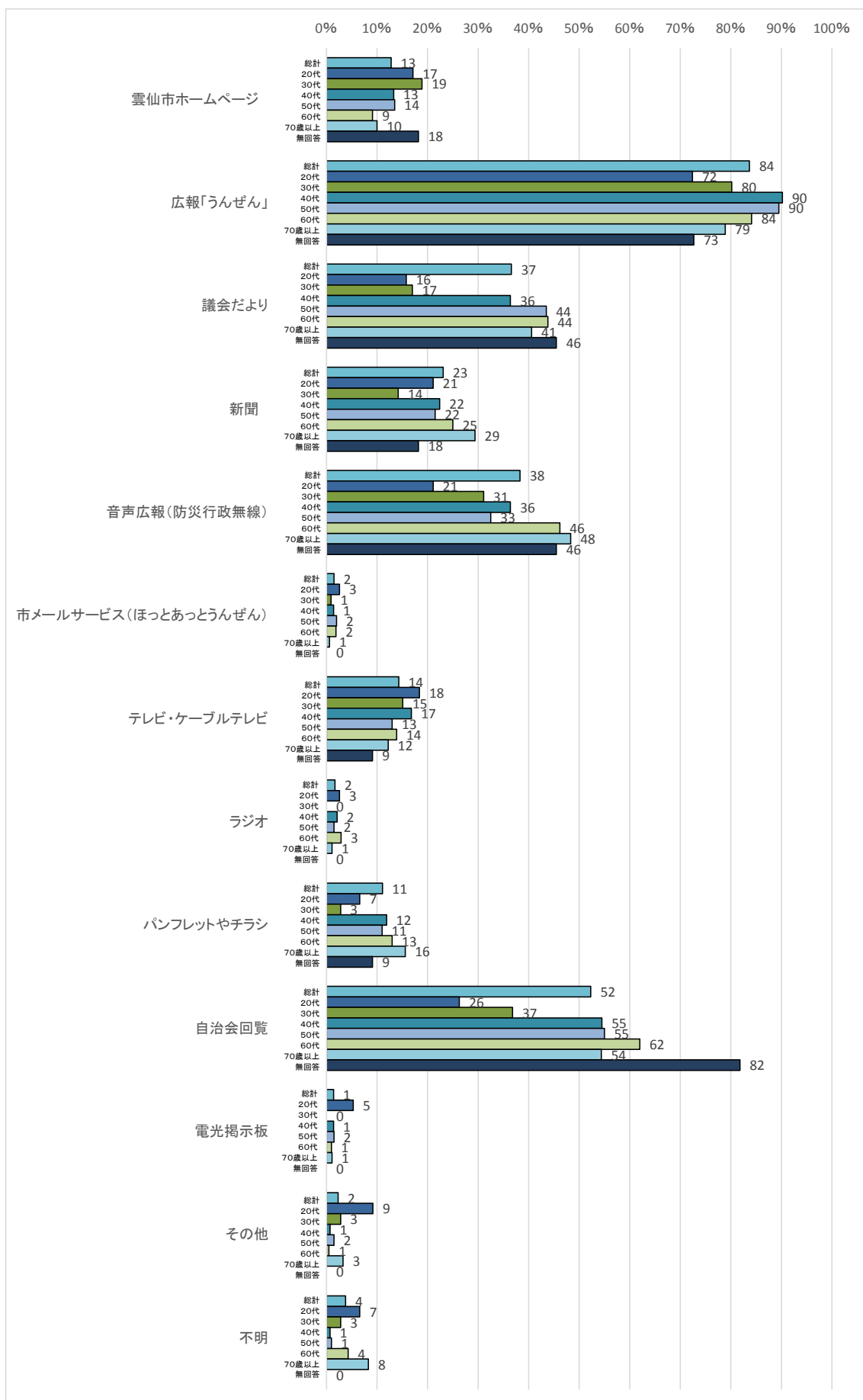
全体傾向		市政に関する情報は広報「うんぜん」が 84%で最も高く、以下「自治会回覧」、「音声広報」、「議会だより」の順となっている。
クロス集計	年代別	全体とほぼ同じ傾向にあるが、50代では「議会だより」が「音声広報」を上回っている。
	地域別	全体とほぼ同じ傾向にあるが、国見町・瑞穂町・愛野町では「議会だより」が「音声広報」を上回っている。

(全体傾向)

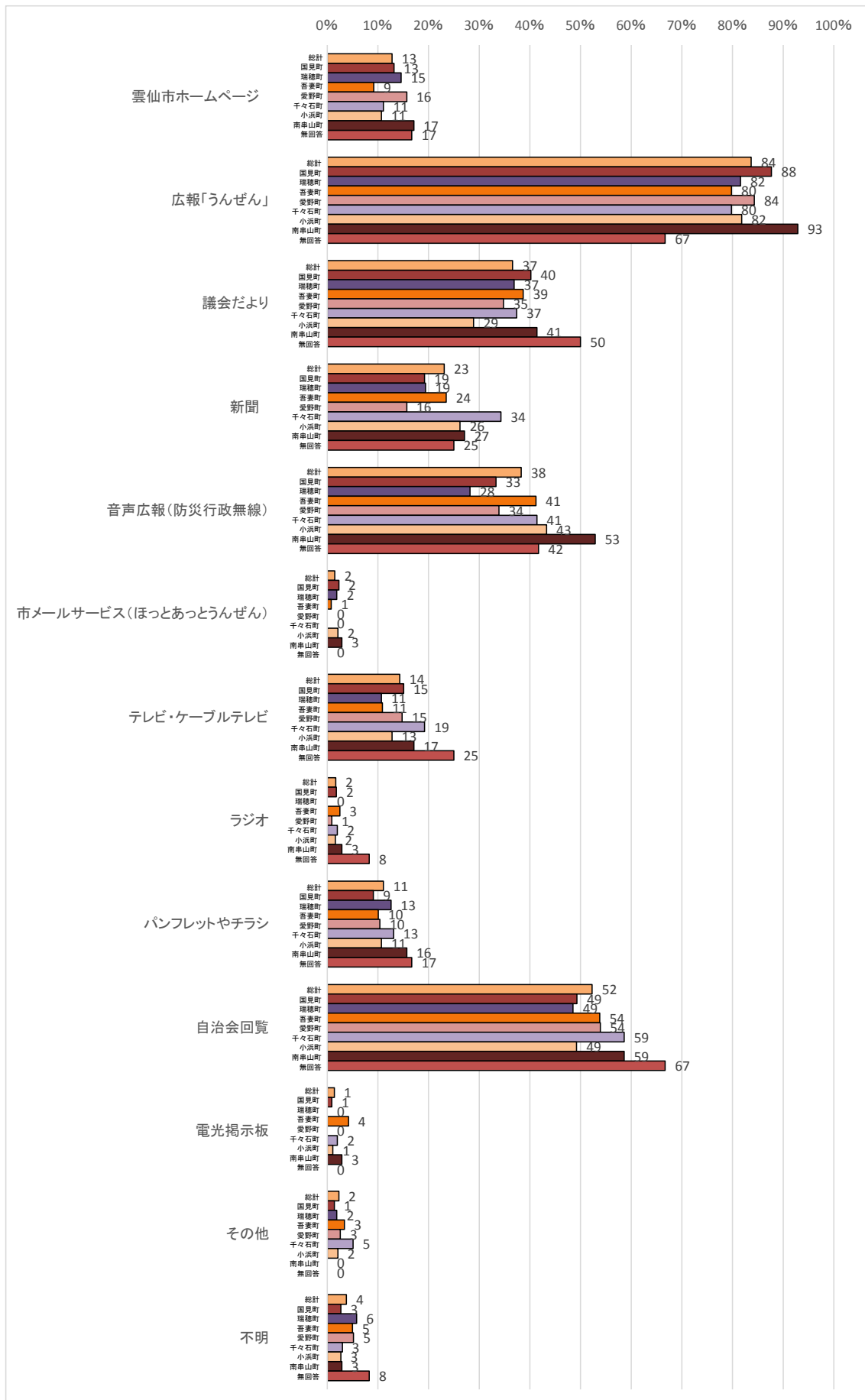


N=924

(年代別クロス)



(地域別クロス)



問32(「広報うんぜん」)

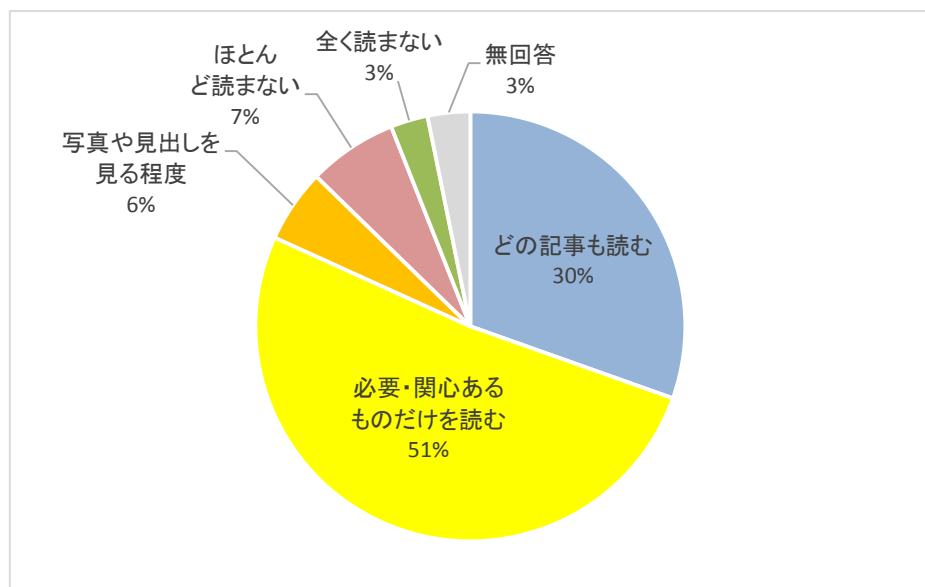
市役所からのお知らせとして「広報うんぜん」を毎月発行しています。

あなたはこの広報紙をどのくらい読んでいますか？(1つに○)

「必要・関心のあるものを読む」・「どの記事も読む」で8割以上

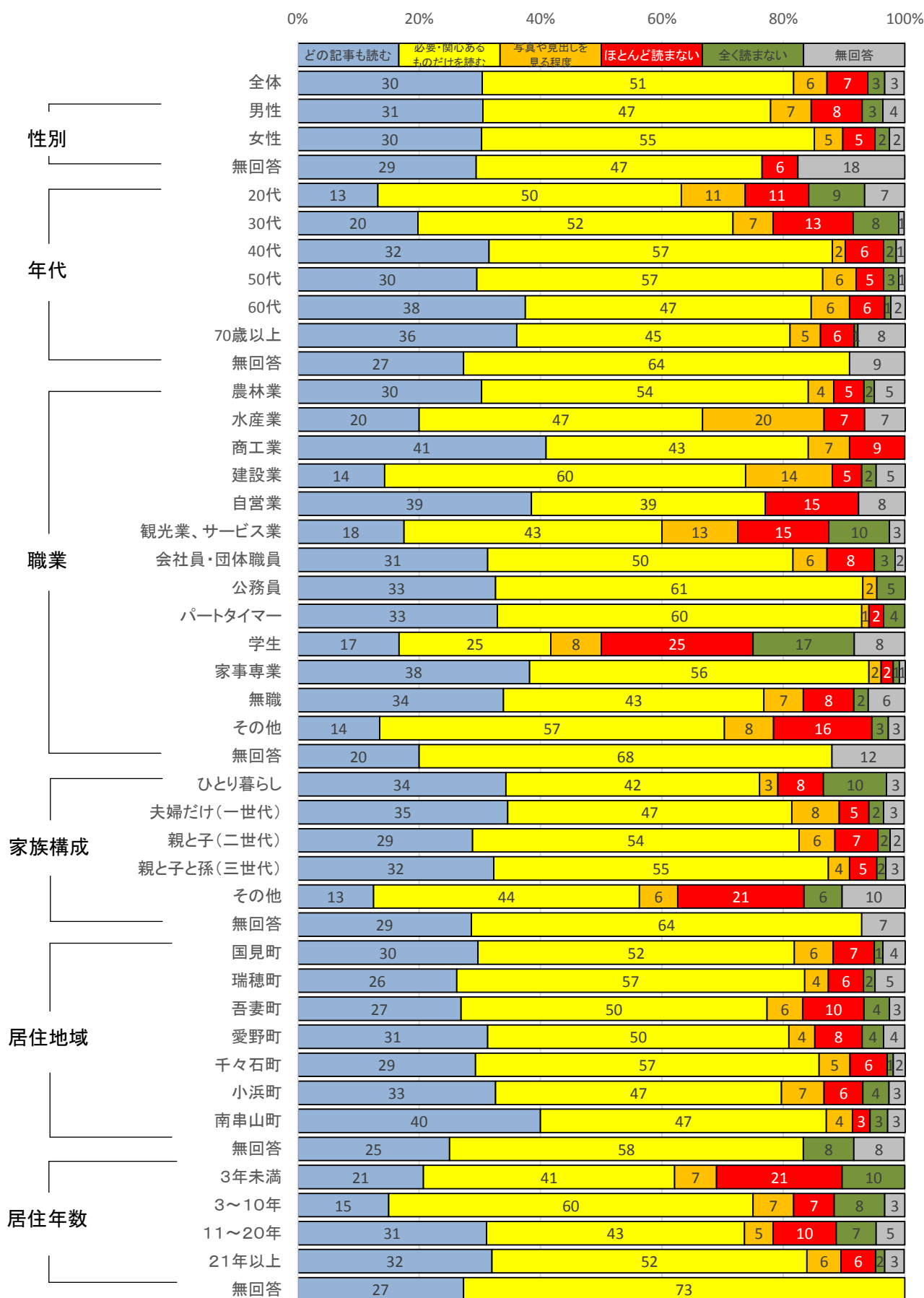
全体傾向		「必要・関心のあるものを読む」が51%で最も高く、「どの記事も読む」を含めると80%程度が広報「うんぜん」を読んでいる。
クロス集計	男女別	男女ともに「どの記事も読む」「必要・関心のあるものを読む」で8割を超えているが、その割合は男性に比べ女性の方が高い。
	年代別	40代で「どの記事も読む」「必要・関心のあるものを読む」の割合が最も高く、50代、60代、70歳以上と続き、20代が63%で最も低い。
	職業別	公務員・家事専業で「どの記事も読む」「必要・関心のあるものを読む」の割合が最も高く、パートタイマー、農林業・商工業、会社員・団体職員と続き、学生が42%で最も低い。
	家族構成別	親と子と孫(三世代)で「どの記事も読む」「必要・関心のあるものを読む」の割合が最も高く、親と子(二世代)、夫婦だけ(一世代)と続き、一人暮らしが76%で最も低い。
	地域別	南串山町で「どの記事も読む」「必要・関心のあるものを読む」の割合が最も高く、千々石町、瑞穂町と続き、吾妻町が77%で最も低い。
	居住年数別	21年以上で「どの記事も読む」「必要・関心のあるものを読む」の割合が最も高く、3～10年、11～20年と続き、3年未満が62%で最も低い。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



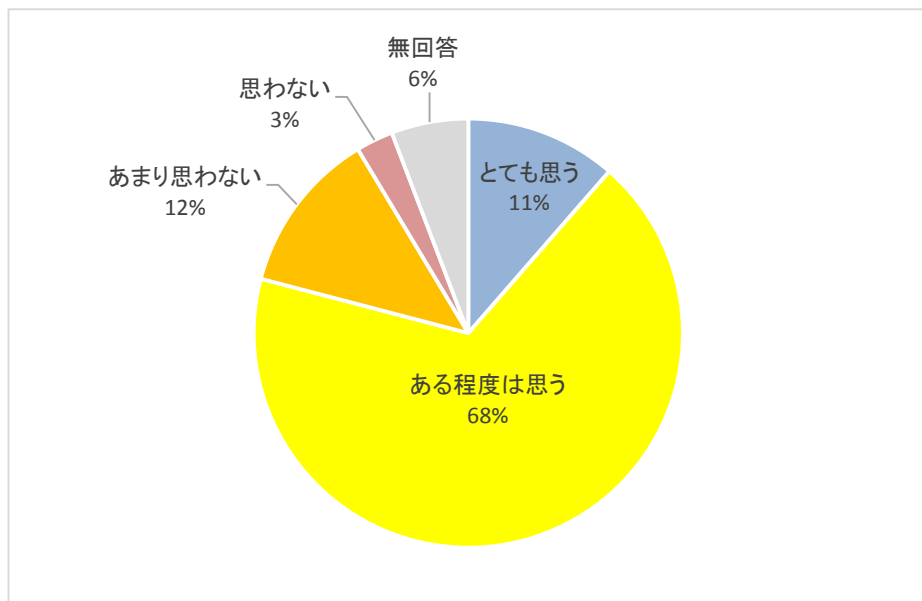
問33(広報紙のわかりやすさ)

広報紙やお知らせはわかりやすいと思いますか。(1つに○)

8割の市民が、「とてもわかりやすい」、「ある程度はわかりやすい」と評価

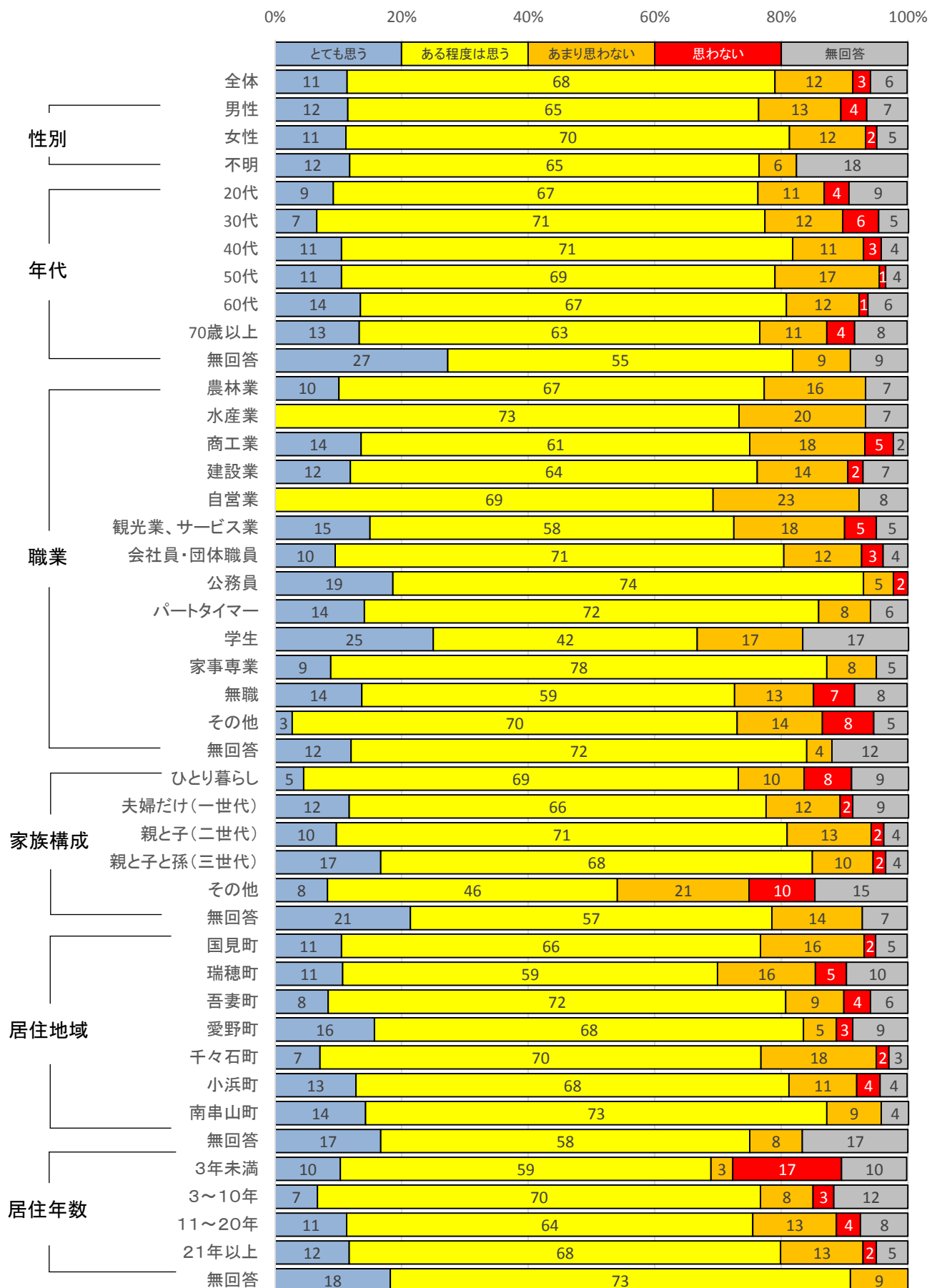
全体傾向		「ある程度は思う」が 68%で最も高く、「とても思う」を含めると約 80%程度が広報「うんぜん」はわかりやすいと思っている。
クロス集計	男女別	男女ともに「とても思う」「ある程度は思う」で8割前後であるが、その割合は男性に比べ女性の方が高い。
	年代別	40代で「とても思う」「ある程度は思う」の割合が最も高く、60代、50代、30代と続き、20代・70歳以上が76%で最も低い。
	職業別	公務員で「とても思う」「ある程度は思う」の割合が最も高く、家事専業、パートタイマー、農林業と続き、学生が67%で最も低い。
	家族構成別	親と子と孫(三世代)で「とても思う」「ある程度は思う」の割合が最も高く、親と子(二世帯)、夫婦だけ(一世帯)と続き、一人暮らしが74%で最も低い。
	地域別	南串山町で「とても思う」「ある程度は思う」の割合が最も高く、愛野町、小浜町と続き、瑞穂町が70%で最も低い。
	居住年数別	21年以上で「とても思う」「ある程度は思う」の割合が最も高く、3～10年、11～20年と続き、3年未満が69%で最も低い。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



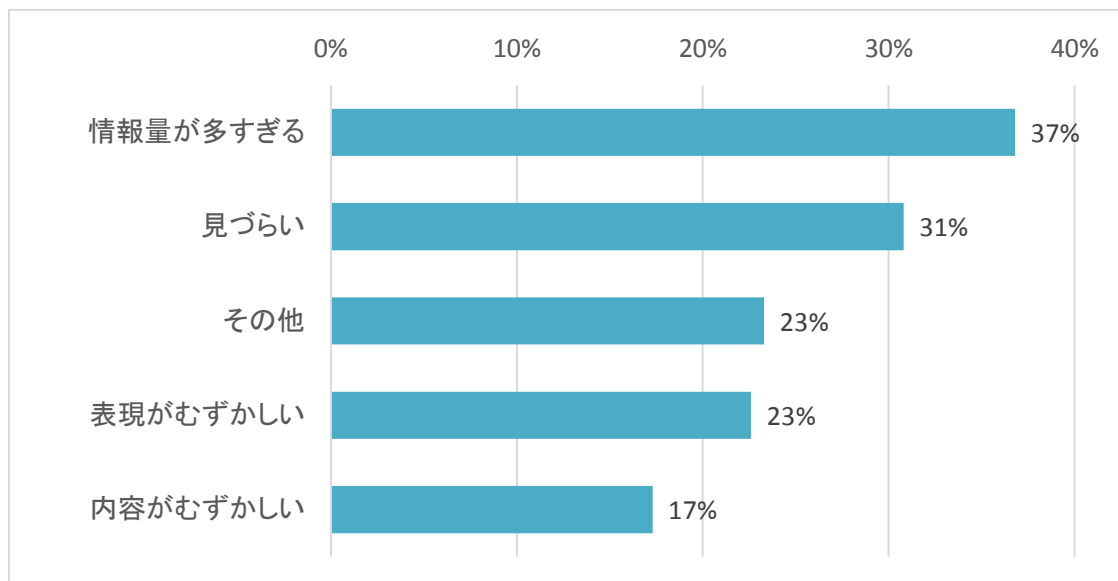
問34(広報紙がわかりにくい理由)

問33で3または4と回答した方にお聞きます。その理由は何ですか。(全てに○)

わかりにくい理由は、「情報量が多すぎる」が約4割

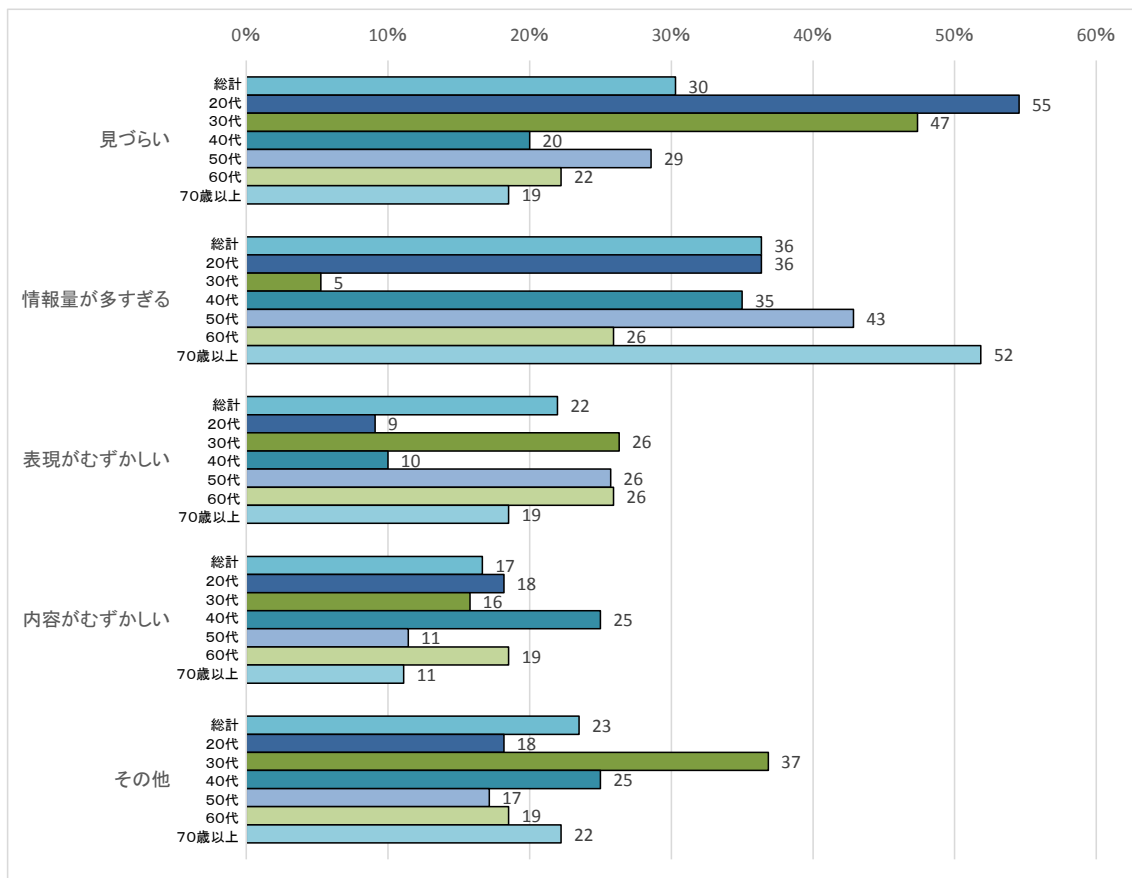
全体傾向		「情報量が多すぎる」が37%で最も高く、「見づらい」、「表現がむずかしい」「内容がむずかしい」と続いている。
クロス集計	年代別	20代では「見づらい」が「情報量が多すぎる」を上回り、40代では「内容がむずかしい」が「表現がむずかしい」を上回った。「情報量が多すぎる」は50代、70代で高いなど高年代での指摘が多い。
	地域別	吾妻町では「見づらい」「内容が難しい」「表現が難しい」「情報量が多すぎる」の順となり全体の傾向と相違している。

(全体傾向)

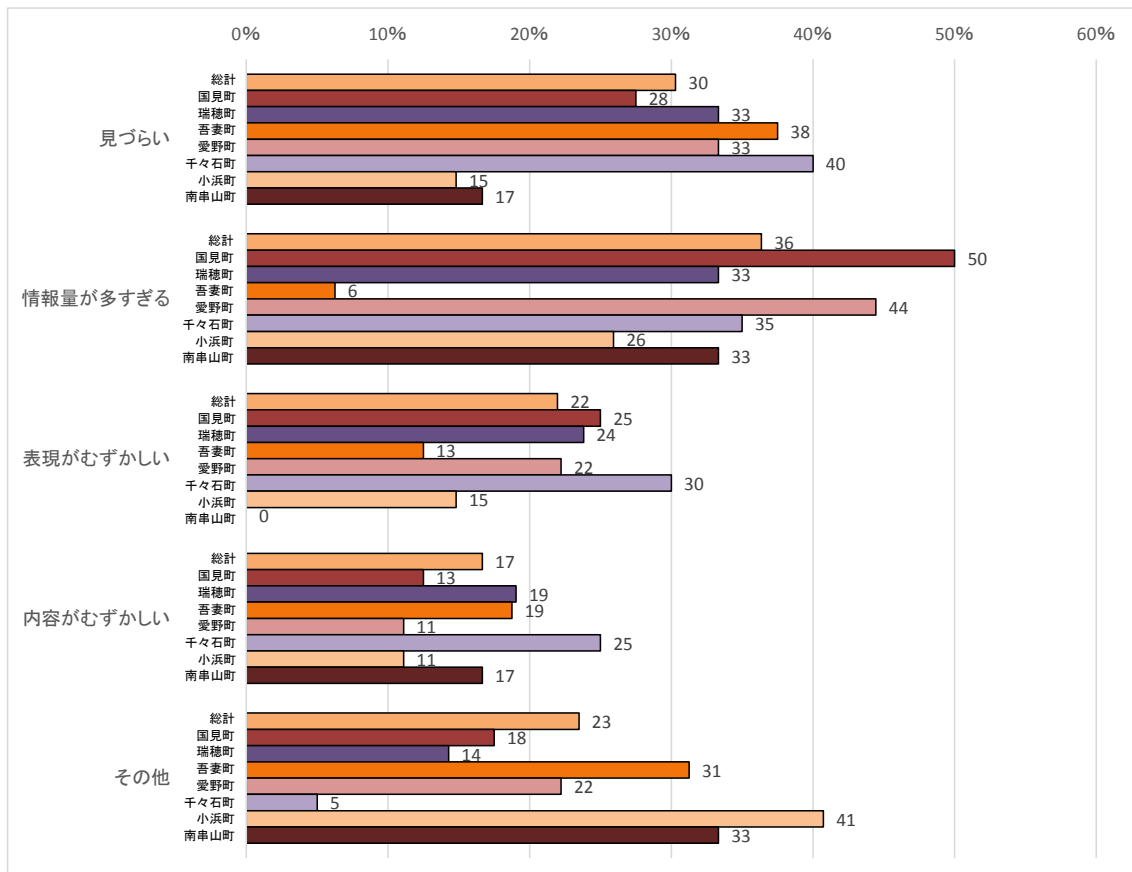


N=133

(年代別クロス)



(地域別クロス)



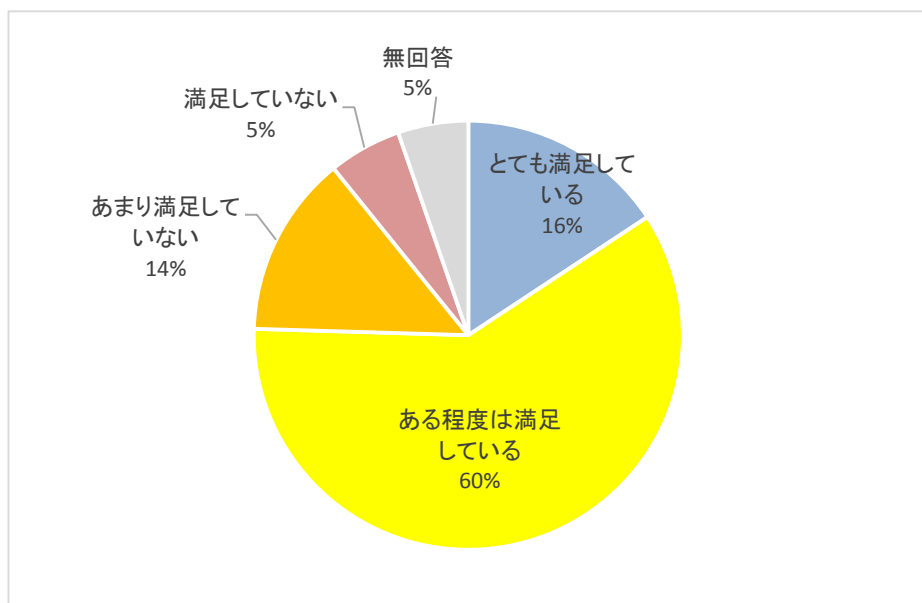
問35(市職員の態度)

窓口や電話等での市職員の対応・接し方はいかがですか？(1つに○)

約8割の市民が「とても満足している」、「ある程度満足している」と評価

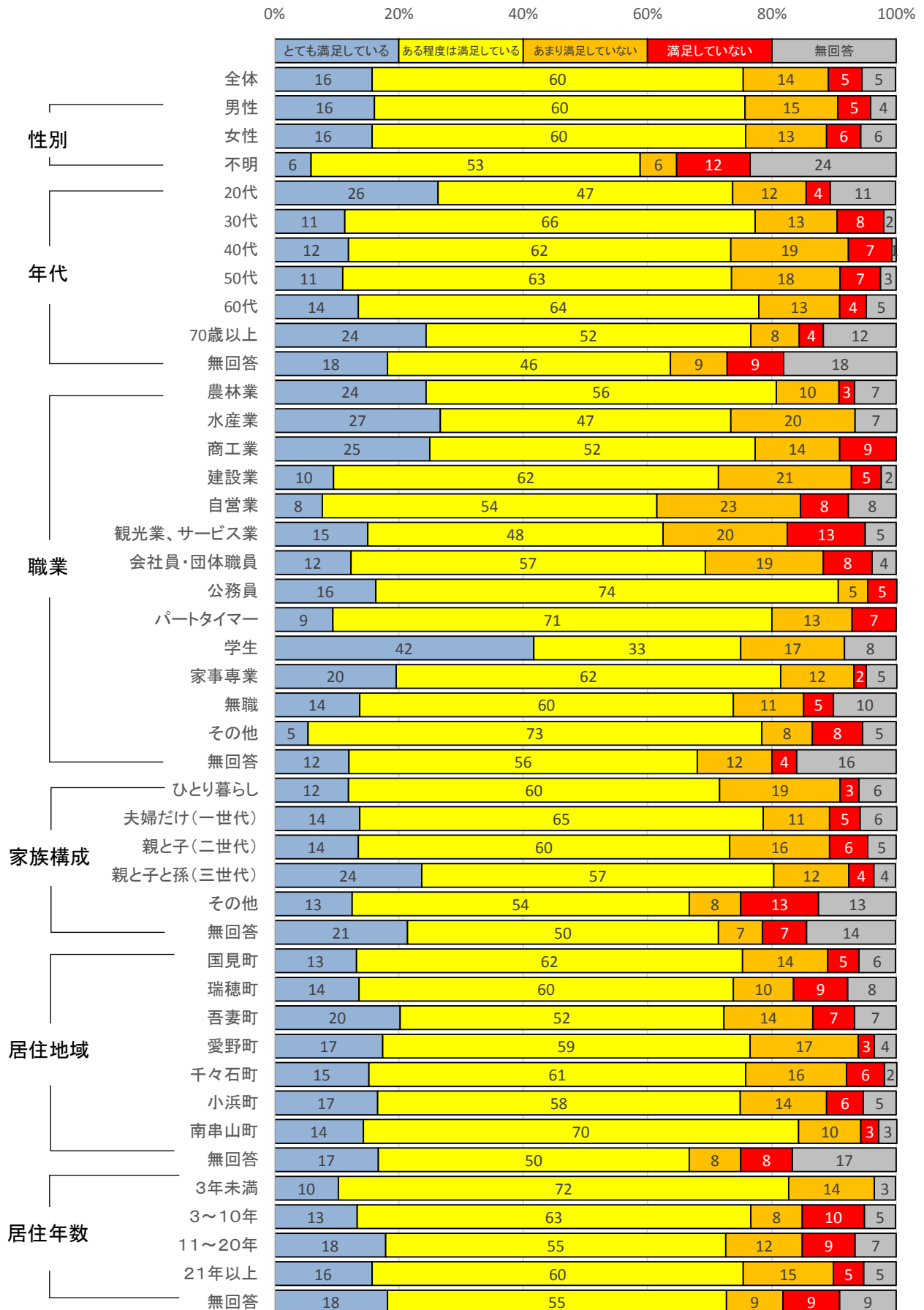
全体傾向		「ある程度は満足している」が 60%で最も高く、「とても満足している」、「あまり満足していない」と続き、「満足していない」は 5%。
クロス集計	男女別	男女ともに「ある程度は満足している」が最も高く、「とても満足している」を合わせ 76%で同数。
	年代別	60代で「ある程度は満足している」「とても満足している」の割合が最も高く、30代、70歳以上、40代・50代と続き、20代が 73%で最も低い。
	職業別	公務員で「ある程度は満足している」「とても満足している」の割合が最も高く、家事専業、パートタイマー・農林業と続き、自営業が 62%で最も低い。
	家族構成別	親と子と孫(三世代)で「ある程度は満足している」「とても満足している」の割合が最も高く、夫婦だけ(一世代)、親と子(二世代)と続き、一人暮らしが 72%で最も低い。
	地域別	南串山町で「ある程度は満足している」「とても満足している」の割合が最も高く、愛野町・千々石町、国見町・小浜町と続き、吾妻町が 72%で最も低い。
	居住年数別	3年未満で「ある程度は満足している」「とても満足している」の割合が最も高く、3～10年・21年以上と続き、11～20年が 73%で最も低い。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



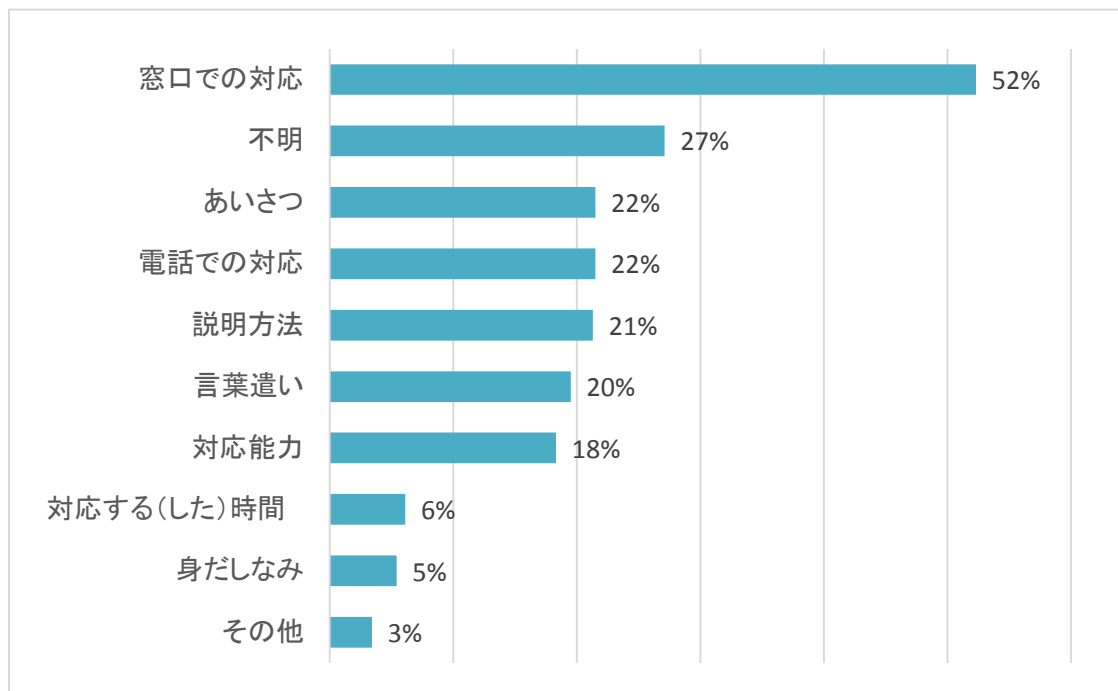
問36(市職員の態度への満足・不満足の原因)

満足している、または満足していない理由は何ですか。(全てに○)

「窓口での対応」が52%と接客に関する不満が高い

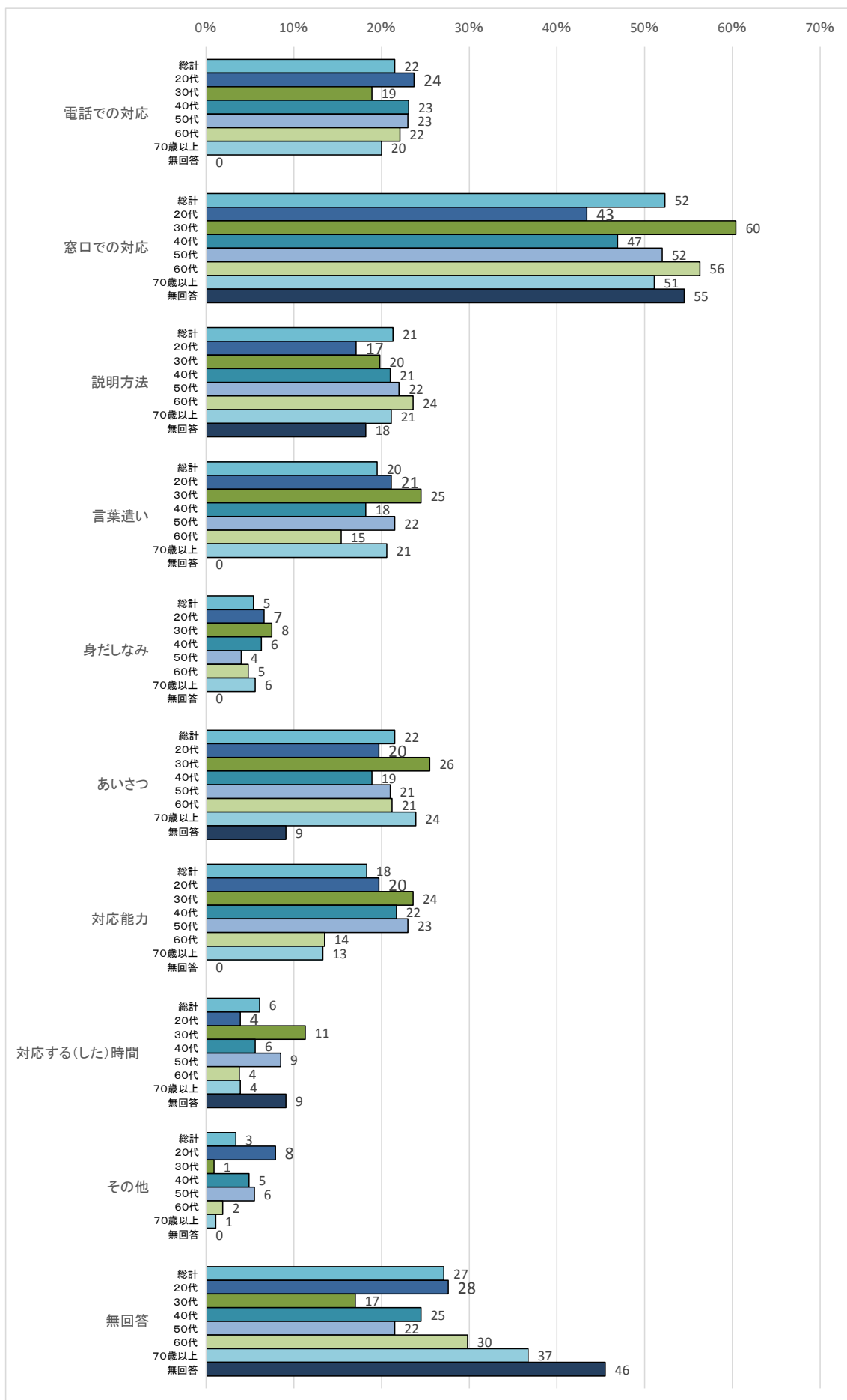
全体傾向		「窓口での対応」が52%で最も高く、「あいさつ」、「電話での対応」、「説明方法」、「言葉遣い」、「対応能力」と続いている。
クロス集計	年代別	年代別での傾向の相違は見られない。
	地域別	地域別での傾向の相違は見られない。

(全体傾向)

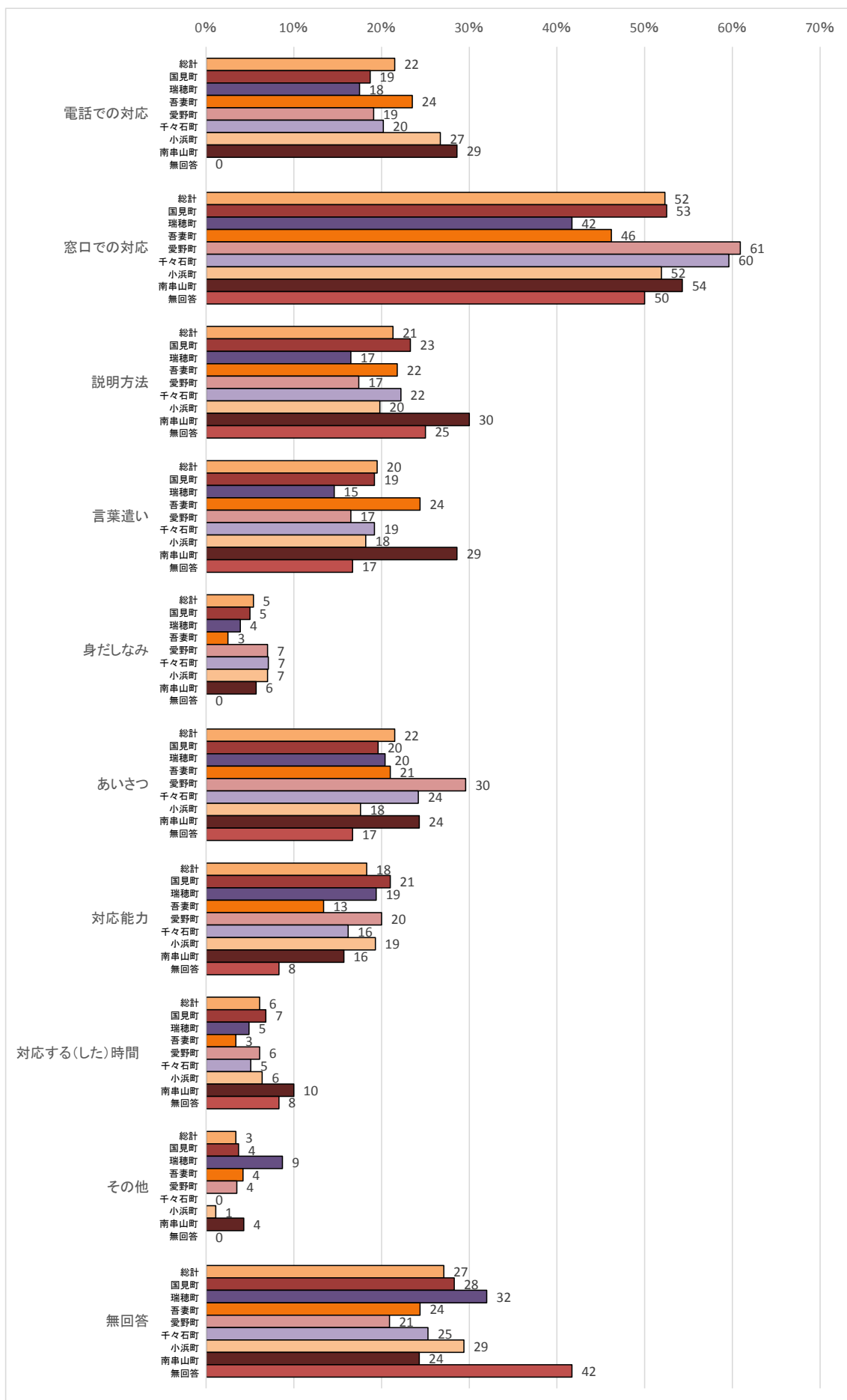


N=924

(年代別クロス)



(地域別クロス)



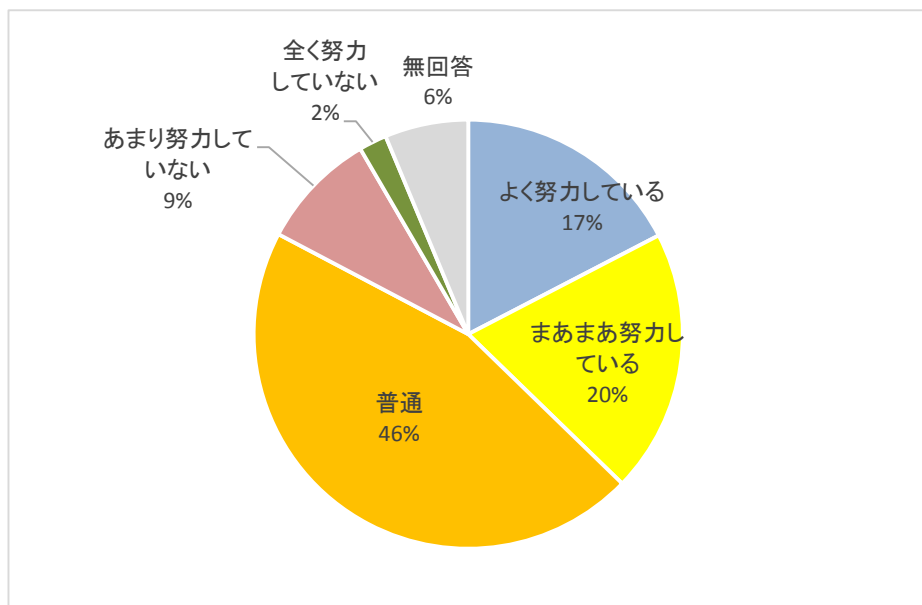
問37(合併後の市職員の印象)

合併して来年で10年を迎えます。合併前に比べて業務が広域化し、多様化しておりますが、市役所職員に対してどのような印象をお持ちですか。(1つに○)

「普通」が46%でトップ。「よく努力している」「まあまあ努力している」を含めると8割以上

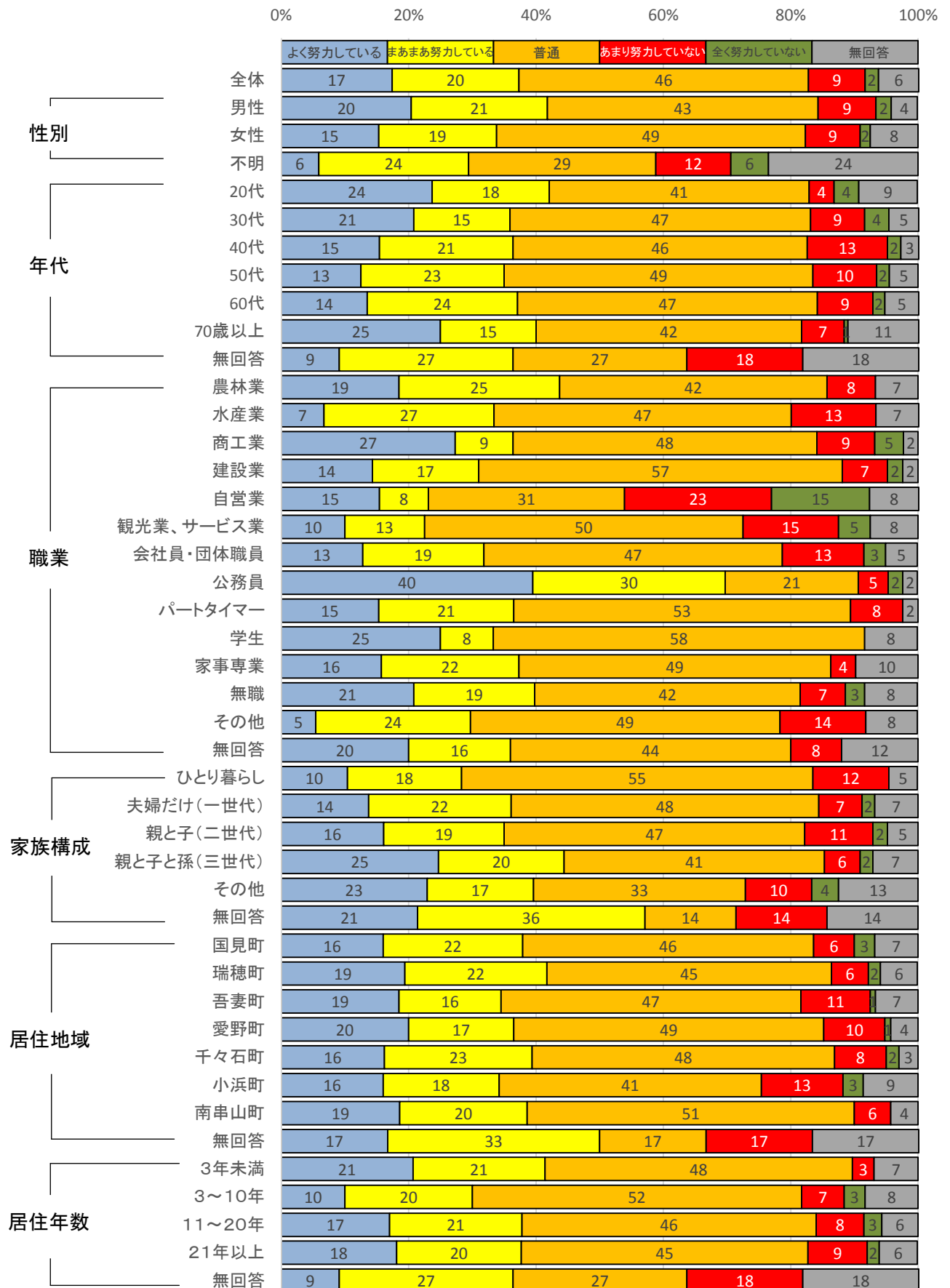
全体傾向		「ふつう」が46%で最も高く、「まあまあ努力している」、「よく努力している」、「あまり努力していない」と続き、「全く努力していない」は2%。
クロス集計	男女別	男女ともに「よく努力している」「まあまあ努力している」で3~4割であるが、その割合は女性に比べ男性の方が高い。
	年代別	20代で「よく努力している」「まあまあ努力している」が最も高く、70歳以上、60代と続きその他の年代が36%と低い。
	職業別	公務員で「よく努力している」「まあまあ努力している」が最も高く、農林業・無職、商工業・パートタイマーと続き自営業が23%と最も低い。
	家族構成別	親と子と孫(三世代)で「よく努力している」「まあまあ努力している」が最も高く、夫婦だけ(一世代)、親と子(二世代)と続き、一人暮らしが28%で最も低い。
	地域別	瑞穂町で「よく努力している」「まあまあ努力している」が最も高く、千々石町、国見町と続き、小浜町が34%で最も低い。
	居住年数別	3年未満で「よく努力している」「まあまあ努力している」が最も高く、11~20年・21年以上と続き、3~10年が30%で最も低い。

(全体傾向)



N=924

(基本属性クロス)



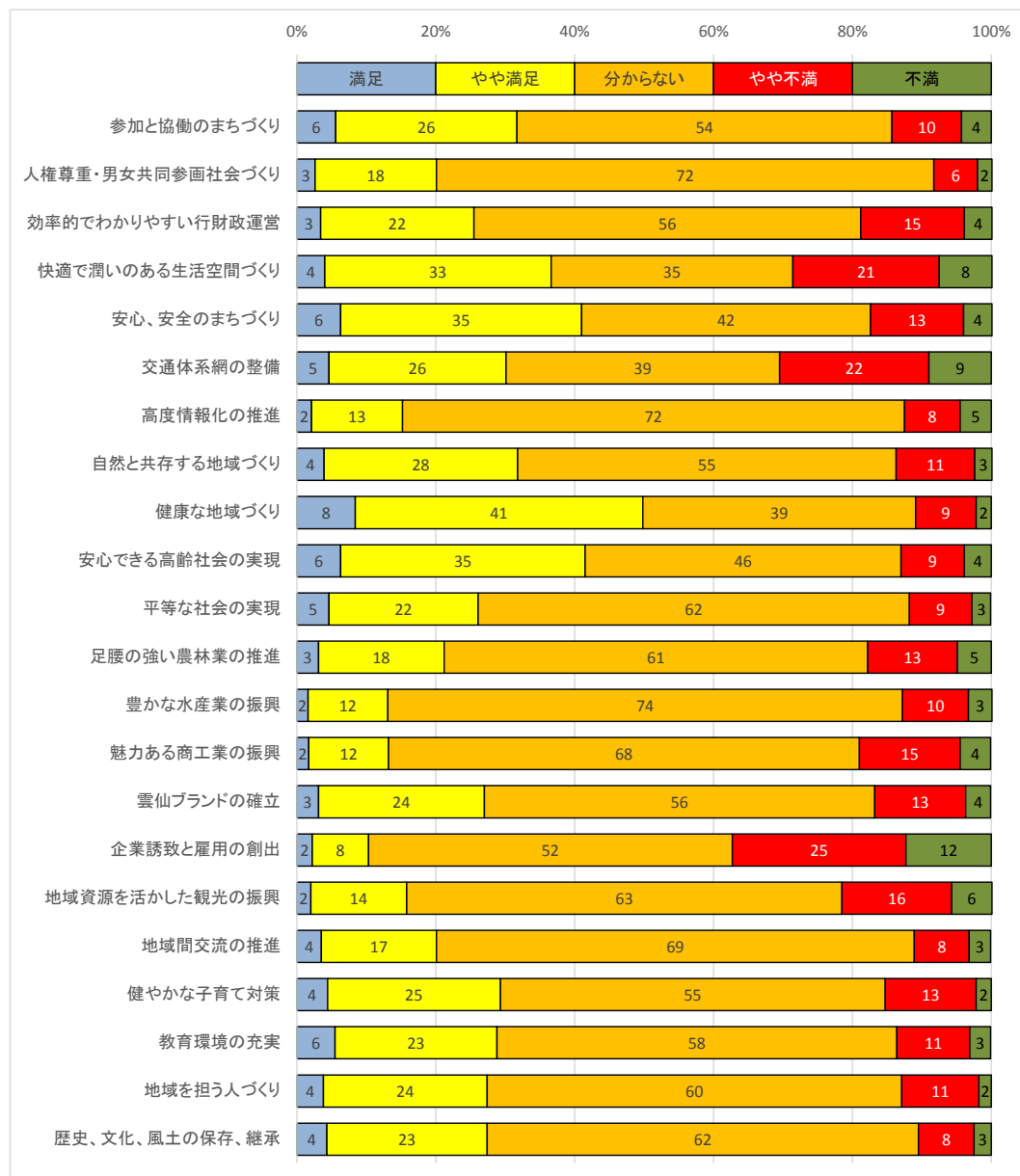
6. 雲仙市の総合的な政策について(満足度・重要度)

雲仙市では合併後以下に示す政策分野や各種事業を展開してきましたが、分野ごとの満足度と重要度についてお聞きます。(5点満点評価)

《満足度》

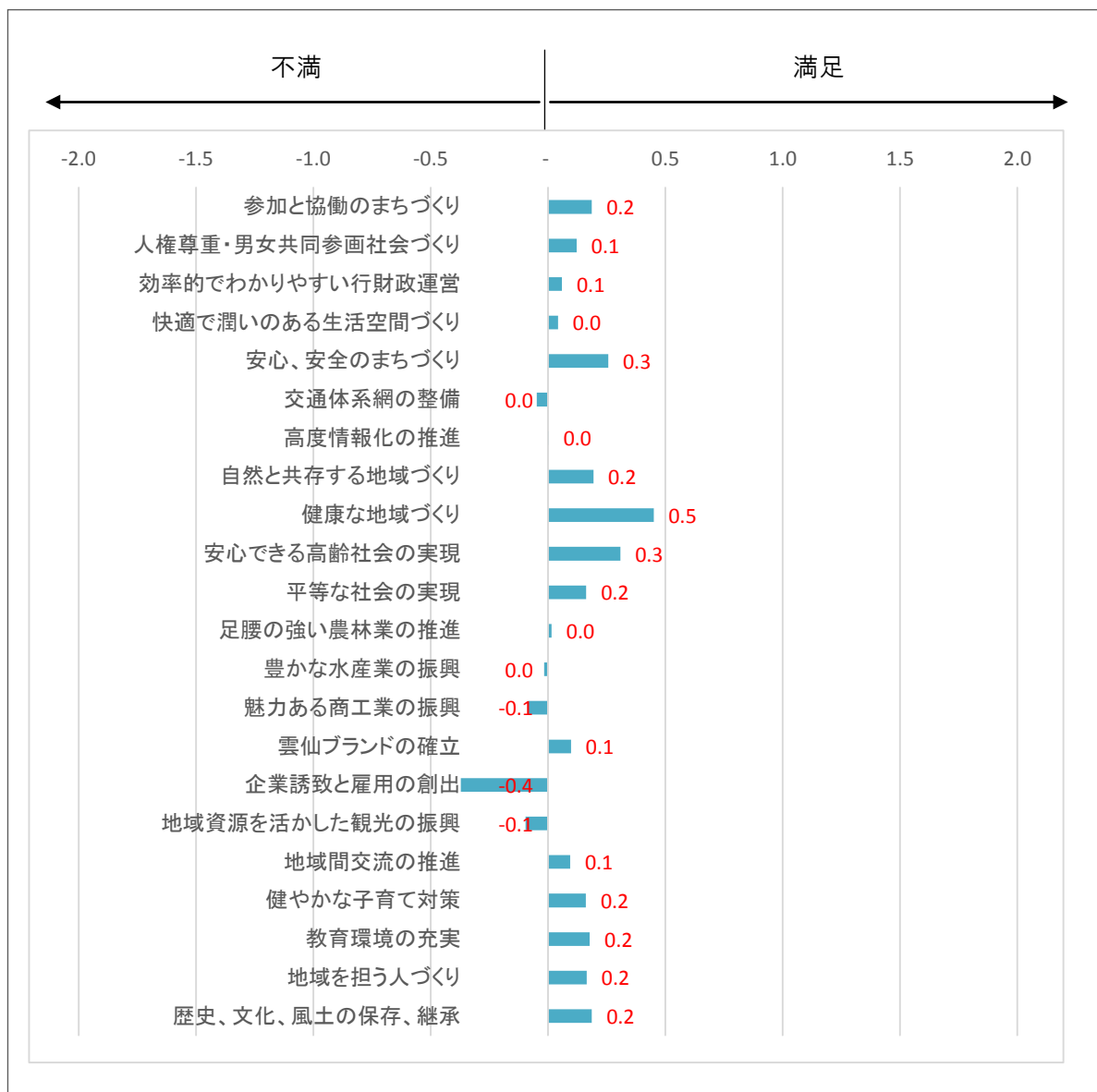
「健康な地域づくり」、「安心、安全のまちづくり」、「安心できる高齢社会の実現」等で高い満足度

全体傾向	「満足」と「やや満足」をあわせると、「健康な地域づくり」が49%で最も高く、「安心、安全のまちづくり」、「安心できる高齢社会の実現」が41%で続いている。一方、「企業誘致と雇用の創出」が10%で最も低く、「豊かな水産業の振興」、「魅力ある商工業の振興」など産業系分野の評価が低い。
------	--



(指数化：満足度)

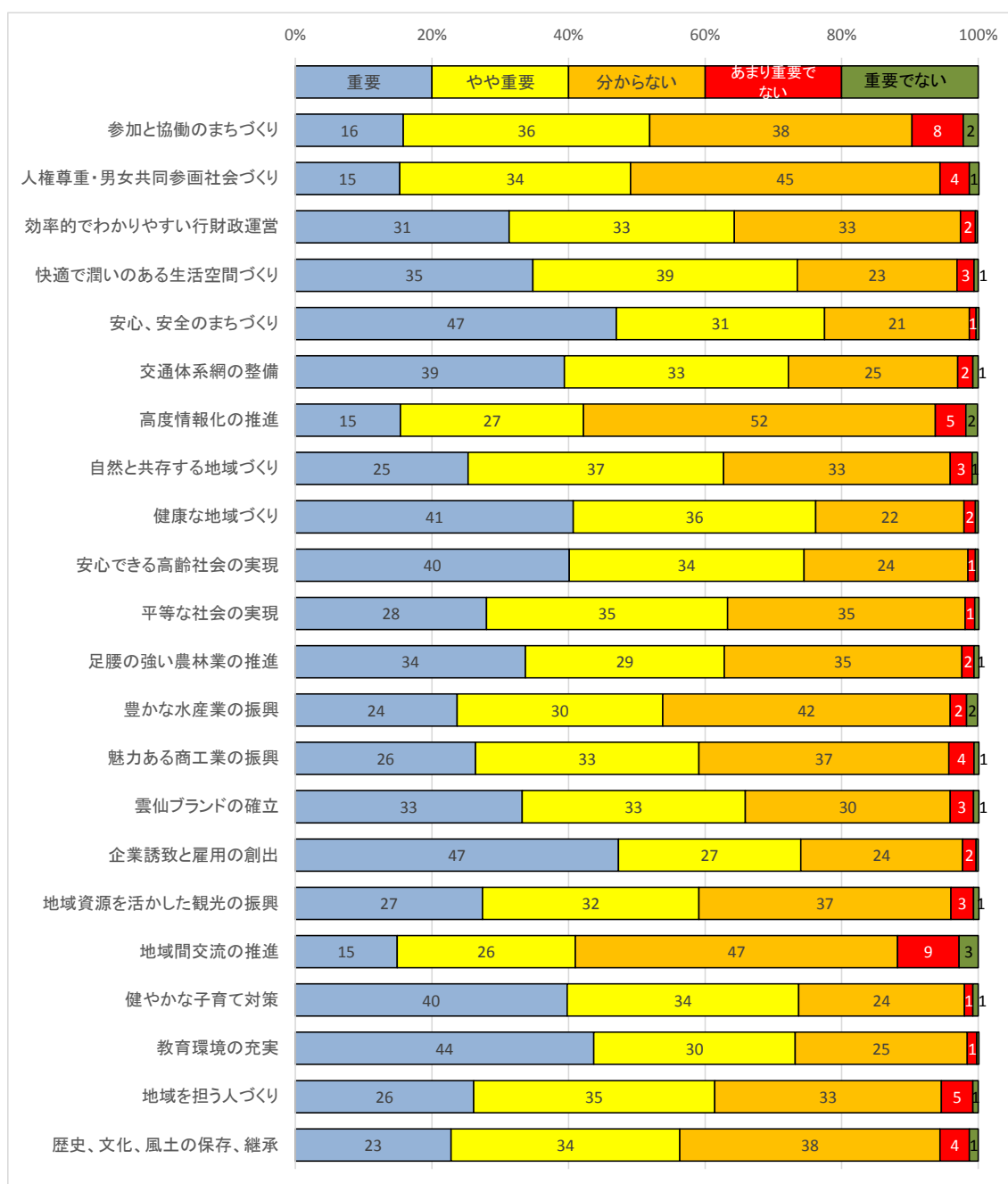
※ (満足×2+やや満足×1+やや不満×(-1)+不満×(-2))/回答数



《重要度》

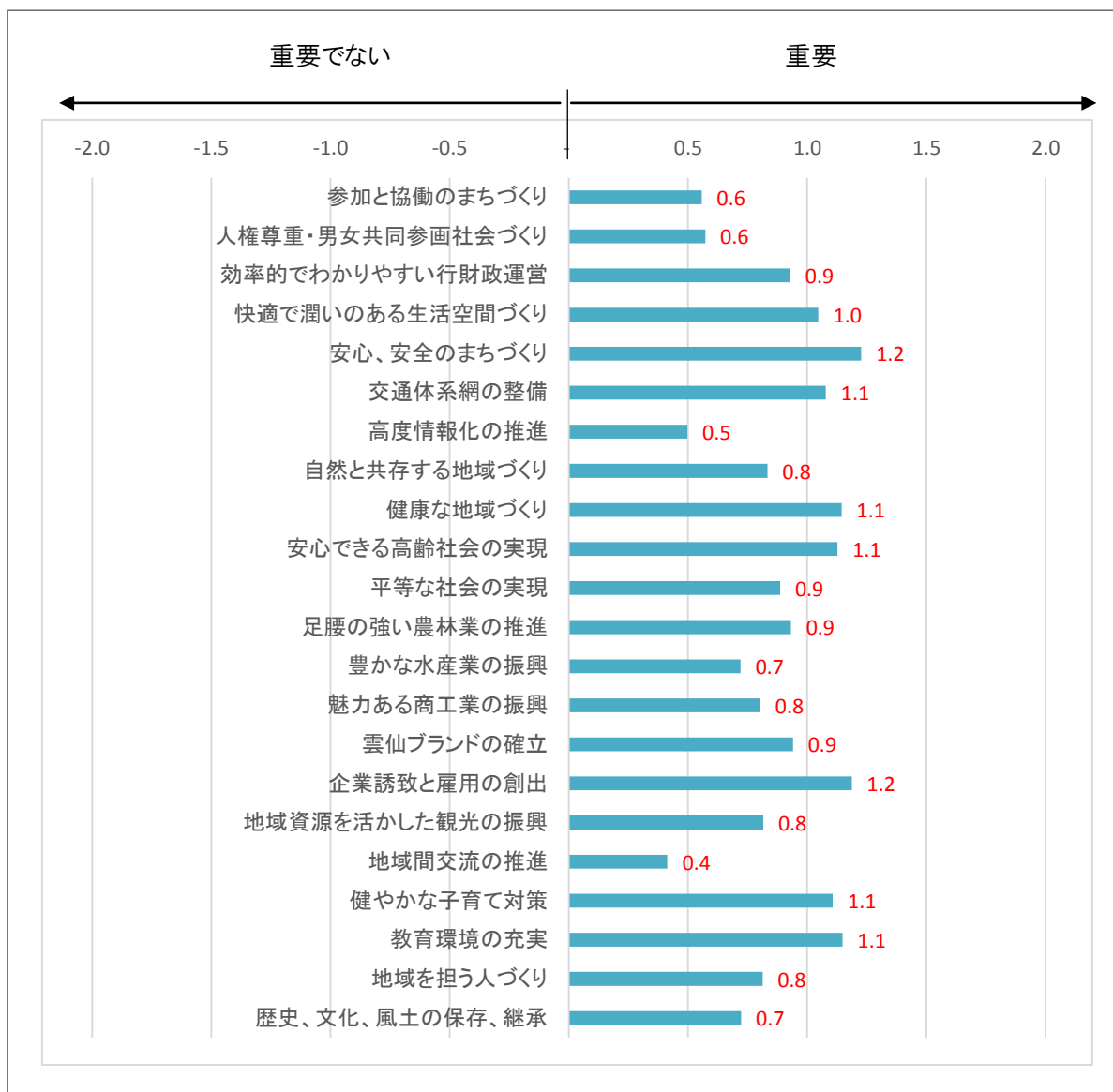
重要度の高い政策は、「健康な地域づくり」、「安心、安全のまちづくり」、
「安心できる高齢社会の実現」、「企業誘致と雇用の創出」など

全体傾向	安心、安全のまちづくりが「重要」「やや重要」78%で最も高く、健康な地域づくり、安心できる高齢社会の実現、企業誘致と雇用の創出と続き、地域間交流の推進が41%で最も低い。
------	---



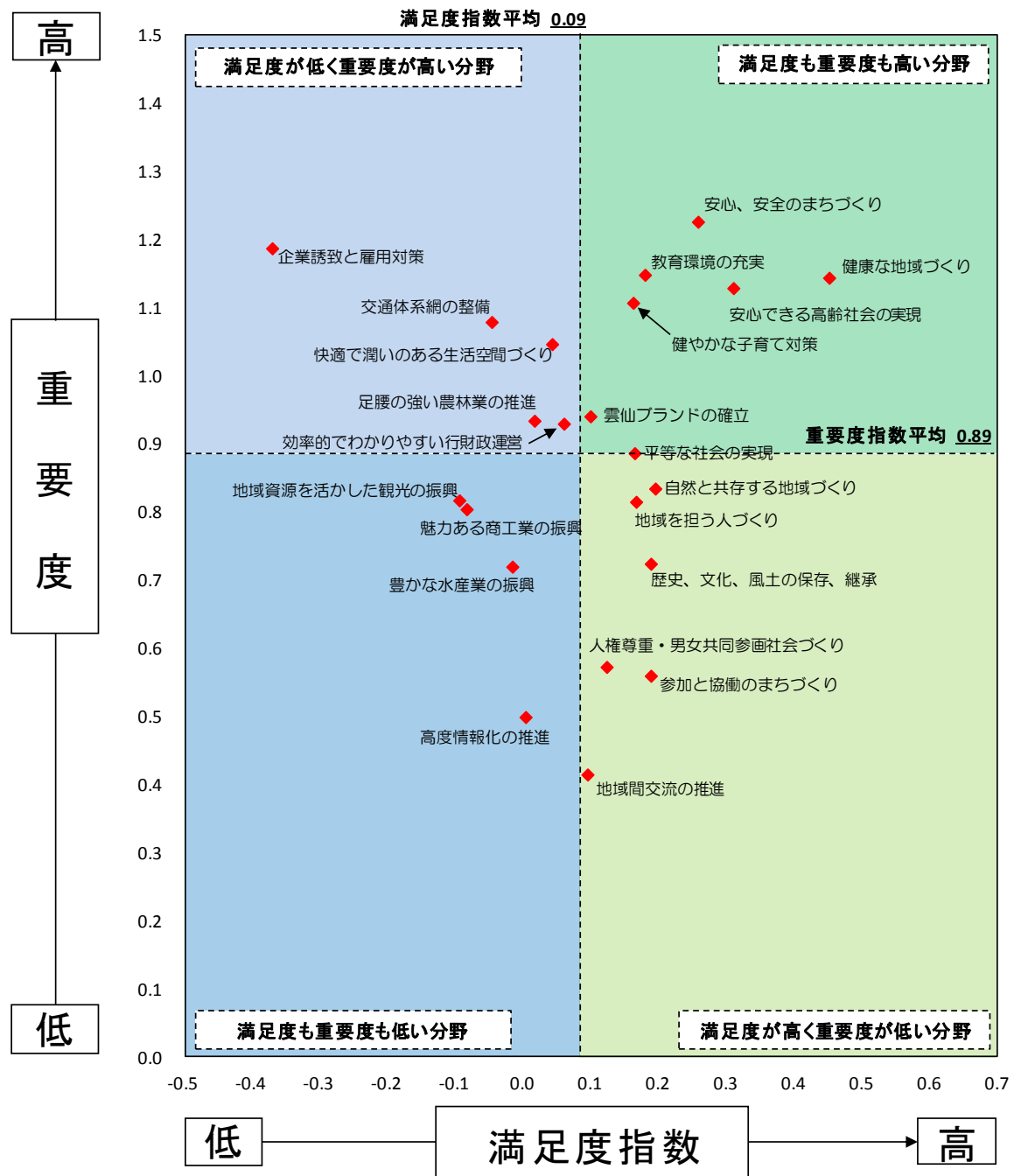
(指数化:重要度)

※ (重要×2+やや重要×1+さほど重要ではない×(-1)+重要ではない×(-2))/回答数



(満足度、重要度クロス)

全体傾向	重要度が高く満足度が低い分野に「企業誘致と雇用対策」「交通体系の整備」「快適で潤いのある生活空間づくり」「足腰の強い農林業の推進」「効率的でわかりやすい行財政運営」が挙げられている。
------	---

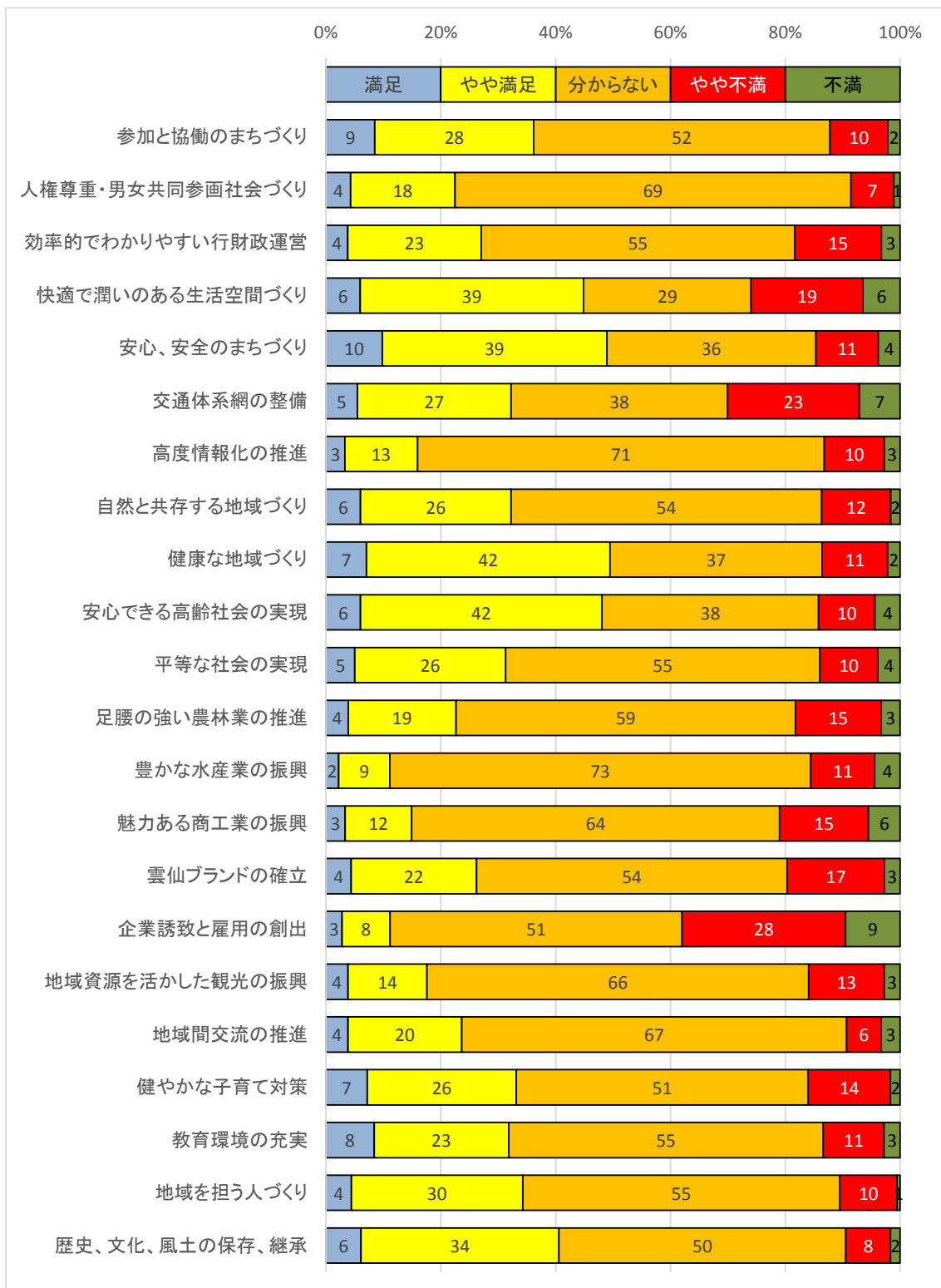


《地域別満足度・重要度》

1. 国見町

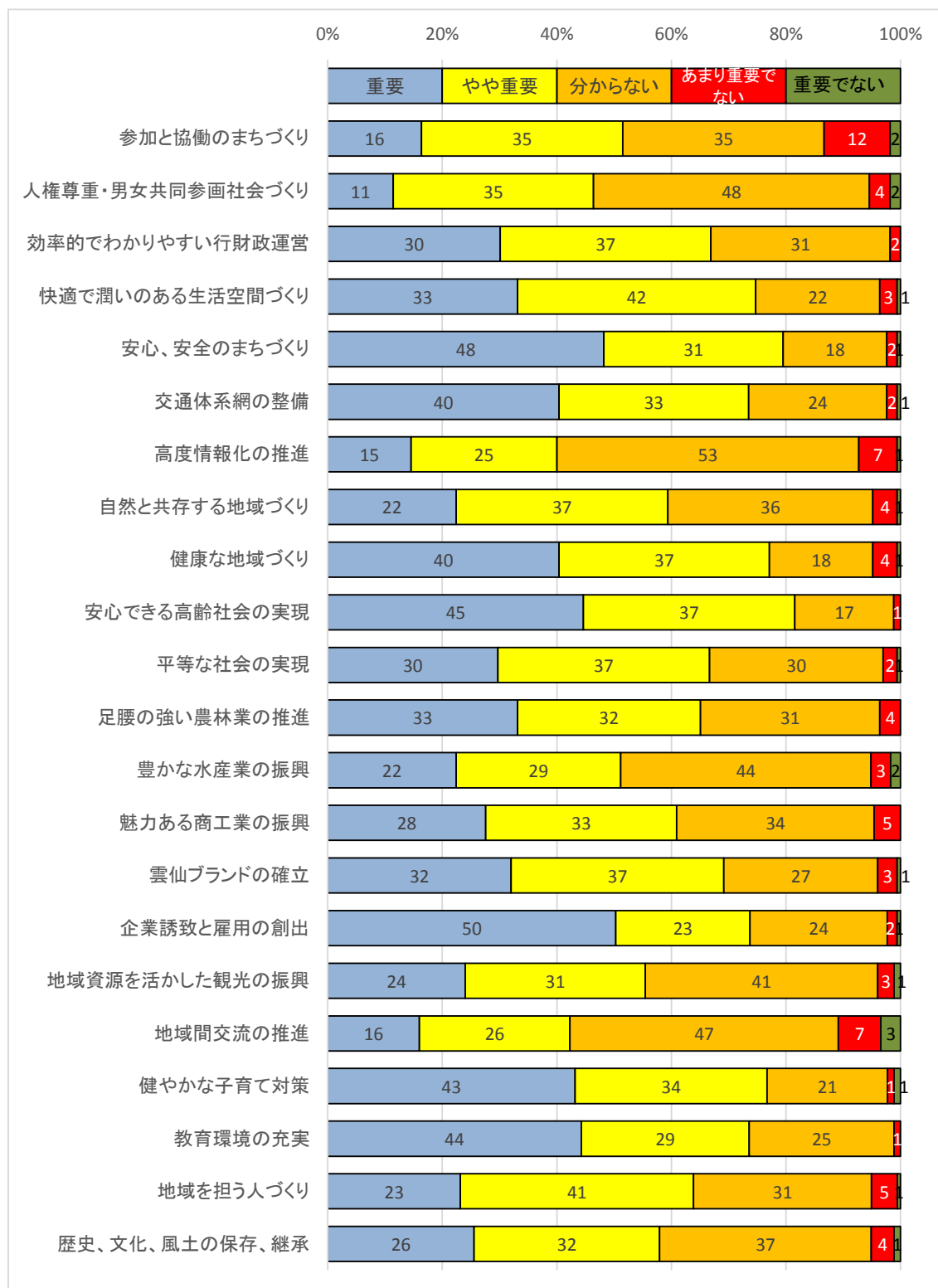
《満足度》

国見町傾向	安心、安全のまちづくり・健康な地域づくりが「満足」「やや満足」49%で最も高く、安心できる高齢社会の実現と続き、豊かな水産業の振興・企業誘致と雇用の創出が11%で最も低い。
-------	--



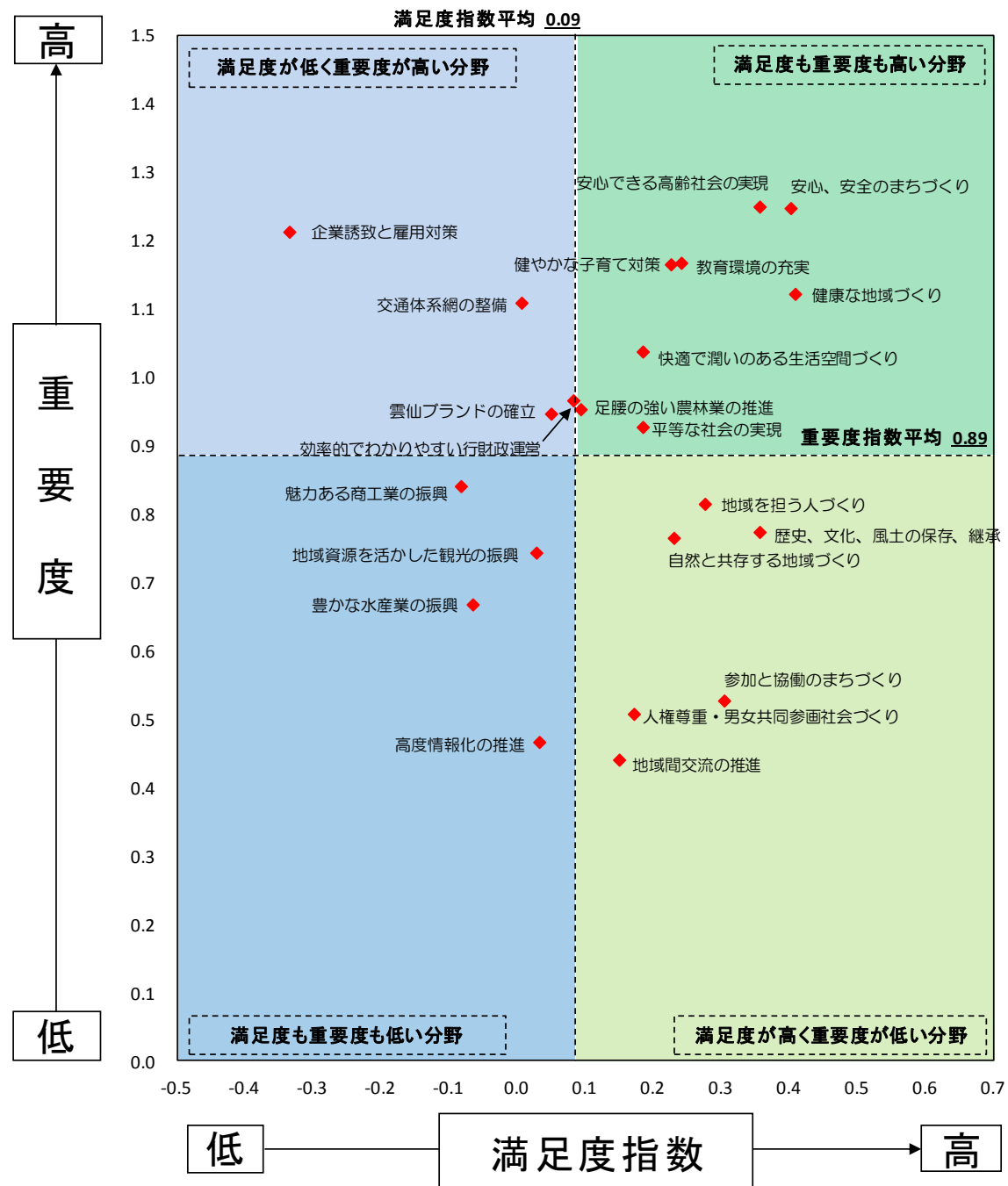
《重要度》

国見町傾向	安心、安全のまちづくりが「重要」「やや重要」79%で最も高く、健康な地域づくり、安心できる高齢社会の実現と続き、地域間交流の推進が42%で最も低い。
-------	--



(満足度、重要度クロス)

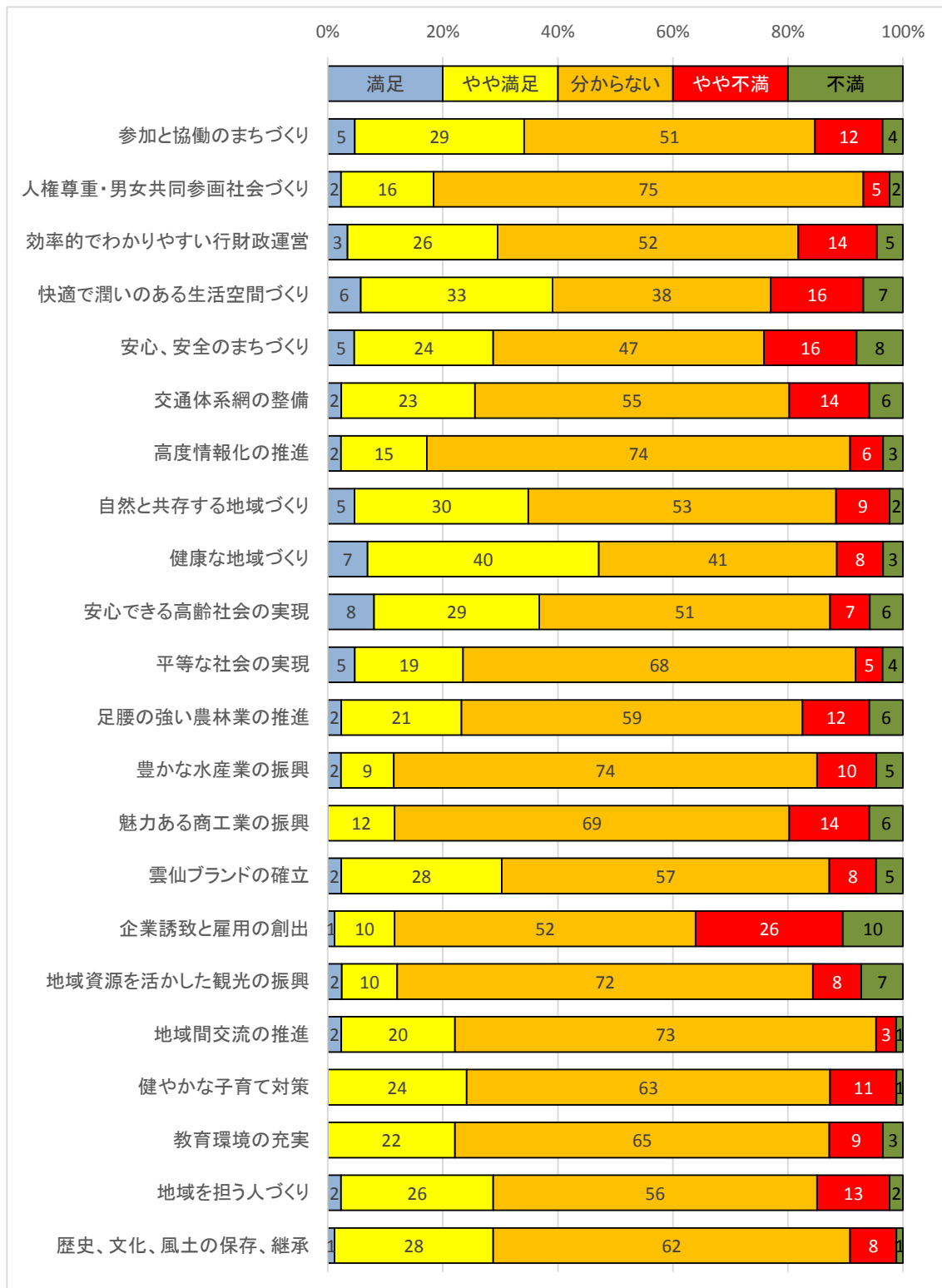
国見町傾向	重要度が高く満足度が低い分野に「企業誘致と雇用対策」「交通体系の整備」「効率的でわかりやすい行財政運営」が挙げられている。
-------	---



2. 瑞穂町

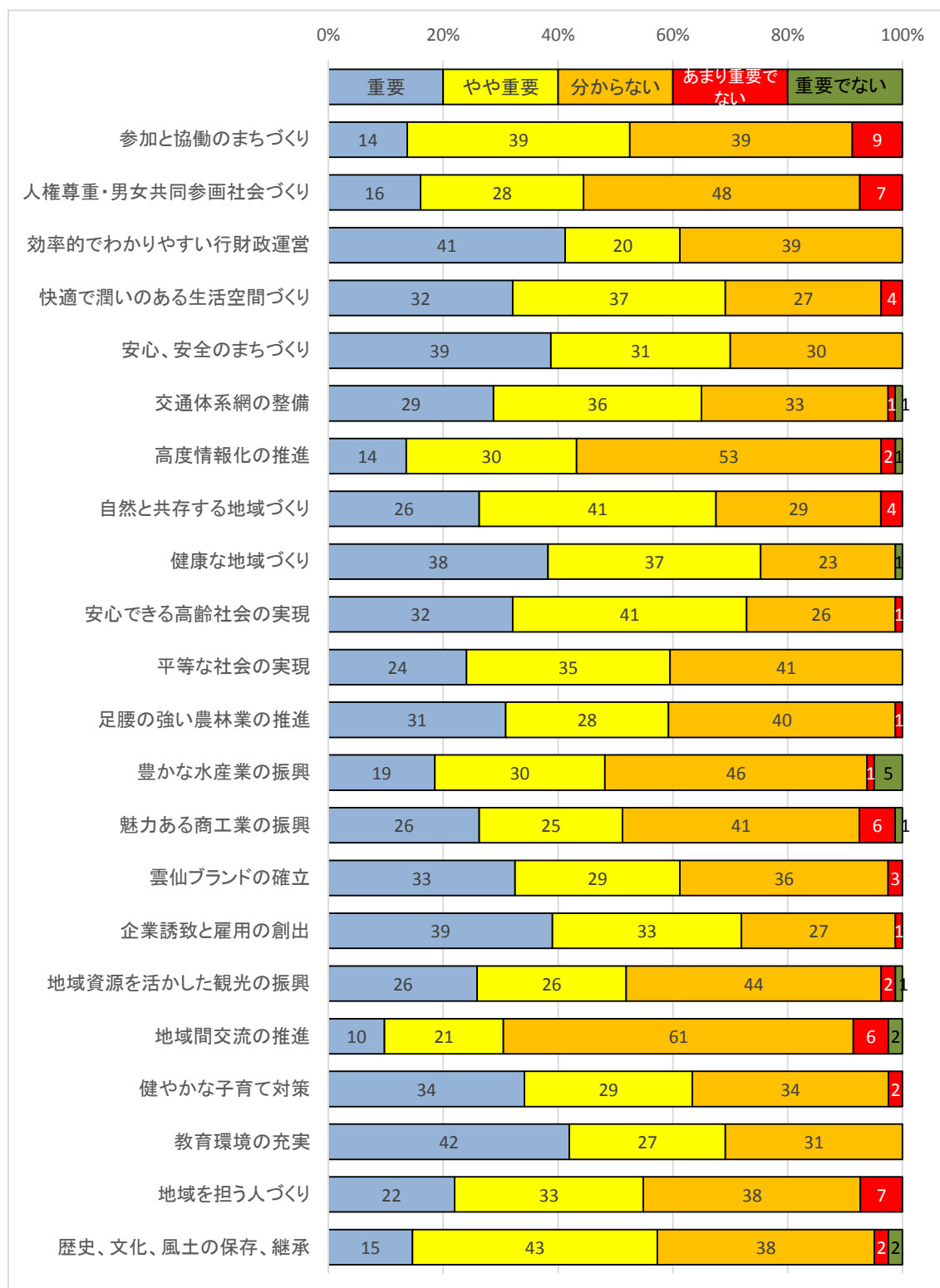
《満足度》

瑞穂町傾向	健康な地域づくりが「満足」「やや満足」47%で最も高く、快適で潤いのある生活空間づくり、安心、安全のまちづくりと続き、豊かな水産業の振興・企業誘致と雇用の創出が11%で最も低い。
-------	---



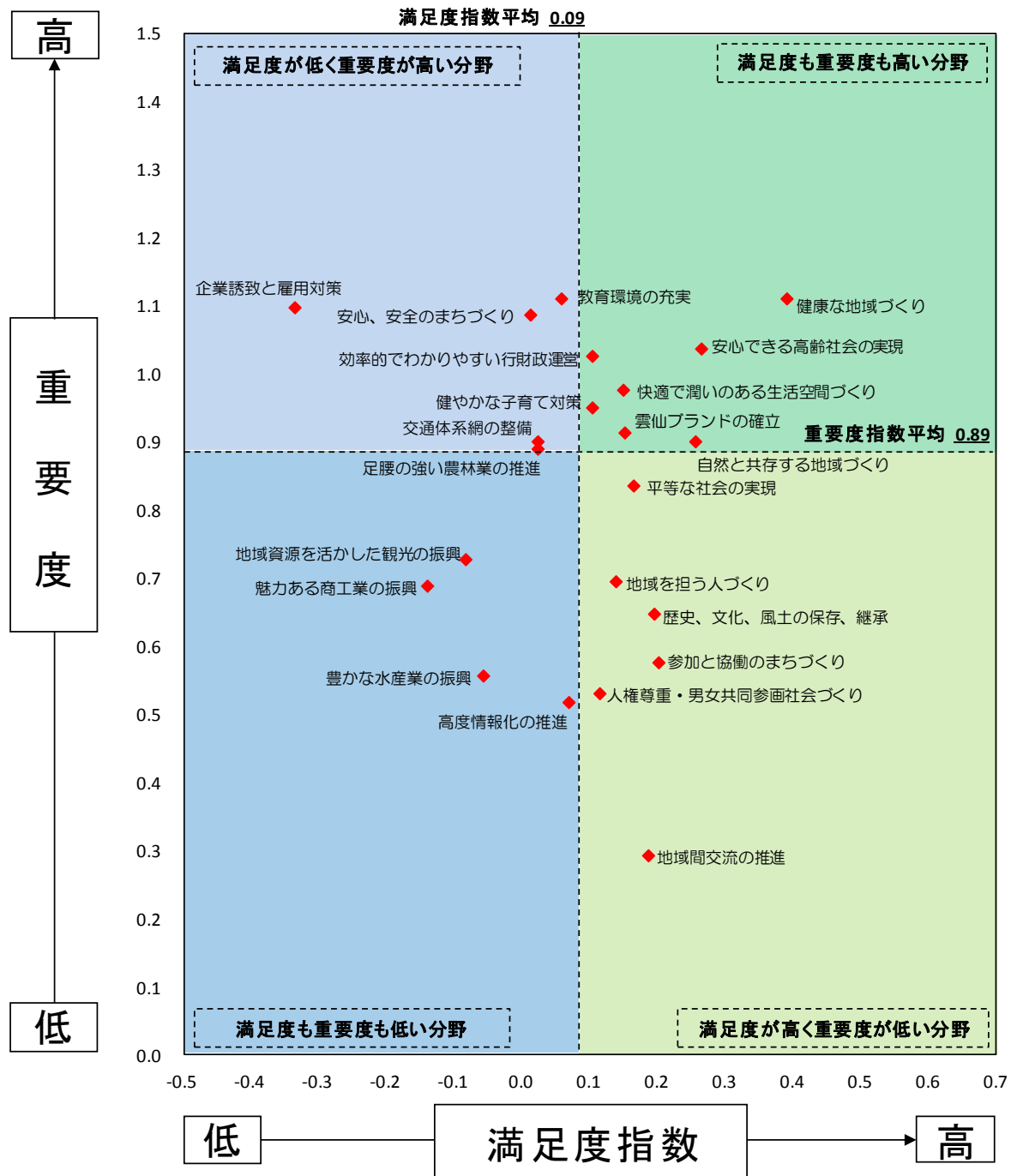
《重要度》

瑞穂町傾向	健康な地域づくりが「重要」「やや重要」75%で最も高く、安心できる高齢社会の実現、企業誘致と雇用の創出と続き、地域間交流の推進が31%で最も低い。
-------	---



(満足度、重要度クロス)

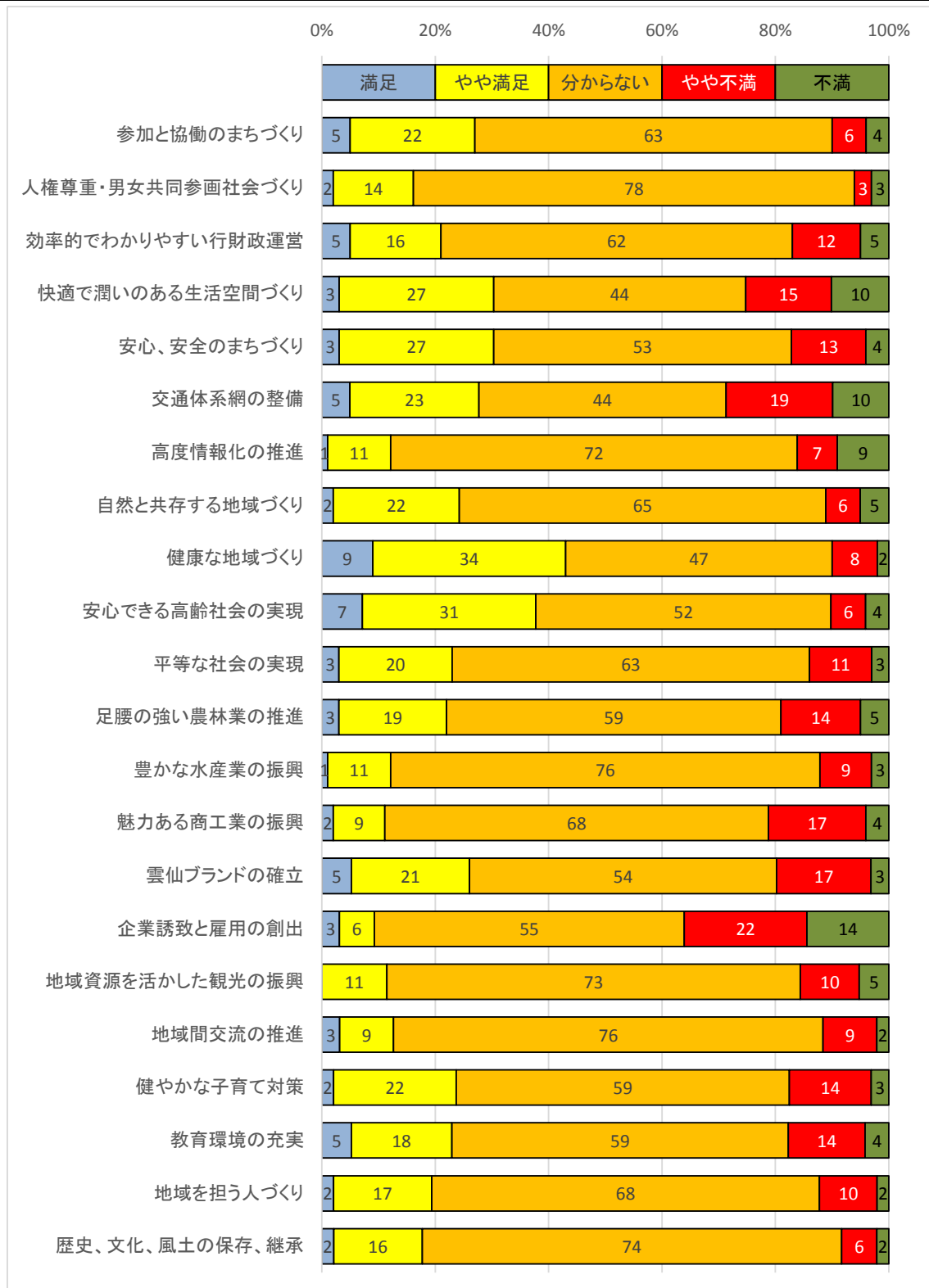
瑞穂町傾向	重要度が高く満足度が低い分野に「企業誘致と雇用対策」「教育環境の充実」「安心、安全のまちづくり」「交通体系の整備」「足腰の強い農林業の推進」が挙げられている。
-------	---



3. 吾妻町

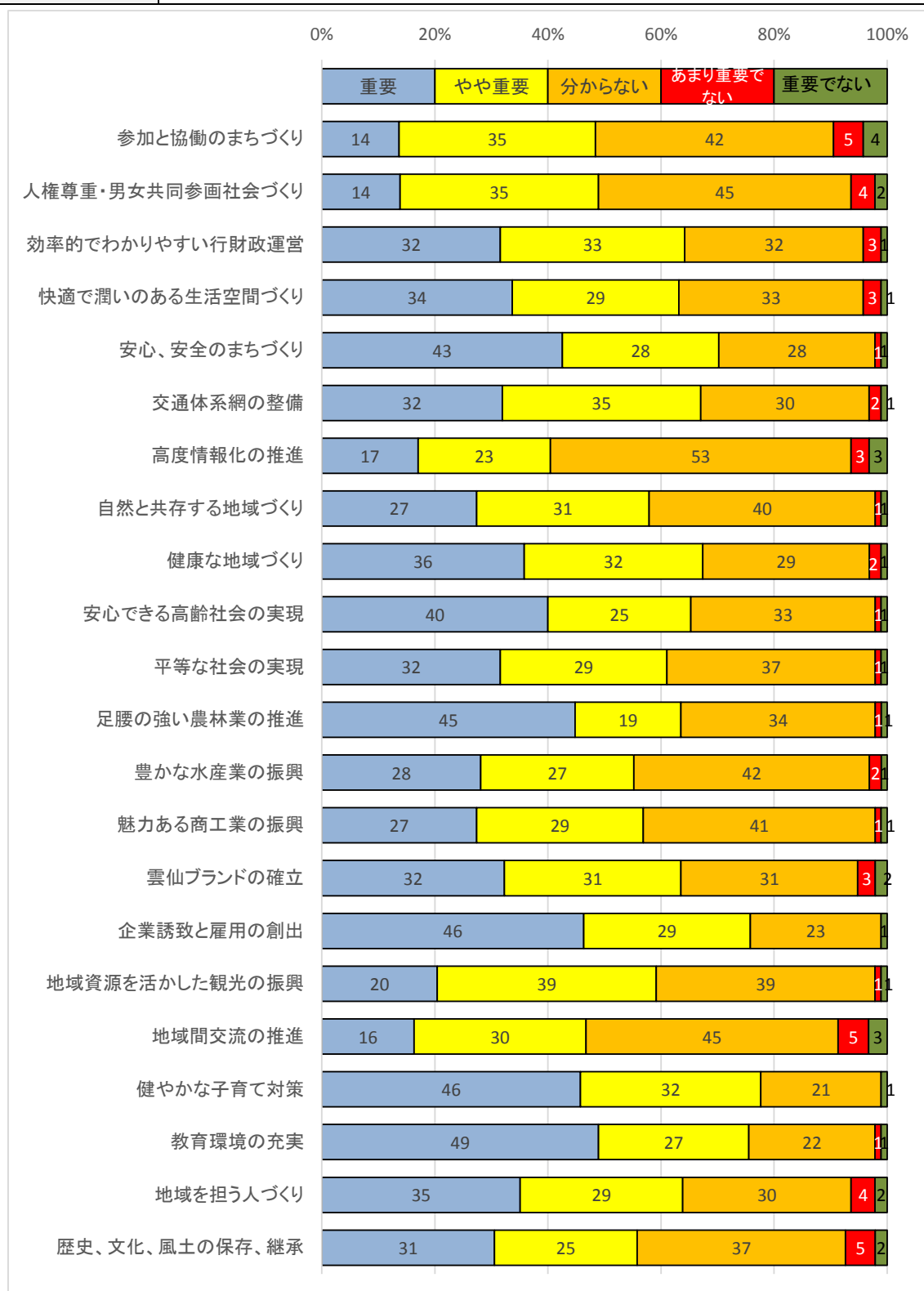
《満足度》

吾妻町傾向	健康な地域づくりが「満足」「やや満足」43%で最も高く、安心できる高齢社会の実現、快適で潤いのある生活空間づくりと続き、企業誘致と雇用の創出が9%で最も低い。
-------	---



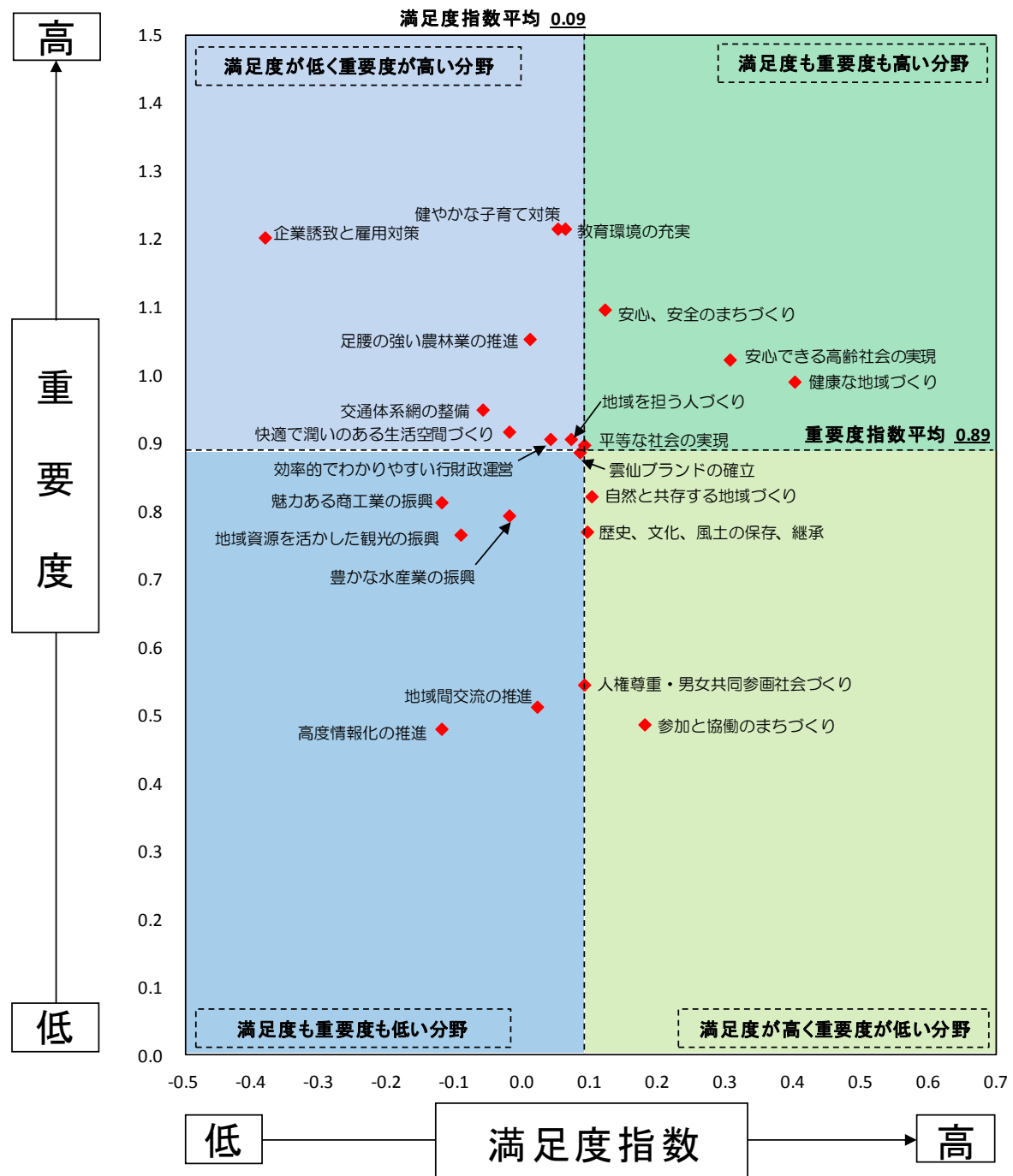
《重要度》

吾妻町傾向	健やかな子育て対策が「重要」「やや重要」78%で最も高く、教育環境の充実、企業誘致と雇用の創出と続き、高度情報化の推進が40%で最も低い。
-------	---



(満足度、重要度クロス)

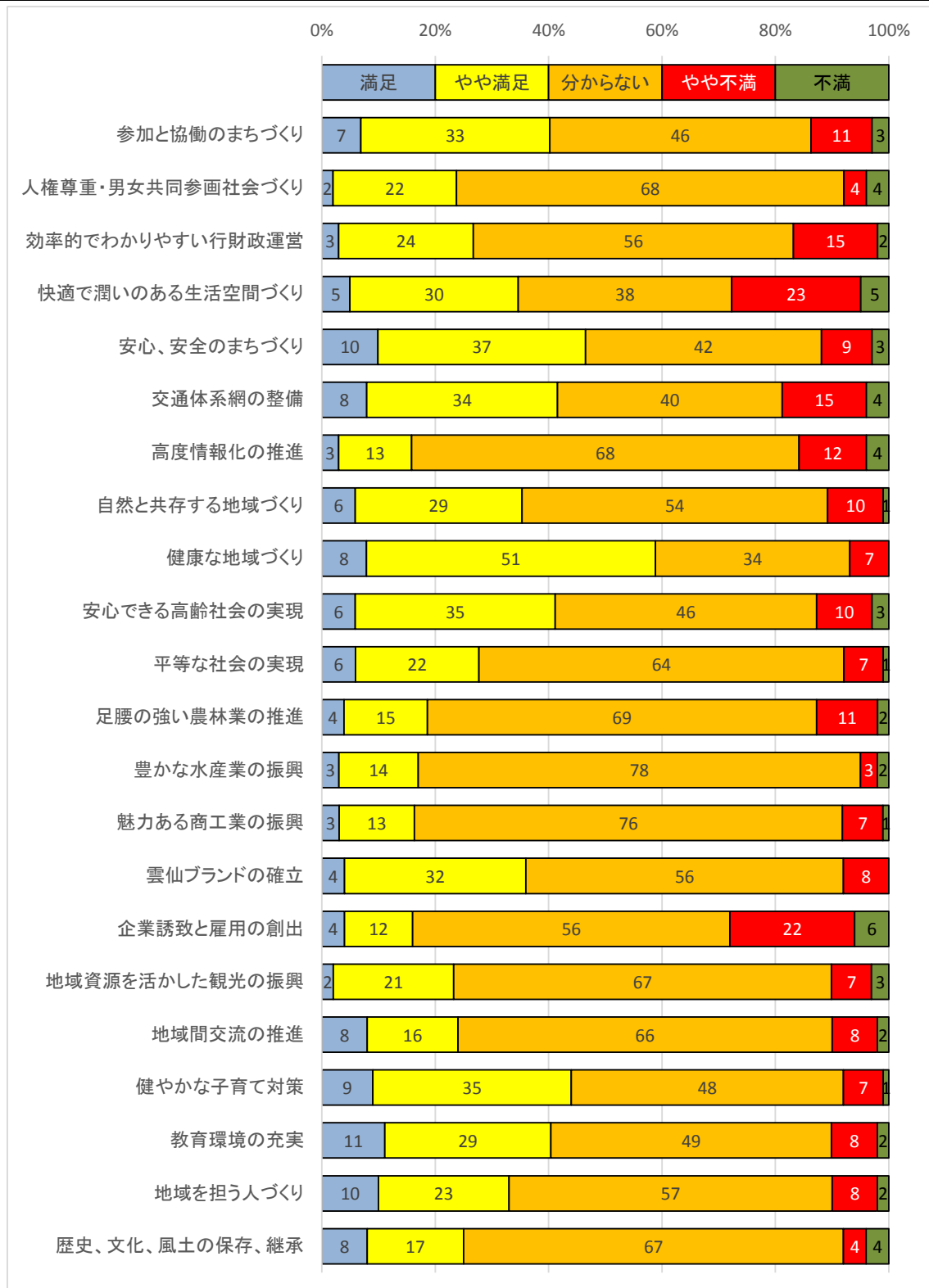
吾妻町傾向	重要度が高く満足度が低い分野に「企業誘致と雇用対策」「健やかな子育て対策」「教育環境の充実」「足腰の強い農林業の推進」「交通体系の整備」「快適で潤いのある生活空間づくり」が挙げられている。
-------	--



4. 愛野町

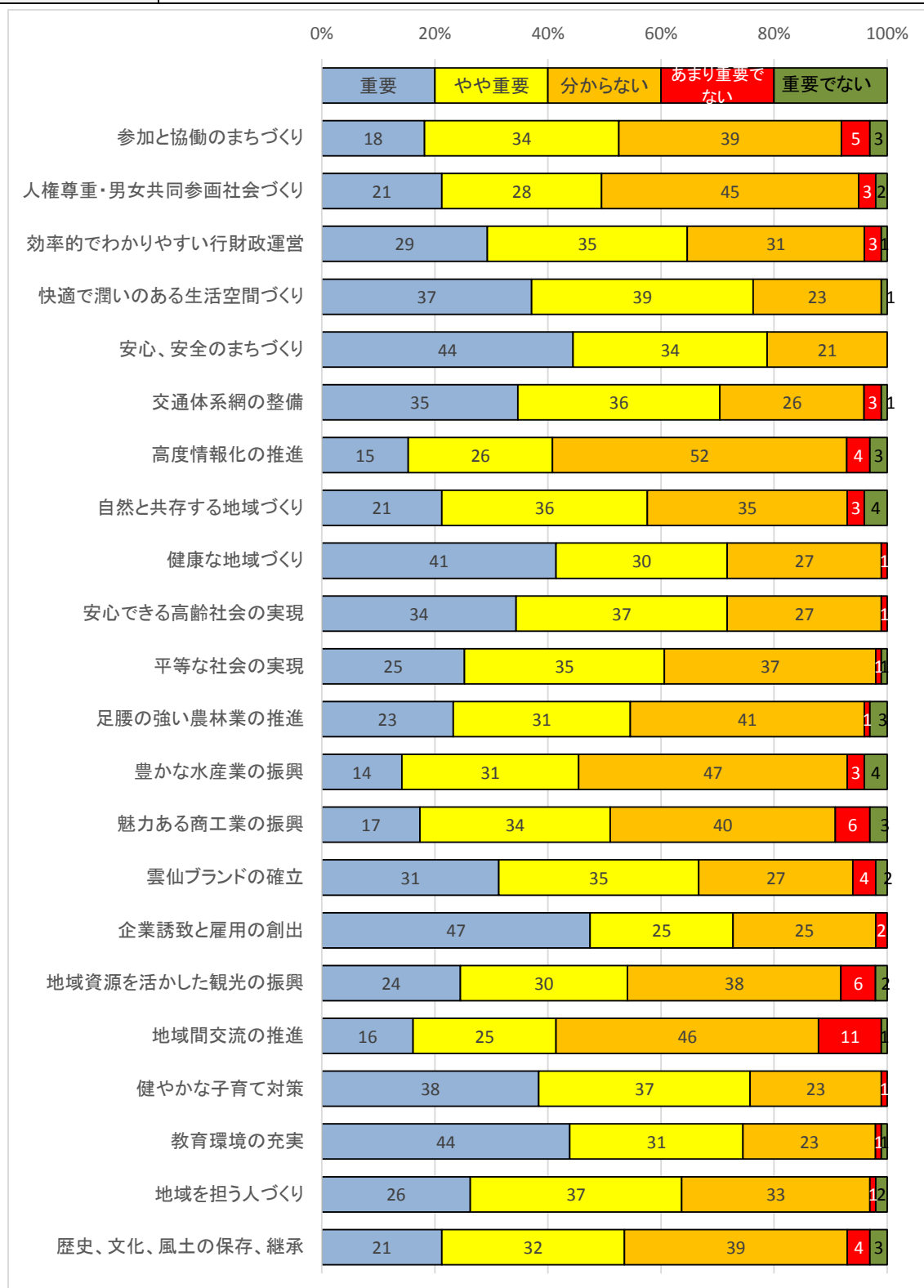
《満足度》

愛野町傾向	健康な地域づくりが「満足」「やや満足」59%で最も高く、安心、安全のまちづくり、健やかな子育て対策と続き、高度情報化の推進・企業誘致と雇用の創出が16%で最も低い。
-------	--



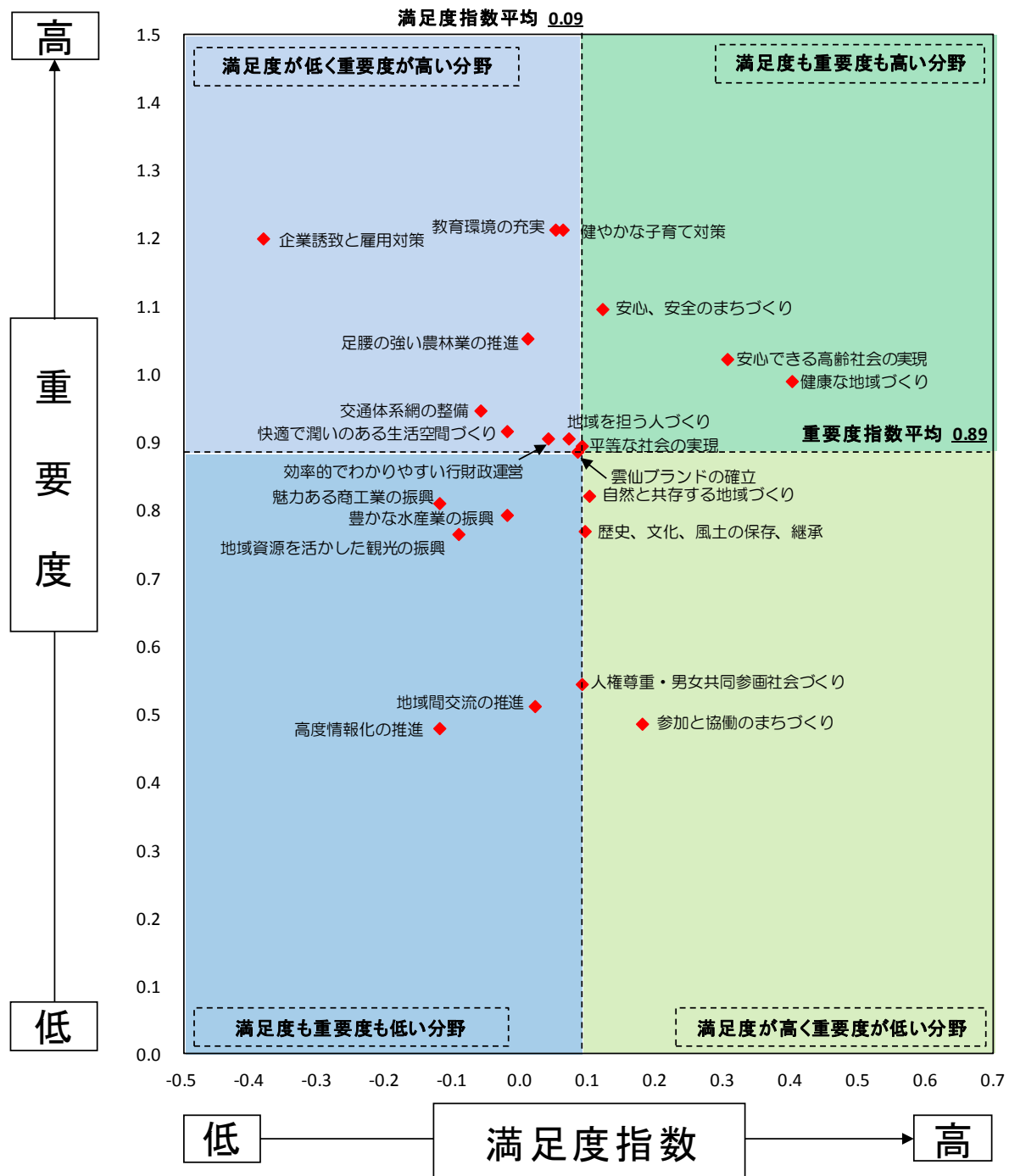
《重要度》

愛野町傾向	安心、安全のまちづくりが「重要」「やや重要」78%で最も高く、快適で潤いのある生活空間づくり、健やかな子育て対策と続き、高度情報化の推進・地域間交流の推進が41%で最も低い。
-------	---



(満足度、重要度クロス)

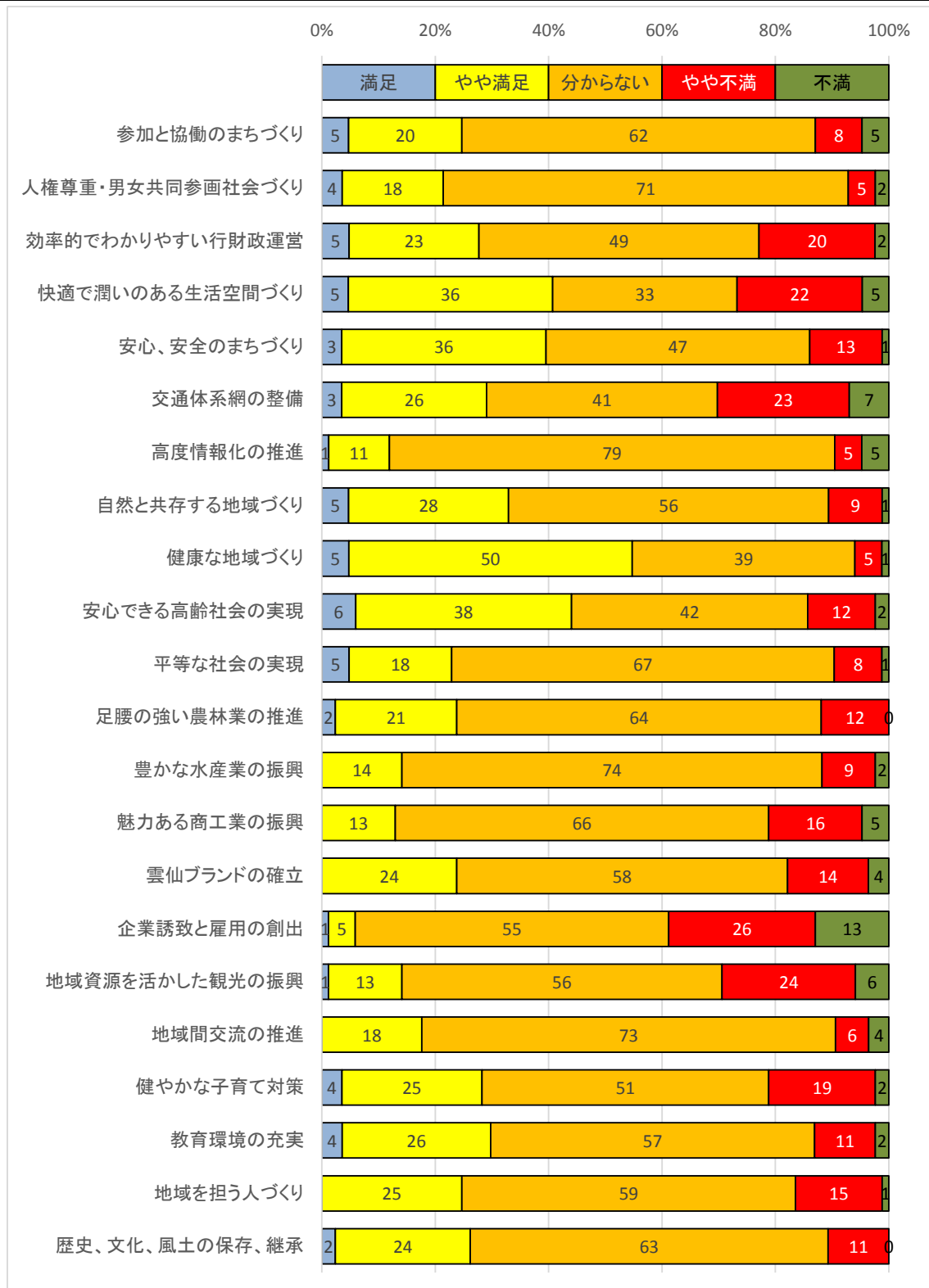
愛野町傾向	重要度が高く満足度が低い分野に「教育環境の充実」「健やかな子育て対策」「企業誘致と雇用対策」「足腰の強い農林業の推進」「交通体系の整備」「快適で潤いのある生活空間づくり」「効率的でわかりやすい行財政運営」「地域を担う人づくり」が挙げられている。
-------	--



5. 千々石町

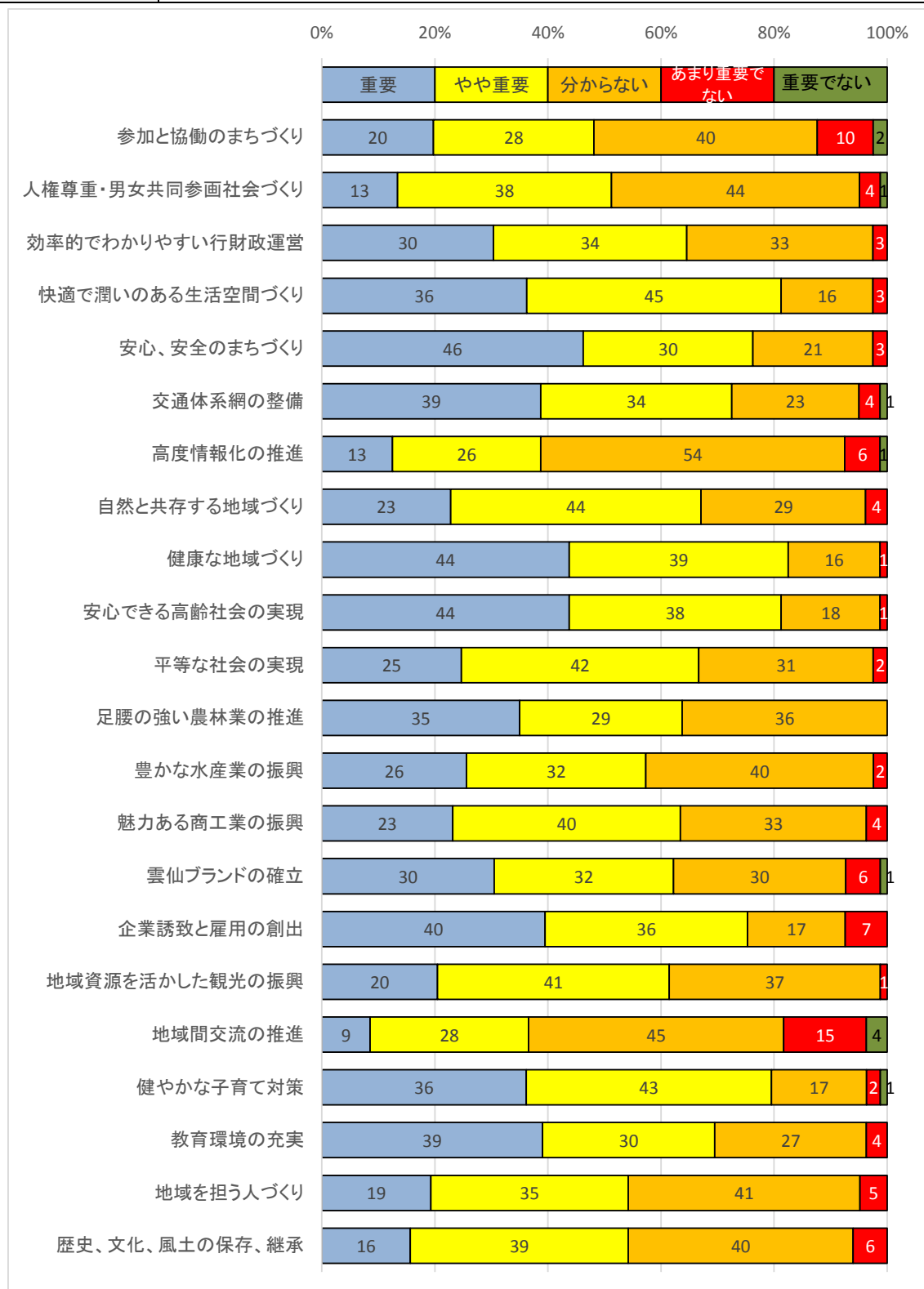
《満足度》

千々石町傾向	健康な地域づくりが「満足」「やや満足」55%で最も高く、安心できる高齢社会の実現、快適で潤いのある生活空間づくりと続き、企業誘致と雇用の創出が6%で最も低い。
--------	---



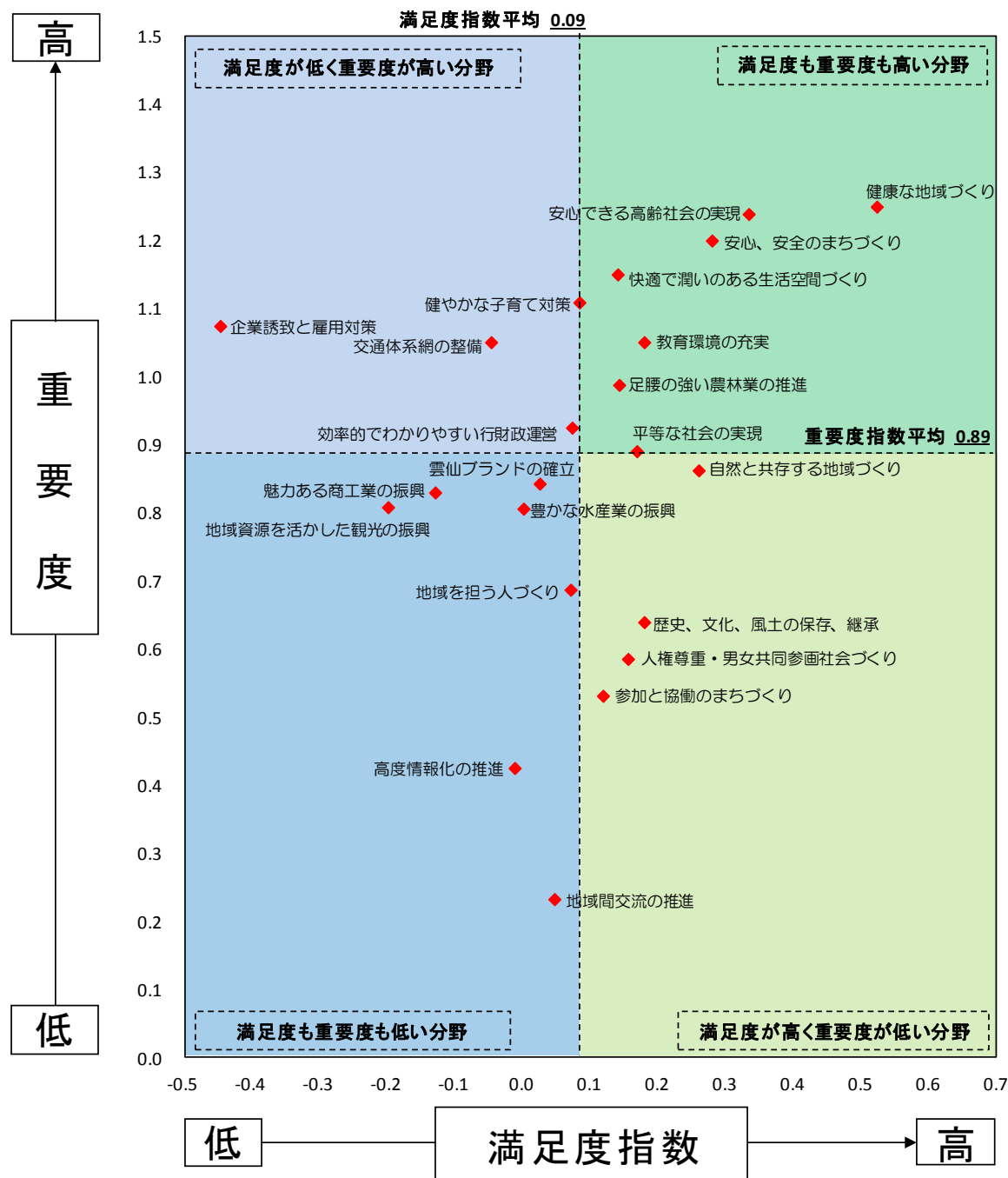
《重要度》

千々石町傾向	健康な地域づくりが「重要」「やや重要」83%で最も高く、安心できる高齢社会の実現、快適で潤いのある生活空間づくりと続き、地域間交流の推進が37%で最も低い。
--------	--



(満足度、重要度クロス)

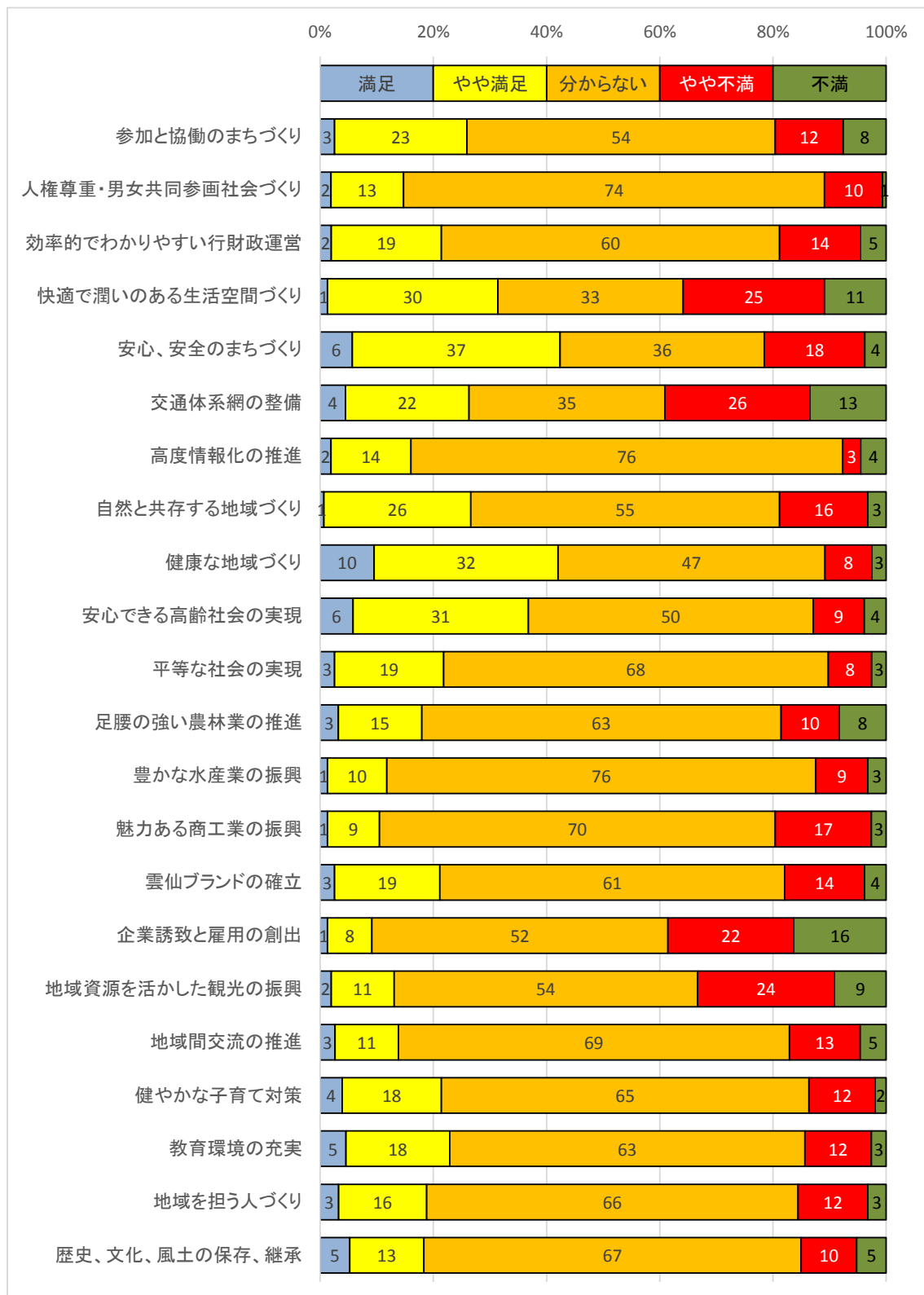
千々石町傾向	重要度が高く満足度が低い分野に「健やかな子育て対策」「企業誘致と雇用対策」「交通体系の整備」「効率的でわかりやすい行財政運営」が挙げられている。
--------	--



6. 小浜町

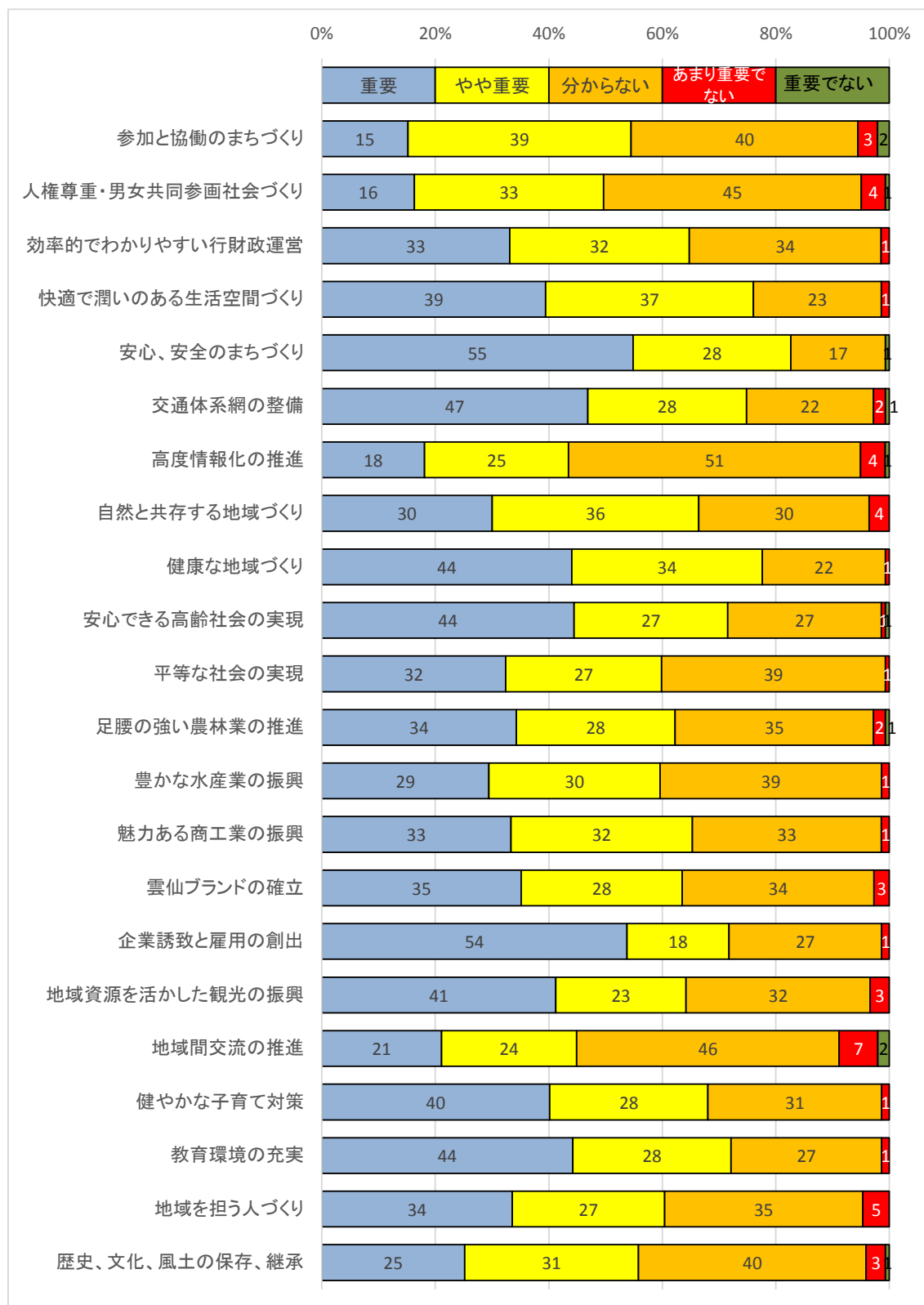
《満足度》

小浜町傾向	安心、安全のまちづくりが「満足」「やや満足」43%で最も高く、健康な地域づくり、安心できる高齢社会の実現と続き、企業誘致と雇用の創出が9%で最も低い。
-------	---



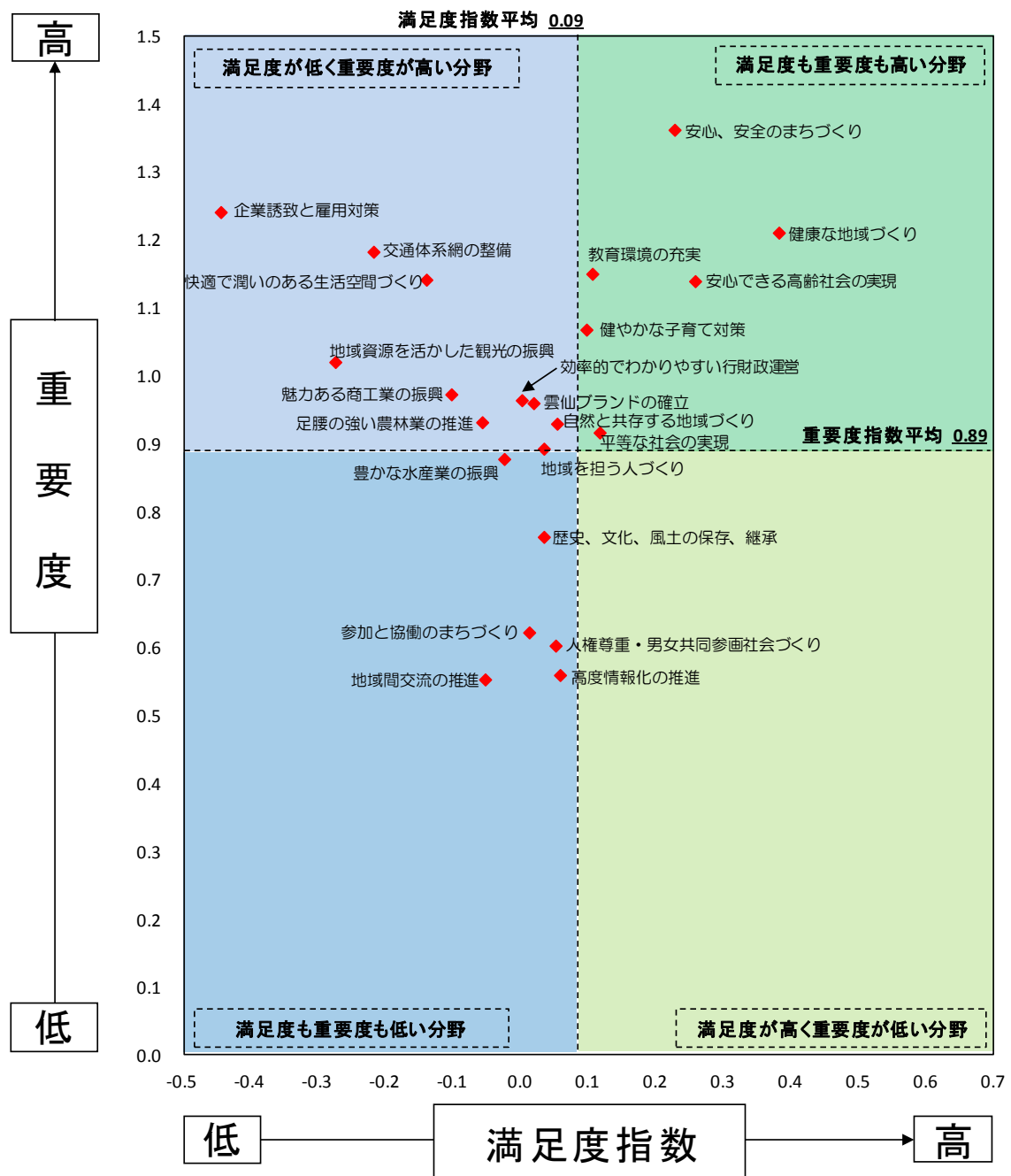
《重要度》

小浜町傾向	安心、安全のまちづくりが「重要」「やや重要」83%で最も高く、健康な地域づくり、快適で潤いのある生活空間づくりと続き、高度情報化の推進が43%で最も低い。
-------	---



(満足度、重要度クロス)

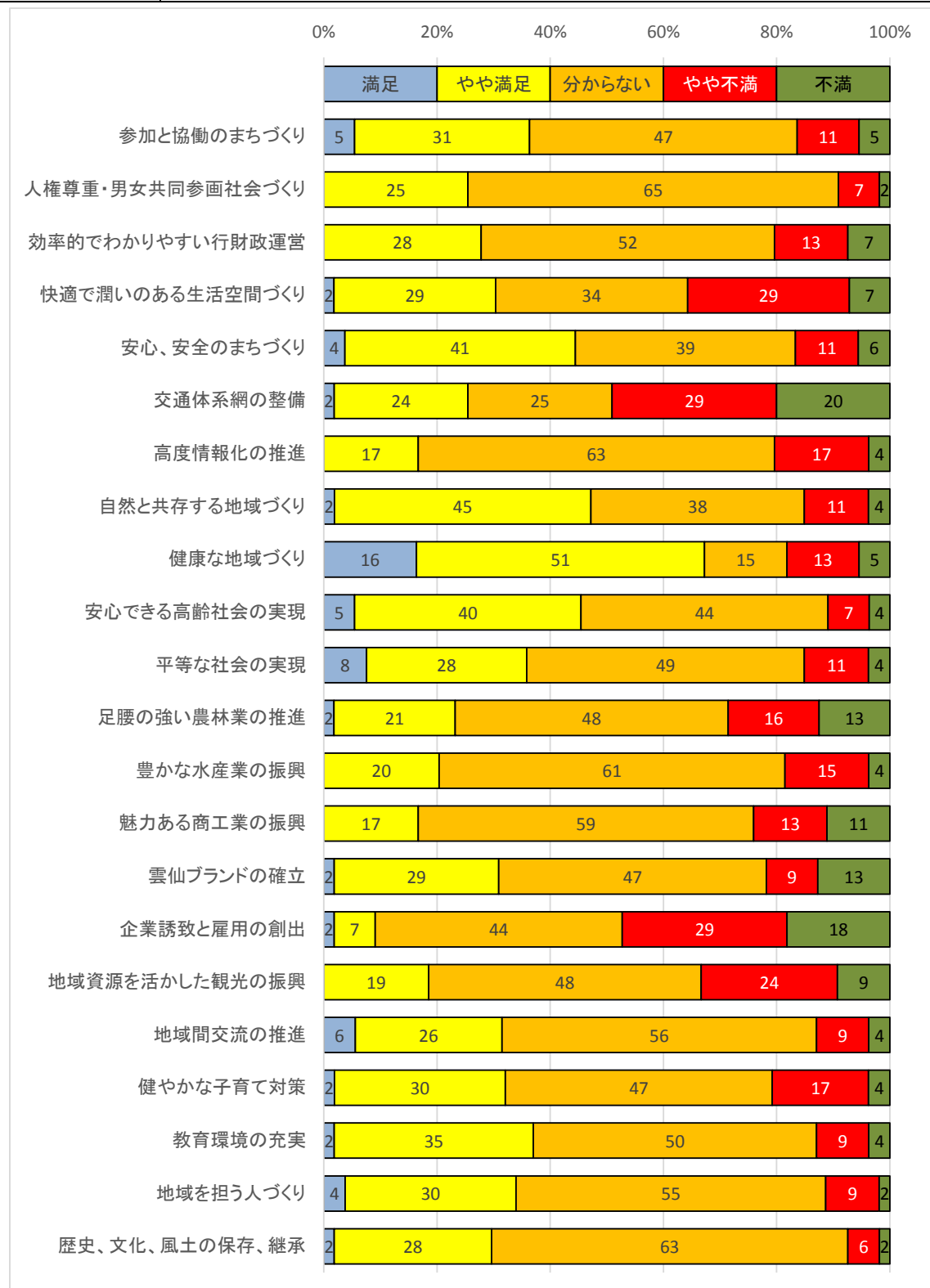
小浜町傾向	重要度が高く満足度が低い分野に「企業誘致と雇用の創出」「交通体系網の整備」「快適で潤いのある生活空間づくり」「地域資源を活かした観光の振興」「魅力ある商工業の振興」「効率的でわかりやすい行財政運営」「雲仙ブランドの確立」「足腰の強い農林業の推進」「自然と共存する地域づくり」が挙げられている。
-------	--



7. 南串山町

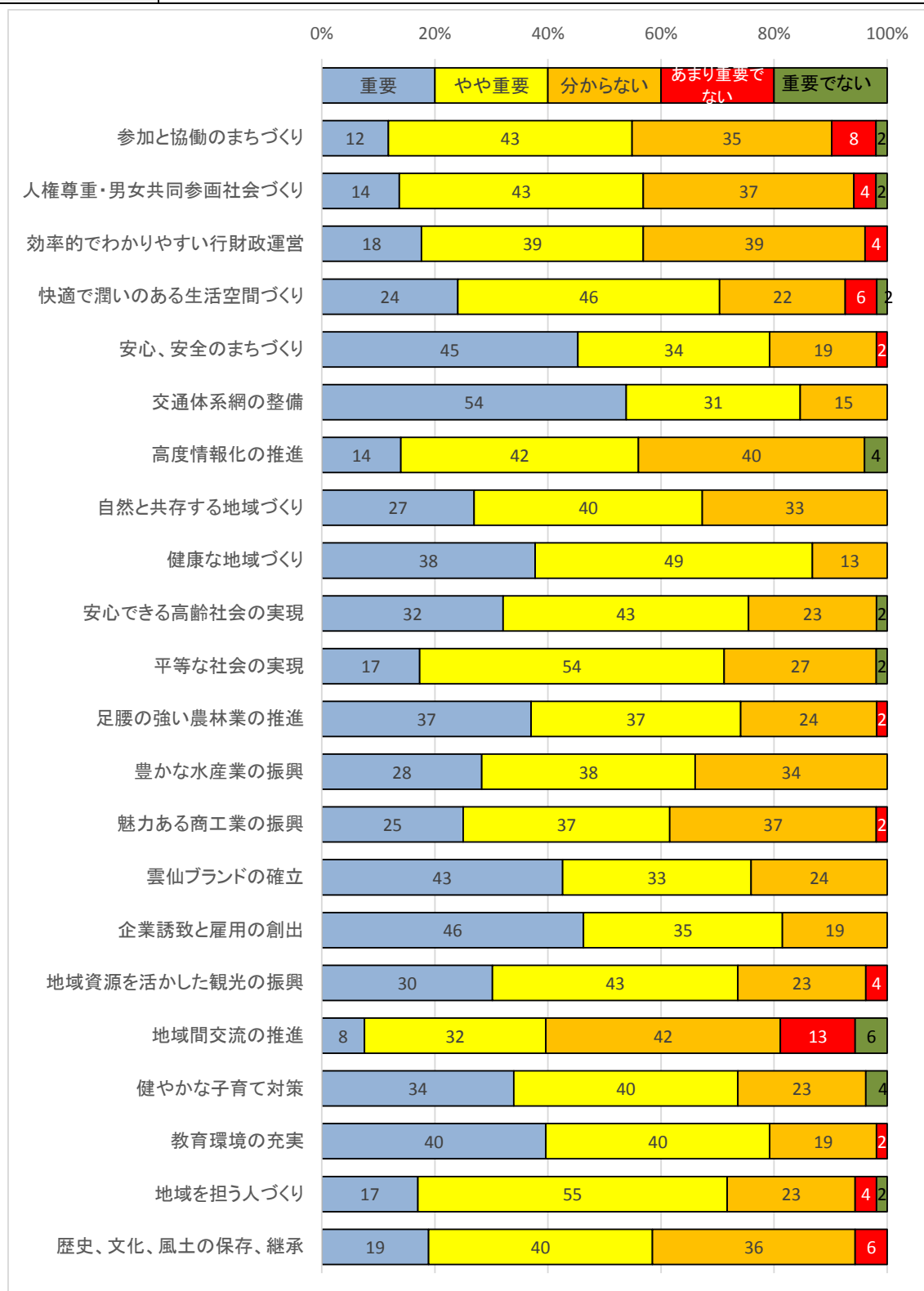
《満足度》

南串山傾向	健康な地域づくりが「満足」「やや満足」67%で最も高く、自然と共存する地域づくり、安心、安全のまちづくり・安心できる高齢社会の実現と続き、企業誘致と雇用の創出が9%で最も低い。
-------	--



《重要度》

南串山傾向	健康な地域づくりが「重要」「やや重要」87%で最も高く、交通体系網の整備、企業誘致と雇用の創出と続き、地域間交流の推進が40%で最も低い。
-------	---



(満足度、重要度クロス)

南串山町傾向	重要度が高く満足度が低い分野に「交通体系網の整備」「企業誘致と雇用の創出」「雲仙ブランドの確立」「足腰の強い農林業の推進」「地域資源を活かした観光の振興」「豊かな水産業の振興」が挙げられている。
--------	---

